

末日聖徒イエス・キリスト教会・2011年11月号

リアホナ



総大会の説教

新たに6つの神殿が
発表される



「聖文から学ぶ」 ナンシー・クルックストン画

救い主はお教えになりました。

「〔聖書を調べなさい。〕あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思って調べているが、この聖書は、わたしについてあかしをするものである。」(ヨハネ 5:39)

土曜午前の部会

- 4 再びともに集い
トーマス・S・モンソン大管長
- 6 聖文の力
リチャード・G・スコット長老
- 9 個人の啓示と証^{あかし}
バーバラ・トンブソン
- 11 その時が来る
L・ホイットニー・クレイトン長老
- 14 正しいことを正しいときに
遅れずに行う
ホセ・L・アロンソ長老
- 16 若人への助言
ボイド・K・バックナー会長
- 19 あなたは御父にとって大切な存在です
ディーター・F・ウークトドルフ管長

土曜午後の部会

- 23 教会役員への支持
ヘンリー・B・アイリング管長
- 24 子孫の心は向かうであろう
デビッド・A・ベドナー長老
- 28 子 供
ニール・L・アンダーセン長老
- 31 用意をする時期
イアン・S・アルデルン長老
- 33 見上げている方がよい
カール・B・クック長老
- 35 贖^{あがな} い
リグランド・R・カーティス・ジュニア長老
- 38 悔い改めという神の賜物^{たまもの}
D・トッド・クリストファーソン長老
- 41 完全な愛は恐れを取り除く
L・トム・ペリー長老

神権部会

- 44 戦い止むまで^ひ
ジェフリー・R・ホランド長老
- 47 アロン神権の力
キース・B・マクマリンビショップ
- 50 生涯にわたる貴重な機会
W・クリストファー・ワデル長老
- 53 主の道にかないて助けをなす
ディーター・F・ウークトドルフ管長
- 56 神権に対する備え——
「君の助けが必要なんだ」
ヘンリー・B・アイリング管長
- 60 一人でも高く立ち
トーマス・S・モンソン大管長

日曜午前の部会

- 68 証 人
ヘンリー・B・アイリング管長
- 71 主を待ち望む——
みこころが行われますように
ロバート・D・ヘイルズ長老
- 74 モルモン書——
神からの書物
タッド・R・カリスター長老
- 77 娘の母親を愛する
イレイン・S・ダルトン
- 79 名前の大切さ
M・ラッセル・バラード長老
- 82 聖なる地に立つ
トーマス・S・モンソン大管長

日曜午後の部会

- 86 聖 約
ラッセル・M・ネルソン長老
- 90 イエスの教え
ダリン・H・オークス長老
- 94 御霊に倣^{まね}って教える
マシュー・O・リチャードソン
- 96 宣教師は教会の宝です
山下和彦長老
- 98 永遠の命を選ぶ
ランドール・K・ベネット長老
- 101 祈の特権
J・デビン・コーニッシュ長老
- 104 うたえぬ歌をも
クエンティン・L・クック長老
- 108 また逢^あう日まで
トーマス・S・モンソン大管長

中央扶助協会集会

- 109 扶助協会について
孫娘たちに理解してほしいこと
ジュリー・B・ベック
- 114 愛はいつまでも絶えることがない
シルビア・H・オールレッド
- 117 聖約を固く守りなさい
バーバラ・トンブソン
- 120 忘れな草
ディーター・F・ウークトドルフ管長
- 64 末日聖徒イエス・キリスト教会
中央幹部
- 124 大会で話された実話や物語の索引
- 125 わたしたちの時代のための教え
- 125 中央補助組織会長会
- 126 教会のニュース



第181回半期総大会の概要

2011年10月1日土曜午前、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ヘンリー・B・アイリング管長。開会の祈り——ゲーリー・J・コールマン長老。閉会の祈り——ローウェル・M・スノー長老。音楽——タバナクル合唱団；指揮——マック・ウィルバーク、ライアン・マーフィー；オルガニスト——リチャード・エリオット、アンドリュー・アンズワース。「夜明けだ、朝明けだ」『賛美歌』1番；「With Songs of Praise,」*Hymns*, 71番；「We Ever Pray for Thee,」*Hymns*, 23番, ウィルバーク編曲, 未刊；「イスラエルの救い主」『賛美歌』4番；「神の子です」『子供の歌集』2-3, マーフィー編曲, 未刊；「Press Forward, Saints,」*Hymns*, 81番, ウィルバーク編曲, 未刊

2011年10月1日土曜午後、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ディーター・F・ワークトドルフ管長。開会の祈り——高元龍長老。閉会の祈り——ブラッドリー・D・フォスター長老。音楽——ユタ州プレゼンティブューおよび北オグデンの初等協会による聖歌隊；指揮——バンヤ・Y・ワトキンス；オルガニスト——リンダ・マーゲッツ。「God's Daily Care,」*Hymns*, 306番と「神様ありがとうございます」『子供の歌集』9, ワトキンスによるメドレー編曲, 未刊；「家族は永遠に」『賛美歌』187番, ワトキンス編曲, 未刊；「たたえよ、主の召したまいし」『賛美歌』16番；「天のお父様の愛」『子供の歌集』16-17と「お父さまは生きています」『賛美歌』190番, ジャックマン刊, ワトキンスによるメドレー編曲, 未刊

2011年10月1日土曜夜、神権部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ディーター・F・ワークトドルフ管長。開会の祈り——リチャード・G・ヒンクレー長老。閉会の祈り——青柳弘一長老。音楽——ユタ州プレゼンティブューのメルキゼデク神権者による聖歌隊；指揮——ジャスティン・ビルズ；オルガニスト——クレア・クリスチャンセン。「Rise Up, O Men of God,」*Hymns*, 324番, ステラー編曲, ジャックマン刊；「絶えず頼り主求む」『賛美歌』53番, ビルズ編曲, 未刊；「喜べ、主を」『賛美歌』32番；「来たれ、主の子ら」『賛美歌』31番, ビルズ編曲, 未刊

2011年10月2日日曜午前、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ディーター・F・ワークトドルフ管長。開会の祈り——ポール・K・ジブラウスキー長老。閉会の祈り——ジェームズ・B・マルティノ長老。音楽——タバナクル合唱団；指揮——マック・ウィルバーク；オルガニスト——アンドリュー・アンズワース, クレー・クリステンセン。「Lead Me into Life Eternal,」*Hymns*, 45番；「導きたまえよ」『賛美歌』41番, ウィルバーク編曲, 未刊；「Consider the Lilies,」*Hymns*, リヨン編曲, ジャックマン刊；「感謝を神に捧げん」『賛美歌』11番；「み旨のまま行かん」『賛美歌』172番, ウィルバーク編曲, 未刊；「救い主、われ信ず」『賛美歌』72番, ウィルバーク編曲, 未刊

2011年10月2日日曜午後、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ヘンリー・B・アイリング管長。開会の祈り——F・マイケル・ワトソン長老。閉会の祈り——グレゴリー・A・シュワイツァー長老。音楽——タバナクル合唱団；指揮——マック・ウィルバーク, ライアン・マーフィー；オルガニスト——ボニー・グッドリフ, リンダ・マーゲッツ。「Arise, O God, and Shine,」*Hymns*, 265番, ウィルバーク編曲, 未刊；「救い主の愛」『子供の歌集』42-43, カードン編曲, 未刊；「いざ救いの日を楽しまん」『賛美歌』5番；「わかれに願う」『賛美歌』93番, ウィルバーク編曲, 未刊

2011年9月24日土曜夜、中央扶助協会集会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ジュリー・B・ベック。開会の祈り——バーバラ・C・ブラッドショー。閉会の祈り——サンドラ・ロジャーズ。音楽——ユタ州イーグルマウンテンとサラトガスプリングズの扶助協会による聖歌隊；指揮——エミリー・ワドレー；オルガニスト——ボニー・グッドリフ, リンダ・マーゲッツ。「夜明けだ、朝明けだ」『賛美歌』1番, ウィルバーク編曲, 未刊；「わが神、わが王」『賛美歌』87番, マヌーキン編曲, ジャックマン刊；「天よりの声聞け」『賛美歌』166番；「いざ救いの日を楽しまん」『賛美歌』5番

総大会の説教の入手

総大会の説教を様々な言語で聞くことができます。インターネットで conference.lds.org を開いて言語を選択してください。大会説教のCDは通常、大会後2か月以内に配送センターから入手できるようになります。

ホームティーチングおよび家庭訪問

ホームティーチングまたは家庭訪問用のメッセージとして、訪問する会員の必要に最も適した総大会説教の一つを選んでください。

表紙

表紙——写真／ジョン・ルーク。裏表紙——写真／レス・ニルソン

大会の写真

総大会の写真は以下のカメラマンによって撮影されました。ソルトレーク・シティー——クレグ・ダイヤモンド, ウェルデン・C・アンダーセン, ジョン・ルーク, クリステイナ・スミス, コディー・ベル, レス・ニルソン, ウェストン・コルトン, サラ・ジェンセン, デレク・イスラエルセン, ダニー・ラ, スコット・デービス, クリステイ・ジョーダン, カラ・コール。ブラジル——バーバラ・アルベス, ダビド・マクナメー, サンドラ・ロザドス。カナダ——ローレント・ルキューイクス。エルサルバドル——ホシュエ・ペニャ。イングランド——サイモン・ジョーンズ。日本——青野淳。メキシコ——モニカ・モラ。フィリピン——ウィルモア・ラトルレ, アン・ロサス。南アフリカ——ロブ・ミルネ。スウェーデン——アナ・ペターソン。ウルグアイ——マヌエル・ペニャ



リアホナ 2011年11月号

第13巻11号 (09691 300)

末日聖徒イエス・キリスト教会国際機関誌(日本語版)

大管長会: トーマス・S・モンソン, ヘンリー・B・アイリング, ディーター・F・ウークトドルフ

十二使徒定員会: ボイド・K・バックナー, L・トム・ベリー, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, デビッド・A・ベドナー, クエンティン・L・クック, D・トッド・クリストファーソン, ニール・L・アンダーセン

編集長: ポール・B・パイパー

顧問: キース・R・エドワーズ, クリストフェル・ゴールデン・ジュニア, ペア・G・マーム

実務運営ディレクター: デビッド・L・フリッシュニクト

編集ディレクター: ピンセント・A・ポーン

グラフィックスディレクター: アラン・R・ロイボーク

編集主幹: R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐: ジェニファー・L・グリーンウッド, アダム・C・オルソン

共同編集者: スーザン・パレット, ライアン・カー

編集スタッフ: フリタニー・ピーティエ, デビッド・A・エドワーズ, マシュー・D・フリットン, ラリー・ポーター・ガント, キャリー・カステン, ジェニファー・マディー, リア・マクラナハン, メリッサ・メリル, マイケル・R・モリス, サリー・J・オデカーク, ジョシュア・J・パーキー, チャド・E・ファレス, ジャン・ピンボロー, ポール・バンデンバーク, マリッサ・A・ウイティソン, メリッサ・ゼンテノ

実務運営アートディレクター: J・スコット・クヌーセン

アートディレクター: スコット・パン・カンベン

制作主幹: ジェーン・アン・ピーターズ

主任デザイナー: C・キンボール・ボット, トーマス・S・チャイルド, コリン・ヒンクレー, エリック・P・ジョンソン, スコット・M・ムーイ

制作スタッフ: コレット・ネベカー・オース, ハワード・G・ブラウン, ジュリー・バーデット, レジナルド・J・クリステンセン, キム・ウェンスターマカー, プライアン・W・ギュギ, キャスリーン・ハワード, デニス・カービー, ギニー・J・コルソン
製版: ジェフ・L・マーティン

印刷ディレクター: クレーグ・K・セドウィック

配送ディレクター: エバン・ラーセン

日本語版翻訳課長: ヘンリー・W・サブストローム

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振込口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057 東京都江戸川区西小島 5-8-6 / 末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047 東京都港区南麻布 5-10-30

電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約 830円(送料共)

普通号/大会号 120円

「リアホナ」へのご投稿およびご質問は、英語版ホームページ iahona.lds.org からお送りください。また、下記の連絡先でも受け付けています。
Rm. 2420, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150-0024, USA
電子メール: iahona@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。アルメニア語, アルメニア語, ビスマラ語, ブルガリア語, カンボジア語, セブアノ語, 中国語, クロアチア語, チェコ語, デンマーク語, オランダ語, 英語, エストニア語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ドイツ語, キリシヤ語, ハンガリー語, アイスランド語, インドネシア語, イタリア語, 日本語, キリバス語, 韓国語, ラトビア語, リトアニア語, マダガスカル語, マーシャル語, モンゴル語, ノルウェー語, ポーランド語, ポルトガル語, ルーマニア語, ロシア語, サモア語, スロベニア語, ス페인語, スウェーデン語, タガログ語, タヒチ語, タイ語, トンガ語, ウクライナ語, ウルドゥー語, ベトナム語(発行頻度は言語により異なります。)

©2011 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷: 日本

「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において一時的に、また非営利目的に使用する場合は複写することができます。視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場合に複写できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

For Readers in the United States and Canada:

November 2011 Vol. 35 No. 11. LIAHONA (USPS 311-480) English (ISSN 1080-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P.O. Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



話者別索引 (50 音順)

アイリング, ヘンリー・B 23, 56, 68
アルデルン, イアン・S 31
アロンソ, ホセ・L 14
アンダーセン, ニール・L 28
ウークトドルフ, ディーター・F 19, 53, 120
オークス, ダリン・H 90
オールレッド, シルビア・H 114
カーティス, リグランド・R ジュニア 35
カリスター, タッド・R 74
クック, カール・B 33
クック, クエンティン・L 104
クリストファーソン, D・トッド 38
クレートン, L・ホイットニー 11
コーニッシュ, J・デビン 101
スコット, リチャード・G 6
ダルトン, イレイン・S 77
トンブソン, バーバラ 9, 117
ネルソン, ラッセル・M 86
バックナー, ボイド・K 16
バラード, M・ラッセル 79
ヘイルズ, ロバート・D 71
ベック, ジュリー・B 109
ベドナー, デビッド・A 24
ベネット, ランドール・K 98
ベリー, L・トム 41
ホランド, ジェフリー・R 44
マクマリン, キース・B 47
モンソン, トーマス・S 4, 60, 82, 108
山下和彦 96
リチャードソン, マシュー・O 94
ワデル, W・クリストファー 50

テーマ別索引

あ 愛 53, 77, 96, 120
証 9, 60, 68, 74, 82
贖い 35
アロン神権 47
イエス・キリスト 35, 41, 74, 79, 90, 101
祈り 82, 101
教え 94
親の務め 28, 77
か 改宗・改心 68, 96
回復 11
科学技術 24, 31
学習 94
家族 28, 77
家族歴史 24
活発化 14, 35, 50
家庭訪問 109, 114
神の特質 19
犠牲 50, 120
希望 19, 71
義務 47, 56
悔い改め 16, 35, 38, 44
啓示 6, 9, 16, 82
結婚 28
個人の価値 19, 120
子供 28
さ 慈愛 68, 109, 114
時間管理 31
持久力 68, 71
自分の価値 19, 120
従順 33, 38, 86, 90
贖罪 33, 35, 38, 90
自立 53
試練 71, 104
神権 24, 47, 56, 60, 86, 109

信仰 28, 33, 71, 101, 104
神殿と神殿活動 4, 24, 41, 109, 117
聖書 74, 90
青少年 16, 24, 44, 47, 50, 77
聖文 6, 74
聖約 86, 117
聖霊 6, 9, 16, 33, 47, 82, 94
説明責任 98
選択の自由 98
総大会 4, 23, 108
備え 50, 56, 96
た 父親 77
弟子の務め 109
伝道活動 11, 41, 44, 50, 79, 96
天の御父 108
道徳 16
な 名前, 教会の 79
忍耐 71
は 発展, 教会の 11, 41
標準 44, 60, 77, 82
夫婦宣教師 44
福祉 53
扶助協会 109, 114
奉仕 14, 47, 50, 53, 56, 68
ま 模範 41, 60, 77, 90, 96
モルモン書 6, 50, 68, 74
や 勇気 33, 60
優先順位 28, 31
預言 11
喜び 38, 120
わ 若い女性 77



トーマス・S・モンソン大管長

再びともに集い

わたしたちが今日と明日、メッセージに耳を傾け、主がわたしたちに望んでいらっしゃる事柄について学ぶときに、主の御霊で満たされますよう祈ります。

兄弟姉妹の皆さんを、末日聖徒イエス・キリスト教会の第181回半期総大会にお迎えできることは、素晴らしいことです。

この大会は、わたしがデビッド・O・マッケイ大管長から十二使徒定員会に召されて48年目の大会です。想像してみてください。48年目です。1963年10月のことでした。実に多くの年月が過ぎ去ったことが信じられないほどです。

多忙を極めていると、時は瞬く間に過ぎていきます。この6か月間も、実に忙しいものでした。その期間の特筆すべき出来事の一つは、5月1日にジョージア州アトランタ神殿を再奉献したことです。M・ラッセル・バラード長老夫妻、ウォルター・F・ゴンサレス長老夫妻、そしてウィリアム・R・ワーカー長老夫妻が同行してくれました。

再奉献の前の晩の「南方の光」と題された文化の祭典では、神殿地区の2,700人の若い男性と若い女性が演目を披露してくれました。わたしがこれまでに見たプログラムの中でも特にすばらしく、聴衆は幾度も立ち上がり、拍手喝采していました。

翌日には、神殿は二つのセッションで

再奉献され、主の御霊が豊かに注がれました。

8月の後半には、ヘンリー・B・アイリング管長がエルサルバドル・サンサルバドル神殿を奉献しました。アイリング姉妹とクリストファーソン長老夫妻、ウィリアム・R・ワーカー長老夫妻、そして中央扶助協会会長会のシルビア・H・オールレッド姉妹も伴侶のジェフリー・オールレッド兄



弟とともに出席しました。アイリング管長からは実に霊的な奉献式だったと報告を受けています。

今年の後半では、ディーター・F・ウークトドルフ管長とウークトドルフ姉妹が、そのほかの中央幹部とともにグアテマラのケツアルテナンゴに行き、神殿を奉献します。

兄弟姉妹、神殿の建設は妨げられることなく続きます。今日、幾つかの新しい神殿を発表できる特権があることに感謝しています。

まず、神殿以上に大切な教会の建物はないことをお伝えしておきます。神殿は、人と人との関係が永続するよう結び固められる場所です。世界中に多くの神殿があり、神殿が会員の生活に祝福をもたらし



ていることに感謝しています。

昨年、ユタ郡のプロボタバナクルが悲惨な火災により激しく損傷しました。末日聖徒が何世代にもわたってこよなく愛してきたこのすばらしい建物は、その大部分を失い、かろうじて外壁を残すのみとなりました。慎重な調査の後、わたしたちはタバナクルをかつての外観を保ったまま完全に修復し、この建物をプロボにおいて2番目となる教会の神殿として再建することに決定しました。現存するプロボ神殿は、教会でも屈指の参入者を誇っています。ですから、同市にできる二つ目の神殿は、プロボ市および周辺の地域からプロボ神殿に参入する非常に多くの忠実な教会員を受け入れることになるでしょう。

さらに、以下の場所に新しい神殿が建

設されることをお知らせできることをうれしく思います。コロンビア・バランキヤ、南アフリカ・ダーバン、コンゴ民主共和国・キンシャサ、ワイオミング州スターバレーです。さらに、フランス・パリに神殿を建設する計画を進めています。

これらの神殿に関する詳細は、神殿用地やその他の必要とされる認可事項が確立してからお伝えできることでしょう。

これまでの大会の中で、わたしは神殿を会員の近くに建設するという取り組みについて話してきました。多くの会員にとって、神殿は容易に参入できる場所にあります。神殿から遠く離れた地域に住んでいるため、神殿に参入する費用を捻出できない会員がいる地域がまだあります。彼らは神殿がもたらす神聖で永続する祝福

にあずかることができません。そのような会員を支援するために、わたしたちには中央神殿参入者支援基金という制度があります。この基金は、神殿に参入する機会を待ち望みながらも、神殿に参入することができない人々に、1度の参入ができるようにするものです。この基金への献金を希望する人は、毎月ビショップに渡している通常の献金用紙に、それが中央神殿参入者支援基金であることを明記するだけで献金することができます。

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちが今日と明日、メッセージに耳を傾け、主がわたしたちに望んでいらっしゃる事柄について学ぶときに、主の御霊で満たされますよう祈ります。イエス・キリストの御名により、アーメン。■



十二使徒定員会
リチャード・G・スコット長老

聖文の力

聖典は、わたしたちの心を照らし、高い所から導きと靈感を受ける備えをさせる光の小包みのようなものです。

大会の期間中にこの壇上に来るわたしたちは、皆さんの祈りの力を感じます。わたしたちにはそれが必要です。そして、わたしたちはそれに感謝しています。

天の御父は、わたしたちが試しの生涯の間に望ましい進歩を遂げるために困難な問題に直面する必要があることを理解しておられました。これらの問題の中には耐え切れないほどのものがあります。御父はわたしたちが試しの生涯を立派に過ごすのに助けとなる手段を与えてくださいました。その一つが聖典です。

遠い昔から、天の御父は、聖霊の導きを通して人生のきわめて困難な問題への解決策を見いだせるように、えり抜きの男女に靈感を与えてくれました。御父は、これら権能を持つ僕たちに、そのような解決方法を記録するよう靈感を与えてくれました。そのようにして、御父の幸福の計画を信じ、御父の愛する御子イエス・キリストを信じる信仰を持つ子供たちに一種の手引きを与えようとしたのです。その解決方法は標準聖典と呼ばれる宝を通して、いつでも手の届くところにあります。標準聖典とはすなわち、旧約聖書、新約聖書、モルモン書、教義と聖約、高価な真珠のことです。

聖典は聖霊を通して行われる靈感された意思の疎通によって与えられるものであ

り、それゆえ純粋な真理です。わたしたちは標準聖典に記されている概念の正しさについて心配する必要はありません。聖霊が仲立ちとなり、聖文を記録した人々を動機づけ、靈感を与えてこられたからです。

聖典は、わたしたちの心を照らし、高い所から導きと靈感を受ける備えをさせる光の小包みのようなものです。聖典は天の御父とその愛する御子イエス・キリストと交信するための扉を開く鍵になり得ます。

聖文を正しく引用するならば、述べる言葉に力強い権威が与えられます。聖文は、時間や場所に制限されずいつでも会える、誠実な友になってくれます。聖文は、必要なときにいつもそばにいてくれます。聖文を用いるなら、真理の基礎が据えられ、聖霊がその真理を気づかせてくださいます。聖文を学び、深く考え、調べ、暗記するのは、まるで、世界のどこにいても、いつでも助けを求めることができると友と信条と真理をファイルキャビネットに満たすようなものです。

聖文を暗記することで、大きな力が得られます。聖文を暗記することは、新しい友情を築くことです。それはまるで、必要なときに助けてくれる人、靈感と慰めを与えてくれる人、必要な変化を遂げる動機を与えてくれる新しい人に出会うのに似てい

ます。例えば、次の詩篇の言葉を暗記しようと思ったことが、わたしにとって力と理解の源となっています。

「地と、それに満ちるもの、世界と、そのなかに住む者とは主のものである。

主はその基を大海のうえにすえ、大川のうえに定められた。

主の山に登るべき者はだれか。その聖所に立つべき者はだれか。

手が清く、心のいさぎよい者、その魂がむなしい事に望みをかけない者、偽って誓わない者こそ、その人である。

このような人は主から祝福をうけ、その救の神から義をうける。」(詩篇 24:1-5)

このような聖句について深く考えることで、人生のすばらしい指針が得られます。聖文はわたしたちを支える土台となってくれます。聖文の中には喜んで助けてくれる友が信じられないほど大勢います。暗記した聖文は、時がたってもきずなが弱まらない忠実な友となります。

聖文について深く考えることが、聖霊から啓示と導きと靈感を受ける扉の鍵となることがあります。聖文は動揺した心を落ち着かせ、平安と希望を与え、人生の試練を克服する自分の力を信頼する気持ちを取り戻させてくれます。聖文は、救い主を信じる信仰があるときに、情緒的な問題を解決する強い力を発揮します。聖文によって、肉体が癒されるスピードが速められます。

人生の様々な時期におけるわたしたちの必要に応じて、聖句の意味は変わります。人生で新たな問題に直面するとき、かつて何度も読んだことのある聖句に新しい意味を見だし、元気づけられ、何かを悟ることがあります。

皆さんは個人的に聖典をどのように使っていますか。聖典に印を付けていますか。霊的な導きを受けた瞬間や深遠なことを学んだ経験を思い出すために、余白にメモをしていますか。旧約聖書も含めて、すべての標準聖典を使っていますか。わたしは、旧約聖書の中に貴重な



真理を見つけました。そのような真理はわたしの人生を導く重要な基礎となり、また福音のメッセージを分かち合おうとするときの情報源となっています。だからわたしは旧約聖書が好きなのです。旧約聖書全体を通じて高価な宝石のような真理を見つけられています。以下はその例です。

「サムエルは言った、『主はそのみ言葉に聞き従う事を喜ばれるように、燔祭や犠牲を喜ばれるであろうか。見よ、従うことは犠牲にまさり、聞くことは雄羊の脂肪にまさる。』」(サムエル上 15 : 22)

「心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない。

すべての道で主を認めよ、そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。

自分を見て賢いと思ってはならない、主を恐れて、悪を離れよ。……

わが子よ、主の懲らしめを軽んじてはならない、その戒めをきらってはならない。

主は、愛する者を、戒められるからである、あたかも父がその愛する子を戒めるように。

知恵を求めて得る人、悟りを得る人は

さいわいである。」(箴言 3 : 5 - 7, 11 - 13)
新約聖書も貴重な真理の源です。

「イエスは言われた、『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』

これがいちばん大切な、第一のいましめである。

第二もこれと同様である、「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。」

これらの二つのいましめに、律法全体と預言者とが、かかっている。』」(マタイ 22 : 37 - 40)

「『シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。

しかし、わたしはあなたの信仰がなくなるないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。』

シモンが言った、『主よ、わたしは獄にでも、また死に至るまでも、あなたとご一緒に行く覚悟です。』

するとイエスが言われた、『ペテロよ、あなたに言っておく。きょう、鶏が泣くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう。』……

すると、ある女中が、彼が火のそばにすわっているのを見、彼を見つめて、『この人もイエスと一緒にいました』と言った。

ペテロはそれを打ち消して、『わたしはその人を知らない』と言った。

しばらくして、ほかの人がペテロを見て言った、『あなたもあの仲間のひとりだ。』するとペテロは言った、『いや、それはちがう。』

約一時間たってから、またほかの者が言い張った、『たしかにこの人もイエスと一緒にだった。この人もガリラヤ人なのだから。』

ペテロは言った、『あなたの言っていることは、わたしにわからない。』すると、彼がまだ言い終らぬうちに、たちまち、鶏が鳴いた。

主は振りむいてペテロを見つめられた。そのときペテロは、『きょう、鶏が鳴く前に、

三度わたしを知らないと言うであろう』と言われた主のお言葉を思い出した。

そして外へ出て、激しく泣いた。」(ルカ 22:31-34, 56-62)

そのときにペテロに起こったことを思うと、わたしの心は非常に痛みます。

教義と聖約の次の聖句によって、わたしの人生は豊かに祝福されました。「わたしの言葉を告げようとしなくて、まずわたしの言葉を得るように努めなさい。そうすればその後、あなたの舌は緩められる。それから望むならば、あなたはわたしの御霊とわたしの言葉、すなわち人々を確信に導く神の力を受けるであろう。」(教義と聖約 11:21)

わたしの考えでは、モルモン書は真理を非常に明快に力強く教えています。以下はその例です。

「さて、わたしはあなたがたが謙遜であり、従順で素直であり、容易に勧告に従い、忍耐と寛容に富み、すべてのことについて自制し、いつも熱心に神の戒めを守るように、また霊的にも物質的にも、必要としているものは何でも求め、与えられるものについては何であろうといつも神に感謝するように願っている。

また、あなたがたは信仰と希望、慈愛を必ず持つようにしてほしい。そうするときに、あなたがたはいつも多くの善い行いをするであろう。」(アルマ 7:23-24)

次の言葉もそうです。

「慈愛は長く堪え忍び、親切であり、ねたまず、誇らず、自分の利益を求めず、容易に怒らず、悪事を少しも考えず、罪悪を喜ばないで真実を喜び、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。

したがって、わたしの愛する同胞よ、もしあなたがたに慈愛がなければ、あなたがたは何の価値もない。慈愛はいつまでも絶えることがないからである。したがって、最も大いなるものである慈愛を固く守りなさい。すべてのものは必ず絶えてしまうからである。

しかし、この慈愛はキリストの純粋な愛



であって、とこしえに続く。そして、終わりの日にこの慈愛を持っていると認められる人は、幸いである。

したがって、わたしの愛する同胞よ、あなたがたは、御父が御子イエス・キリストに真に従う者すべてに授けられたこの愛で満たされるように、また神の子となれるように、熱意を込めて御父に祈りなさい。また、御子が御自身を現されるときに、わたしたちはありのままの御姿の御子にまみえるので、御子に似た者となれるように、またわたしたちがこの希望を持てるように、さらにわたしたちが清められて清い御子と同じようになれるよう、熱意を込めて御父に祈りなさい。」(モロナイ 7:45-48)

わたしのいとしい妻ジャンーンはモルモン書が大好きでした。若いころ、10代のときに、モルモン書は妻にとって人生の土台となりました。合衆国北西部で専任宣教師として奉仕していたときに、モルモン書は妻にとって証と教えの源となりました。わたしたちがアルゼンチンのゴールドバの伝道地で奉仕したとき、妻は伝道活動にモルモン書を使うようにしきりに勧めました。ジャンーンは生涯の早い時期に次のことを確信していました。すなわち、モルモン書を読み続ける人は、主の御霊を受け、主の戒めに従う決意が強くなり、神の御子の神性についての証が増すという祝福が与えられるということを確認したのです。¹ 何年にもわたって、年の瀬が近づくと、妻は静かに座って、モルモン書の

最後の方を注意深く読んでいるのを見たものです。妻は1年が終わる前に、モルモン書を最後まで読み終えることにしていたのです。

1991年に、わたしは家族に特別なクリスマスの贈り物をしたいと思いました。その望みを果たした日に、日記にこう記しました。「1991年12月18日水曜日、午後12時28分。家族のためにしていたモルモン書の録音が、たった今、完成した。この経験を通して、わたしはこの神聖な業についての証を増し、主にお仕えするときに見える真理を聖文から学ぶために聖文にもっと精通したいという望みが強くなった。わたしはこの本が大好きだ。わたしは心から証する。これは真実だ。これは、イスラエルの家、すなわちすべての部族が全世界に広がっているイスラエルの家を祝福するために備えられたものだ。謙遜にイエス・キリストを信じる信仰をもってそのメッセージを研究するすべての人は、それが真実であることが分かり、この世においていっそう大きな幸福と平安と達成に導く宝を見いだすことだろう。わたしは敬虔さの限りを尽くして、この書物が真実であることを証する。」

わたしたちそれぞれが、聖文研究から得られる豊かな祝福を生かすことができますように。イエス・キリストの御名により祈ります、アーメン。■

注

1. ゴードン・B・ヒンクレー「力強い、真実の証」『リアホナ』2005年8月号、6参照



中央扶助協会会長会第二顧問
バーバラ・トンプソン

個人の啓示と証 あかし

戒めを熱心に守って信仰をもって求めれば、主の方法によって主の定められたときに答えが来ます。

何年も前、大学生のころ、わたしたちの小さなアパートにはテレビがなかったので、ラジオで総大会の模様を聴いていました。総大会の話はすばらしく、わたしは聖霊を強く感じました。

ある中央幹部が救い主と主の務めについて語った後に熱意を込めて証をしたときのことをよく覚えています。聖霊はわたしの心に、彼の語った言葉が真実であることを告げてくださいました。その瞬間、わたしは救い主が生きておられることをはっきりと知りました。「イエス・キリストが神の子」¹であられると確認する個人の啓示を受けたこともはっきりと分かりました。

わたしは8歳のときにバプテスマと確認を受け、聖霊の賜物を受けました。そのときもすばらしい祝福でしたが、大人になるにつれてさらに大切なものとなり、様々な方法で聖霊の賜物を味わってきました。

子供時代から思春期へ、さらには大人へと成長する中で、わたしたちは試練に遭い、経験を重ねます。そして聖霊を通して得られる天の助けが自分に必要であることを悟ります。わたしたちは困難に遭うと、「この問題の解決法は何だろう」とか、「何をすべきかがどうすれば分かるだろう」と自問することでしょう。

モルモン書の中で、リーハイが家族に福音を教えている場面をよく思い出します。リーハイは末日に起きることについて、たくさんの啓示や教えを伝えました。ニーファイは父親の教えをより完全に理解するために主の導きを求めました。ニーファイは高められ、祝福され、靈感を通して父親の教えが真実であることを知りました。このことでニーファイは主の戒めを注意深く守り、義にかなった生活を送ることができました。彼は個人の啓示によって導きを受けました。

一方、彼の兄たちは父親の教えを理解できず、互いに言い争っていました。ニーファイはそのときにとても大切なことを尋ねました。「あなたがたは主に尋ねたのですか。」²

兄たちの返事は頼りないものでした。「主に尋ねてはいない。主はこんなことを我々に明らかにしてくださらないからだ。」³

ニーファイは好機をつかんで兄たちに個人の啓示を受ける方法を教えました。「主が言われたことを覚えていないのですか。主は、『もしあなたがたが心をかたくなにせず、わたしの戒めを熱心に守りながら、答えを与えられると信じて信仰をもってわたしに求めれば、これらのことは必ずあなたがたに明らかにされる』と言われました。」⁴

個人の啓示を受ける方法は実に明白

です。啓示を受けたいと望み、心をかたくなにせず、信仰をもって求め、答えを与えられると心から信じて、神の戒めを熱心に守る必要があるのです。

この規範に従ったからといって、神に何かを尋ねれば答えが即座に与えられて、何をすべきか詳しく分かるというわけではありません。しかし、戒めを熱心に守って信仰をもって求めれば、主の方法によって主の定められたときに答えが来ます。

子供のころ、わたしは個人の啓示や祈りの答えは耳に聞こえる声として来ると思っていました。確かに、実際の声として聞こえる啓示もあります。けれども御霊は様々な方法でお話しになることを学びました。

教義と聖約第6章は、啓示を受ける方法を幾つか説明しています。

「あなたはわたしに尋ね、そして見よ、尋ねる度に、わたしの御霊からの教えを受けてきた……。」⁵

「わたしがあなたの思いを照らした……。」⁶

「わたしはこの件についてあなたの心に平安を告げなかったであろうか。」⁷

ほかの聖句でも、啓示を受けることについてさらに分かれます。

「あなたに降ってあなたの心の中にとどまる聖霊によって、わたしはあなたの思いとあなたの心に告げよう。さて見よ、これは啓示の霊である。」⁸

「わたしはあなたの胸を内から燃やそう。それゆえ、あなたはそれが正しいと感じるであろう。」⁹

「わたしはあなたにわたしの御霊を授けよう。わたしの御霊はあなたの思いを照らし、あなたの霊に喜びを満たすであろう。」¹⁰

ほとんどの場合、聖文を研究したり、預言者や教会指導者の勧告に耳を傾けて従ったり、忠実で義にかなった生活をしようとしたときに個人の啓示を受けまます。一節の聖句や大会説教の一行によ

て靈感を受けるときもあります。あるいは初等協会の子供が美しい歌を歌っているときに答えが来るかもしれません。これは皆、啓示がもたらされる形です。

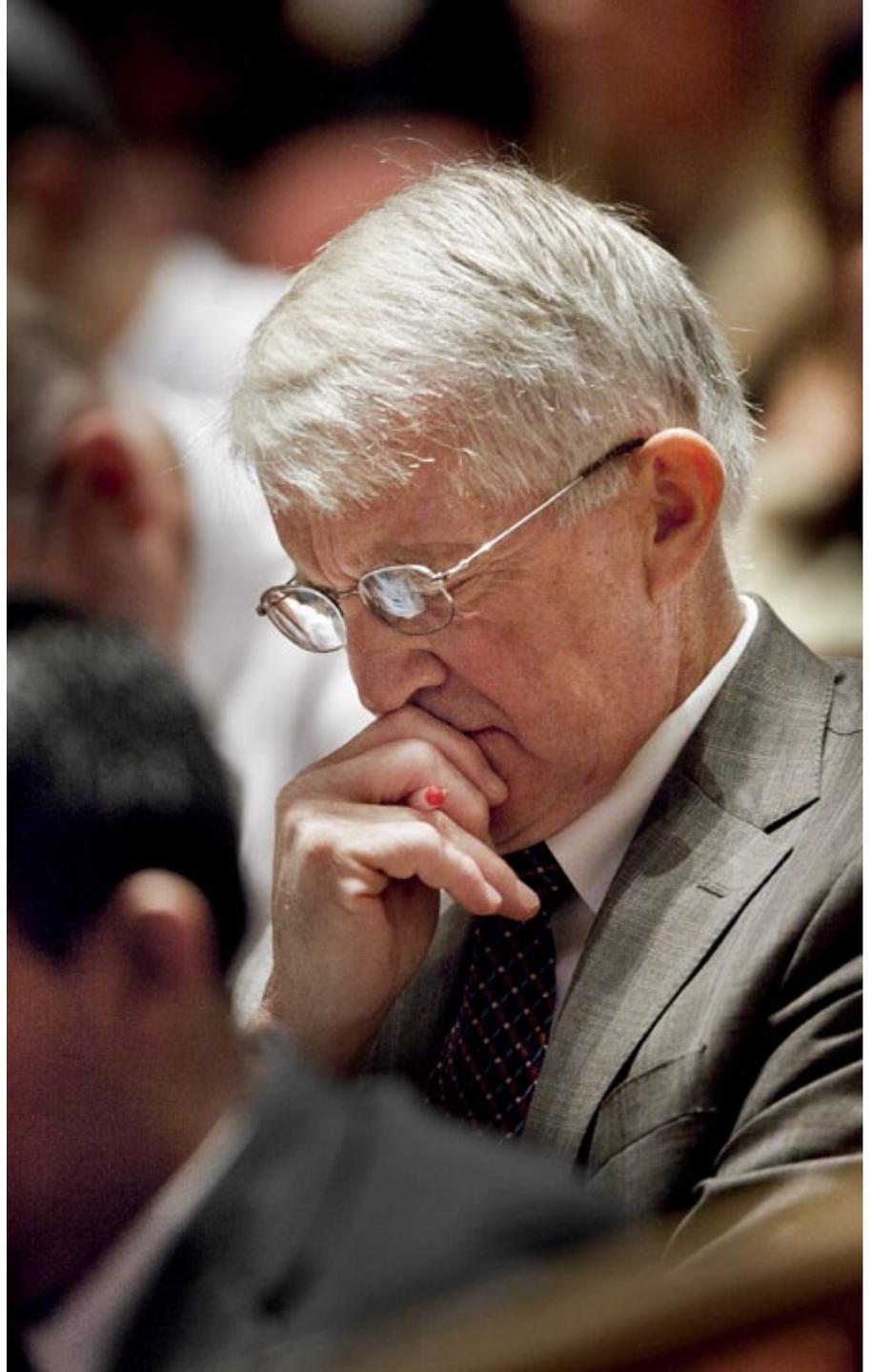
福音が回復された初期の時代、多くの会員は啓示を熱心に求め、祝福され、靈感を受けて何をすべきか知りました。

エライザ・R・スノー姉妹は預言者ブリガム・ヤングから、教会の姉妹たちを高め、教えるようにとの指示を受けました。彼女は一人一人の女性がそれぞれの生活、家族、そして教会の責任の中で導きとなる靈感を受けられると教え、このように語りました。「姉妹たちに、出て行って、謙遜に、また忠実にその務めを果たすように言いなさい。そうすれば、神の御霊がともにあり、働くときに祝福を受けられるでしょう。力ではなく知恵を求めさせなさい。そうすれば、自分が持つ知恵に従って実行する力が得られるでしょう。」¹¹

スノー姉妹は姉妹たちに、聖霊の導きを求めるように教えました。聖霊は「人の心が抱くすべての望みをかなえ、むなしい心を満たしてくれます。そのような御霊に満たされているとき、わたしの霊は満足します。」¹²

ウークトドルフ管長は次のように教えています。「啓示と証は必ずしも圧倒的な力をもって与えられるわけではありません。多くの場合、証はゆっくりと、一度にかけられずつ与えられます。」さらにこう語っています。「靈感の光を熱心に求めましょう。……聖なる御霊の神聖な導きを受け、それに気づくことができるように、わたしたちの思いと心に信仰の火種を授けてくださるよう、主に嘆願しましょう。」¹³

証は、日常生活で試練に直面するときに力となり、わたしたちを強めてくれます。難しい健康問題と闘う人もいれば、経済的な問題に直面する人もいます。結婚や子供に課題を抱える人や、孤独に苦しみ、希望や夢がかなわずに悩む人もいます。わたしたちの証こそ、イエス・キリストを信



じる信仰と救いの計画に関する知識と相まって、こうした試練のときや困難な時期を乗り切る助けになります。

『わたしの王国の娘』には、第二次世界大戦のときに多くの悲しみと飢えに苦しんだヘトビビ・ビエレイヘル姉妹の話が載っています。愛と慈愛にあふれる彼女は、自身がひどい窮乏にありながらも、飢えた囚人に食糧を分けることをいとませんでした。後に「このような試練の間、どのようにして証を保ちましたか」と聞かれて次のように答えました。「あの当時、わたしが証を保ったものではありません。

証がわたしを守ってくれたのです。」¹⁴

強い証があるからといって、それがいつまでも強いままであるわけではありません。証は、わたしたちを支える十分な力を持てるようにそれを養い、強めなければなりません。これはわたしたちが聖餐を受け、聖約を新たに、「神の善い言葉で養われ〔る〕」ために「しばしば集ま〔る〕」一つの理由です。神の善い言葉は「絶えず祈りを心に留めさせ、……信仰の創始者であり完成者であるキリストの功徳にだけ頼らせる」のです。¹⁵

デビッド・A・ベドナー長老はこのよう

に教えています。「啓示の霊をふさわしく求めて従うときに、『主の光の中を歩〔める〕』ことをわたしは約束します（イザヤ 2:5; 2ニーファイ 12:5）。時々、啓示の霊は即座に強く働くことがあります、それ以外のときは、わずかに少しずつ、そして多くの場合意識的に認識できないほど繊細に働きます。しかしどのようなパターンでこの祝福を受けても、啓示の霊がもたらす光は皆さんの心を照らして広げ、理解力に光を注ぎ（アルマ 5:7; 32:28 参照）、皆さんと家族を導き守ってくれるでしょう。」¹⁶

主はわたしたちの生活に、導き、知恵、指針を授けたいと望んでおられます。御自身の御霊を注ぎたいと望んでおられます。もう一度言います。個人の啓示を受けるには、それを受けたいと望み、心をかたくなにせず、信仰をもって求め、答えを与えられると心から信じて、神の戒めを熱心に守る必要があります。そうすれば、疑問への答えを求めるときに主は御霊によって祝福してくださいます。これらのことをイエス・キリストの御名によって証します、アーメン。■

注

1. 教義と聖約 46:13
2. 1ニーファイ 15:8
3. 1ニーファイ 15:9
4. 1ニーファイ 15:11。10 節も参照
5. 教義と聖約 6:14
6. 教義と聖約 6:15
7. 教義と聖約 6:23
8. 教義と聖約 8:2-3
9. 教義と聖約 9:8
10. 教義と聖約 11:13
11. 『わたしの王国の娘 —— 扶助協会の歴史と業』（2011年）、45-46
12. 『わたしの王国の娘』46
13. ディーター・F・ワークトルフ「あなたの可能性、あなたの特権」『リアホナ』2011年5月号、60
14. 『わたしの王国の娘』78 参照
15. モロナイ 6:4-6
16. デビッド・A・ベドナー「啓示の霊」『リアホナ』2011年5月号、90



七十人会長会
L・ホイットニー・クレートン長老

その時が来る

この業が奇跡的に、驚くべき方法で、支障なく前進する様子を見て、皆さんと同じようにわたしも畏敬の念を覚えます。

わたしは若いころ、宣教師としてペルーのリマ市中心部で数か月間奉仕しました。そのため、リマのアルマス広場を何度も行き来しました。広場の向かい側にはペルーの大統領が居住し執務を行う大統領官邸がありました。同僚とわたしは広場で多くの人に声をかけ、回復された福音について聞くよう勧めました。官邸の中に入ったらどんな感じだろうと考えたりしましたが、実際にそのような経験をするなど思いも寄りませんでした。

昨年、十二使徒定員会のD・トッド・クリストファーソン長老と数人の人々とわたしは、当時ペルーの大統領であったアラン・ガルシアと大統領官邸で会見しました。官邸内の美しい部屋を見学し、ガルシア大統領から丁寧な歓迎を受けました。若い宣教師だったころ官邸について夢見ていたことが、1970年には想像し得なかった方法で実現しました。

わたしが宣教師だった時代から、ペルーの情勢は変化しました。特に、教会は大きな変化を遂げました。当時の教会員数は約1万1,000人で、ステーキが1つしかありませんでした。今では、会員数は50万人を超え、100近くのステーキがあります。わずかな会員しかいなかった町には、活発なステーキや美しい集会所ができています。世界のほかの国々でも

同じことが起きています。

教会のこの驚くべき発展について説明しましょう。まず、旧約聖書に記された預言についてお話します。

ダニエルは、バビロンに捕らわれたヘブル人の奴隷でした。彼はネブカデネザル王が見た夢を解き明かす機会を得ました。ダニエルがその夢と解き明かして教えてくださるよう神に求めると、祈りがこたえられました。ダニエルはネブカデネザルに次のように言いました。「秘密をあらわすひとりの神が天におられます。彼は後の日に起るべき事を、ネブカデネザル王に知らされたのです。……あなたが床にあって見た脳中の幻はこれです。」ダニエルは王が見たのは、頭と胴体、両腕、すね、足を持つ一つの恐ろしい像だったと言いました。一つの石が人手によらずに切り出されて転がり、次第に大きくなりました。石はその像とぶつかり、それを砕きました。そして「その像を撃った石は、大きな山となって全地に満ちました。」

ダニエルは、その像が未来の国々を表していると言いました。「それらの〔未来の〕王たちの世に、天の神は一つの国を立てられます。これはいつまでも滅びることがなく、……かえってこれらのもろもろの国を打ち破って滅ぼすでしょう。そしてその国は立って永遠に至るのです。」¹



では、もっと最近の話をしましょう。1823年、天使モロナイが初めてジョセフ・スミスに現れました。モロナイは、「神が〔ジョセフ〕のなすべき業を備えておられること、また〔ジョセフ〕の名が良くも悪くもすべての国民、部族、国語の民の中で覚えられること……を〔ジョセフ〕に告げられ〔まし〕た。」² モロナイのメッセージはわずか17歳のジョセフにとってきっと驚くべき言葉だったでしょう。

1831年、主はジョセフに、神の王国の鍵が「地上の人にゆだねられており、あたかも人手によらずに山から切り出された石が全地に満ちるまで……福音は地の果てまで転がり進むであろう」³と言われました。それはまさにダニエルがネブカデネザルに告げたことでした。

1898年、ウィルフォード・ウッドラフ大管長は、1834年に新会員としてカートランドで開かれた神権会での経験をこのように語っています。「預言者は神権を持つすべての者を、当時教会がその地に所有していた丸太造りの小さな塾に呼び集めました。それは小さな家で、恐らく14フィート〔約4.3メートル〕四方だったでしょう。……わたしたちが集まると、預言者はイスラエルの長老たちに、この業について証を述べるように言いました。……証が終わると、預言者は言いました。『兄弟の皆さん、今夜わたしは皆さんの証に大変啓発され、教えられました。しかし主の御前で皆さんに申し上げたい。皆さんはこの教会と王国の行く末について、母親のひざにおさなごにいる幼子ほどしか知りません。皆さんはまだ理解していません。

……今夜ここで皆さんが見ているのは、わずか一握りの神権者だけですが、この教会は南北アメリカを満たし、世界を満たすでしょう。』⁴

主の王国に関する預言は次のとおりです。

- 神の王国は山から切り出された石のように地上を満たす。
- ジョセフ・スミスの名前が世界中に知られる。
- 教会はアメリカ大陸と世界を満たす。

これらの預言は、170年前はばかげたものに思えたかもしれませんが、少数の信者たちは、アメリカの辺境地でかろうじて生活し、迫害から逃れるために各地を転々

としていました。国境を越えて各地の人々の心に響く宗教の基となるとは思えませんでした。

しかし、預言は成就しました。ある例を紹介しましょう。

1925年のクリスマスのことです。アルゼンチンのブエノスアイレスで、メルビン・J・バラード長老はイエス・キリストの福音を宣べ伝える地として南アメリカ大陸全土を奉獻しました。1926年8月までに、一握りの改宗者がバプテスマを受けました。彼らは、南アメリカ全土で最初にバプテスマを受けた末日聖徒イエス・キリスト教会の会員でした。今から85年前のことです。今日この大会の模様を視聴している大勢の皆さんの生涯よりも短い年数です。

ウルグアイ・モンテビデオ



今日、ブエノスアイレスには23のシオンのステークがあり、アルゼンチン全土の町々には何十ものステークがあり、何万という教会員がいます。現在、南アメリカには600以上のステークと数百万人以上の教会員がいます。わたしたちの目の前で神の王国は南アメリカを満たし、ジョセフ・スミスの名前は、彼自身が生前聞いたこともないような国で、教会の出版物および彼を批判する人たちの出版物に登場します。

今日、ボストンからバンコク、メキシコシティ、さらにはモスクワに至るまで、世界各地におよそ3,000のステークと、2万9,000近くのワードや支部があります。多くの国では教会のステークがよく発展しており、先祖が改宗者である会員がいます。ほかの地では、わずかな新会員が借家の小さな支部に集っています。教会は、年々世界各地にどんどん広がっています。

世界を満たし、世界中に知られるようになるというこれらの預言はばかげたものでしょうか。そうかもしれません。実現しそうなものでしょうか。確かにそうでしょう。不可能なものでしょうか。いいえ、決してそうではありません。わたしたちは預言の成就を目の当たりにしています。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこのように述べています。

「かつて『大英帝国に太陽は沈まない』と言われた時代がありました。しかしその帝国も今や同じ姿を保ってはいません。しかし、主の業においては、まさに太陽は沈むことはありません。主の業は、常に全世界の人々の生活に活力を与えているからです。

そしてこれは始まりにすぎません。まだほんの少し表面をなでたにすぎないのです。……この業に国境はありません。……現在門戸を閉ざしている国々も、いつか開く時が来るでしょう。」⁵

今日、モルモン書の預言が成就しようとしているのが分かります。

「……そこで王たちは口をつぐむように



ブラジル・サルバドール

なる。王たちはまだ告げられたことのないことを見、まだ聞いたことのないことを悟るからである。

その日、わたしのために父は異邦人の中で一つの業を、すなわち大いなる驚くべき業を行われる。」⁶

この主の業は実に大いなる驚くべき業でありながら、人類の政治、文化、学術に関する指導者にほとんど気づかれることなく前進しています。一人ずつ、あるいは一家族ずつ、人々の心に静かにそっと働きかけ、その神聖なメッセージによって各地の人々に祝福をもたらしています。

モルモン書の聖句には、今日のこの教会の驚くべき発展の鍵が記されています。「そしてさらに、わたしはあなたに言う。救い主についての知識が、あらゆる国民、部族、国語の民、民族の間に広まる時が来る。」⁷

わたしたちが世界中に告げるように神から権限を与えられ、命じられている最も大切なメッセージは、救い主がおられるということです。主は時の中間に生きておられました。わたしたちの罪を贖い、十字架にかけられ、復活されました。神から与えられた権能により宣言するこの比類ないメッセージこそ、教会がこのように発展している真の理由なのです。

イエスが御父とともにジョセフ・スミスに御姿を現されたことを証します。イエスは御父の指示の下で、地上に再び福音を確立されました。使徒、預言者、神権の

鍵を再び地上に送られました。主は、生ける預言者トーマス・S・モンソン大管長を通して教会を導いておられます。主の教会は、人手によらずに山から切り出され世界中に転がる石です。

わたしたちはジョセフ・スミスに感謝しています。ジョセフの名前が世界各地でさらに尊ばれ、そして忌み嫌われる様子に目を見張っています。しかし、わたしたちはこの力ある末日の業がジョセフのものではないことを認識しています。この業は万能の神とその御子、すなわち平和の君のもので、イエス・キリストが救い主であられることを証します。そして、この業が奇跡的に、驚くべき方法で、支障なく前進する様子を見て、皆さんと同じようにわたしも畏敬の念を覚えます。「救い主についての知識が、あらゆる国民、部族、国語の民、民族の間に広まる時が来[た]」のです。主は全人類の救い主であり、この業が真実であることを、イエス・キリストの御名により証します。アーメン。■

注

1. ダニエル 2:28, 35, 44。1-45節も参照
2. ジョセフ・スミス—歴史 1:33
3. 教義と聖約 65:2
4. 『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』25-26
5. ゴードン・B・ヒンクレー「教会の現状」『リアホナ』2003年11月号、6-7
6. 3ニーファイ 21:8-9
7. モーサヤ 3:20



七十人
ホセ・L・アロンソ長老

正しいことを 正しいときに 遅れずに行う

救い主は……幸福も喜びも感じられなくなった人に時を移さず慰めを与えるという偉大な模範を示されました。

今^こ日多くの人が悲しみ、非常に混乱しながら生活しています。疑問の答えが見つからず、必要を満たすことができないでいます。幸福や喜びを感じられなくなっている人もいます。預言者は、真の幸福はキリストの模範と教えに従うことにあると言っています。キリストはわたしたちの救い主であり、教師であり、完全な模範であります。

キリストは奉仕の人生を送られました。隣人に奉仕するとは、困っている人を助けることです。そうするうちに自分の問題を解決する方法が見えてくる場合があります。救い主の模範に倣うことによって、天の御父と御子イエス・キリストを愛することを示すならば、御父と御子に似た者になります。

ベニヤミン王は奉仕の大切さについて語り、わたしたちが「同胞のために務めるのは、とりもなおさず、[わたしたちの] 神のために務めるのである」と言いました。¹ 奉仕し、愛を示す機会はだれにでもあります。

トーマス・S・モンソン大管長は、「救助に」向かい、人に奉仕するようわたしたちに勧めよう言いました。「わたしたちが奉仕している人々で、わたしたちの働きを通して主の御手に触れたと感じても、自分の生活に生じた変化をどういうわけか説明できない人がいます。彼らの胸には、忠実に仕え、謙遜に歩み、さらに救い主に近づきたいという願いがあるのです。霊の目をもって、永遠の約束を一目見ることができたら、かつてイエスがお癒しになった盲人のように、彼らも同じことを言うでしょう。『ただ一つのことだけ知っています。わたしは盲人であったが、今は見えるということです。』²

正しいことを正しいときに遅れずに行うことによって、助け、奉仕する機会は毎日あります。仕事を見つけようと苦勞している人や病気の、孤独な人、すべてを失ったとまで思っている人のことを考えてください。このような人はたくさんいます。助けるために何ができますか。隣人が外出先で雨に降られ、しかも車が故障して助けを求めてきたとします。彼にしてあげら

れる正しいことは何ですか。そうするための正しいときはいつですか。

二人の子供に服を買ってやるために家族でメキシコシティの繁華街に行ったときのことを思い出します。二人とも幼く、上の息子が2歳になったばかり、下の息子は1歳でした。道は人であふれていました。子供たちの手を引いて買い物をしていたのですが、わたしたちは何かに目を留めて少しの間立ち止まりました。そして、気づかぬうちに上の子を見失ってしまったのです。どのようにいなくなったのかは分かりません。直ちにわたしたちは走って探し始めました。永遠に見つからないのではという恐怖に駆られながら探し、子供を大声で呼びました。見つけれられるようにと心の中で天の御父に祈りました。

しばらくして子供は見つかりました。ショーウィンドーのおもちゃを無邪気に見ていたのです。わたしたちは子供を抱き締め、キスをして、二度と見失うことがないようにきちんと見守ると心に誓いました。わたしたちが学んだのは、息子の救助に行くために計画会を開く必要がなかったことです。ただ行動し、いなくなった子を探しに行きました。もう一つ学んだのは、息子は自分が迷子になっていることにまったく気づいていなかったということです。

兄弟姉妹の皆さん、何らかの理由で姿が見えなくなり、しかも自分が道に迷ったことに気づいていない人がたくさんいるかもしれません。ぐずぐずしていたら、彼らを永遠に失ってしまうかもしれないのです。

多くの場合、わたしたちの助けを必要としている人のために新しいプログラムを作ったり、複雑なことやお金のかかることを行ったりする必要はありません。奉仕しようと思っただけでいいのです。正しいことを正しいときに遅れずに行う決意です。

救い主はモルモン書の民のもとに御姿



を現されたとき、幸福も喜びも感じられなくなった人に時を移さず慰めを与えるという偉大な模範を示されました。民をお教えになった後、御自分のすべての御言葉を民が理解しているわけではないことを御存じだったので、家に帰って御自分の言ったことを深く考えるよう促されました。また、御父に祈り、翌日御自身が来て教えるときに備えるよう告げられました。³

言い終えて群衆を御覧になると、彼らは泣いていました。救い主にとどまっほしいと切に願っていたからです。

「そこで、イエスは彼らに言われた。『見よ、わたしの心は、あなたがたに対する哀れみに満たされている。』⁴

あなたがたの中に病気の者がいるか。彼らをここに連れて来なさい。足の不自由な者、目の見えない者、足の悪い者、手の不自由な者、重い皮膚病にかかっている者、体のまひしている者、耳の聞こえない者、あるいはどんなことでも苦しんでいる者がいるか。彼らをここに連れて来なさい。癒してあげよう。わたしはあなたがたのことを哀れに思い、わたしの心は憐れみに満たされている。』⁴

そこで民が病気の者を連れて来ると、

イエスは彼らを癒されました。群衆はイエスの足もとにひれ伏して拝し、足に口づけし、「涙でイエスの足をぬらし」ました。その後、主は幼い子供たちを連れて来るよう命じ、子供たちを一人一人祝福されました。これが救い主の示された模範です。⁵ 救い主はすべての人を愛し、一人としてお忘れになることがありませんでした。

天の御父は愛と思いやりにあふれ、寛容な御方であられることをわたしは知っています。御子イエス・キリストもわたしたちを愛しておられます。この御二方は預言者を通してわたしたちを助けてくださいます。預言者に従うかぎり安全であることをわたしは学んできました。「救助」は続きます。モンソン大管長は次のように言いました。「主はわたしたちが考え、行動し、労力を費やし、証を述べ、献身することを期待しておられます。」⁶

わたしたちには責任と大いなる機会があります。教会活動を通して幸福と喜びを再び味わう必要のある人がたくさんいます。その幸福は、儀式を受け、神聖な聖約を交わしてそれを守ることによって得られます。彼らを助けるために主はわたしたちを必要としておられます。正しいこ

とを正しいときに、遅れずに行いましょう。

神は生きておられ、わたしたちの御父であられます。このことを証します。イエス・キリストは生きておられ、わたしたちが天の御父のみもとに帰れるよう命をささげられました。イエスは救い主です。御父と御子が限りない慈しみをお持ちであることは、常にわたしたちに示されています。トーマス・S・モンソン大管長がこの御二方の預言者であり、この教会が、全地の面における唯一まことの教会であることを証します。ジョセフ・スミスは回復の預言者です。モルモン書が神の御言葉であることを証します。この書物は、わたしたちが神とその愛子に似た者となるよう指針と模範を示してくれます。これらのことをわたしたちの主イエス・キリストの御名によって申し上げます。アーメン。■

注

1. モーサヤ 2:17
2. トーマス・S・モンソン「救出に向かう」『リアホナ』2001年7月号, 58
3. 3ニーファイ 17:1-3 参照
4. 3ニーファイ 17:6-7。5節も参照
5. 3ニーファイ 17:9-12, 21 参照
6. トーマス・S・モンソン「救出に向かう」『リアホナ』2001年7月号, 58



十二使徒定員会会長
ボイド・K・パッカー会長

若人への助言

反対や試練、誘惑に遭うとしても、皆さんは挫折したり恐れたりする必要はありません。

わ

たしは若人に向けてお話しします。いつもより個人的に、若いころの自分を今の皆さんと比べながらお話しします。

皆さんは計り知れないほど貴い存在です。わたしはすべての大陸の多くの国々で皆さんにお会いしたことがあります。皆さんは若いころのわたしたちよりもはるかに優れています。福音の知識においても、成熟度や忠実さにおいても勝っています。

わたしは現在 87 歳です。この年で皆さんの生活にどう貢献できるのかとも思いません。わたしは皆さんのいるところにいたことがあり、皆さんがどこに向かっているかを知っています。でも皆さんはわたしのいるところに来たことはありません。一流の詩から少し引用しましょう。

老いたカラスは動きがのろい
若いカラスはそうではない
でも若いカラスが知らないことを
老いたカラスは知っている

知識にかけては老いたカラス
若いカラスに負けはしない
老いたカラスが知らないことは？
——もっと速く飛ぶことだ

若いカラスは上へ行ったり、下へ行ったり

老いたカラスをぐるりと回ったり
若いカラスが知らないことは？
——どこへ向かって飛べばいいかだ¹

ワーズワースの詩ではありませんが、それでも一流の詩です。

世の中で起こっていることのために、すなわち道徳の標準が下がっているために、若人の皆さんは今、敵の領域で成長しています。

わたしたちは、天で戦いがあり、反逆者ルシフェルと彼に従う者たちが「地に投げ落とされ[た]」²ことを聖文から知っています。ルシフェルは天の御父の計画を破壊しようと決意して、すべての人の思いと行いを支配することを求めています。この影響力は霊にかかわるもので、ルシフェルは「地の方々に」³います。

しかし反対や試練、誘惑に遭うとしても、皆さんは挫折したり恐れたりする必要はありません。

高校卒業を目前に控えた 17 歳のわたしは、自分のことを少々欠点のあるごく普通の高校生だと思っていましたが、ある日曜の朝、すべてが一変しました。翌日、わたしたちは高校の講堂に集められました。ステージには 1 脚のいすと、その上に小さなラジオが置かれていました。校長がラジオのスイッチを入れました。そしてわたしたちは、真珠湾が爆撃されたことを発

表するフランクリン・デラノ・ルーズベルト大統領の声を聞きました。合衆国と日本の戦争が始まったのです。

後にまた同じように集められました。再びルーズベルト大統領の声を聞きました。今度はドイツと戦争が始まったと発表されました。第二次世界大戦が猛烈な勢いで世界中に広がりました。

突然、将来は不確かなものとなりました。これからどうなるのか分かりません。結婚して家族を持つまで生きていられるでしょうか。

今日、「戦争と戦争のうわさが[あり]、全地が混乱し[ています]」⁴ 若人の皆さんは人生に不確かさや不安を感じているかもしれません。わたしは行うべきことと行ってはいけないことについて、皆さんに助言と教えを与え、警告したいと思います。

福音の計画は「偉大な幸福の計画」⁵です。家族はその計画の中心を成すものです。家族は、命をもたらず力をふさわしく用いることに懸かっており、その力は皆さんの肉体に備わっています。

大管長会および十二使徒定員会が発表した靈感による文書である「家族——世界への宣言」では、次のように教えられています。前世において「すべての人は、男性も女性も、神の形に創造され[ました]。人は皆、天の両親から愛されている霊の息子、娘です。したがって、人は皆、神の属性と神聖な行く末を受け継いでいます。そして性別は……必須の特性[であり、前世で定められていました]。……

……またわたしたちは宣言します。生殖の神聖な力は、法律に基づいて結婚した夫婦である男女の間においてのみ用いるべきです。」⁶

ルシフェルと彼に従う者たちが自分自身に招いた大きな罰は、肉体を持っていないことです。

皆さんが遭う多くの誘惑、間違いなく最も深刻な誘惑は、皆さんの肉体に関連しています。皆さんが持っているのは、次の



世代の人々の肉体を創造する力だけではありません。皆さんは選択の自由も持っています。

預言者ジョセフ・スミスは「肉体を持つすべての者は、肉体を持たない者を支配する力を持つ」と教えています。⁷ですから肉体を持つすべての生ける者は、最終的に敵を支配する力を持っています。皆さんは肉体の性質のために誘惑を受けますが、敵とその使いを支配する力を持っているのです。

高校を卒業するころには、多くの級友が戦争に行き、そのうち何人かは二度と帰って来ませんでした。残りの者も、近いうちに軍に入隊することになっていました。将来のことは分かりませんでした。戦争を生き残れるのでしょうか。戻って来たときに、故郷と呼べるものは十分残っているのでしょうか。

わたしは必ず徴兵されると思っていたので、空軍に入隊しました。入隊するとすぐ、予備訓練を受けるため、カリフォルニ

ア州サンタアナに行きました。

当時のわたしには、福音が真実だという確固とした証^{あかし}はありませんでした。知っていたのは、わたしのセミナー教師のエーブル・S・リッチとジョン・P・リリーホワイトが、福音は真実だと知っているということでした。二人の証を聞き、二人を信じたのです。わたしは「自分自身の証を得るまでは彼らの証に頼ろう」と考え、実際にそうしました。

祝福師の祝福については聞いていましたが、受けてはいませんでした。各ステークには、預言の霊と啓示の霊を持つ祝福師が聖任されています。祝福師には、ビショップの推薦を受けて来る人に個人的な祝福を授ける権能が与えられています。わたしは推薦状を得るためにビショップに手紙を書きました。

サンタアナステークでは、J・ローランド・サンドストローム兄弟が祝福師に聖任されていました。彼は、一度も会ったこともなく、何も知らないわたしに、祝福を授

けてくれました。その祝福の中に、わたしは答えと導きを見いだしました。

祝福師の祝福は非常に個人的なものです。わたしの祝福文から少しだけ引用します。「あなたは聖なる御霊^{みたま}のささやきによって導かれ、危険について警告を受けるでしょう。それらの警告に心を留めるならば、天の御父はあなたを祝福し、あなたが再び愛する人々と一つになれるようにしてくださるでしょう。」⁸

ならばという短い一言^{ひとこと}が、まるで巨大な字で書かれているかのように迫ってきました。戒めを守るならば、そして聖霊のささやきに心を留めるならば、わたしは祝福されて戦争から帰還できるのです。聖霊^{たまもの}の賜物はバプテスマのときに授かっていましたが、聖霊がどのようなものかも、ささやきがどのように働きかけるのかも、まだ知りませんでした。

ささやきについて知っておくべき事柄を、わたしはモルモン書の中で見つけました。こう書かれていました。「天使は聖霊の力で語る。したがって、天使はキリストの言葉で語る。〔それゆえ〕……キリストの言葉をよく味わ〔いなさい〕。見よ、キリストの言葉はあなたがたがなすべきことをすべて告げるからである。」⁹

恐らく、わたしがモルモン書を読んで学んだ最も重要なことは、御霊の声は音というよりも感じ^かだということです。皆さんもわたしのよう^にに、耳で聞くというよりも心で感じる^こることによってその声を「聴く」ことができるようになるでしょう。

ニーファイは兄たちをしかって、こう言いました。「あなたがたは一人の天使に会い、その天使はあなたがたに語りかけました。まことに、あなたがたはその声を時々聞いています。天使は静かな細い声で語りかけましたが、あなたがたは心が鈍っていたので、その言葉を感^かじることができませんでした。」¹⁰

批判する人の中には、言葉は聞^きくものであって感^かじ^るものではないからこの聖句は間違っていると言う人がいます。しか



し霊的な交わりについて少しでも知っている人なら、感じるという言葉こそがそのときの経験を最もよく言い表す言葉であることを知っています。

聖霊の賜物は、もし皆さんが同意するのなら、皆さんを導き、守り、さらには皆さんの行いを正してさえくれます。それは思いに告げる霊的な声であり、考えや気持ちとして心に入ってきます。預言者エノスはこう述べています。「主の声がわたしの思いに告げ[られた]。』¹¹ また、主はオリバー・カウドリに次のようにおっしゃっています。「見よ、あなたに降……る聖霊によって、わたしはあなたの思いとあなたの心に告げよう。』¹²

過ちをまったく犯さずに人生を歩むことは期待されていませんが、皆さんは大きな過ちを犯す前に、必ず聖なる御霊のささやきによって警告を受けるでしょう。この約束はすべての教会員に当てはまるものです。

福音の律法に背いて非常に重大な過ちを犯す人もいます。そのようなときは、贖いと、悔い改めと、完全に赦されて再び清くなれることを思い起こしてください。主は次のようにおっしゃっています。「見よ、自分の罪を悔い改めた者は赦され、主なるわたしはもうそれを思い起こさない。』¹³

もし罪のゆえに敵のとりこになることがあったなら、皆さんは牢の扉を内側から開ける鍵を持っていることを思い出してください。救い主イエス・キリストの贖いの犠牲によって、洗われて清くなることができるのです。

皆さんは不安に駆られ、大なり小なり

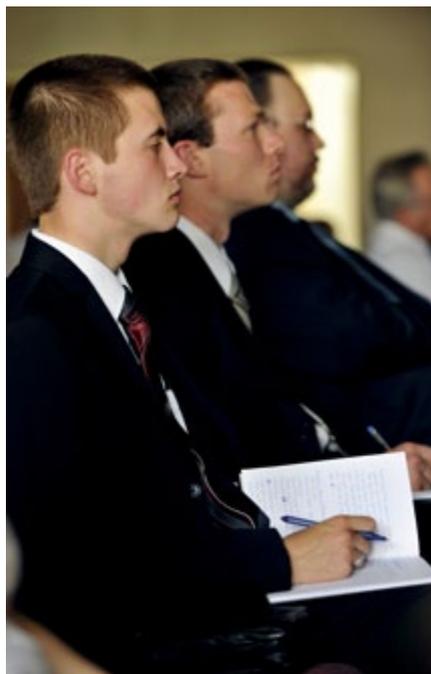
過ちを犯した自分は、救いにふさわしくないとと思うかもしれませんが、そのようなことは決してないのです。痛みを癒せるのは悔い改めだけです。しかし悔い改めは、どのような痛みであれ癒すことができるのです。

すべきでないことをし始めているなら、または、自分を悪い方に引き込もうとする人たちと交わっているなら、主体性を発揮し、選択の自由を行使すべき時は今です。御霊の声に耳を傾けなさい。そうすれば、惑わされることはないでしょう。

繰り返しますが、今日の若人は道徳の標準が下がっている敵の領域で成長しています。しかし、わたしは主のしもべとして約束します。皆さんが進んで聖なる御霊の導きに心を留めるならば、敵の攻撃から守られ、保護されるでしょう。

慎み深い服装をし、敬虔に話し、心を

イングランド・レスター



高める音楽を聴きなさい。不道徳で品位を落とす行いをすべて避けなさい。自分の生活を管理し、自制して雄々しくありなさい。わたしたちは皆さんをとて頼りにしているので、皆さんは大いに祝福を受けるでしょう。愛にあふれた天の御父は常に皆さんを見守っておられます。

セミナー教師の証に頼る必要があると感じていたことと比べて、わたしの証の強さは変わりました。今日、わたしは人に頼って歩きますが、それは年齢と、子供のころに患ったポリオのせいであって、霊的な事柄に関する疑いのためではありません。わたしは福音と救い主イエス・キリストについての貴い真理を信じ、理解し、知るようになりました。

主の特別な証人の一人として証します。前世で始まったこの戦いの結末は明らかです。ルシフェルは敗れるのです。

先ほどカラスについて話しました。若いカラスである皆さんは、自分の前途に確信を持ってないまま当てもなくあちらこちらと飛び回る必要はありません。道を知っている人たちがいるのです。「まことに主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは、何事をもなされぬ。』¹⁴ 主は鍵と評議の原則に基づいて御自分の教会を組織されました。

教会の長として、預言者、聖見者、啓示者として支持された15人の人たちがいます。大管長会と十二使徒定員会の会員は、それぞれが教会を導くのに必要なすべての神権の鍵を持っています。前任使徒は、預言者であるトーマス・S・モンソン大管長であり、彼はすべての鍵を行使する権能を与えられた唯一の人物です。

聖文には、大管長会と十二使徒定員会は評議会として働かなければならず、評議会は全会一致で決定を下さなければなりません。そしてそのように行われています。わたしたちは主が正しい道に導いてくださると信頼し、主の御心を行うことだけを求めています。また、主がこの評議会の構成員一人一人と評議会全体を大

いに信頼しておられることを知っています。

皆さんは「心をつくして主に信頼[し]、自分の知識にたよってはならない」ことを学ばなければなりません。¹⁵ 信頼できる人にならなければならず、そうなりたいと望んでいる友人たちと交流しなければなりません。

わたしが若いころに時々経験したように、皆さんも次のように思いたくることがあるかもしれません。「時代の流れから考えれば、この世はもうすぐ終わるのだろう。わたしがしたかったことをする前に、この世は終わりを迎えるだろう。」でもそれは違います。皆さんは義にかなった事柄を行う時を、すなわち、結婚し、家族を持ち、子供や孫や、恐らくひ孫を目にする時を期待して待つことができるのです。

これらの原則に従うならば、皆さんは見守られ、守られて、どの道を行けばよいかを聖霊の導きによって自ら知ることができるでしょう。「聖霊の力によって、あなたがたはすべてのことの真理を知る」ことができるからです。¹⁶ そのようになることを約束します。そして、わたしたちの大切な若人の皆さんを祝福します。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. ジョン・チアーデイ, "Fast and Slow," *Fast and Slow: Poems for Advanced Children and Beginning Parents* (1975年), 1 ©1975 John L. Ciardi. ホートン・ミフリン・ハーコート印刷会社の許可を得て掲載。版權所有
2. 黙示 12:9. 教義と聖約 76:25-26も参照
3. 教義と聖約 52:14
4. 教義と聖約 45:26
5. アルマ 42:8
6. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2010年11月号, 129
7. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』211
8. ボイド・K・バックラーの祝福師の祝福, J・ローランド・サンドストロームから与えられる, 1944年1月15日
9. 2ニーファイ 32:3
10. 1ニーファイ 17:45, 強調付加
11. エノス 1:10
12. 教義と聖約 8:2
13. 教義と聖約 58:12
14. アモス 3:7
15. 箴言 3:5
16. モロナイ 10:5



大管長会第二顧問

ディーター・F・ウークトドルフ管長

あなたは御父にとって大切な存在です

主は人の価値を量るのに、この世の秤とは非常に異なる秤をお使いになります。

歴史上最も偉大な預言者の一人であるモーセは、国王パロの娘に育てられ、生まれてから40年間、エジプトの王宮で過ごしました。古代王国の栄光と栄華を身近で知っていたのです。

数年後、栄華に輝く強大なエジプトから遠く離れた山の頂で、モーセは神の御前に立ち、人が友と話すように顔と顔を合わせて神と話しました。¹ その会見の中で神は、御自分の手で造ったものをモーセに示されました。こうしてモーセは神の業と栄光をかいま見たのです。この示現が閉じると、モーセは地に倒れ、多くの時間が過ぎました。やっと力を取り戻すと、パロの宮殿で過ごした長い年月の間には思ってもみなかったことが分かりました。

モーセは言いました。「人は取るに足りないものであることが分かった。」²

人はわたしたちが思うよりも小さい

わたしたちは宇宙について知れば知るほど、モーセが知ったことを少しなりとも分かるようになります。宇宙は非常に大きく神秘的で壮大なので、人の頭では理解できません。「無数の世界を、わたしは創造した」と神はモーセに言われました。³

驚嘆の夜空は、その真理の美しい証です。夜の闇の中を海や陸を越えて飛び、操縦席の窓から無数の星の輝きを見るときほど、息をのむような畏敬の念に満たされることはありません。

宇宙飛行士は宇宙の星を数えようと試みてきました。科学者のあるグループは、望遠鏡で見える範囲にある星の数だけでも、世界の砂浜や砂漠にある砂粒の合計よりも10倍多いと推定しています。⁴

この結論は、古代の預言者エノクが述べたことに驚くほど似ています。「人が地の微粒子、まことにこの地球のような幾百万の地球を数えることができたとしても、それはあなたが創造されたものの数の始めにも至りません。」⁵

神が創造されたものの広大さを考えると、偉大なベニヤミン王が民に「神の偉大さと自分自身の無力さ……を覚えて、いつも記憶にとどめておくようにしてほしい」と勧告したのはもっともなことです。⁶

人はわたしたちが思うよりも大きい

しかし、人は無力であるとしても、「人の価値が神の目に大いなるものである」⁷ということを見ると、驚異と畏敬の念に満たされます。

わたしたちは広大な宇宙を見て、「栄光あふれる被造物に比べたら、人は一体何であろうか」と言いたくなります。しかし、わたしたちこそ神が宇宙を創造された理由であると、神御自身が言われたのです。神の業と栄光、すなわちこの広大な宇宙の目的は、人類を救い、昇栄させることなのです。⁸ 言い換えれば、永遠という無窮の広がり、無限の宇宙と時間という栄光と神秘はすべて、皆さんやわたしのようなく普通の人のために造られたのです。天の御父は、わたしたちが神の息子娘としての潜在的な能力を十分に発揮できるように宇宙を創造されたのです。

これは人に関する逆説です。神に比べれば人は取るに足りないものです。にもかかわらず、人は神にとってすべてなのです。無数の創造物の中での自分の存在を考えれば、わたしたちは取るに足りない者のように見えるでしょう。しかし、わたしたちの心の中には永遠に燃える火の輝きがあるのです。人の理解を超えた昇栄の約束、すなわち無限の世界がわたしたちの手の届くところにあるのです。わたしたちがそこへ到達するのを助けたいと、神は強く願っておられます。

高慢の愚かさ

人を欺くサタンは、神の子供を迷わせる最も効果的な手段の一つは、人に関するこの逆説の片方を極端に強調することだと心得ています。ある人たちには、慢心をくすぐり、うぬぼれさせて、尊大な優越感という幻想を信じ込ませるようにそそのかします。自分は卓越しており、能力、生得権、社会的地位などの理由で、周りのあらゆる平凡な尺度では測れない際立った人間だと思わせるのです。それゆえ、ほかのだれの規則にも従う必要はなく、ほかのだれの問題にも煩わされることはないと考えられるようになります。

エブraham・リンカーンは次の詩を好んだと言われています。

どうして人の精神は高慢になるのか
矢のように飛び去る流星や雲のごとく
稲妻の閃光や砕ける波のごとく
人生は終わり、人は墓で休む⁹

イエス・キリストの弟子は、永遠に比べれば、この世の人生は宇宙と時間の中の「つかの間」¹⁰ にすぎないことを理解しています。人の真の価値は、世が高く評価するものとはほとんど無関係であることを知っています。全世界の貨幣を積み上げたとしても、天ではパン一つさえ買えないことを知っています。

「神の王国を受け継ぐ」人は、¹¹ 「子供のように従順で、柔和で、謙遜で、忍耐強く、愛にあふれた者」です。¹² 「自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされる」¹³ からです。そのような弟子は、「あなたがたが同胞のために務めるのは、とりもなおさず、あなたがたの神のために務めるのである」ということが分かります。¹⁴

わたしたちは忘れられてはいない

サタンが欺くもう一つの方法は失望です。自分が取るに足りない存在であることばかりに目を向けさせ、自分に大きな価値があることを疑うように仕向けます。だれかに注目されるにはあまりに小さく、忘れられている、とりわけ神から忘れられているのだと言うのです。

自分つまらない者、忘れられた者、孤独な者だと感じている人に、幾らか役立つように、個人的な経験を話しましょう。

何十年前、わたしは合衆国空軍でパイロットの訓練に参加しました。わたしは、チェコスロバキアで生まれ、東ドイツで育ち、故郷を遠く離れた、若き西ドイツ兵士でした。英語を話すことには大変苦労していました。テキサスの訓練基地への旅をよく覚えています。飛行機に乗ると、隣には南部なまりの強い乗客が座っていました。彼の言うことはほとんど一言も分かりませんでした。それまで間違っ

た言語を教えられてきたのではないかと実際に思ったほどでした。英語を母語とする学生たちを相手に、パイロットになる訓練で上位を目指して競わなければならないと考え、ぞっとしました。

テキサス州ビッグスプリングの小さな町の空軍基地に到着すると、末日聖徒の支部を探して見つけました。一握りのすばらしい会員から成る支部で、空軍基地の中に部屋を借りて集会を開いていました。教会としてもっと恒久的に使える小さな集会所を建てている最中でした。当時は新しい建物を建てる労働力の大半を会員が提供していました。

毎日わたしはパイロットの訓練を受け、できるだけ一生懸命に勉強し、それから余暇のほとんどを新しい集会所の建築に費やしました。ツーパイフォーというのはダンスのステップではなく建材のことだとそこで学びました。また、釘を打つときに親指を打たないで済むように、大切な技術を身に付けました。

わたしがあまりに多くの時間を割いて集会所で働いたので、わたしたちの飛行訓練士の一人でもあった支部会長は、勉強にもっと時間を使った方がよいのではないかと心配してくれました。

友人やパイロット仲間は、自由時間の様々な活動に参加していました。ただし、その活動の中には、今日使われている小冊子『若人の強さのために』の標準から外れるものもあったと思います。わたしはと言えば、テキサス西部のこの小さな支部の活発な会員であることを楽しんでいました。新たに身に付けた大工の技能を使い、長老定員会や日曜学校で教える召しを果たしながら、英語力の向上に励んでいました。

当時、ビッグスプリングはその名前とは裏腹に、小さくて取るに足りない、無名の場所でした。わたしは自分についてもまったく同じように感じていました。取るに足りない、無名で孤独な存在でした。そうであっても、主がわたしを忘れておら



れるのではないか、その場所でわたしを見つけることができにらないのではないかと、一度も考えませんでした。天の御父にとっては、わたしがどこにいるか、パイロット訓練クラスでどのレベルにいるか、教会でどのような召しを受けているか、ということは大した問題ではないと知っていました。御父にとって重要なのは、わたしが最善を尽くしており、御父に心を向けており、周りの人を進んで助けようとする意思があるか、ということです。最善を尽くすなら、すべては良くなるわたしは確信していました。

確かにすべては良しでした。¹⁵

後の者が先になる

わたしたちが毎日働いているのが大理石のホールであろうと馬小屋であろうと、主は少しも気になさいません。わたしたちの置かれた環境がどんなに質素であろうと、主はわたしたちがどこにいるのか御存じです。主は御自身の方法で、そして主の神聖な目的のために、御自分に心を向ける人々をお使いになるのです。

かつて生きた最も偉大な人々の中にも、決して歴史に名をとどめることのない人がいることを、神は御存じです。それは救い主の模範に倣い、善い行いをして生活する祝福された謙虚な人々です。¹⁶

友人の両親で、この原則を体現してくれ

た夫婦を紹介しましょう。夫はユタ州のある鉄工所で働いていました。昼食の時間には聖典か教会の機関誌を読んでいました。それを見たほかの労働者たちはあざ笑って彼の信仰をけなしたものでした。でも彼は、いつも親切に、自信を失わずに話しかけていました。無礼な態度に対して怒ったりうろたえたりしませんでした。

数年後、そのあざ笑っていた一人が重い病気になりました。亡くなる前に、この謙虚な人に葬儀で話をしてほしいと頼みました。彼は引き受けました。

この忠実な教会員には社会的な地位や富というものはありませんでした。しかし、彼を知る人には皆、深い影響を及ぼしました。後に彼は労災事故で亡くなりました。自分の作業を中断して、雪の中で立ち往生していた別の労働者を助けようとしていたときのことでした。

1年もたたないうちに、彼の妻が脳の手術を受けました。その結果、歩けなくなってしまいました。しかし、人々は彼女と一緒に過ごそうと、好んでやって来ました。彼女は話を聞いてくれるからです。記憶にとどめ、心にかけてくれるからです。書くことはできませんでしたが、子供や孫の電話番号を覚えていました。誕生日や記念日も忘れませんでした。

彼女を訪ねる人は、生活や自分自身に前より良い気持ちを抱いて帰りました。彼女の愛を感じ、心にかけてくれているのが分かりました。彼女は不平を言わず、人の生活を祝福して過ごしました。ある友人は彼女のことを、イエス・キリストの愛と生涯を真に体現した数少ない人の一人であったと述懐します。

この夫婦は、自分たちはこの世で大して重要な者ではないと、真っ先に言ったことでしょう。しかし主は人の価値を量るのに、この世の秤とは非常に異なる秤をお使いになります。主はこの忠実な夫婦を御存じであり、愛しておられます。彼らの行動は主を信じる彼らの強い信仰の生きた証です。



あなたは御父にとって大切な存在です

愛する兄弟姉妹の皆さん、宇宙の広大さに比べたら、確かに人は取るに足りないかもしれません。時には、自分がつまらない、人に気づかれない、孤独で、忘れられた存在だと感じることもさえないでしょう。でもいつも覚えていてください。あなたは御父にとって大切な存在であることを。それを疑うことがあるなら、次の4つの神聖な原則について考えてください。

第1に、神は謙遜で柔和な人を愛しておられます。そのような人は「天国でいちばん偉い」からです。¹⁷

第2に、「[主の] 完全な福音が弱い者や純朴な者によって世界の果てまで……の宣べられる」よう主は彼らにその業をゆだねておられます。¹⁸ 「出て来て、力ある強い者たちを打ち破る」ために、¹⁹ また「強い者」を辱めるために、「世の弱い者」をお選びになったのです。²⁰

第3に、住む場所、質素な環境、地味な職業、限られた能力、平凡な容姿、教会の小さな召しなどにかかわらず、天の御父の目には皆さんの姿がはっきりと映っています。御父は皆さんを愛しておられ、皆さん

の謙虚な心、愛と親切心から出た行動を御存じです。それは皆、皆さんの忠誠心と信仰の永久に変わらぬ証なのです。

最後ですが第4に、今見たり経験したりしていることは永遠に続くわけではないということを理解してください。孤独感、悲しみや苦痛、失望が永遠に続くことはありません。神に心を向ける人を神は忘れたり見捨てたりは決してなさらないとわたしたちは約束されています。²¹ その約束に希望と信仰を持ってください。天の御父を愛し、言葉と行いにおいて主の弟子になるよう努めてください。

皆さんが踏みとどまり、主を信じ、忠実に戒めを守り続けるなら、いつの日か、使徒パウロに告げられた次の約束が果たされるのを確かに自分自身で経験するでしょう。「目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた。」²²

兄弟姉妹の皆さん、宇宙で最も力ある御方が皆さんの霊の父なのです。御父は皆さんを御存じで、完全な愛で皆さんを愛しておられます。

神は皆さんを、小さな地球の上で短い間だけ生きる、死すべき者と考えるはおられません。御自分の子供と見なしておられるのです。なるべき者になれる能力を備えた存在であり、そのように創造された存在であると思っておられます。皆さんが御自分にとって大切な存在であることを知ってほしいと望んでおられます。

わたしたちが信じ、信頼し、生活を整え、それによって、わたしたちの真の永遠の価値と可能性を理解することができますように。天の御父が用意してくださっている貴重な祝福にふさわしくなれますように。御子イエス・キリストの御名によって祈ります、アーメン。■

注

1. モーセ1:2 参照
2. モーセ1:10
3. モーセ1:33
4. アンドリュウ・クレグ, "Astronomers Count the Stars," BBC News, 2003年7月22日付参照, <http://news.bbc.co.uk/2/hi/science/nature/3085885.stm>
5. モーセ7:30
6. モーサヤ4:11
7. 教義と聖約18:10
8. モーセ1:38-39 参照
9. ウィリアム・ノックス, "Mortality," ジェームズ・ダルトン・モリソン編, *Masterpieces of Religious Verse* (1948年), 397で引用
10. 教義と聖約121:7
11. 3ニーファイ11:38
12. モーサヤ3:19
13. ルカ18:14. 9-13節も参照
14. モーサヤ2:17
15. ディーター・F・ワークトドルフ管長は、クラスを主席で卒業した
16. 使徒10:38 参照
17. マタイ18:4. 1-3節も参照
18. 教義と聖約1:23
19. 教義と聖約1:19
20. 1コリント1:27
21. ヘブル13:5 参照
22. 1コリント2:9



大管長会第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長により提示

教会役員の支持

わたしたちは預言者、聖見者、啓示者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、大管長会第一顧問としてヘンリー・ベニオン・アイリングを、大管長会第二顧問としてディーター・フリードリッヒ・ウークトドルフを支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、その意を表してください。

十二使徒定員会会長としてボイド・ケネス・パッカーを、また同定員会会員として、ボイド・K・パッカー、L・トム・ペリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、デビッド・A・ベドナー、クエンティン・L・クック、D・トッド・クリストファーソン、ニール・L・アUNDERSENを支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方はその意を表してください。

大管長会顧問、十二使徒を預言者、聖見者、啓示者として支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がもしあれば、同様にその意を表してください。

わたしたちはクラウディオ・R・M・コ

スタ長老を七十人会長会の会員から解任しました。

わたしたちとともに感謝を示してくださいの方は、その意を表してください。

また、タッド・R・カリストア長老を七十人会長会の会員として支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方。

わたしたちは、ゲーリー・J・コールマン、リチャード・G・ヒンクレイ、きくちよしひこ 菊地良彦、カール・B・プラット、セシル・O・サミュエルソンの各長老を七十人第一定員

会の会員から解任し、名誉中央幹部に指名するよう提議します。

また、高元龍^{コウゲンリウ}、ローウェル・M・スノー、ポール・K・シブラウスキーの各長老を七十人第二定員会の会員から解任するよう提議します。

兄弟たちのすばらしい奉仕に、わたしたちとともに感謝を示してくださいの方は、その意を表してください。

わたしたちはラルフ・W・ハーディー・ジュニア、ジョン・M・ハンツマン・シニア、アレクサンダー・N・マンゾース、J・ウィラード・マリオット・ジュニアの各長老を地域七十人から解任しました。

彼らの卓越した奉仕に感謝の意を示すよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

そのほかの中央幹部、地域七十人、中央補助組織会会長会を現在のまま支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方はその意を表してください。

モンソン大管長、わたしが見たかぎり、カンファレンスセンターにおいては全会一致で支持されました。

兄弟姉妹の皆さん、皆さんの賛意の表明と信仰、献身と祈りに感謝します。■





十二使徒定員会
デビッド・A・ベドナー長老

子孫の心は 向かうであろう

わたしは教会の若い人々に、エリヤの霊について学び、経験するよう勧めます。

イ エス・キリストの福音を研究し、学び、それに従って生活するのに、出来事の順序が役立つことがよくあります。例えば、救い主の完全な福音がこの末日に回復されたときに起こった主要な出来事の順序から霊的な優先事項についてわたしたちが学べることを考えてみてください。

聖なる森で、ジョセフ・スミスは天の御父とイエス・キリストにまみえ、言葉を交わしました。とりわけ、ジョセフは神会と絶えざる啓示の本質について学びました。この荘厳な示現は「時満ちる神権時代」の到来を告げるものであり(エペソ1:10)、世界史上際立った出来事の一つです。

およそ3年後の1823年9月21日の夜に、熱烈な祈りへの答えとして、ジョセフの寝室は光で満たされ、ついには「真昼の時よりも明るく」なりました(ジョセフ・スミス一歴史1:30)。一人の方が寝台の傍らに現れ、ジョセフの名を呼び、「自分は神の前から遣わされた使者であること、その名はモロナイであること」を告げました(33節)。彼はモルモン書が世に出されることをジョセフに教えました。次いで、モロナイは、旧約聖書のマラキ書を、欽定訳で使われていた言葉を少し変えて

引用しました。「見よ、主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤの手によってあなたがたに神権を現そう。……

彼は先祖に与えられた約束を子孫の心に植え、子孫の心はその先祖に向かうであろう。そうでなければ、主の来臨の時に、全地はことごとく荒廃するであろう。」(38, 39節)

結局、若い預言者へのモロナイの教えには、次の二つの主要なテーマが含まれていました。(1)モルモン書、(2)「万物更新」におけるエリヤの役割を予告するマラキの言葉。これについては「神が聖なる預言者たちの口をとおして、昔から預言しておられ」ました(使徒3:21)。このように、回復の最初の幾つかの出来事によって、神会についての正しい理解が明確になり、モルモン書の重要性が強調され、生者と死者双方のための救いと昇栄の業が予告されました。この順序はわたしたちに靈感を与え、神にとって最も優先順位の高い霊的な事柄とは何かを教えてください。

わたしは、ジョセフ・スミスに向けたモロナイの最初の教えの中で予告されたエリヤの務めと霊に焦点を当ててお話しし

ます。聖霊の助けがあるよう心から祈っています。

エリヤの務め

エリヤは、数々の力強い奇跡を行った旧約聖書の預言者です。彼が天を閉じると、古代イスラエルには3年半雨が降りませんでした。彼の言葉により、やもめの粉と油はどんどん増えました。男の子を死からよみがえらせました。また、バアルの預言者たちとの対決の際に呼ばわると天から火が下りました(列王上17-18章参照)。エリヤは地上での務めを終えたとき、「つむじ風に乗って天に」のぼり(列王下2:11)、身を変えられて天に移されました。

「わたしたちは、エリヤがメルキゼデク神権の結び固めの力を持っていた預言者であり、またイエス・キリスト以前の時代にこの力を持っていた最後の預言者であることを末日の啓示から知っています。」(Bible Dictionary、「エリヤ」の項) 預言者ジョセフ・スミスはこう説明しています。「エリヤの霊と力と召しとは、すなわち皆さんには……^{かぎ}鍵を持つ力があるということです。それは、メルキゼデク神権……のすべてにかかわるもので[あり]、神の王国に属するすべての儀式を受け……するためのものです。」(『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』311, 強調付加) この神聖な結び固めの権能は、神権の儀式が地上でも天でも有効となり、つながれるために必須のものです。

エリヤは^{へんぼう}変貌の山にモーセとともに現れ(マタイ17:3参照)、ペテロとヤコブとヨハネにこの権能を授けました。エリヤは再びモーセやそのほかの使者とともに1836年4月3日にカートランド神殿に現れ、その同じ鍵をジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに授けました。

聖文にあるように、預言者エリヤはジョセフとオリバーの前に立ってこう語りました。

「『見よ、マラキの口を通して語られた



時がまさに来た。』マラキとは、主の大いなる恐るべき日が来る前に彼〔エリヤ〕が遣わされ、

先祖の心を子孫に、子孫の心を先祖に向けさせ、全地がのろいをもって打たれることのないようにする、と証した人である。

『それゆえ、この神権時代の鍵はあなたがたの手にゆだねられている。これによってあなたがたは、主の大いなる恐るべき日が近く、まさに戸口にあるのを知ることができる。』(教義と聖約110:14-16)

エリヤが結び固めの権能を1836年に回復したことは、世界を救い主の再臨に備えるために必要でした。その結果、家族歴史の探求に対する関心が世界中で非

常に高まりました。

エリヤの霊と業

預言者ジョセフ・スミスはこう述べています。「わたしたちがこの世で神から受けている最も大きな責任は、死者を探し求めることです。……時満ちる神権時代、すなわち、人の救いのために創世の前にイエス・キリストから与えられた約束が果たされる神権時代には、子孫と死者を結び固める結び固めの力が、わたしたちの手の中になければなりません。……神が次のように言われたのはこのためです。『……わたしは預言者エリヤをあなたがたにつかわす。』(『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』475)

ジョセフはさらにこう述べています。

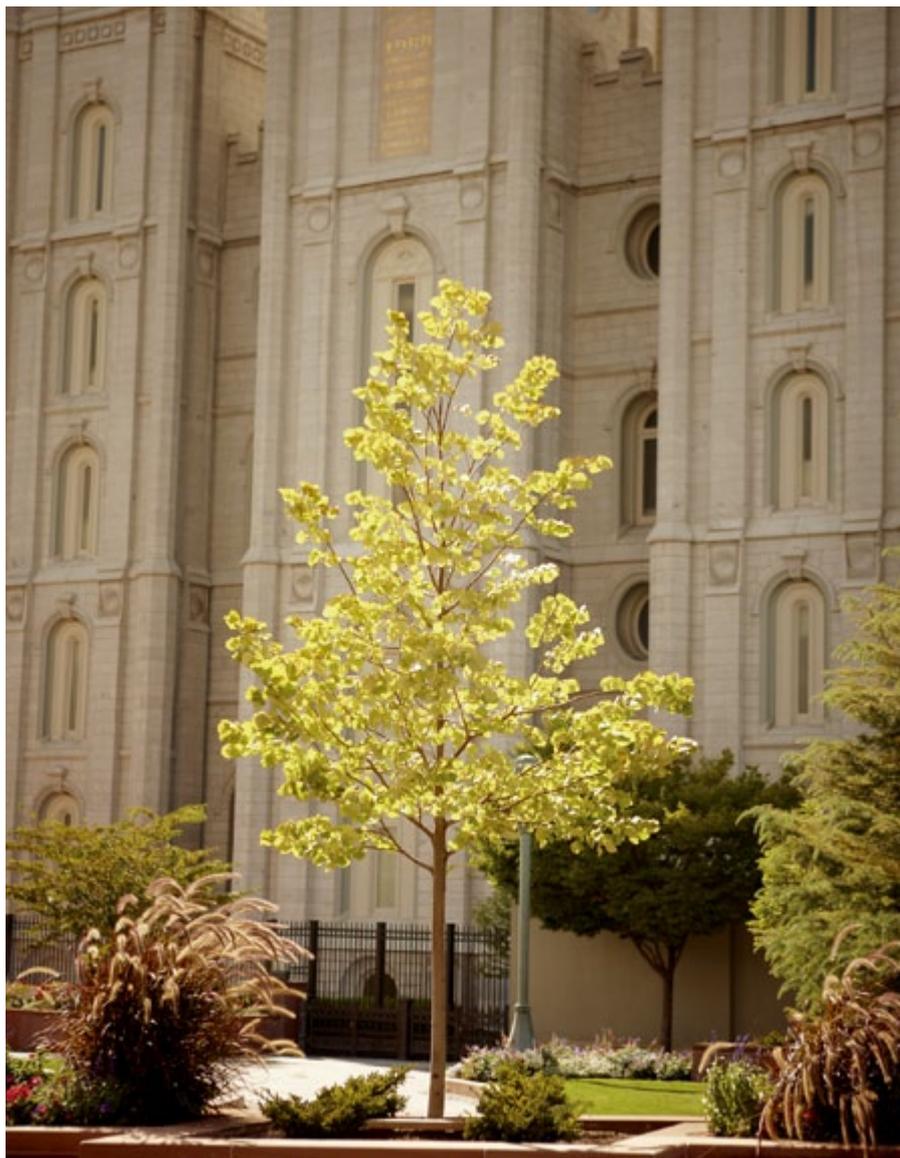
「では、〔エリヤの来訪〕の目的は何でしょうか。あるいはどのようにして果たされるのでしょうか。鍵が渡され、エリヤの霊が来て、福音が確立され、神の聖徒たちが集められ、シオンが築き上げられ、聖徒たちが救う者としてシオンの山に登らなければなりません〔オバデヤ1:21参照〕。

しかし彼らはどのようにしてシオンの山において救う者となるのでしょうか。神殿を建て、……亡くなったすべての先祖のために行ってあらゆる儀式を受け……ることによってです。……ここに先祖の心を子孫に、子孫の心を先祖につなぐ鎖があり、これによってエリヤの使命が果たされるのです。』(『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』473)

ラッセル・M・ネルソン長老は、エリヤの霊とは「家族が神聖な起源を有していることを証する聖霊の現れ」とであると教えています(『新たな収穫の時』『聖徒の道』1998年7月号, 38)。聖霊のこの独特の影響力は、先祖と、過去と現在の家族を確認し、記録し、彼らを大切にするように人々を促しています。

エリヤの霊は教会員と教会員でない人の双方に影響を与えています。しかしながら、キリストの回復された教会の会員であるわたしたちは、自分の先祖を探し出し、先祖のために福音の救いの儀式を行うという、聖約を伴う責任を負っています。「わたしたちをほかにしては彼らが全うされることはな〔く〕」(ヘブル11:40。『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』475参照)、「わたしたちの死者なしには、わたしたちも完全な者とされることはないのです。」(教義と聖約128:15)

そういうわけで、わたしたちは家族歴史の探求を行い、神殿を建て、身代わりの儀式を執行しています。そのために、地上でも天でもつなぐ結び固めの権能を回復するためにエリヤが遣わされたのです。わたしたちは救いと昇栄の業における主の代理人であり、主が再び戻って来られ



るときに「全地がのろいをもって打たれる」ことのないようにしなければなりません(教義と聖約110:15)。それはわたしたちにとっての義務であり、大いなる祝福なのです。

若い世代への勧め

若い女性と若い男性、また若い子供たちに覚えておいてほしいことがあります。わたしは、皆さんの^{こんにち}今日の生活の中でエリヤの霊が大切であることを特にお話します。広く教会全体に向けて語っていますが、特に皆さんにお話します。

皆さんの多くは、家族歴史活動はおもに年長者が行うことであると思っているかもしれませんが。しかし、わたしの知るかぎり、聖文や教会指導者によって述べられた指針の中には、この重要な奉仕を年

長の成人だけにさせるための年齢制限はありません。皆さんは神の息子娘、聖約の子孫、王国の建設者です。皆さんは人類家族の救いの業を手伝う責任を果たすのに、特定の年齢に達するまで待つ必要はないのです。

エリヤの霊によって促されているこの業について皆さんが学び、好きになるように、主はこの時代にすばらしい情報源を利用できるようにしていただきました。例えば、「ファミリーサーチ」には、記録、情報、機能が満載されており、パソコンや様々な携帯機器で簡単にアクセスでき、家族の歴史を見つけて記録するために利用できます。この情報源は、全世界の教会の多くの建物に設けられている家族歴史センターで利用できます。

若い人々が様々な情報通信技術につい

て非常によく知っているこの時代に「ファミリーサーチ」やその他のツールが出てきたことは、偶然ではありません。皆さんは、友達と手早く連絡を取り合うためだけでなく、主の業を加速し進めるために携帯メールやツイッターを学んできたのです。今日多くの若い人々の間に見られる技術と才能は、救いの業に貢献する準備となるものです。

わたしは教会の若い人々に、エリヤの霊について学び、経験するよう勧めます。学び、先祖を探し出し、亡くなった皆さんの親族のために主の宮で身代わりのバプテスマを行う準備をするように勧めます(教義と聖約124:28-36参照)。ほかの人々が家族歴史を確認するのを助けるように、皆さんに切に勧めます。

皆さんが信仰をもってこの勧めに従うとき、皆さんの心は先祖に向かうでしょう。アブラハム、イサク、ヤコブに交わされた約束が、皆さんの心の中に植えられます。血統の宣言を伴う祝福師の祝福は、皆さんとこれらの先祖を結びつけ、皆さんにとっていっそう重要なものとなるでしょう。先祖に対する愛と感謝が増すで



しょう。救い主についての証と従いたいという気持ちが強くなり、不動のものとなるでしょう。わたしは約束します。皆さんはますます強まるサタンの影響力から守られるでしょう。この聖なる業に参加し、これを大切にすると、青少年の時代にも生涯にわたっても守られるでしょう。

両親と指導者の皆さん、どうぞ子供たちと青少年がエリヤの霊について学び、経験できるように助けてください。しかし、過度の負担をかけず、細かい情報や指導を与えすぎないようにしてください。若い人々が自分自身で調べ、試み、学ぶように勧めてください（ジョセフ・スミス—歴史 1:20 参照）。若い人はだれでも、lds.org/familyhistoryyouthにある体験学習機能を使って、わたしが今提案していることを行えるようになります。アロン神権定員会と若い女性の会長会は、すべての青少年がこれらの基本的なツールに精通できるように大きな助けを与えることができます。若い人々が、おもに人から働きかけを受ける単なる受身の生徒ではなく、自ら行動し、聖霊の力によってさらなる光と知識を得る学習者になることができます（2 ニーファイ 2:26 参照）。

両親と指導者の皆さん、子供たちや教会の青少年がこれらのツールを非常に早く使いこなせるようになることに皆さんは驚くでしょう。実際、これらの情報源の効果的な使い方についてこれらの若い人々から価値ある教を学べるでしょう。テクノロジーに不安や恐れを感じたり、「ファミリーサーチ」に不慣れであったりする年長者に、青少年は多くの助けを提供できます。若い人々が家族歴史活動と神殿奉仕にもっと多くの時間を使い、ゲームやネットサーフィンやフェイスブックに使う時間が少なくなると、皆さんも恵みを数え上げるようになることでしょう。

トロイ・ジャクソンとジャレン・ホープとアンドリュー・アランは、アロン神権者で、ワードの家族歴史クラスを一緒に教える

ように、靈感を受けたビショップによって召されました。これらの若い男性は、熱心に学び、奉仕したいと思っている大勢の皆さんを代表しています。

トロイはこう語っています。「以前は教会に来て座っているだけでしたが、今では、家に帰ると、しなければならないことがあります。皆が家族歴史を行えるのです。」

ジャレンはこう言います。家族歴史についてもっと多くを学んだとき、「名前だけでなく実在の人々であったこと」が分かり、「神殿に名前を持って行くことにもっともっと喜びを感じるようになりました。」

またアンドリューはこう述べています。「以前には考えもしなかった愛と熱意を家族歴史に感じています。毎週教える準備をするときに、レッスンで教えた方法を行い、試すようにしばしば聖なる御霊に促されました。以前は、家族歴史に恐れを感

じていました。でも、御霊に助けられて、自分の召しを果たし、ワードの多くの人を助けることができました。」

愛する若い兄弟姉妹の皆さん、家族歴史は、教会が提供する単なる興味深いプログラムや活動ではありません。そうではなく、救いと昇栄の業のきわめて重要な部分です。皆さんはこの時代のために、また神の王国を築き上げるために備えられてきました。この栄えある業を手伝うために今この地上にいるのです。

わたしは証します。エリヤは地上に戻って来て、神聖な結び固めの権能を回復しました。地上でつなぐことは天でもつながれます。また、新しい世代の青少年がこの偉大な業で果たす重要な役割を負っていることを、わたしは知っています。主イエス・キリストの神聖な御名によって証します。アーメン。■



十二使徒定員会
ニール・L・アンダーセン長老

子供

子供は大きな祝福であり、この世と永遠にわたってわたしたちに幸福をもたらしてくれることを証します。

子供の目をじっと見詰めるとき、前世をともに過ごした神の息子または娘の姿が見えます。

子供を産み、神の霊の子供たちに肉体を与えられるということは、夫婦にとって最高の特権です。わたしたちは家族の大切さを信じています。そしてわたしたちは、子供の大切さを信じています。

夫婦に子供が生まれるとき、夫婦は子供たちを地上に連れて来るという天の御父の計画の一部を実行しているのです。主は言われました。「人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である。」¹ 不死不滅の前に、まず死すべき状態がなければなりません。

家族は神により定められたものです。この地上と永遠において、家族は天の御父の計画の中核を占めています。アダムとエバを夫婦と定めてから、「神は彼らを祝福して言われた、『生めよ、ふえよ、地に満ちよ……。』」² 現代の預言者と使徒たちは次のように宣言しています。「神がアダムとエバに授けられた最初の戒めは、彼らが夫婦として親になる能力を持つことに関連したものでした。わたしたちは宣言します。すなわち、増えよ、地に満ちよ、という神の子供たちに対する神の戒めは今なお有効です。」³

末日聖徒イエス・キリスト教会にあって、この戒めは今まで忘れられたことも、

なおざりにされたこともありません。⁴ 進んで子供をもうけるという夫婦の（特に妻たちの）大きな信仰に対して、深い感謝を表明します。いつ、そして何人子供をもうけるべきかは、夫婦と主の間で個別に決めるべきことです。このような神聖な事柄は心から祈ったうえで決断し、大いなる信仰をもって実行すべきです。

何年も前、七十人のジェームズ・O・メイソン長老がこのような話をしてくれました。「6番目の子が生まれたときのことは忘れられません。生後すぐに新生児室でそのかわいい娘に見入っていると、はつきりとこう宣言する声が聞こえました。『もう一人子供が授かるでしょう。今度は男の子です。』後先も考えず、わたしは疲労困憊して横たわる妻のもとへ走って行き、この良い知らせを伝えました。大変間が悪いことでした。」⁵ それから数年間、メイソン夫婦は7番目の子供の誕生を心待ちにしていました。3年たち、4年たち、5年、6年、7年がたちました。そして8年後にようやく7番目の子供を授かったのです。男の子でした。これは37年後の彼らの写真です。

この4月にトーマス・S・モンソン大管長は次のように言明しました。

「かつては教会の標準と世の標準にほとんど差がありませんでしたが、今や大きな溝ができていて、ますます深まるばかりです。……

人類の救い主は御自身のことを、世にあって世のものではないと言われました。わたしたちも偽りの概念や偽りの教えを拒み、神の命じられたことに忠実であれば、世にあって世のものとならないでいられます。」⁶

今日、世には、子供をもうけることの重要性を過小評価し、出産の時期を遅らせるよう、あるいは子供の数を制限するよう勧める声が数多く聞かれます。最近、(別の教会の)クリスチャンで5人の子供を持つ母親のブログを娘が紹介してくれました。このような書き込みがありました。「こんな文化で〔育つ〕と、聖書が教える母親の概念を理解するのがとても難しい。……優先順位では子供は大学教育よりずっと下だし、世界旅行よりも確実に下だ。夜好きなときに外出できることやスポーツジムで体を鍛えることより低いし、現在の、あるいは将来のどんな仕事より低い。」そして、こう付け加えています。「母親であることは趣味ではない。召しである。切手よりかわいいからといって収集するものでもないし、時間の都合がつけばするものでもない。神があなたに時間を下さっているのはそのためなのだから。」⁷

小さな子供を育てるのは楽ではありません。とても大変な日も多いものです。ある若い母親が7人の子供を連れてバスに乗ると、運転手が尋ねました。「皆あなたの子供かね。それともよその子供も連れてピクニックに行くのかい？」

「皆わたしの子です」と彼女は答えました。「ピクニックどころじゃありませんよ。」⁸ 「皆あなたの子供ですか」と問われることがますます増える世の中において、子供を持つ母親に敬意を払い、助けの手を差し伸べる「家族のための避難所」を教会の中に作っている皆さんに感謝します。

義になかった父親の皆さん、子供を産み、慈しむ計り知れない賜物を持つ妻への感謝と愛を、言葉で表すことはできません。



メイソン長老は結婚してわずか数週間後に、家族への責任というものに対する優先順位を学ぶ経験をしました。長老は言いました。

「わたしとマリーは、わたしが医学校を卒業するまでは、彼女が仕事を続けるのはやむを得ないことだと思っていました。自分たちの希望とは違うけれども、子供はその後でと思っていたのです。〔ある日わたしの実家で教会の機関誌を見てみると〕結婚の責任に焦点を当てた、当時十二使徒定員会の一員だったスペンサー・W・キンボール長老の記事が目に入りました。キンボール長老によると、増え、地を満たすことは一つの神聖な責任だということでした。実家が教会執務ビル〔の近く〕にあったので、わたしはすぐにそちらに向かい、記事を読んで30分後には机を挟んでスペンサー・W・キンボール長老と向かい合っていました。（今ではそう簡単にはいきませんが。）

わたしは医者になりたいのだと説明し、子供をもうけるのを遅らせる以外に方法はないと言いました。キンボール長老は辛抱強く耳を傾け、それから優しい声で言いました。『メイソン兄弟、主はあなたが医者になるために御自身の最も大切な戒めをあなたが破ることを望まれるでしょ

うか。主の助けがあれば、子供をもうけても医者になることができるはずですよ。信仰を忘れたのですか。』

メイソン長老はこう続けました。「それから1年足らずで最初の子が生まれました。わたしとマリーは熱心に働き、主は天の窓を開いて祝福してくださいました。」4年後に医学校を卒業するまでに、メイソン家族はもう二人の子に恵まれました。⁹

現在、世界中の経済は不安定で金融は不確実です。4月の総大会でモンソン大管長は次のように言いました。「妻や家族を経済的に養うことを心配しているのでしたら、質素な生活をする夫婦が恥じる必要はないことを約束します。たいていの場合、そのような困難な時期に、犠牲を学び、難しい決断を下すことを学ぶ中で夫婦のきずなが深まるものです。」¹⁰

「信仰を忘れたのですか」というキンボール長老の鋭い質問について聖句を読んでみましょう。

アダムとエバが最初の子を産んだのはエデンの園ではありませんでした。園を立ち去った後、「アダム〔とエバ〕は……地を耕し……〔た〕。……アダムはその妻を知り、彼女は……息子、娘たちを産んだ。そして〔信仰を働かせ〕、彼らは増えて、地を満たし始めた。」¹¹

リーハイとサラリアが信仰を働かせてヤコブとヨセフをもうけたのは、金や銀、貴重品のあるエルサレムの家ではありませんでした。荒れ野で産んだのです。リーハイは息子ヤコブについて「荒れ野で艱難に遭っていたときに最初に生まれた子」¹²と述べました。ヨセフについては、「苦難に遭った荒れ野で生まれ……〔わたしたち〕が大いに嘆き苦しんでいたところに、あなたの母はあなたを産んだ」と言っています。¹³

出エジプト記には、ある男女が結婚し、信仰を働かせて男の子をもうけたと記されています。家の戸にその子の誕生を知らせるはり紙はありませんでした。イスラエルの民に生まれた男の子は皆「ナイル川に投げこめ」¹⁴とパロが命じていたので、生まれた子を隠したのです。話の続きは御存じですね。その子はパピルスで編んだかごに入れられてナイル川に置かれ、姉がそれを見守りました。そしてパロの娘がその子を見つけ、実の母親がうばとしてその子を育てました。その子は成長するとパロの娘のところに連れて行かれ、彼女の子供となり、モーセと呼ばれました。

子供の誕生にまつわる話の中で最も愛されている話には、きれいな子供部屋も



フィリピン・タバオ

高級なベビーベッドも出てきません。世の救い主にはかいばおけしかありませんでした。

「もっともよい時代〔にも〕もっとも悪い時代」¹⁵にも、神の真の聖徒たちは信仰を働かせ、「増えよ、地に満ちよ、という……神の戒め」¹⁶を忘れたり、退けたり、ないがしろにしたりすることはありませんでした。何人の子供をいつもうけるかは夫婦と主の間で決められるべきことであると理解したうえで、わたしたちは信仰をもって前進するのです。このことに関して、互いを裁くべきではありません。

結婚して子供を持つ機会にあずかっていない義にかなった女性にとって、出産というのは慎重に扱うべき、つらい話題かもしれません。気高い女性の皆さん、天の御父は皆さんの祈りと望みを御存じです。皆さんは、皆さんの信仰と強さを必要としている子供たちに優しい手を差し伸べるなどして、すばらしい影響力を与えています。わたしたちはそのことに心から感謝しています。

結婚している義にかなった夫婦で、心から望みながらも子供に恵まれない人たちや、子だくさんの家族を計画していたの

に望んでいたほど多くの子供に恵まれていない夫婦にとっても、出産は心の痛む話題かもしれません。

死すべき状態にある間に経験する試練については、必ずしも説明できるわけではありません。時に人生は非常に不公平です。主が命じられたことをそのとおりに行いたいと望んでいるときには特にそうです。主の僕として、次の約束に疑問の余地がないことを約束します。「この世において永遠の結婚と親になる祝福を受けられない状態にある忠実な会員は、神と交わした聖約を守っているかぎり、約束されたすべての祝福を永遠という時の中で受ける。」¹⁷

ペルー・リマ西伝道部のJ・スコット・ドリラス会長が経験談を話してくれました。

「わたしとベッキーは結婚して25年間子供を授かること〔また養子を迎えること〕ができませんでした。その間、何度か引越しました。新しい場所で自己紹介をする度に気まずく、時にはつらい思いをしました。ワードの会員はなぜわたしたちに子供がいないのか不思議に思っていたと思います。それはわたしたちも同様

でした。

ビショップに召されたとき、子供や10代の青少年を扱った経験のないことについてワードの会員たちから懸念の声が上がりました。わたしは会員の支持の表明に感謝し、彼らの子供たちを練習台にして子育ての技術を学ばせてほしいとお願いしました。彼らは優しく承知してくれました。

わたしたちは待ち続け、理解を深め、忍耐を学びました。結婚して25年がたったとき、奇跡の子がわたしたちのところへやって来ました。養子としてまず2歳のニコルを、次に生まれたばかりのニコライを迎えたのです。今では見知らぬ人から、かわいいお孫さんたちですと褒められます。わたしたちは笑ってこう言うんです。「子供なんですよ。わたしたちの人生は順番が逆なんです。」¹⁸

兄弟姉妹の皆さん、この神聖で個人的な責任について、見かけで人を判断すべきではありません。

「そして〔イエスは〕ひとりの幼な子を……抱いて言われた。

だれでも、このような幼な子のひとりを、わたしの名のゆえに受け入れる者は、

わたしを受け入れるのである。そして、わたしを受け入れる者は、……わたしをおつかわしになったかたを受け入れるのである。」¹⁹

神の息子や娘を家庭に受け入れることができるのは、何とすばらしい祝福でしょうか。

聖霊の聲に敬虔に耳を傾けながら、神の戒めを理解し受け入れられるよう謙遜に祈り求めましょう。

家族は神の永遠の計画の中核を成すものです。子供は大きな祝福であり、この世と永遠にわたってわたしたちに幸福をもたらしてくれることを証します。イエスキリストの御名により、アーメン。■

注

1. モーセ 1:39
2. 創世 1:28
3. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2010年11月号, 129
4. 合衆国国勢調査局が毎年行うアメリカ地域社会調査によると、「ユタ州は現在もおアメリカ全国の中で、1世帯当たりの家族数が最も多く、出生率が最も高く、年齢分布の中央値が最も低く、結婚年齢が最も低く、仕事に出ずに家庭にいる母親の数が最も多い州である。」(“Who Are Utahns? Survey Shows We’re Highest, Lowest, Youngest,” *Salt Lake Tribune* 紙, 2011年9月22日付, A1, A8)
5. ジェームズ・O・メイソン長老からの電子メール, 2011年6月25日付
6. トーマス・S・モンソン「神権の力」『リアホナ』2011年5月号, 66, 67
7. レーチェル・ジャンコビック “Motherhood Is a Calling (and Where Your Children Rank),” 2011年7月14日付, desiringgod.org
8. “Jokes and Funny Stories about Children,” thejokes.co.uk/jokes-about-children.php 参照
9. ジェームズ・O・メイソン長老からの電子メール, 2011年6月29日付
10. トーマス・S・モンソン『リアホナ』2011年5月号, 67
11. モーセ 5:1, 2
12. 2 ニーフай 2:1
13. 2 ニーフай 3:1
14. 出エジプト 1:22
15. チャールズ・ディケンズ, *A Tale of Two Cities* (Signet Classic, 1977年), 13
16. 『リアホナ』2010年11月号, 129
17. 『手引き 2 ——教会の管理運営』(2010年)
 1. 3. 3.
18. J・スコット・ドリアス会長からの電子メール, 2011年8月28日付
19. マルコ 9:36 - 37



七十人
イアン・S・アルデルン長老

用意をする時期

〔わたしたちは〕最も大切な事柄……に時間を費やさなければなりません。

『わたしの福音を宣べ伝えなさい』の第8章は、時間を賢く使うことにわたしたちの注意を向けています。この章でM・ラッセル・バラード長老は、目標を設定し、それを達成するための技術を習得する方法を学ばなければならないと教えています(『わたしの福音を宣べ伝えなさい——伝道活動のガイド』146 参照)。目標を達成するために必要な技術の一つが、時間の有効な使い方です。

わたしはトーマス・S・モンソン大管長の模範に感謝しています。神の預言者として多くのことを行いながらも、大管長は救い主がなさったように、病氣の人を見舞い(ルカ 17:12-14 参照)、落胆している人を励まし、すべての人の僕となる時間を十分に確保しています。わたしはまた、自分の時間をささげて同胞のために務めているほかの多くの人の模範にも感謝しています。時間をささげて人のために務めることを神はお喜びになり、そうした行いはわたしたちを神に近づけてくれることを証します。救い主は、「この世において忠実で賢い者は、彼のために用意された父の住まいを受け継ぐのにふさわしいと見なされる」という御言葉のとおりになさることでしょう(教義と聖約 72:4)。

時間はどこにも売っていません。どんなに努力しても、どの店で幾ら支払っても買うことはできません。それでも時間を賢

く使うなら、その価値は計り知れません。毎日すべての人に同じだけの時間が無料で与えられます。そしてすぐに、わたしたちは聞き慣れた賛美歌が注意深く教えている次のことを悟ります。「時は羽もて飛び去り行く 誰もそを、呼び 戻し得ず」(『時を惜しみて』『賛美歌』146 番)。与えられている時間を賢く使わなければなりません。ブリガム・ヤング大管長は次のように述べています。「わたしたちは皆、有益に時間を用いる能力について神に恩を受けています。したがって、神はこの能力の使用について詳細に報告するようわたしたちに求められるでしょう。」(『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』313)

そのように求められているわたしたちは、目標に合わせて選択肢に優先順位を付けることを学ばなければなりません。そうしないと、先延ばしという風に身を任せ、当てもなく時間を浪費し続ける危険性があります。わたしたちは皆、偉大な教師から優先順位について教わっています。その御方は山上の垂訓で次のように宣言されました。「だから、この世のものを求めないで、まず、神の王国を築き、神の義を打ち立てることを求めなさい。」(ジョセフ・スミス訳マタイ 6:38) (ダリン・H・オックス「的を絞ることと優先順位」『リアホナ』2001年7月号, 99-102 も参照)

アルマは次のように教えたとき、優先順位について語っていたのです。「この世



の生涯は試しの状態、すなわち神にお会いする用意をする時期……となった。」(アルマ 12:24) 神にお会いする用意をするために時間という貴い贈り物を最も有効に使うには少し指針が必要かもしれませんが、わたしたちは間違いなく、主と家族を最優先事項に挙げることでしょう。ディーター・F・ウークトドルフ管長は、「家族関係において、愛するとは、時間をともに過ごすことです」と教えています(『最も大切な事柄について』『リアホナ』2010年11月号, 21)。心から助けを祈り求めるとき、天の御父はわたしたちが時間を費やすに値する事柄をほかの事柄よりも重要視できるよう助けてくださることを証します。

時間を上手に使わないことは怠惰に近い関係にあります。「怠惰であるのをやめなさい」という戒めに従うとき(教義と聖約 88:124 参照)、忙しくあることは生産的であることと同じでなければなりません。例えば、すぐに連絡を取れる手段がまさに文字どおり手もとにあるのはすばらしいことですが、手軽な通信手段に取りつかれてしまわないようにしましょう。時間を奪う新しい種類の依存症に陥っている人がいると感じます。絶えずメッセージの送受信をすることに縛られ、忙しく実のある時間を過ごしていると誤解してしまうのです。

手軽に通信や情報入手ができることでたくさんの恩恵が受けられます。記事や大会説教、先祖の記録を調べたり、電子メールやフェイスブックの通知機能、ツイッターの最新情報、携帯電話のメール

を受け取ったりするのは役に立ちます。しかし、これらがどれほど良いものであっても、そのために最も大切なものがわきに押しやられることがあってはいけません。複雑な電話やコンピューターが、愛にあふれた天の御父への率直な心からの祈りに取って代わってしまうとしたら、何と悲しいことでしょう。携帯電話でメールを送るのと同じように、いつでもひざまずきましょう。

コンピューターゲームやオンライン上の知り合いは、いつまでも真の友の代わりをしてはくれません。真の友は、抱き締めて励まし、祈ってくれ、最もわたしたちのためになるものを追い求めてくれます。定員会やクラス、扶助協会の会員が結集して支え合うのを見て、わたしはどれほど感謝してきたことでしょう。そのような機会に、使徒パウロの次の言葉の意味がよく分かるようになりました。「あなたがたは、もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒たちと同じ国籍の者であ[る]。」(エペソ 2:19)

最大の幸福が得られるのは主に心に向けるときであり(アルマ 37:37 参照)、永続する報いをもたらすものに心向けるときであることを知っています。無分別に何時間もソーシャルメディアを利用したり、インターネットや携帯電話で農場経営や鳥を撃ち落とすゲームに興じたりするときではありません。わたしたちの一人一人が、貴重な時間を奪うそうしたものの常習性に支配されることなく、それらを有効に使おうと決意するように勧めます。

救い主が語っておられる平安を得るた

めには(ヨハネ 14:27 参照)、最も大切な事柄、すなわち神にかかわる事柄に時間を費やさなければなりません。心からの祈りによって神と交わり、毎日聖文を読んで研究し、読んだことや感じたことについて深く考え、その後、学んだ教えを応用して実践するとき、わたしたちは神に近づきます。最良の書物から熱心(みたま)に、神は「その聖なる御霊によって……知識を……与え[る]」と約束してくださっています(教義と聖約 121:26。教義と聖約 109:14 - 15 も参照)。

サタンは健全そうに見えるものを用いて注意をそらし、誤った時間の使い方をするように誘います。わたしたちは誘惑に遭うでしょうが、クエンティン・L・クック長老は次のように教えています。「救い主のメッセージに応じる聖徒は、心を乱す破壊的な行為によって道を踏み外してしまうことはありません。」(『あなたは聖徒ですか』『リアホナ』2003年11月号, 96 参照) モルモン書の八人の証人の一人であるハイラム・ページは、注意をそらすものにつ

ブラジル・サルバドール





七十人
カール・B・クック長老

いて貴重な教訓を残しています。ハイラムはある石を持っていて、それを使って、教会に対する啓示だと思った事柄を書き記しました(教義と聖約28章参照)。ハイラムの誤りが正された後、記録によれば、石は二度と注意をそらすものとならないよう粉々に砕かれました。¹ わたしたちも生活の中から、注意をそらし時間を浪費するものを見つけましょう。比喩的な意味で、それを粉々に砕く必要があるかもしれません。時間の天秤の上に、主と家族と仕事と健全な娯楽活動をバランスよく載せることができるように、賢く判断する必要があるでしょう。多くの人ですでに見いだしているように、「徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあることや称賛に値すること」を尋ね求めることに時間を使うとき、生活の中の幸福が増します(信仰簡条1:13)。

時計が時を刻む音に合わせて、時は瞬く間に過ぎていきます。現世の時計が動いている今日のうちに、神にお会いする用意をするために自分が行っていることを見詰め直すときよいでしょう。現世において不死不滅と永遠の命に向けて用意する時間を取る人にはすばらしい報いがあることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. Provo Utah Central Stake general minutes, 1856年4月6日, 第10巻(1855-1860年), ソルトレーク・シティー, 教会歴史図書館, 273参照(原文[英語]においては、綴り、句読点、大文字を現代用法に修正)。「父[エマー]ハリスは次のように述べた。『わたしたちは天上のもろもろの支配や権威と戦わなければならないと使徒は言っている。』ハイラム・ページ兄弟は地中から一つの黒い石を掘り出してポケットに入れた。帰宅してその石を見た。まるで紙に書かれているかのように文が示されるのが見えた。ページ兄弟が一つの文を書くときすぐに別の文が石の上に現れ、書き記した文書は16ページになった。ジョセフ兄弟はそのことを告げられた。ある人がジョセフに、それが正しいものか尋ねた。ジョセフは分からないと言ったが、祈ったところ、その石は悪魔から出ているものであるとの啓示を受けた。その後、石は粉々に砕かれ、書き物は焼かれた。それは蘭の力の業であった。アーメン。」

見上げている方がよい

信仰を働かせ、助けを求めて神を仰ぎ見るなら、モンソン大管長と同じように、わたしたちは人生の重荷に押しつぶされたりはし〔ません〕。

中 央幹部となった最初の週の最後の日は、特に忙しい一日でした。その日の終わりには、書類をいっばいに詰め込んだかばんを抱え、「これだけのことをどうやったらできるのだろう」という疑問で頭がいっばいでした。七十人のオフィスを出て、教会執務ビルのエレベーターに乗りました。エレベーターが下がるにつれ、わたしは下を向き、ぼんやりと床を眺めました。

ドアが開き、だれかが乗り込んできましたが、わたしは視線を上げませんでした。ドアが閉じると、だれかがわたしにこう尋ねるのが聞こえてきました。「どうして下を見ているのですか。」聞き覚えのある声でした。トーマス・S・モンソン大管長の声だったのです。

わたしは急いで視線を上げると、答えました。「いえ、別に何も。」(「そつなく答えられた」とでも内心想ったかもしれません。)

しかし、大管長は、わたしの沈んだ表情と重そうな書類かばんを見過ごしてはいませんでした。大管長は、ほほえむと、天を指さしながら、愛を込めてこう言ったのです。「見上げている方がいいですよ。」一緒にもう1階降りると、大管長はこれから神殿へ行くところだと元気に話しました。別れ際の大管長の目はわたしの心に

再びこう告げているかのようでした。「忘れないでください。見上げている方がいいですよ。」

大管長と別れるとき、一つの聖句が心に浮かびました。「神を信じなさい。神がましますこと……を信じなさい。神はすべての知恵を備え、また天と地の両方で一切の権威を持っておられることを信じなさい。」¹ わたしは、天の御父とイエス・キリストの力について考えているうちに、あの下りのエレベーターの中で床を見ている間は決して得られなかった慰めを得ました。

以来、この経験と預言者の役割について深く考えるようになりました。わたしは重荷を背負いつつ、下を向いていました。預言者が語り、わたしが預言者に目を向けたとき、預言者はわたしの視線を修正し、神を仰ぎ見るようにしてくれました。わたしがそうするときに、キリストの贖罪を通じて癒され強められるのです。それこそが、預言者がわたしたちのためにしてくれることです。神のみもとへ導いてくれるのです。²

モンソン大管長は、預言者、聖見者、啓示者であるだけでなく、見上げるという原則に従って生活しているすばらしい模範であることを証します。預言者はほかの



れそうに感じて無理はないでしょう。しかし、大管長は偉大な信仰を働かせ、楽観主義と知恵と人に対する愛で心を満たしています。常に、「できます」「やります」という態度で取り組んでいます。主を信頼し、力を求めて主に頼っているからこそ、主は大管長を祝福なさるのです。

経験から分かったことがあります。それは、信仰を働かせ、助けを求めて神を仰ぎ見るなら、モンソン大管長と同じように、わたしたちは人生の重荷に押しつぶされたりはしないということです。するように召されていることや、する必要のあることに関して、自分の至らなさを感じないということです。わたしたちは強められ、人生は平安と喜びに満たされるでしょう。³そして、今心配していることの大部分には、永遠不変の重大性はないと悟るようになります。また、もし意味があるものだとしたら、主が助けてくださいます。しかし、わたしたちの側では、主を仰ぎ見るだけの信仰と、主の導きに従う勇気を持たなければなりません。

生活の中で絶えず神を仰ぎ見ることは、なぜそれほど大変なことなのでしょう。恐らく、そのような単純な行いがわたしたちの抱える問題を解決するのだという信仰が不足しているのでしょうか。例えば、イスラエルの子らが毒蛇にかまれたときのことです。モーセは真鍮の蛇を杖の先に掲げるよう命じられました。真鍮の蛇はキリストの象徴でした。そして、預言者の勧告に従って真鍮の蛇を見上げた人は、皆癒されました。⁴しかし、見上げなかった人も大勢いて、彼らは命を落としたのです。⁵

アルマもまた同様に、イスラエルの民が蛇を見上げなかったのは、そうすれば癒されるということを信じていなかったからだと言っています。アルマの言葉は現代のわたしたちにも当てはまります。

「おお、わたしの同胞よ、もしあなたがたが癒しを得るために、目を向けるだけでよいとしたら、あなたがたはすぐにも見よ

うとしないだろうか。それとも、不信仰のまま心をかたくなにし、怠け〔る〕ことを望むだろうか。

もしそうであれば、災いがあなたがたに降りかかるであろう。しかし、それを望まなければ、あなたがたの目を向けて、神の御子を信じるようにしなさい。神の御子が将来、御自分の民を贖うために降臨されること、御子が〔わたしたち〕の罪を贖うために苦しみを受け、死なれること、御子が死者の中からよみがえ〔る〕こと、……を信じてほしい。⁶

見上げるようにと言ったモンソン大管長の励ましは、キリストを覚えているようにということを示唆しています。キリストを覚え、その力を信頼するとき、わたしたちはキリストの贖罪を通じて力を得ます。わたしたちが心配や重荷、苦しみから解放される方法はこれです。赦され、罪の痛みから癒される方法がこれです。すべてのことを堪え忍〔ぶ〕ための信仰と力を得る方法がこれなのです。⁷

最近クック姉妹とわたしは南アフリカで開かれた女性の大会に出席しました。贖罪をわたしたちの生活に当てはめるというテーマで靈感に満ちたメッセージを幾つか聞いた後、ステーキの扶助協会会長が皆外に出るようにと言いました。そこで一人一人にヘリウムガスでふくらませた風船が渡されました。そして彼女は、風船は自分の人生で人知れず抱えている重荷や試練、困難を表していると説明しました。そして、「1, 2, 3」の声で一斉に風船から、言い換えれば、わたしたちの「重荷」から手を離れたのです。見上げて、重

荷である風船の飛び去って行く様子を眺めていると、「あー」という声が聞こえました。風船から手を離すという単純な行為は、見上げてキリストについて考えることで得られる言い尽くせない喜びを思い起こす、素晴らしい機会となりました。

ヘリウム風船を手放すのとは異なり、霊的な意味で見上げるということは1回限りの経験ではありません。聖餐の祈りから、毎日御霊とともにいて導きを受けることができるように、いつも御子を覚え、その戒めを守るよう求められていることが分かります。⁸

イスラエルの民が荒野をさまよっていたとき、民が進むべき方向を知るために主の方を見ている間は、主は、毎日その旅を導かれました。出エジプト記にはこうあります。「主は彼らの前に行かれ、昼は雲の柱をもって彼らを導き、夜は火の柱をもって彼らを照〔らさ〕……れた。」⁹主は絶え間なく導かれました。そして、わたしは、今でも主がわたしたちのために同じようにしてくださることをへりくだり、証します。

では、主は現代のわたしたちをどのようにお導きになるのでしょうか。預言者や使徒、神権指導者を通じてです。また、祈りによって天の御父に心を注ぎ出した後にもたらされる気持ちを通じてです。わたしたちが世のものを捨て、悔い改め、変わるときに主は導いてくださいます。また、主の戒めを守り、さらに主のようになろうと努力するときに導いてくださいます。そして聖霊を通じてお導きになるのです。¹⁰

人生の進むべき方向について導きを受

け、聖霊にいつも^{ほんりよ}伴侶となっていたために、わたしたちは「聞く耳」と「見る目」を持つ必要があります。しかも両方とも上を向いていなければなりません。¹¹ 受けた導きに従って行動を起こす必要があります。見上げて、実行しなければならぬのです。そのようにするとき、確かに元氣を出すことができます。神がわたしたちに幸せになってほしいと望んでおられるからです。

わたしたちは天の御父の子供です。御父はわたしたちの生活の一部となってわたしたちを祝福し、助けたいと望んでおられます。御父は傷を癒し、涙を乾かし、ももに返れるようその道々で助けられます。神に目を向けるとき、確かに導いてくださいます。

主は光、夜も昼も
近くませば 恐れなし……
主は光 喜びと歌
昼、夜も われを導く¹²

キリストに目を向けるとき、罪が赦され、重荷が軽くされることを証します。「わたしたちは神を覚えて……うなだれるのはやめよう。」¹³ それは、モンスン大管長が言ったように、「見上げている方がよい」からです。

イエスが救い主、贖い主であられることをイエス・キリストの御名によって証します。アーメン。■

注

1. モーサヤ 4:9
2. 2 ニーフアイ 25:23, 26 参照
3. モーサヤ 24:15
4. 民数 21:8-9 参照
5. 1 ニーフアイ 17:41 参照
6. アルマ 33:21-22。19-20 節も参照
7. アルマ 36:3, 17-21; 3 ニーフアイ 9:13 参照
8. 教義と聖約 20:77 参照
9. 出エジプト 13:21
10. 2 ニーフアイ 9:52; 31:13; 教義と聖約 121:46 参照
11. 出エジプト 20:12
12. 「主は光」『賛美歌』47 番
13. 2 ニーフアイ 10:20



七十人
リブランド・R・カーティス・ジュニア長老

あがな 贖い

キリストを通じて、人は生活を変え、贖いにあずかることが可能になり、また実際にそうするのです。

主 イエス・キリストを表す称号には様々なものがあります。これらの称号について考えるとき、主の贖いの使命を異なった側面からとらえることができます。「救い主」という称号を例に取ってみましょう。わたしたちは皆、それぞれ何かから救われた経験があるので、救われるということがどういう意味かはおおむね理解しています。子供のころ、わたしと妹が川で小さなボートに乗って遊んでいたとき、愚かにも安全な遊び場を離れたために流れに押し流され、未知の危険に巻き込まれたことがあります。叫び声を聞いた父が救助に駆けつけ、わたしたちを川の危険から救ってくれました。救いについて考えるとき、そのときの経験が頭に浮かびます。

「贖い主」という称号を通して同じように理解が深められます。「贖う」とは買う、あるいは買い戻すということです。法的に言えば、財産は債務を完済することで買い戻します。旧約の時代は、金銭を支払うことで奴隷を解放したり、財産を買い戻したりする数々の方法がモーセの律法によって定められていました（レビ 25:29-32, 48-55 参照）。

贖うという言葉が聖文の中で使われている有名な例として、イスラエルの民がエジプトの束縛から解放されたことがあります。解放された後で、モーセは民にこう

言いました。「ただ主があなごがたを愛し、……強い手をもってあなたがたを導き出し、奴隷の家から、エジプトの王パロの手から、あがない出されたのである。」（申命 7:8）

エホバがイスラエルの民を束縛から贖われたという主題については、聖典に何度も繰り返し登場します。この主題がこれほどまでに繰り返されるのは、多くの場合、主の愛によってイスラエルの民がエジプトから解放されたことを人々に思い起こさせるためですが、イスラエルにとっても一つの、さらに大切な贖いが存在することを教えるためでもあります。リーハイは教えました。「そして時が満ちると、人の子らを墮落から贖うためにメシヤが来られる。」（2 ニーフアイ 2:26）

詩篇の作者はこう書いています。「しかし神は……わたしの魂を陰府の力からあがなわれる。」（詩篇 49:15）

主はイザヤを通じてこう宣言しておられます。「わたしはあなたのとがを雲のように吹き払い、あなたの罪を霧のように消した。わたしに立ち返れ、わたしはあなたをあがなったから。」（イザヤ 44:22）

この3つの聖句で使われている「あがない」という言葉は、もちろん、イエス・キリストの贖罪を意味しています。わたしたちの愛にあふれた神が用意してくださった「豊かなあがない」のことです（詩篇 130:



7)。モーセの律法や現代の合法的な取引による贖いとは異なり、この贖いは「銀や金のような朽ちる物によった」ものではありません(1ペテロ1:18)。「わたしたちは、〔キリスト〕にあって、神の豊かな恵みのゆえに、その血によるあがない、すなわち、罪過のゆるしを受けた」のです(エペソ1:7)。ジョン・テラー大管長の教えによれば、贖い主の犠牲があったからこそ、「負債は支払われ、贖いはなされ、聖約は成就し、正義は満たされ、神の御心は行われ、……すべての力は神の御子の手に渡されました。」(『歴代大管長の教え——ジョン・テラー』〔2001年〕44)。

この贖いによって、神のすべての子供たちが肉体の死に打ち勝つことができるようになりました。この世の死に打ち勝ち、あらゆる人が復活するのです。キリストによるこの贖いのもう一つの側面は、霊の死に対する勝利です。キリストは、各人の悔い改めを条件に、御自身の苦しみと死によって全人類の罪の代価を支払ってくださったのです。

このようにして、わたしたちは悔い改め

るなら、罪の赦し^{ゆる}を受けることができます。その代価がわたしたちの贖い主によってすでに支払われているからです。これはわたしたちすべてにとって良い知らせです。「すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなって」いるからです(ローマ3:23)。義の道から大きく外れた人々には、この贖いがどうしても必要です。完全に悔い改めるなら、彼らも贖いにあずかることができます。しかし、良い人生を送ろうと熱心に努力してきた人々にも、この贖いはぜひとも必要です。それは、キリストの助けなくして、だれ一人御父のみもとに行くことはできないからです。このように、この愛に満ちた贖いは、悔い改めてキリストに従うすべての人の生活において、正義と憐れみの律法を満足させるのです。

救いの計画

いかに尊し

〔正義と〕憐れみと愛の

神の恵み

(「高きに満ちたる」『賛美歌』112番)

ボイド・K・パッカー会長は次のように教えています。「深く罪を悔いる人々のために、正義の要求に応じ、憐れみを施すことのできる贖い主、仲保者がおられます。」(『仲保者』『聖徒の道』1977年10月号, 488)

聖文も文学も人の経験も、贖いの物語で満ち満ちています。キリストを通じて、人は生活を変え、贖いにあずかることが可能になり、また実際にそうするのです。わたしはこうした贖いの物語が大好きです。

ある友人は、若いころ教会の教えに従っていませんでした。そしてヤングアダルトの年齢になって初めて、福音の教えに従った生活をしてこなかったために得られなかったものがどれだけあるかに気づいたのです。彼は悔い改め、生活を変え、義にかなった生活を始めました。ある日、若いころの付き合いから何年もたって、わたしは彼と神殿で再会しました。彼の瞳は福音の光で輝いていました。彼の話こそ贖いの物語です。

かつてわたしは、非常に重大な罪を犯したことがある女性とバプテスマのための

面接を行う機会がありました。面接の中で、決して同じ罪を繰り返してはならないことを理解しているかどうか尋ねました。彼女のまなざしと声から、その深い思いが伝わってきました。彼女はこう言ったのです。「ステーキ会長、わたしはあの罪を二度と犯すことはできません。だからこそわたしはバプテスマを受けたいのです。あの恐ろしい罪の結果から洗い清められたいのです。」ここにも贖いの物語がありました。

ここ数年、ステーキ大会やほかの集会を訪問するときには、あまり活発でない教会員に救助の手を差し伸べるようにというモンソン大管長の呼びかけを伝えるようにしています。あるステーキ大会で、あまり活発ではなかった会員の話をしました。その会員が完全に活発になったのは、ビショップやほかの指導者が家庭を訪問し、彼が必要だと伝え、ワードで奉仕するよう招いたからでした。彼は招しを引き受けただけでなく、生活や習慣を変え、完全に教会に活発になったのです。

その話をしたとき、わたしの友人が聴衆の中にいました。話を進めるにつれ、彼の表情は目に見えて変わっていきました。翌日彼から電子メールが届き、話を聞いて感情が高ぶったのは義理の父が教会に活発になったいきさつがわたしの話した物語と非常によく似ていたからだだと教えてくれたのです。物語と同じようにビショップの訪問を受け、教会で奉仕するように勧められた彼の義父は、生活や証を見直し、生活を大きく変え、招しを引き受けたのです。再び活発になった彼には、現在教会に活発な88人の子孫がいます。

それから数日後の集会で、わたしは今二つの話をしました。翌日、また電子メールを受け取りました。「あれはわたしの父の話でもあるのです」と始まるそのメールは、あるステーキ会長からでした。彼の父親は、長い間活発でなく、変えなければならない習慣も幾つかありましたが、教会で奉仕するよう勧められたのです。



彼はその勧めを受け入れていく中で悔い改め、ついにはステーキ会長として、次いで伝道部会長として奉仕し、子孫が忠実な教会員でいられるよう基礎を据えたのでした。

数週間後、わたしは別のステーキ大会でこの3つの話をしました。集会が終わると、一人の男性がわたしのところに来て、それは彼の父親の話ではなく、**彼自身**の物語だと伝えてくれたのです。悔い改めて教会に戻り、再び完全に活発になったいきさつを話してくれました。ほかにも同じような話があります。あまり活発でない人を救助しようという呼びかけを伝える度に、戻って来て生活を変えるようにとの勧めにこたえた人の話を次から次へと耳にしました。すべて贖いの物語でした。

贖い主がわたしたちのために支払ってくださったものにお返しすることは決してできません。しかし、贖いの計画は、完全に悔い改めて神の御心を行うために最大限の努力をするよう求めています。使徒であったオーソン・F・ホイットニー長老はこう書いています。

わたしの霊の救い主、贖い主よ
その力の御手は、わたしを清め、
その奇しき力は、わたしを高め
わたしの苦い杯を喜びで満たしてくださった
どれほど感謝できるだろうか
憐れみ深い、イスラエルの神よ

主にお返しすることは決してできなくても
わたしは主を愛することができる
その聖い言葉は、わたしを歓喜で満たし
昼は喜びとなり、夜は夢に見なかっただろ
うか？

だから、わたしは静かに叫ぼう
生涯を尽くして、御旨を果たすと
("Savior, Redeemer of My Soul,"
Hymns, 112 番)

わたしはキリストの贖罪の力について証します。悔い改めてキリストのみもとに来るとき、永遠の命にかかわる祝福をすべて受けることができます。同様に、わたしたち自身も贖いの物語にあずかることができるよう、イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。■



十二使徒定員会
D・トッド・クリストファーソン長老

悔い改めという たまもの 神の賜物

悔い改めを通してのみイエス・キリストの贖いの犠牲と救いにあずかることができます。

モルモン書にはニーホルという名の男の話が記されています。モルモンがニーファイ人の1,000年間の記録を要約するに当たって、この男について、また彼の教義が及ぼした果てしない影響についての話を含めるのが大事だと思った理由は、容易に理解できます。彼が教えたような人生観が現代に再び広められることを知っていたモルモンは、わたしたちに警告したいと考えたのでした。

ニーホルが登場したのはキリストの降誕より約90年前でした。ニーホルは「全人類は終わりの日に救われる……、主がすべての人を造られ、すでにすべての人を贖っておられ、結局すべての人が永遠の命を得るからである」と教えました(アルマ1:4)。

それから約15年後にコリホルがニーファイ人の間に現れて、ニーホルの教えを説き、広めました。モルモン書にはこう記されています。「その男は反キリストであった。彼は預言者たちがキリストの来臨について語った預言に反対して、民に教えを説き始めた。」(アルマ30:6)コリホルは「人々の罪のために行われる贖罪などあり得ないこと、人は皆、この世の生涯を善く暮らすも悪く暮らすも、その人の

対処の仕方次第であるから、人は皆自分の素質に応じて栄え、自分の力に応じて勝利を得ること、また人がすることはどんなことも決して罪にならない」ことを民に教えました(アルマ30:17)。この偽預言者たちと彼らに従った人々は「ニーホルの教団に属しており、自分たちの罪を悔い改める必要があるとは信じて」いませんでした(アルマ15:15)。

ニーホルやコリホルの時代と同じように、わたしたちはキリストの来臨が近づいた時代に生きています。わたしたちの時代は主の再臨に備える時代です。そしてやはり同じように、悔い改めのメッセージは必ずしも歓迎されません。もし神が存在するとしたら、神はわたしたちに何かを要求するようなことはなさらない、と主張する人がいます(アルマ18:5参照)。神は愛にあふれた御方なので、告白しさえすればすべての罪を赦してください、たとえ罪に罰が下るとしても、「神はわたしたちをほんの少し鞭打たれるだけで、結局わたしたちは神の王国に救われる」(2ニーファイ28:8)と主張する人々は現代にもいます。さらにコリホルと同様、キリストの存在自体を否定し、罪などというものはないと言う人たちがいます。価

値、標準、そして真理すらもすべて相対的なものであると教えます。つまり、個人が正しいと思うことに対して、他人は間違っているとか罪深いとかの判断をすることはできないというのです。

結果など気にせず欲求や欲望におぼれることを許しているため、このような教えは一見魅力的です。ニーホルやコリホルの教えを使えば、どのようなことでも理屈を付けて正当化できます。預言者が来て悔い改めを叫ぶとき、悔い改めない人は怒ります。しかし実際は、預言者の呼びかけは、喜びをもって受け入れるべきものです。悔い改めなければ人生にほんとうの成長も改善もありません。罪など存在しないと偽っても、罪の重荷と痛みを軽くすることはできません。また、たとえ罪のために苦しみを受けたとしても、それ自体が物事を良い方向へ変えることはありません。生活を改善するには悔い改めるほかないのです。そして、悔い改めを通してのみイエス・キリストの贖いの犠牲と救いにあずかることができます。悔い改めは神の賜物であり、ほほえみをもって話すべき事柄なのです。悔い改めは、自由と確信、平安へと導いてくれます。悔い改めの賜物は、喜びの後に悲しみを運ぶようなものではなく、まことの喜びをもたらすものです。

悔い改めができるのはイエス・キリストの贖罪のおかげです。主の無限の犠牲が「人々が悔い改めを生じる信仰を持てるようにするその道を設ける」のです(アルマ34:15)。悔い改めは必要条件であり、キリストの恵みは力です。この力によって、「憐れみは正義の要求を満たし」ます(アルマ34:16)。わたしたちは次のような証を持っています。

「わたしたちは知っている。すなわち、わたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストの恵みによる義認〔すなわち罪の赦し〕は、正しく、かつ真実である。

わたしたちはまた知っている。すなわち、わたしたちの主であり救い主であるイ

エス・キリストの恵みによる^{きよ}聖め〔すなわち罪の結果からの清め〕は、神を愛し、勢力と思いと力を尽くして神に仕えるすべての人にとって、正しく、かつ真実である。〕(教義と聖約 20:30 - 31)

悔い改めは幅広いテーマですが、今日はこの福音の基本原則から皆さんに役立つと思われる5つの面についてだけ話したいと思います。

第1に、悔い改めを勧めることは愛情表現の一つです。救い主は「教を宣べはじめて言われた、『悔い改めよ、天国は近づいた。』」(マタイ 4:17) それは愛のメッセージであって、資格を得て、主とともに、「この世において永遠の命の言葉を享受し、来るべき世において永遠の命……を享受する」よう万人に呼びかけるものでした(モーセ 6:59)。変わるよう人に勧めないとしたら、あるいは自分に悔い改めを要求しないとしたら、互いと自分自身に対して負う基本的な義務を怠っています。子供が罪を犯すのを黙認する親、罪に甘い友達、おじけづいている教会の指導者は、援助できる相手の福祉と幸福よりも実は自分のことを優先させているのです。確かに、悔い改めの呼びかけは相手にとって受け入れがたく、不快であり、時には憤りさえ感じさせることもあります。御^{みたま}霊の導きのままに行うかぎり、実は純粋な思いやりに基づく行為なのです(教義と聖約 121:43 - 44 参照)。

第2に、悔い改めとは変わる努力を意味します。何の努力もしないのに主が天使のような人に変えてくださると期待することは、救い主がゲツセマネの園と十字架上で負ってくださった苦しみをあざけることになります。そうではなく、わたしたちの熱心な努力を補い、報いてくださるよう主の恵みを願い求めるべきです(2 ニーファイ 25:23 参照)。あるいは憐れみを求めて祈るのと同じくらいに、取り組み、努力し、そして罪を克服するための時間と機会を求めて祈り求めるべきでしょう。ふさわしい状態で裁きを受けられることを



願ひ、弱さが強さになるよう堅い決意をもって日々努力する人を、主は必ず祝福してください。真の悔い改めや真の変化にはたゆまぬ努力が求められますが、その努力には人を精錬し、聖める力があります。そのような人には神の赦しと癒^{いや}しがごく自然にもたらされます。まことに「徳は徳を愛し、光は光に結びつき、憐れみは憐れみに同情を寄せて自らの権利を主張」するからです(教義と聖約 88:40)。

「日の栄えの王国の律法に従えない者は、日の栄えの栄光に堪えられない」ことを知っているわたしたちは(教義と聖約 88:22)、悔い改めることにより日の栄えの律法に従う力を確実に増し加えることができます。

第3に、悔い改めには、罪を捨てるだけでなく、従順であることを決意するという意味があります。『聖書辞典』(Bible Dictionary)にはこう記されています。「悔い改めは、心と思いを神に向け、〔それと同時に、〕人が陥りやすい罪を退けることを意味する。」¹ モルモン書にはこのことを教えている例が何か所かあります。その一つは、アルマが息子に語った言葉です。

「したがって、わが子よ、わたしは神を畏^{おそ}れてあなたに命じる。罪悪から遠ざかりなさい。

「思いと勢力と力を尽くして主に立ち返りなさい。」(アルマ 39:12 - 13。モーサヤ 7:33; 3 ニーファイ 20:26; モルモン 9:6 も参照)

わたしたちが主に完全に立ち返るには、主への従順の聖約を交わさなければなりません。わたしたちはしばしば、この聖約はバプテスマのときに交わす聖約であると言います。水の中でバプテスマを受けることによって従順を証明するからです(モーサヤ 18:10 参照)。わたしたちに模範を示された救い主御自身のバプテスマは、御父への従順を聖約するものでした。「しかし小羊は、聖いにもかかわらず、肉においては御父の前にへりくだることを人の子らに示される。そして、御父の戒めを守ることに御父に従順であることを、御父に証明されるのである。」(2 ニーファイ 31:7) この聖約を交わさないと、悔い改めは不完全であって、罪の赦しを得ることができません。² ノエル・レイノルズ教授はこのことを印象的な言葉



で表しています。「悔い改めを選択することは、ただ一つの道すなわち永遠の命に通じる道をいつまでもたどる〔と決意して〕、あらゆる方向に架かった橋を燃やしてしまうことです。』³

第4に、悔い改めには、たとえ痛みを伴うとしてもあきらめず貫き通すという明確な決意と進んで行く意志が求められます。悔い改めの具体的な手順を書き出そうとするのは、人によっては有用かもしれませんが、それは感慨も変化もない、機械的な行動リストのようなやり方にもなりかねません。真の悔い改めはうわべだけのものではありません。主は二つの基本的な事柄を要求しておられます。「人が罪を悔い改めたかどうかは、これによって分かる。すなわち、見よ、彼はそれを告白し、そしてそれを捨てる。」(教義と聖約 58:43)

罪を告白し、捨てることは力強い概念です。「間違いを認めます。ごめんなさい」と言うだけのことではないのです。告白は、神と人に対して過ちを犯し、害を加えたことに対する、深く、時には苦闘するような認識を指すのです。告白には悲しみと悔悟、そしてしばしば悲痛の涙が伴います。自分の行動がだれかを苦しめたり、さらにひどいときには人に罪を犯させたりしたときは特にそうです。この深い苦悩を味わい、物事の真実の姿を直視すると、アルマのように叫びたくなります。「おお、神の御子イエスよ、苦汁の中におり、永遠の死の鎖に縛られているわたしを憐れんでください。」(アルマ 36:18)

そして、憐れみに満ちた贖い主とその力を信じる信仰を持つことによって、絶望が希望へと変わります。人の性質と望みの変化を遂げて、かつて魅力的に見えた

罪に嫌悪感を覚えるようになります。罪を捨て、加えた損害をできるかぎり元に戻すという決意が新たな心に生じます。この決意は培われて、やがて、神に対する従順の聖約を交わすに至ります。この聖約を交わすことにより、神の恵みの使者である聖霊が、安らぎと救いをもたらしてください。そして、アルマのようにこう宣言するのです。「おお、何という喜びであったことか。何という驚くべき光をわたしは見たことか。まことに、わたしは前に感じた苦痛に勝るほどの喜びに満たされたのである。」(アルマ 36:20)

解決していない罪について正義を満たすときに味わう苦しみと比較すれば、悔い改めに伴う苦痛は例外なくはるかに小さなものでしかありません。正義の要求を満たし、わたしたちの罪を贖うために堪え忍んだことについて、救い主は多くを語っておられません。しかし次のように述べて心の内を表されました。

「見よ、神であるわたしは、すべての人に代わってこれらの苦しみを負い、人々が悔い改めるならば苦しみを受けることのないようにした。

しかし、もしも悔い改めなければ、彼らはわたしが苦しんだように必ず苦しむであろう。

その苦しみは、神であって、しかもすべての中で最も大いなる者であるわたし自身が、苦痛のためにおののき、あらゆる毛穴から血を流し、体と霊の両方に苦しみを受けたほどのものであった。そしてわたしは、その苦い杯を飲まずに身を引くことができればそうしたいと思った。」(教義と聖約 19:16-18)

第5に、悔い改めるためにどれほどの苦痛を受けるとしても、それは救いの喜び

にのみ込まれます。ボイド・K・パッカー会長は「輝かしい救いの朝」と題した総大会の話の中で次のようなたとえを述べています。

「1847年4月、プリガム・ヤングは開拓者たちの最初の一行を率いてウィンタークォーターズを出発しました。時を同じくして、そこから1,600マイル(2,575キロ)西方では、哀れなドナー隊の生存者たちが、シエラネバダ山中をサクラメント渓谷に向かっていました。

彼らは、山頂直下で雪の吹きだまりに閉じ込められたまま、厳しい冬を過ごしたのでした。何日、何週間、何か月にもわたって、飢えと苦しみの中で生き延びた人がいたということ自体、信じ難いことです。

生存者の中に15歳のジョン・グリーンがいました。4月24日の夜、彼はジョンソン牧場にたどり着きました。何年か後に、次のように書いています。

『ジョンソン牧場に着いたときには、日が暮れてからかなりの時間がたっていた。そのため、牧場を初めて見たのは空が白みかけてからのことだった。天気は良く、地は緑の草に覆われ、鳥のさえずりが木々のこずえから聞こえていた。旅は終わった。自分が生きていることが信じられなかった。

あの朝目にした光景は、写真のように心に焼きついている。ほとんどの出来事は記憶のかなたに消えてしまったが、ジョンソン牧場のそばのあの野営地の光景はいつも心に残っている。』

パッカー会長は続けてこう言いました。「わたしは初め、『ほとんどの出来事は記憶のかなたに消えてしまった』という彼の言葉に首をかしげました。数か月にも及ぶ信じ難いほどの苦痛や悲しみの記憶がなくなるなどということがあるでしょうか。ある一日の明るい朝の光景が、過酷で陰鬱な冬に取って代わるなどということがあるでしょうか。

しばらく考えたわたしは、それは、決して首をかしげるようなことではないと思う

ようになりました。わたしの知っている人
たちにも、同じようなことがあったからで
す。罪悪感と霊的な飢えという長い冬を
過ごした後に、赦しという朝を迎えた人を
何人も見たのです。朝を迎えたとき、人
は次のことを学びます。

『見よ、自分の罪を悔い改めた者は赦さ
れ、主なるわたしはもうそれを思い起こさ
ない。』〔教義と聖約 58:42〕⁴

わたしは、主の計り知れない苦痛と、死
と復活が「悔い改めの条件を果たし
〔た〕」(ヒラマン 14:18) ことを感謝の気
持ちをもって受け入れ、そして証します。
悔い改めという神の賜物は、この世と次
の世における幸福の鍵です。救い主の御
言葉を借りて、わたしは心からへりくだ
り、また愛を込めて、「悔い改めよ、天国
は近づいた」とあらゆる人に申します(マ
タイ 4:17)。この招きを受け入れるなら
ば、この世から永遠にわたって喜びを見
いだせることを知っています。イエス・キ
リストの御名により、アーメン。■

注

1. Bible Dictionary, "Repentance"の項
2. モルモン書は「悔い改めのためのバプテスマ」
を受けることについて繰り返し採り上げている
(モーサヤ 26:22; アルマ 5:62; 6:2; 7:14;
8:10; 9:27; 48:19; 49:30; ヒラマン 3:24;
5:17; 19:3; ニーフアイ 1:23; 7:24 - 26; モロ
ナイ 8:11 参照)。バプテスマのヨハネは同じ
言葉を用い(マタイ 3:11 参照)、パウロは「悔
改めのバプテスマ」について語った(使徒 19:
4)。この語句は教義と聖約の中にも見られる
(教義と聖約 35:5; 107:20 参照)。「悔い改
め、または悔い改めのためのバプテスマ」と
はバプテスマと従順の聖約が悔い改めの頂点
となる事実を表している。バプテスマを含む
完全な悔い改めにより、人は聖霊の賜物のた
めの接手を受ける資格を得る。人は聖霊に
よって御霊のバプテスマ(ヨハネ 3:5 参照)
と罪の赦しを受ける。「あなたがたが入らな
ければならぬ門とは、悔い改めと、水によるバ
プテスマである。そうすれば、火と聖霊によ
って罪の赦しが与えられる。」(2 ニーフアイ 31:
17)
3. ノエル・B・レイノルズ "The True Points of
My Doctrine," Journal of Book of Mormon
Studies, 第5巻, 第2項 (1996年), 35. 強調
付加
4. ボイド・K・パッカー「輝かしい赦しの朝」『聖
徒の道』1996年1月号, 20 参照



十二使徒定員会
L・トム・ペリー長老

完全な愛は 恐れを取り除く

回復されたイエス・キリストの福音に対する自分の信仰と気持ちを
を分かち合うように、との勧めにこたえるなら、愛と勇気の霊が常
に伴侶となることでしよう。

モ ンソン大管長、わたしたちは皆、
幾つかの新しい神殿について
すばらしい発表に感激していま
す。とりわけ、ワイオミング州にいるわた
しの大勢の親戚にとって、胸の高鳴る知
らせでした。

世界中至る所で、新しく神殿が建設され
ると教会は特別なことをします。アメリカ
合衆国とカナダではごく当たり前のこと
になっているオープンハウスです。神殿が奉
献される直前の数週間、わたしたちは扉を
開いて、地元の政府や宗教関係の指導者、
地元の教会員、他宗派の人たちを招いて、
建ったばかりの神殿を案内します。

教会になじみの薄い人たちに、教会に
ついて知ってもらうすばらしい機会です。
新しい神殿を訪れる人はほとんど例外な
く、その内部と外部の美しさに驚きます。
神殿のあらゆる造作の細部にまで技巧を
凝らし心が尽くされていることに感嘆しま
す。さらに、奉献を前にした神殿を隅々ま
で案内される人の多くは何か特別なもの
を感じます。これらは訪問者に共通する
反応ですが、最も多く寄せられる感想で
はありません。訪問者に何よりも強い印
象を残すのは、オープンハウスで出会う教

会員です。案内役の末日聖徒から感銘を
受けるのです。

現在、教会は世界中でかつてない注
目を浴びています。メディアは連日、教会を
採り上げ、多くの活動について報道して
います。アメリカ合衆国で最も有名なニュー
ス番組の多くが教会や教会員を何度も採
り上げています。このようなことが世界中
で起きています。

教会はインターネット上でも注目を浴び
ています。周知のようにインターネットは
情報共有手段を劇的に変化させていま
す。新聞や雑誌に寄稿したことの無い
人々が、全世界で四六時中ブログやソー
シャルネットワークなどインターネット上で
教会とその教えを論じています。ビデオ
を制作し、オンラインで紹介しています。
普通の人たち、すなわち教会員と他宗派
の人々がともに末日聖徒イエス・キリスト
教会について話し合っているのです。

こうしたコミュニケーションの変化がわ
たしたち「モルモン」へのかつてない注
目の一因となっています。しかし教会は絶
えず成長し、前進しています。隣人や友人
に教会員がいるという人が増えており、政
界、実業界、娯楽、教育そしてあらゆる分



野に著名な教員がいます。教員でない人たちもこのことに気づいており、何事が起きているのかと驚いています。多くの人が教会と末日聖徒を認識するようになっていくことは素晴らしいことです。

注目度が上昇したとはいえ、教会を理解していない人はまだ大勢います。教会に懐疑的な目を向け、情報源と信憑性を疑うことなく否定的な固定観念を信じるよう教えられてきた人もいます。教会について、また教会が何を支持しているかについて誤った情報があふれ、混乱しています。このようなことは預言者ジョセフ・スミスの時代から起きていました。

ジョセフ・スミスが自分の歴史を書いたのは「世間の考えを正すためであり、また、真相を知ろうとするすべての人に、……その事実を起こったとおりに知らせるため」でもありました（ジョセフ・スミス—歴史 1:1）。いつの時代にも真理をゆがめ、教会の教えを故意にねじ曲げる人がいます。けれども教会に疑問を持っている人の大半は、ただ理解したいだけなのです。この偏見のない人々はわたしたちに純粹に好奇心を抱いています。

教会がますます注目されるようになり、評判が高まっているということは、教員であるわたしたちにまたとない機会を幾つも与えています。事実と異なる描写を

されたら「世間の考えを正し」、誤解を正すことができます。それ以上に大切なのは、わたしたちがどのような人物かを知らせることができる、ということです。

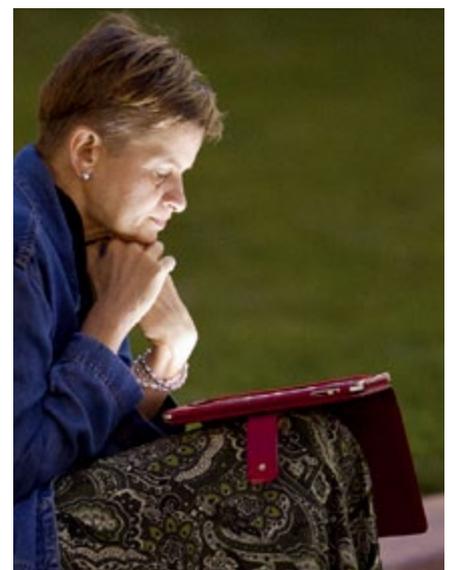
教会への理解を促すためにわたしたちにできることはたくさんあります。神殿のオープンハウスでもてなすときと同じ態度で接し、同じように振る舞うなら、友人や隣人はわたしたちへの理解を深めることでしょう。不信心や否定的な固定観念は消えうせ、教会の真実の姿を理解し始めるでしょう。

一人一人にできることを幾つか提案します。

第1に、イエス・キリストについて大胆に宣言しなければなりません。わたしたちはイエス・キリストが人類史上最も重要な御方であると信じていますし、そのことを人々に知ってほしいと考えています。イエスの生涯と教えは、聖書と、わたしたちが聖典と見なしている書物の中核を成しています。旧約聖書はキリストのこの世での務めに向けてわたしたちを備えさせてくれます。新約聖書には、この世におけるキリストの務めが記されています。モルモン書はこの世におけるキリストの務めの第2の証です。キリストは、神のすべての子供たちが主と主の教えについて学べるよう、福音を宣言するために地上に來ら

れました。福音は、全人類にとってよりどころとなるものです。さらに主は、わたしたちの救い主、贖い主となるために御自分の命をささげられました。人の救いはイエス・キリストを通してのみ実現します。イエス・キリストが人類史上最も重要な御方であるとわたしたちが信じている理由はここにあります。永遠の行く末は常に主の御手の中にあります。イエスを主なる救い主として信じ、受け入れることは素晴らしいことです。

わたしたちはまた、キリストを通しての



み、この世と永遠における究極の安らぎ、希望、幸福を見いだせると信じています。モルモン書で教えられているように、わたしたちの教義は力強く語りかけています。「したがって、あなたがたはこれからもキリストを確固として信じ、完全な希望の輝きを持ち、神とすべての人を愛して力強く進まなければならない。そして、キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み、最後まで堪え忍ぶならば、見よ、御父は、『あなたがたは永遠の命を受ける』と言われる。」(2ニーファイ 31:20)

わたしたちはイエス・キリストへの信仰を宣言し、イエスを救い主として受け入れています。主はわたしたちが力を尽くすあらゆる事柄を祝福し、導いてくださいます。この世で懸命に生きる間、試練を受けるわたしたちを主は力づけ、平安を与えてくださいます。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は、教会の頭である主への信仰によって歩みます。

第2は、義にかなった模範となることです。自分の信条を明らかにした後、テモテへの第一の手紙第4章12節にある勧告に従わなければなりません。「言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になりなさい。」

救い主は信仰の模範となることの大切さを教えて、こう言われました。「そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」(マタイ5:16)

わたしたちは主が世に示された模範に従って、善と徳の模範とならなければなりません。わたしたち一人一人の善い行いは救い主と主の教会双方の評判を高めます。善いことに携わり、誉れ高い義人となる時、皆さんの生活からキリストの光が発散することでしょう。

次は、教会について話すことです。わたしたちは日常生活で自分の信条を人に話す機会に恵まれます。友人や職場で交わる人から宗教上の信条について尋ねら



れるとき、それは、わたしたちがどのような人物であって、何を信じているかを話すよう求められているのです。教会に興味を持つかどうかは分かりませんが、わたしたちをもっとよく知りたいと思っているのは確かです。

そのような求めに応じるよう勧めます。知人はあなたに、教え、^の宣伝、説き明かし、勧めるよう求めているわけではありません。一方的に話すのではなく語り合ってください。自分の宗教の信条を話し、相手の信じていることも尋ねてください。相手の質問から関心度を判断するのは、たくさん質問を受けたら、答えることに集中します。あなたが話すよりも、相手に質問させる方がよいことを忘れないでください。

自分が教会員であることを秘密にした人があるようです。その人なりの理由があります。例えば、信じていることを話すだけの自信がないと考えているかもしれません。間違えたり、答えられない質問を受けたりするのではないかと怖がっているのかもしれません。そのような考えに陥ったときのためにアドバイスします。ヨハネの言葉を思い出すだけです。「愛には恐れがない。完全な愛は恐れをとり除く。」(1ヨハネ4:18)ただ神を愛し、隣人を愛するならば、恐れに打ち勝ると

約束されているのです。

教会について知りたい人に向けた教会のウェブサイト Mormon.org を最近閲覧したことがあれば、自分の情報を掲載している会員たちがいることに気づいたことでしょう。インターネット上にプロフィールを作り、自分がどのような人物であって、宗教上の信条が自分にとってなぜ大切なのかを説明しています。自分の信仰について率直に語っています。

そのような話し合いの機会に感謝し、キリストのような愛をもって話し合いに臨む必要があります。話すにしても書くにしても、どのような反応に接しても丁寧で、礼儀正しい語調でなければなりません。誠実に、心を開いて、はっきりと話します。いかなる形であれ、反論したり、身構えたりする姿勢は避けましょう。

使徒ペテロは、わたしたちを召してくださった聖なる御方に倣って、わたしたち自身も、何を話すときであれ、聖なる者となるべきである、と説きました(1ペテロ1:15 参照)。

今日、自分の意思を伝える手段として、インターネットの利用がますます盛んになっているようです。老若を問わず皆さんがインターネットやソーシャルメディアを使って、接触を図り、宗教上の信条を分かち合うようお勧めします。



十二使徒定員会
ジェフリー・R・ホランド長老

インターネットを利用することにより、教会に関する進行中の会話に出くわす場合があります。御霊に促されたときは、ためらわず自分の信じていることを伝えてください。

イエス・キリストの福音のメッセージは、人に話すほかのどんな事柄とも異なっています。情報化時代において、それは世界のあらゆる情報の中で最も大切なものです。福音には間違いなく価値があります。それは、確かに高価な真珠です(マタイ 13:46 参照)。

教会について話すとき、実際よりも良く言おうとしてはなりません。話を美化する必要はないのです。正直にまた率直に伝える必要があります。わたしたちが伝達経路を開けば、回復されたイエス・キリストの福音のメッセージは、受ける準備のできている人におのずと明らかになるのです。

会員として教会で経験していることと、ほかの人が外から見たことでは、見解が大きく異なる場合があります。神殿が奉獻される前にオープンハウスを行うおもな理由はここにあります。神殿のオープンハウスで奉仕する会員は、端的に言えば、人が内側から教会を見ることができるようになっているのです。人は教会が不思議な驚くべき業であることに気づき、ほかの人にも知ってほしいと考えます。皆さんも同じようにしてください。

回復されたイエス・キリストの福音に対する自分の信仰と気持ちを分かち合うように、との勧めにこたえるなら、愛と勇気の霊が常に伴侶となることを約束します。なぜなら、「完全な愛は恐れをとり除く」からです(1ヨハネ 4:18)。

イエス・キリストの福音を分かち合う機会にあふれた時代が来ています。わたしたちがよく備えて、自分の信じていることを分かち合うためにそれぞれに与えられている機会を活用することができるよう、イエス・キリストの御名によりへりくだって祈ります。アーメン。■

戦い止むまで

神権を持つすべての男性の皆さん、さらに強く、献身的に福音を証してください。悪とその権化であるサタンに対する証だけではなく、善と福音についての証と、神についての証をしてください。

感 動的な賛美歌トリチャード・G・ヒンクレー長老の力強い祈りによってわたしの心にもたらされた御霊を通して、今晚は、アロン神権を持つ若い男性の皆さんも含めて、兄弟の皆さんに対して率直にお話ししたいと思います。

わたしたちはジョセフ・スミスの最初の示現の重要性について話すとき、その直前に起こった恐怖の対決には触れないことがあります。少年ジョセフを滅ぼそうとした力、何としてでも示現を阻止しようとした力との対決です。サタンについてわたしたちは必要以上には話しませんし、わたしはサタンの話をするを好みません。しかし、少年ジョセフのこの対決は、若い男性を含め、この大会を視聴しているあらゆる男性が心に留めておくべきことを示唆しています。

まず最初に、「ルシフェル」とか「偽りの父」とも呼ばれるサタンは、どのように呼ばれようとも悪の化身として実在するということです。いかなる場合もサタンの動機は悪意に満ちています。贖いの光が現れたり、人が真理について少しでも考えたりするとサタンは身を震わせます。次に、サタンは神の愛やイエス・キリストの贖

罪、平和と救いの業に対して永遠に敵対するということです。サタンはこれらに反対して、時と場所を問わず力の限り戦います。自分が最後には敗北して追放されることを知っていますが、できるかぎり多くの人を道連れにする覚悟でいます。

では、永遠の命をかけたこの戦いで悪魔はどんな策を練ってくるのでしょうか。ここでまた、聖なる森でのジョセフの経験が参考になります。ルシフェルはこの後行われる回復の業を全面的に阻止するために「わたしの舌をしびれさせるほどの驚くべき力を振ったので、わたしは物を言うこともできなかった」とジョセフは記録しています。¹

今朝、ボイド・K・パッカー会長が教えたように、サタンは直接人の命を奪うことができません。これはサタンにできない多くの事柄の一つです。しかし、忠実な者たちの口を封じることができさえすれば、御業をかなり阻むことができます。兄弟の皆さん、もしそうだとしたら、老いも若きも、この善と悪の戦いを危惧するすべての男性に、参戦して声を上げるようお願いいたします。これは戦いです。これからの時間、この戦いに人々を招集したいと思います。



「戦い止むまで」を何小節か歌う必要があるでしょうか。「われらは義勇の兵を待つ」²というくだりです。もちろん、兵を待つといっても、ありがたいことにこの場合、招集されてもライフルを撃ったり手りゅう弾を投げたりするよう求められることはありません。むしろ必要なのは、「神の口から出る一つ一つの言葉」³を武器として携えた大隊です。今晚わたしが望んでいるのは、自ら口をつぐむ宣教師ではなく、主の御霊と神権の力を携えて口を開き、語ることによって奇跡を起こす宣教師です。教会の初期の兄弟たちが教えたように、そのような言葉によって信仰の「最も力強い業が行われてきましたし、これからも行われることでしょう。」⁴

特に、アロン神権を持つ若い男性の皆さんには、姿勢を正してよく聞くようお願いいたします。皆さんのために、スポーツにたとえてみましょう。若い男性の皆さん、この戦いは生死をかけた戦いです。わたしは皆さんの目の前に立ち、鼻と鼻を突き合わせ、皆さんのまゆ毛を焦がさんばかりの勢いで皆さんをたきつけます。切迫した試合でどうやっても勝利しようというときのコーチのようにです。勝敗の行方は皆さんに懸かっているのですから、わたしはコーチとしてこう言います。「この試合で戦うためには、今よりも道徳的に清くならなければならない者がこの中に何人かいる。」善と悪の生死をかけた実際の戦いでは、誘惑に遭う度に敵と戦い、何事もなかったように救い主の側につくこ

とはできません。若い友人の皆さん、そんな芸当はできないのです。神を欺くことはできません。

今夜、皆さんもわたしも困った状況にあります。将来宣教師になるべきアロン神権の年齢の若い男性は、教会の記録にすでに何千人も載っています。問題は、これらの執事や教師、祭司が活発に教会に集い続け、ふさわしさを備えて長老に聖任され、伝道に出られるよう育てることです。ですから、チームの一員である若い男性にはチームにとどまり、必要とされて試合場に入ったら、線の外に出ずに一生懸命戦ってほしいのです。わたしが知っている、ほとんどすべてのスポーツでは、床や地面に線が引いてあり、試合に出る人は線の中にいなければ戦うことができません。主も、この業で主とともに働くよう召す者に対して、ふさわしさを線を引きおられます。もしも宣教師自身が性的な背きに陥っていたり、不敬な言葉を使っていたり、ポルノグラフィーにおぼれたりして悔い改めていないとしたら、同じことを悔い改めるよう人に勧めることはできません。そのようなことはできないのです。そのような人は御霊を受けられません。悔い改めの言葉を語っても、その言葉は本人の首を絞めるだけです。そのような人は、リーハイが「禁じられた道」⁵と呼んだ道をさかのぼって「細くて狭い道」⁶へ人々を導くことなどできないのです。

しかし、皆さんには罪を克服する方法

があります。将来皆さんが求道者に教えるものと同じ方法です。皆さんがどんな人であろうと、どんな罪を犯しようとして、赦しを受けることができます。若い男性の皆さん、どんな背きに陥ろうと、皆さんは罪を捨て去ることができます。皆さんにはできます。これは「赦しの奇跡」であり、主イエス・キリストの贖罪の奇跡です。しかし、積極的に福音に従う決心をしないかぎり、また必要な場合には悔い改めをしないかぎり、罪を捨て去ることは不可能です。若い男性の皆さん、教会に活発に集い、清さを保つようお願いいたします。教会に活発に集い、清くなる必要があるならば、そのようにしてください。

さて、兄弟の皆さん、わたしたちは大胆に申し上げます。遠回しに言っても効果がないと思うからです。わたしたちが大胆に申し上げるのは、サタンが実在し、皆さんを滅ぼそうとねらっており、できるだけ若い人の心の中で荒れ狂おうとしているからです。ですから、わたしは皆さんの襟首をつかみ、声を振り絞ってこう叫びます。

聞けや、ときの声響くを
来たりて隊に入れ⁷

若い友人の皆さん、わたしたちにはなすべき業があります。数か月後、数年後には何十万人もの宣教師が必要になります。その多くは、聖任され、教会に活発に集い、清く、奉仕できるふさわしさを備えた

膨大な人数のアロン神権者から出るようになるのです。

すでに伝道を終えた人や現在伝道中の人には、その献身的な働きと善意の行い、人々の生活に良い影響を与えてくれたことに感謝しています。また、伝道に出たいと切に思い、これまでずっとその望みを抱き続けてきたにもかかわらず、健康上の理由やその他自分にはどうすることもできない障害のために伝道に出ることのできない人たちがいることをわたしたちは知っています。そのような皆さんにはこの場を借りて敬意を表したいと思います。わたしたちは皆さんの望みを理解しており、その献身をたたえます。皆さんは「チームの一員」です。正当な理由で専任宣教師としての奉仕を免除されたとしても、ずっとチームの一員なのです。しかし、わたしたちはそれ以外の人々を必要としています。

では、メルキゼデク神権の兄弟たちに申し上げます。気持ち良く座って笑っている場合ではありません。話はまだ終わっていないのです。教会の伝道部では何千組もの夫婦宣教師をさらに必要としています。どの伝道部長も夫婦宣教師を求めています。どこで奉仕する夫婦宣教師も、19歳の宣教師がどんなに優秀であれ、東になってかかってもかなわないほどの熟達した働きをしています。

さらに多くの夫婦が伝道に出られるようにするために、大管長会と十二使徒定員会は、伝道活動の中でこの50年間見られなかったほど大胆かつ寛大な変更を行いました。夫婦宣教師の住居費（住居費のみを言っています）があらかじめ定められた上限を超えた場合には教会の宣教師基金から補助するという通達が、今年5月、現職の神権指導者たちに送られました。何という祝福でしょう。夫婦宣教師が伝道中に負担する中で最も大きな出費に対して、天からの助けが与えられたのです。また、幹部の兄弟たちは、夫婦宣教師の任期を従来の18か月と24か月に加えて、6か月または12か月とすること



もできるという決定を下しました。そして、もう一つ寛大な措置があります。夫婦は家族の緊急な要件のために、自費で短期間自宅に帰ることが許可されるようになったのです。また、戸別訪問しなければならないのか、19歳の宣教師と同じスケジュールで奉仕しなければならないのかと心配する必要はありません。夫婦宣教師の皆さんにそのようなことは求めません。しかし、皆さんにはできることがほかにたくさんあり、それらをどのように果たすかは、皆さん自身で決めることができるのです。

兄弟の皆さん、健康上の問題や家族の問題、経済的な事情から今すぐ伝道に出ることができない人や伝道に出ることそのものが不可能である人がいることは分かっています。しかし、ちょっと計画すれば伝道に出られる人はたくさんいます。

ビショップとステーク会長の皆さん、夫婦宣教師が必要とされていることを評議会や大会で話してください。集会のときには壇上の席に座って、心の中で祈りながら兄弟姉妹を見回し、宣教師の召しを受けるべき夫婦が分かるよう導きを求めてください。導きを感じたら本人と話し、伝道に出る日付を設定できるよう話合ってください。兄弟の皆さん、伝道の話が指導者から出たら、自分はリクライニングチェアやテレビにしばらく別れを告げられるか、奥さんは孫としばらく離れることができるかどうか、奥さんと話してください。皆さんの小さくて愛らしい孫たちは心配ありません。家で孫と一緒にいて

はできないことを、主への奉仕を通じて孫たちに世々限りなく伝えられるようになると、皆さんに約束します。「わたしたち家族は伝道に出る」という言葉以上に、祖父母が子孫に与えられるすばらしいプレゼントがあるでしょうか。

会員数も多く、全世界に広がるこのすばらしい教会の中で、行う必要があるのは伝道活動だけではありません。しかし、伝道活動以外に教会で行わなければならない事柄のほとんどは、初めてイエスキリストの福音を聞いた人が教会に入るかどうかにか左右されます。だからこそ、イエスが十二使徒にお与えになった最後

カナダ・ケベック州モントリオール





管理ビショップリック第二顧問
キース・B・マクマリンビショップ

の命令がこんなにも基本的なものだったことにもうなずけます。「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し〔なさい。〕」⁸バプテスマの後初めて、家族の連帯感、青少年のプログラムや、神権に伴う約束や、神殿に至る儀式などその他の福音の祝福が完全に与えられるのです。これらの祝福はどれも、ニーファイが証したように、「門を入……る」⁹まで得られません。永遠の命に至るにはこのようになすべきことがたくさんあります。ですから、その門を開いて人々を導き入れるためにもっと多くの宣教師が必要なのです。

老いも若きも、神権を持つすべての男性の皆さん、さらに強く、献身的に福音を証してください。悪とその権化であるサタンに対する証だけではなく、善と福音についての証と、神についての証をしてください。あらゆる年齢の兄弟の皆さん、舌を緩め、皆さんの言葉が「見いだす場所を知らないということだけで真理を得られずにいる」¹⁰人の生活の中で奇跡を起こすのを見てください。

急ぎ行け戦に

真実を身によろい

誇りの旗掲げ

喜び進まん、わが家に¹¹

イエス・キリストの御名によって、アーメン。■

注

1. ジョセフ・スミス一歴史 1:15
2. 「戦い止むまで」『賛美歌』162 番
3. 教義と聖約 84:44。申命 8:3；マタイ 4:4 も参照
4. *Lectures on Faith* (1985 年), 74
5. 1 ニーファイ 8:28
6. 2 ニーファイ 31:18
7. 「戦い止むまで」『賛美歌』162 番
8. マタイ 28:19
9. 2 ニーファイ 33:9
10. 教義と聖約 123:12
11. 「戦い止むまで」『賛美歌』162 番

アロン神権の力

皆さん自身と、皆さんの持つアロン神権の職は、天の御父の子供たちに対する業に、またこの地上を御父の聖なる御子の再臨に備えるうえで、欠かすことはできません。

最 近の中央幹部訓練集会で、トーマス・S・モンソン大管長はアロン神権者の義務と機会を改めて強調しました。¹ その指導と同じ思いをもって、皆さんに向けて話します。

義務をきちんと果たすことは、民や国々の行く末を左右します。義務という原則はとても基本的なものであり、神権者は次のような勧告を受けています。「それゆえ、今や人は皆、自分の義務を学び、任命されている職務をまったく勤勉に遂行するようにしなさい。」²

モンソン大管長はこのように説明しています。「義務を伴う召しは、神権者が与えられた割り当てにこたえるとき、静かにやって来ます。」³ 「皆さんの義務は、第1に、主が望んでおられることを知り、それから主の聖なる神権の力と強さによって、人々の前で召しを尊んで大いなるものとし、人々が喜んで皆さんに従うようにすることです。」⁴

主は御自分の義務について次のように述べておられます。「わたしは……わたし自身の考えではなく、〔父の〕み旨を求めている……」⁵ ……わたしが天から下ってきたのは、自分のこのままを行うためではなく、わたしをつかわされたかたのみこころを行うためである。」⁶ イエス・キリストが御自分の義務を果たさ

れたおかげで、「全人類は福音の律法と儀式に従うことによって救われ得る」⁷ ようになりました。兄弟の皆さん、これこそわたしたちが従うべき標準です。

わたしは経験上、執事、教師、祭司として奉仕する皆さんが、進んで自分の義務を果たし、有能で信頼できる、期待どおりの人たちであるということを見てきました。わたしたち教会指導者は皆さんを称賛します。皆さんの元気は周囲を活気づけ、皆さんの能力は驚くべきものであり、皆さんと接することでわたしたちは強められます。皆さん自身と、皆さんの持つアロン神権の職は、天の御父の子供たちに対する業に、またこの地上を御父の聖なる御子の再臨に備えるうえで、欠かすことはできません。皆さんと皆さんの義務について考えるとき、皆さんの年齢以上のものが見えてきます。パウロは皆さんについて次のように述べています。「あなたは、年が若いために人に軽んじられてはならない。むしろ、言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になりなさい。」⁸

いにしえの人々に時が至り、アロンの名にちなんで神権が授けられた。レビ族、祭司、預言者をも通して神の子供たちを祝福するために。



やがて世の救い主が来られ、
ヨハネという名の男から
同じ神権を通してバプテスマを求められた。
救いの夜明けが来るように。

この同じ力が末の日に
再び地上に回復された。
福音の真理が初めから終わりまで
人々の心に誕生するように。

アロンの神権の備えを受けて
至上の真理は来る。
それは、神の愛する御子によりもたらされる
贖いの業だ。

そして、この力を行使する者、
それは単なる少年ではない。
神権をまとった彼を見て、
我らは言う。「ごらん！あの立派な男性を。」⁹

「アロン神権の力と権能とは、天使の働きの鍵を持ち、また聖約と戒めにかなって外形上の儀式、すなわち福音の文字、罪の赦しのための悔い改めのバプテスマを執行することである。」¹⁰ ボイド・K・パッカー会長は次のように述べています。「これまで、神権の権能の分配はとても順調に進んできました。ほぼすべての地で神権の権能を確立してきました。……しかしわたしは、神権の力の分配は、神権の権能の分配ほど進んでいないと思います。」¹¹

神の子供たちの永遠の幸いのためにこれをどうにかしなければなりません。

わたしたちの預言者は、ジョージ・Q・キャンノンの言葉を引用し、次のように述べています。「わたしは、神権の力が強められるのを見たいのです。……この強さと力が、教会の大管長から最も若くて謙遜な執事に至るまで、神権者全体に満ちるのを見たいのです。すべての男性は、神の啓示を求め、享受するべきです。その天からの光は、わたしたちの霊を輝かせ、各自の義務、つまり、神の業の中で神権者に託されている責任に関する知識を与えます。」¹²

執事、教師、祭司は、啓示の霊を受け、自分の召しを尊んで大いなるものとするためにどのようなことができるでしょうか。聖霊がもたらす清めと、聖別と、啓蒙の力を受けられるような生活を送ることができます。

自分の召しを尊んで大いなるものとすることの重要性を、アルマの次の言葉に見ることができます。「わたしはあなたがたに言う。まことに、……青年にも、……悔い改めて再び生まれなければならないことを呼び求めること、これが、わたしが召された位である。」¹³ 人は再び生まれるとき、心は変化します。悪いものや清くないものを望まなくなります。神に対して変わることはない深い愛を抱きます。善良でありたいと望み、人に仕え、戒めを守りたいと望みます。¹⁴

ジョセフ・F・スミス大管長は、この大きな変化を経験したときのことを次のように述べています。「わたしは清らかな平安と、愛と光を感じました。もしわたしが罪を犯していたとしたら、……自分が赦され、まことに罪から清められたと感じました。わたしは感動に心打たれ、足もとの最も小さい虫さえも傷つけまいと思うほどでした。あらゆるところで、あらゆる人に、あらゆるものに善を行いたいと思いました。新たな命を感じ、正しいことを行おうという新たな意欲がわいてきました。わたしの心には悪を求める思いはひとかけらも残っていませんでした。……わたしは一介の少年にすぎませんでしたが、そのような力を受けました。それは神からのものであり、わたしが主を受け入れたことの生きた証であり、この証は今もわたしの心に生きていることをわたしは知っています。」¹⁵

ですから、わたしたちはすばらしい若い兄弟の皆さんに「再び生まれる」ように熱心に努めるよう呼びかけます。¹⁶ 生活の中でこの変化を経験できるよう祈ってください。聖文を研究してください。ほかの何よりも、神を知り神の聖なる御子になることを望んでください。若い時を楽しみながらも、子供じみたことを捨ててください。¹⁷

不敬で思慮に欠けた会話を避けてください。

あらゆる悪から逃れてください。

争いを避けてください。

必要なときには悔い改めてください。¹⁸

これらの事柄は、皆さんが成熟した威厳のある男性となるのに役立つでしょう。勇気、誠実、謙遜、信仰、善良という特質が身に付くでしょう。友人は皆さんに敬服し、両親は皆さんを称賛し、神権を持つ兄弟たちは皆さんを頼りにし、若い女性たちは皆さんを尊敬し、皆さんのおかげでさらに良い人になるでしょう。神は皆さんに誉れを与え、皆さんが神権の務めを果たすときに高い所から力を授けてくださるでしょう。

メルキゼデク神権者であるわたしたちは、自分たちの務めを果たします。わたしたちは親として祖父母として、神の王国でさらに雄々しく務めを果たせるように皆さんを備えます。皆さんの兄弟として、皆さんが見習えるような手本となります。皆さんの定員会の強さを増し加えます。皆さんの定員会の会長会が管理の鍵を行使するときに彼らを支持します。皆さんがアロン神権者の義務を十分に果たし、自分の召しを尊んで大いなるものとする機会を提供します。

皆さんの務めによって、教会に大きな祝福がもたらされるでしょう。「天使は聖霊の力で語る。」¹⁹ 皆さんもそのように語ることが出来ます。皆さんが聖霊の力で語り、聖餐の神聖な象徴を分け与えるとき、男性と女性、少年と少女が、努めて悔い改め、キリストを信じる信仰を増し加え、いつも聖なる御霊を受けられるようになります。

皆さんが断食して断食献金を集めるとき、会員たちは救い主の模範に倣って働きたいと思うでしょう。主は貧しい人や虐げられた人に心をおかけになりました。また、「わたしに従ってきなさい」とお招きになりました。²⁰ 恵まれない境遇の人を世話する皆さんの奉仕のおかげで、わたしたちは主の聖なる業に携わることが出来ます。さらに、皆さんはわたしたちが貧しい人や助けの必要な人を世話するのを



助けることによって、わたしたちが自分自身の過去の罪の赦しを保つのも助けるのです。²¹

「各会員の家を訪れ〔る〕」とき、²² 恐れたり恥ずかしがったりしないでください。何を言い、何を証し、どのような奉仕を行えばよいか、その瞬間に聖霊が示してくださいましょう。

「常に教会員を見守〔る〕」²³ 皆さんの熱心な努力は、豊かに実を結ぶでしょう。皆さんの謙虚で誠実な態度は最も疑い深い人の心さえも和らげ、サタンの支配力から彼らを解放するでしょう。ともに教会に行き、ともに聖餐を受け、ともに奉仕するように皆さんが人々を誘うとき、その招きは、福音の光がほとんど、あるいはまったく差すことのない暗がりや道に迷っている人にとって、彼らを温かく迎え入れる光となるでしょう。

おお、愛する若い兄弟の皆さん、アロン神権を授かり、聖任されたときに受けた、「内に持っている恵みの賜物を、軽視しては」いけません。²⁴

「神がわたしたちに下さったのは、臆する霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである。

だから、あなたは、わたしたちの主のあかしをすること……を、決して恥ずかしく思ってはならない。……神の力にささえられて、福音……を共にしてほしい。

神はわたしたちを……聖なる招きを

もって召して下さったのであるが、それは……永遠の昔にキリスト・イエスに〔よって与えられたのである。〕²⁵

わたしたちの愛する預言者は「旗のもとに集まるよう皆さんを招いて」います。²⁶ わたしたちは皆さんに敬意を表します。皆さんのために祈り、皆さんとともに奉仕することに喜びを感じ、皆さんの救いの務めが持つ力について神に感謝をささげます。神がわたしたちの永遠の御父であり、天におられることを証します。

イエス・キリストが神の聖なる御子であり、世の贖い主であられること、そしてアロン神権者の皆さんが地上における主の使者であることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. トーマス・S・モンソン、中央幹部訓練集会、2010年4月
2. 教義と聖約 107:99
3. トーマス・S・モンソン「神聖な奉仕の召し」『リアホナ』2005年5月号、54
4. ジョージ・アルバート・スミス、Conference Report, 1942年4月、14。トーマス・S・モンソン『リアホナ』2005年5月号、54も参照
5. ヨハネ 5:30
6. ヨハネ 6:38
7. 信仰簡条 1:3
8. 1テモテ 4:12
9. キース・B・マクマリンによる詩。キース・B・マクマリン「ごらん！あの立派な男性を」『聖徒の道』1998年1月号、48参照
10. 教義と聖約 107:20
11. ボイド・K・バック「神権の力」『リアホナ』2010年5月号、7
12. ジョージ・Q・キャノン、Deseret Weekly, 1889年11月2日。トーマス・S・モンソン、中央幹部訓練集会、2010年4月で引用。
13. アルマ 5:49、強調付加
14. マリオン・G・ロムニー「誓約に従って」『聖徒の道』1976年2月号、103-105
15. ジョセフ・F・スミス、Conference Report, 1898年4月、66
16. ヨハネ 3:3-7；アルマ 5:14-21、49参照
17. 1コリント 13:11
18. 2テモテ 2:16、22、23参照
19. 2ニューファイ 32:3
20. ルカ 18:22。ヨハネ 14:12-14も参照
21. モーサヤ 4:26参照
22. 教義と聖約 20:47
23. 教義と聖約 20:53参照
24. 1テモテ 4:14
25. 2テモテ 1:7-9
26. トーマス・S・モンソン、中央幹部訓練集会、2010年4月



七十人
W・クリストファー・ワデル長老

生涯にわたる 貴重な機会

献身的に奉仕し進んで犠牲を払うことにより、伝道は皆さんにとって神聖な経験となります。

宣教師にとって、生涯に一度と言える貴重な経験は、伝道を終えるに当たって伝道部会長から受ける最後の面接です。この面接で中心となる話題は、わずか1年半から2年の間に得た生涯忘れられない経験と、大切な教訓についてです。

こうした経験や教訓の多くは伝道活動に共通しますが、個々の宣教師が伝道中に経験する事柄は様々です。わたしたちの必要と人格に応じて、困難や機会によって、高められ、試されるのです。

専任宣教師として伝道に出るために故郷を離れるずっと前に、わたしたちはこの世の使命を果たすために天の両親のみもとを離れました。わたしたちには天の御父がいて、御父はわたしたちの長所や短所、能力や可能性を御存じです。わたしたちが宣教師、また夫や父親、そして神権者として能力を最大限に発揮するために、どのような伝道部会長や同僚を得、どのような会員や求道者に会う必要があるかを御父は御存じなのです。

預言者、聖見者、啓示者が聖霊の導きと力を受けて宣教師を各地に割り当てます。伝道部会長は靈感を受け6週間ごとに転任を指示しますが、それぞれの宣教師に

奉仕してほしい場所を主が正確に御存じであることを伝道部会長はすぐに理解するようになります。

数年前、スペインのマドリッド出身のハビエル・ミシエゴ長老がアリゾナで専任宣教師として奉仕していました。当時、スペインの若者の大部分は母国で奉仕するよう召されていたので、アメリカでの伝道の召しは珍しいものでした。

ミシエゴ長老と同僚はあるステーキのファイヤサイドに参加するよう招かれました。会が終わると、あまり活発でない教会員が長老に近づいて来ました。友人に付き添われて数年ぶりに教会に足を踏み入れたということでした。男性はミシエゴ長老に、マドリッドのホセ・ミシエゴを知らないかと尋ねました。長老が自分の父親の名前はホセ・ミシエゴだと答えると、男性は人違いではないことを確かめるために、興奮した様子でさらに幾つか質問しました。確かにお互い同一人物について話していることが分かると、彼はすすり泣きました。「あなたのお父さんは、わたしが伝道中にバプテスマを施した唯一の人です。」そう言って、自分の伝道がいかに失敗に終わったと思っているかを説明しました。数年間教会から足が遠

のいていたのも、自分はふがいないと思いいやっていたからであり、とにかく自分は主の期待に添えなかったと思っていたのです。

そこでミシエゴ長老は、男性が失敗に終わったと思い込んでいるその伝道が、自分の家族にとってどんな意味を持っているかを説明しました。ヤングシングルアダルトのときにバプテスマを受けた父親は、神殿で結婚しました。自分は6人きょうだいの4番目で、男の子3人と女の子1人が伝道に出ました。全員が教会に活発で、結婚した子供は皆、神殿で結び固められています。

あまり活発でないこの帰還宣教師はむせび泣きました。自分の働きは多くの人の人生に祝福を注いでいたのです。しかも主は、自分が失敗したわけではないことを知らせるために、スペイン・マドリッド出身の長老を、はるかアリゾナのファイヤサイドへ送ってくださったのです。主はそれぞれの宣教師に奉仕してほしい場所を御存じなのです。

伝道中に主がわたしたちをどのように祝福することを選ばれるかにかかわらず、伝道の祝福は、ステーク会長によって解任される時に終わるものではありません。伝道はその後の人生に備えるための訓練です。忠実な奉仕を通して得られる経験、教訓、証、知識は、福音を中心とした生活の土台となります。その土台はこの世の生涯は言うに及ばず、永遠にわたって持続します。しかし、伝道後もそのような祝福を受け続けるためには、必要な条件を満たさなければなりません。教義と聖約にはこうあります。「わたしから祝福を受けたいと思う者は皆、その祝福のために定められた律法とその条件に従わなければならない。」(教義と聖約132:5) この原則は出エジプト記に記された話の中で教えられています。

モーセは主から命令を受けた後、イスラエルの子らを束縛から解放するためにエジプトへ戻りました。災いに次ぐ災いも民



の解放には至らず、ついに10番目となる最後の災いをもたらされました。「その夜わたしはエジプトの国を巡って、エジプトの国におる人と獣との、すべてのういごを打〔つ〕であらう。」(出エジプト12:12)

「滅ぼす者」(23節)から守られるために、「傷のない」(5節)子羊を供え物としてささげるよう、そしてその供え物から血を集めるように、主は民にお命じになりました。また、その「血を取り」、それぞれの家の入り口の「二つの柱と、かもし」(7節)に塗るように言われました。そしてこう約束されたのです。「わたしはその血を見て、あなたがたの所を過ぎ越すであらう。……災いが臨んで、あなたがたを滅ぼすことはないであらう。」(13節)

「イスラエルの人々々は行ってそのようにした。すなわち主が……命じられたようにした。」(28節) 民は供え物をささげ、血を集めて家に塗りました。「夜中になって主はエジプトの国の、すべてのういご……を撃たれた。」(29節) 主の約束に従ったモーセとその民は、守られました。

イスラエルの民が用いた血は、すなわち救い主が将来全人類に授けられる贖いと賜物の象徴であるその血は、民がささ

げた供え物から流れたものです。しかし、約束された祝福を得るには、供え物と血だけでは十分ではありませんでした。**血を入り口の柱に塗らなければ、供え物は無駄になるのです。**

モンソン大管長はこのように教えています。「伝道活動は易しくありません。力を尽くし、能力を尽くして、最善の努力が……要求されます。これ以上に時間や献身、多くの犠牲と祈りを必要とする仕事はほかにありません。」(「あらゆる人が聞くために」『聖徒の道』1995年7月号, 55)

そうした「最善の努力」の結果、宣教師は自分が受け取った賜物を携えて伝道から戻ります。それは信仰の賜物、証の賜物、祈りの賜物、御霊の役割を理解する賜物、毎日の福音研究とそれが生活に及ぼす影響の賜物、救い主、贖い主に仕えたという賜物です。それらの賜物は、使い古された聖典や、ぼろぼろになった『わたしの福音を宣べ伝えなさい』、伝道日誌、感謝の心の中に大切に包まれています。しかし、イスラエルの民のように、伝道に結びついた祝福を受け続けるには、ささげた後で、生活に応用することが必要です。

数年前、ワデル姉妹とわたしはスペイン・バルセロナ伝道部を管理しました。最後の面接でいつも、宣教師一人一人にある最後の課題を出しました。それは、家へ帰ったらすぐに時間を取って、寛大な天の御父から与えられた教訓と賜物について考える、というものでした。よく祈って書き出し、教訓を伝道後の生活に応用する最も良い方法を考えるのです。伝道の教訓は生活のあらゆる面に影響します。すなわち教育と進路の選択、結婚と子育て、将来教会で行う奉仕、また、最も重要なこととして、これからどのような人物になるか、そして、イエス・キリストの弟子として成長を続けられるかどうかといったことに影響を及ぼすのです。

いかなる帰還宣教師にとっても、忠実な奉仕を通して得た教訓について考え、もっと熱心に応用するのに遅すぎることはありません。そのようにするとき、生活の中で御霊の影響力をいっそう強く感じ、家族が強められ、救い主と天の御父に近づくことができます。以前の総大会でL・トム・ベリー長老はこのように勧告しました。「帰還宣教師の皆さんに、再び自分自身をささげ、伝道活動の望みと

精神でもう一度満たされるようにと、お招きします。天の御父の僕としての外見を保ち、僕となり、僕として振る舞ってくださるようお願いいたします。……皆さんに約束したいと思います。もし、かつて専任宣教師として持っていた熱意をもって力強く進み続けるならば、大いなる祝福が皆さんを待ち受けています。」「(帰還宣教師)『リアホナ』2002年1月号, 88-89)

さて、これから専任宣教師として奉仕する若い男性に、昨年10月にモンソン大管長が述べた勧告を伝えます。「預言者たちが長年教えてきたことを繰り返します。ふさわしく、能力があるすべての若い男性は伝道に出る準備をするべきです。宣教師として奉仕することは神権の義務です。非常に多くのものを受けているわたしたちに、主が望んでおられる務めなのです。」「(再びともに集い)『リアホナ』2010年11月号, 5)

過去と現在の宣教師に対してそうであったように、主は皆さんを御存じであり、皆さんのために伝道の経験を用意しておられます。皆さんを自分の子供のように愛し、皆さんのために靈感と導きを求める伝道部会長とそのすばらしい妻がどのような人物かを御存じです。同僚一人一人について、また皆さんが同僚から何を学ぶかを御存じです。皆さんが働く任地、出会う会員、教える人々、永遠に影響を及ぼす相手を御存じです。

献身的に奉仕し進んで犠牲を払うことにより、伝道は皆さんにとって神聖な経験となります。教える相手の心を、皆さんを通して御霊が動かすとき、改心の奇跡を目の当たりにするでしょう。

伝道の準備としてすべきことはたくさんあります。主の役に立つ僕となるには、任命され、宣教師の名札を胸に着け、宣教師訓練センターに入るだけでは十分ではありません。「長老」と呼ばれるようになるずっと前から準備を始めるのです。

研究と祈りを通して得た、モルモン書に対する証を携えて伝道地に赴いてくださ

い。モルモン書はキリストの神性に対する力強い証拠です。また、預言者ジョセフ・スミスを通して回復が行われたことを証するものでもあります。皆さんは宣教師として、まずモルモン書が真実であることを自分自身で知る必要があります。聖霊によるこの証が、教える最大の目的となります。モルモン書は聖霊の力と相まって、改心の過程で大きな力を発揮し、人が証と個人の啓示を得るための出発点となります(『わたしの福音を宣べ伝えなさい』[2004年] 103, 108 参照)。

聖霊を伴侶とするのにふさわしい状態で伝道地に赴いてください。エズラ・タフト・ベンソン大管長はこう述べています。「この業において最も大切な要素は御霊です。御霊によってあなたの召しを尊んで大いなるものとするならば、あなたは伝道地において、主のために奇跡を行うことができます。御霊の助けがなければ、あなたにどれほど多くの才能や能力があつたとしても、決して成功することはできません。」「(『わたしの福音を宣べ伝えなさい』176)

すぐに働ける準備を整えて伝道地に赴いてください。宣教師としての成功はおもに、人々を見つけ、教え、バプテスマを施し、確認を行うために、どれほど力を尽くしているかによって測られます。皆さんは毎日熱心に働いて、人々をキリストのもとへ導くために全力を尽くすよう期待されます(『わたしの福音を宣べ伝えなさい』10 参照)。

伝道の準備をしている若い男性に向けた M・ラッセル・バラード長老の勧告を繰り返します。「わたしたちは若いアロン神権者である皆さんに期待しています。皆さんが必要です。ヒラマンの2,000人の年若い兵士のように、皆さんも神の霊の息子であり、皆さんも天から力を授かり、神の王国を築き、守ることができるのです。ちょうどあの兵士たちと同じように、皆さんにも神聖な聖約を交わしてもらう必要があるのです。ちょうど彼らが

そうであったように、皆さんにも完全に従順かつ忠実になってもらう必要があるのです。」「(『最高の宣教師を輩出する時代に生きる若者たち』『リアホナ』2002年11月号, 47)

この勧めを受け入れるならば、ミシエゴ長老と同じように、また、忠実に奉仕し、帰還し、応用したすべての宣教師と同じように、皆さんも大いなる教訓を得るでしょう。そして皆さんは、預言者トーマス・S・モンソン大管長の次の言葉が真実であることを理解するのです。「伝道の機会は生涯にわたって皆さんのものです。永遠の祝福が待っています。見物人になるのではなく、神権奉仕というステージに立つ特権が与えられるのです。」「(『聖徒の道』1995年7月号, 55) このことが真実であることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。■





大管長会第二顧問
ディーター・F・ワークトドルフ管長

主の道にかないて 助けをなす

教会の福祉の原則は単なる良いアイデアではありません。神が明らかにされた真理であり、困っている人を助けるための主の方法なのです。

65年前、第二次世界大戦の直後に、わたしは教会の福祉プログラムがもたらす祝福を身をもって体験しました。幼い子供でしたが、小麦のおかゆと一緒に食べた缶詰の桃の甘い味や、寄付された衣類の独特なおいは今でも覚えています。それらは思いやりにあふれた合衆国の教会員から戦後のドイツの聖徒たちに送られたものでした。窮状にあったわたしたちに対する合衆国の会員による愛と優しさの行いを、わたしはいつまでも覚えていることでしょう。

そうした個人的な経験と、靈感に満ちた福祉計画が75周年を迎えたことから、貧しい人や助けの必要な人を世話し、自立し、同胞に仕えることについての基本原則をもう一度よく考えてみたいと思います。

わたしたちの信仰の根底にあるもの

時々、わたしたちは福祉を単なる福音のテーマの一つ、福音という木の数ある枝の一つと考えることがあります。しかし主の計画においては、福祉の原則に真剣に向き合う決意こそ、主への信仰と献身の根底にあるべきものだとわたしは信じています。

時の初めから、天の御父はこの事柄について非常に明確に語ってこられました。あるときは次のように穏やかにお求めになっています。「あなたはわたしを愛するならば、……貧しい者を思い起こし、……彼らの扶養のためにあなたの財産のうちから奉獻するであろう。」¹ またあるときは率直にお命じになっています。「貧しい者と乏しい者、病気の者と苦しんでいる者を、すべてのことにおいて思い起こさない。これらのことを行わない者は、わたしの弟子ではないからである。」² そしてあるときは強い調子で警告しておられます。「わたしの造った豊かなものの中から取りながら、わたしの福音の律法に従って貧しい者や乏しい者に物を分け与えることをしない者は、悪人とともに、地獄で苦しみながら見上げるであろう。」³

物質的なことと霊的なことは結びついて

神と隣人を愛するという二つの大切な戒めは、物質的なことと霊的なことが結合したものです。この二つの戒めが「最も大切な」戒めと呼ばれているのは、ほかのすべての戒めがこの二つにかかって

いるからだという点に注意してください。⁴ つまり、わたしたち個人の、家族の、そして教会の優先事項の筆頭でなければならないものなのです。ほかの目標や行動はすべて、この二つの大切な戒めという泉から、すなわち神への愛と隣人への愛から湧き出るものなのです。

硬貨の表と裏のように、物質的なことと霊的なことは切り離せません。

すべての命を与えた御方はこう宣言しておられます。「わたしにとってはすべてが霊にかかわるものであり、わたしはまだかつて、現世の律法をあなたがたに与えたことがない。」⁵ これはわたしにとって次のことを意味します。「霊的な生活とは、何よりもまず生活することである。単に知るべきものや研究するものではなく、生きるべきものである。」⁶

残念なことに、「物質的」なことをあまり重要でないと考えて見過ごす人がいます。霊的なことを大切にしながら物質的なことを軽視するのは、思いを天に向けるのは大切ですが、同時に手を同胞に伸べていないとすれば、わたしたちは宗教の真髄をとらえ損ねています。

例えば、エノクは民の心を一つにし思いを一つにするという霊的な過程と、彼らの中に貧しい者がいないようにするという物質的な働きの方方によってシオンの社会を築きました。⁷

いつものように、わたしたちは完全な模範であるイエス・キリストに規範を求めることができます。J・ルーベン・クラーク管長は次のように教えています。「救い主は二つの大いなる使命を帯びて地上に來られました。一つはメシヤとしての役割を果たし、墮落に対する贖罪を成し遂げ、律法を成就することでした。もう一つは、主が肉体を持つ兄弟姉妹の間で行われた、彼らを苦しみから解放する業でした。」⁸

同じように、わたしたちの霊的な進歩は、人に対して行う物質的な奉仕と不可分のものとして結びついています。

一方が他方を補って完全なものとし

ます。一方だけで他方がないのは神の幸福の計画を模した偽物です。

主の方法

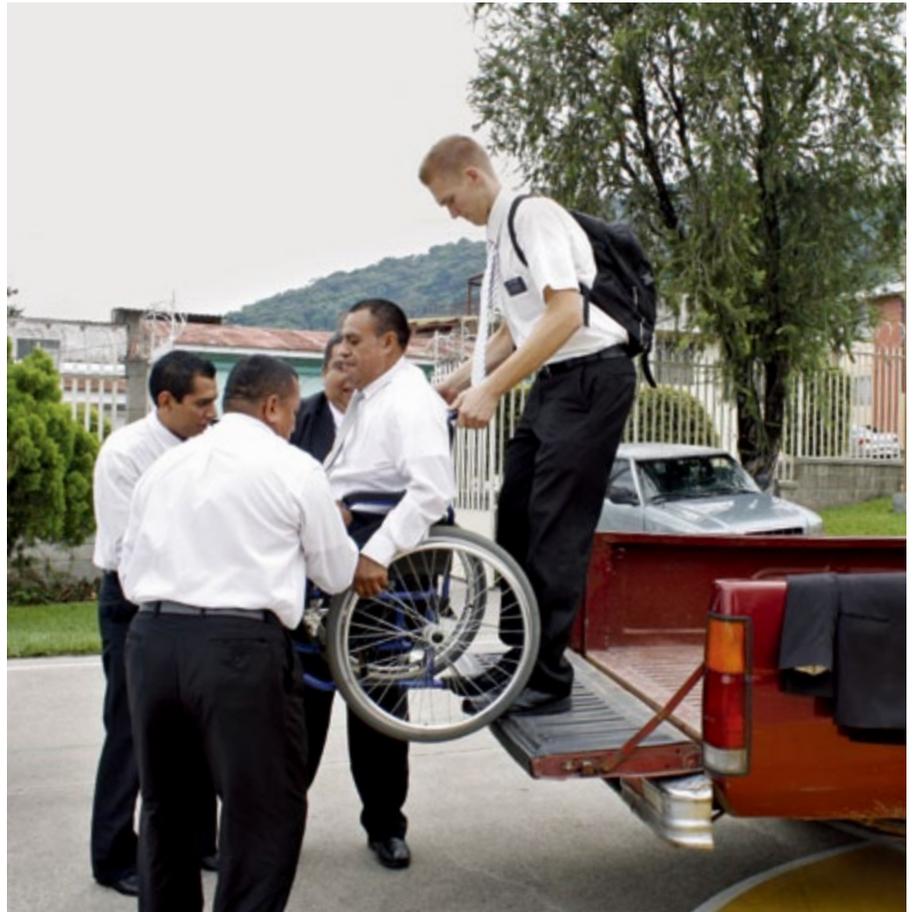
世の中には貧しい人や助けの必要な人の差し迫った必要を満たそうと至る所で努力している、善良な人々や団体がたくさん存在します。わたしたちはこのことに感謝していますが、助けの必要な人を世話するための主の方法は世の方法とは異なります。主は「わたし自身の方法で行われなければならない」とおっしゃっています。⁹ 主はわたしたちの目先の必要だけでなく、永遠の進歩に関心を寄せておられます。そのような理由から、主の方法には貧しい人の世話に加えて、自立と隣人への奉仕が常に含まれてきました。

1941年、アリゾナ州でヒエラ川が氾濫し、ダンカン渓谷が洪水に見舞われました。スペンサー・W・キンボールという名前の若いステーキ会長は顧問たちと会合を持ち、被害を見極め、ソルトレーク・シティに多額の資金援助を求める電報を打ちました。

ヒーバー・J・グラント大管長は、資金を送る代わりに3人の男性を送りました。ヘンリー・D・モイル、マリオン・G・ロムニー、そしてハロルド・B・リーです。彼らはキンボール会長のもとを訪れ、大切なことを教えました。「これは要求するプログラムではありません。自立するプログラムなのです。」

何年も後にキンボール会長は次のように述べています。「幹部の兄弟たちにとってわたしたちに〔資金を〕送るのは容易なことだったと思います。わたしの事務所で座って資金を分配するのもそう大変ではなかったでしょう。しかし、何百人もの〔地元の会員〕がダンカンへ赴き、彼ら自身で柵を作り、干し草を運び、土地をならし、必要なことをすべて行ったとき、非常に多くの良いものを得ました。それが自立です。』¹⁰

主の方法に従うことによって、キンボ



エルサルバドル・サンサルバドル

ル会長のステーキの会員たちは目先の必要を満たすだけでなく、仕え合いながら自立を養い、苦しみを和らげ、愛と一致を深めたのです。

わたしたちは皆、協力を求められている

今この瞬間にも、苦しんでいる教員が大勢います。空腹で、経済的に困窮し、あらゆる種類の身体的、情緒的、霊的な痛みや悩みと闘っています。助けを求め、救済を求めて、全精力を傾けて祈っています。

兄弟の皆さん、これはほかの人の責務だと思わないでください。これはわたしの責務であり、皆さんの責務です。わたしたちは皆、協力を求められています。「皆」とは全員を、すなわち物持ちでも貧しくても、あらゆる国のすべてのアロン神権者とメルキゼデク神権者を意味しています。主の計画においては、すべての人に何か貢献できることがあるのです。¹¹

わたしたちが日々学んでいる教訓は、物持ちも貧しい人も皆が同じように隣人を助ける神聖な義務を負っているという

ことです。福祉と自立の原則をうまく実践するには、皆がともに働く必要があるのです。

わたしたちは周りの人の必要に気づきながらも、だれか遠くの人が魔法のように現れてそれを満たしてくれるのを願うことが実に頻繁にあります。特殊な知識を持つ専門家が特定の問題を解決してくれるのを待っているのかもしれませんが、そのようにするとき、わたしたちは自分が提供できるものを隣人に渡さず、また自分自身から奉仕の機会を奪っていることとなります。専門家に何も悪いところはないのですが、現実を見詰めましょう。つまり、すべての問題を解決してもらえるほど十分な人数の専門家がそろうことは決してないのです。その代わりに、主は世界中で、神権者とその組織を用意してくださっています。そしてその傍らに、扶助協会を用意してくださっています。神権者が知っているとおり、姉妹の驚くべき賜物たまものと才能を生かせなければ、いかなる福祉活動も成功しません。

主の方法は、川辺に腰を下ろし、水が流

れ去るまで渡るのを待つことではありません。ともに集まり、袖をまくって仕事に取りかかり、試練という川を渡るために橋を架けたり船を作ったりすることです。シオンの男性であり神権者である皆さんこそ、靈感を受けた福祉プログラムの原則を実践することによって、進み出て聖徒を助けられる人々です。皆さんの使命は、目を開けて、神権を用いて、主の方法で仕事に取りかかることです。

地上で最も大いなる組織

世界大恐慌の間、ハロルド・B・リーは当時蔓延^{まんえん}していたひどい貧困や憂い、飢えに対処する方法を見いだそうと懸命に努力していました。そしてこの件について主に尋ねました。「この状況に対処するために……どのような組織が必要でしょうか。」

すると「まるで主が〔彼に〕次のようにおっしゃったかのようでした。『息子よ、見なさい。あなたにはほかにどのような組織も必要ない。わたしは地の面^{おもて}で最も大いなる組織をあなたに与えている。神権組織よりも大いなるものはない。あなたのなすべきことは、神権を用いて業を成し遂げることである。それだけである。』」¹²

わたしたちの時代においても、そこが出发点です。すでに主の組織が設けられています。わたしたちの仕事はそれをするように用いるかを決めることです。

まずなすべきことは、主がすでに明らかにしておられる事柄に精通することです。自分は知っていると思うべきではありません。幼子^{おきなご}のような謙遜^{けんそん}さをもって福祉の業に取り組む必要があります。助けの必要な人を世話するための主の方法の土台となる教義を、すべての世代が改めて学ばなければなりません。長年にわたって多くの預言者が教えてきたように、教会の福祉の原則は単なる良いアイデアではありません。神が明らかにされた真理であり、困っている人を助けるための主の方法なのです。



イングランド・レスター

兄弟の皆さん、最初に、明らかにされている原則と教義を研究してください。教会の福祉に関する手引きを読んでください。¹³ インターネットウェブサイト providentliving.org を活用してください。『リアホナ』2011年6月号に掲載された教会の福祉計画に関する記事を読み返してください。主の聖徒たちに必要なものを与えるための主の方法を知ってください。助けの必要な人を世話し、隣人に奉仕し、自立するという原則がどのような形で補い合うかを学んでください。自立するための主の方法には、教育、健康、職業、家計管理、霊的な力など、生活の様々な側面がバランスよく含まれています。現代の福祉プログラムに精通してください。¹⁴

教会の福祉の教義と原則を研究したら、学んだことをあなたが管理する義務を負っている人々の必要に当てはめるように努めてください。つまりたいいの場合、その方法を自分で見いだしていかなければならないということです。どの家族も、どの会衆も、世界のどの地域も、皆それぞれ異なっています。教会の福祉におい

ては、すべてに当てはまるような答えはありません。

皆さんは主の教義と一致し自分の地域の状況に合った計画を立てなければなりません。神の福祉の原則を実践するために、常にソルトレーク・シティーに目を向ける必要はありません。そうではなく、手引きと、皆さんの心と、天に目を向ける必要があります。主の靈感を信頼し、主の方法に従ってください。

結局のところ、皆さんは自分の地域で、キリストの弟子たちがあらゆる神権時代に行ってきたことを行わなければなりません。すなわち、ともに話し合い、利用できるあらゆる手段を使い、聖霊の導きを求め、主に確認を求め、その後、袖をまくって仕事に取りかかるのです。

もしこの規範に従うなら、主の方法でだれを、何について、いつ、どこで助ければよいか具体的な導きを受けられると約束します。

主の方法で助けることがもたらす祝福

教会の福祉すなわち、主の方法で助けることに関する預言者の約束と祝福は、主が御自分の子供たちに宣言しておられる中で最もすばらしい崇高なものです。「飢えた者にあなたのパンを施し、苦しむ者の願いを満ち足らせるならば、あなたの光は暗きに輝き、あなたのやみは真昼のようになる。主は常にあなたを導〔か〕れる。」¹⁵

物持ちでも貧しくても、どこに住んでいようとも、わたしたちは皆、互いを必要としています。自分の時間、才能、手段をささげることによって、わたしたちの霊は成熟し、精錬されるからです。

主の方法で助けるというこの業は、教会のリストに載っている、数あるプログラムの一つではありません。なおざりにできず、無視できないものです。わたしたちの教義の中心を成すものであり、宗教の真髄なのです。兄弟の皆さん、神権者であるわたしたちには、神権を用いて業を成

し遂げるという大いなる特権があります。より自立すること、助けの必要な人をもっとよく世話すること、思いやりに満ちた奉仕を行うことから心や顔を背けてはいけません。

物質的なことは霊的なことと結びついています。神はこの現世での経験とその中で直面する物質的な問題を、わたしたちが成長して天の御父の望まれるような人物になるための実習の場として与えておられます。主の方法に従い主の方法で助けるという大いなる義務と、それによってもたらされる大いなる祝福をわたしたちが理解するよう、イエス・キリストの御名によって祈ります、アーメン。■

注

1. 教義と聖約 42:29, 30
2. 教義と聖約 52:40
3. 教義と聖約 104:18
4. マタイ 22:36-40 参照
5. 教義と聖約 29:34
6. トーマス・マートン, *Thoughts in Solitude* (1956年), 46
7. モーセ 7:18
8. J・ルーベン・クラーク・ジュニア, *Conference Report*, 1937年4月, 22
9. 教義と聖約 104:16. 15節も参照
10. スペンサー・W・キンボール, *Conference Report*, 1974年, 4月, 183, 184
11. モーサヤ 4:26; 18:27 参照
12. ハロルド・B・リー, 福祉農業集会における説教, 1970年10月3日, 20
13. 『手引き 第1部—ステーク会長とビショップ』第5章「教会福祉の管理」; 『手引き 第2部—教会の管理運営』第6章「福祉の原則と指導」; 『主の道にかなない助けをなす福祉に関する指導者用ガイド』(冊子, 2009年) 参照
14. グレン・L・ラッド長老の著書 *Pure Religion: The Story of Church Welfare since 1930* (教会配達サービスより入手可能) は、主の福祉プログラムの教義と歴史を研究するのによい
15. イザヤ 58:10-11. 7-9節も参照



大管長会第一顧問

ヘンリー・B・アイリング管長

神権に対する備え—— 「君の助けが必要なんだ」

経験不足を気に病むのではなく、主の助けによってどのような者になれるかを考えてください。

愛する兄弟の皆さん、神の神権者が集うこの世界規模の集会で皆さんとともに集えることをうれしく思います。今夜、わたしは神権に対する備えについて話します。自身を備え、人を備えさせることについてです。

わたしたちは時々「自分はこの神権の割り当てに備えができていだろうか」と自問します。「はい、あなたはずっと備えてきました」というのがわたしの答えです。今日わたしは、皆さんが備えられていることに気づき、勇気を得られるように助けます。

御存じのように、アロン神権は備えの神権として定められています。アロン神権者の大多数は、12歳から19歳までの執事と教師と祭司です。

神権に対する備えはアロン神権者の年代のときに行われると考えがちです。しかし、生まれる前に天の御父の王国で御父のひざもとで学んでいたときから、御父はわたしたちを備えてこられました。今夜もわたしたちを備えておられます。わたしたちが御父を受け入れるかぎり、御父は備え続けてくださるでしょう

前世においても、現世においても、神権に対する備えの目的は、神権者自身と神

権者が神に代わって仕える人々を、永遠の命にふさわしくすることです。前世での最初のレッスンには、イエス・キリストと贖いを中心とした救いの計画が間違はなく含まれていたでしょう。わたしたちは救いの計画を教えられただけでなく、天で会議に出席してその計画に従うことを選んだのです。

誕生のときに忘却の幕がわたしたちの記憶を覆うため、かつて学び堅持したその教えを、現世で学び直す必要があります。この世における備えの一つは、その大切な真理を見だし、聖約によりその真理への決意を新たにすることです。そうするためには、信仰と謙遜と勇気が求められます。同時に、真理をすでに見いだして分かち合ってくれる人たちの助けも必要です。

それは両親や宣教師や友人かもしれません。しかしその助けはわたしたちの備えに欠かせません。神権に対する備えには常にほかの人が関与します。福音を受け入れる機会をくれ、それから福音が心にしみ込むように、聖約を守ることを選択する機会をくれる備えのできた人たちです。永遠の命にふさわしくなるために、現世での奉仕には、心と、勢力と、力を尽



くして努力すること、そして一緒に神のみもとに帰るために人々を備えさせる努力をすることが含まれなければなりません。

ですから人々に仕え、教える機会はこの世における神権に対する備えの一部なのです。教会の教師となること、賢く愛情深い父親になること、定員会の会員になること、主に仕える宣教師となることが含まれるでしょう。主は機会を下さいます。しかし、備えることができるかどうかは、わたしたち次第です。今夜、神権に対する備えをするために必要な、重要な選択について明確に示したいと願っています。

訓練する人と訓練を受ける人がともに良い選択をするためには、主が御自身の僕である神権者をどのように備えられるかを理解する必要があります。

第1に、この世の目には、あるいは本人の目にさえも弱く純朴な者に見える人を、老若ともに、主は召されます。主は目に見える彼らの弱さを強さに変えることができになります。そのことを理解すると、賢明な指導者は訓練方法を変えるように

なります。また神権者も、与えられた成長の機会に対する態度を変えます。

幾つか例を見てみましょう。わたしはかつて大きなワードの未熟な祭司でした。ある日曜の午後、ビショップから電話があり、こう言われました。「時間があれば一緒に来てくれないか。君の助けが必要なんだ。」ビショップは、ある女性を訪問するので、同僚として来てほしいと言いました。わたしは彼女のことを知りませんでした。彼女には食物がなく、もっと上手な金銭管理を学ぶ必要があるということでした。

ビショップに立派な顧問が二人いたことは承知しています。二人とも成熟した経験豊富な男性でした。一人の顧問は大企業の所有者であり、後に伝道部会長と中央幹部に召されました。もう一人の顧問は有名な裁判官でした。

わたしは祭司定員会のビショップの第一補佐として召されたばかりでした。ビショップはわたしが福祉の原則を何も分かっていないことを知っていました。

金銭管理についてはなおさらです。小切手を使ったことも、銀行口座を持ったことも、家計簿を見たこともありませんでした。そのように未熟でありながらも、ビショップは本気で「君の助けが必要なんだ」と言っているのだと感じたのです。

今ではその靈感されたビショップの言葉の意味が分かります。ビショップは一人の神権者を備える絶好の機会が来たことを知っていました。その未熟な少年が将来管理ビショップリックの一員になることは予見していなかったことですが、その日、そしてその後数年にわたり、ビショップは偉大な約束のある備えのプロジェクトとして、わたしを訓練してくれました。

彼は楽しんでるようでしたが、それは彼の務めでした。夫を亡くし助けが必要な女性を訪問した後、帰宅する途中で彼は車を止めました。そして、使い込んだ、印がたくさん付いた聖典を開きました。彼はわたしを優しく正しました。もっと学習し、もっと知識を得る必要があると言い

ました。わたしは十分弱く純朴であるので素直に教えを受けるだろうと考えていたはずですが。今でも彼が何を教えたか覚えています。しかし、わたしがさらに学び成長できると深く信じてくれていたことを、もっと鮮明に覚えています。

彼はそのとき、わたしの奥にある可能性を見ていました。弱く純朴であると感じ、主の助けを望み、助けが得られると信じる者の中にある可能性を見ていたのです。

ビショップ、伝道部会長、父親の皆さんは、そのような可能性に基づいて選択してください。最近、ある執事定員会会長が断食証会あかしで証をしたときに、そのような場面を見ました。彼はもうすぐ教師に聖任され、自分の定員会を去ることになっていました。

彼は、定員会の会員たちが人格と力において成長したことを、感情に声を震わせて証しました。彼らの奉仕をたたえました。そして、神権を受けたばかりで圧倒されている執事たちを助けることができたのは、自分も神権者になったばかりのころに圧倒されたからだと言いました。

自分の弱さを実感することで、彼はもっと忍耐力と思いやりを持つことができ、それによってもっとうまく人を力づけ、仕えることができました。この2年で経験を積み、知恵を得ました。2年前の自分が何を必要としていたかをはっきり思い出すことによって、会長として働く助けを得ることができると分かりました。時が過ぎ、成功を経験することで、そのような記憶が薄れるときに、彼もわたしたちも将来試練を経験するでしょう。

パウロは神権における後輩同僚であるテモテへの勧告の中で、そのような危険性を予測していたようです。テモテ自身の神権に対する備えと、人を備えさせる主の業を助けることについて、テモテを励まし、教えました。

パウロは若い同僚であるテモテにこう語りました。

「あなたは、年が若いために人に軽んじ

られてはならない。むしろ、言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になりなさい。

わたしがそちらに行く時まで、聖書を朗読すること、勧めをすること、教えることに心を用いなさい。

……あんしゅ按手を受けた時、預言によってあなたに与えられて内に持っている恵みの賜物たまものを、軽視おしよしてはならない。……

自分のことと教のことに気をつけ、¹それらを常に努めなさい。そうすれば、あなたは、自分自身とあなたの教を聞く者たちとを、救うことになる。」²

パウロの助言はわたしたち全員のためになります。経験不足だからと気に病むのではなく、主の助けによってどのような者になれるかを考えてください。

神権に対する備えをする中でパウロがわたしたちによく味わうように熱心に勧めた教義は、キリストの御言葉と、聖霊を受けるふさわしさを身に付けることです。そうすれば、将来どのような状況に置かれても、主がどのような奉仕を期待しておられるかが分かり、それを実行する勇気を得ることができるでしょう。

わたしたちは時とともにさらに難しくなる神権の奉仕に備えています。肉体と頭脳は年齢とともに衰えます。読んだことから学び、記憶する能力は落ちていきます。主が期待しておられる神権の奉仕を行うには、生涯をかけて日々修練を積む必要があります。わたしたちは、日々の奉仕を通して信仰を築くことによって、その試験に備えることができます。

主は「神権〔の〕誓詞と聖約」³と御自身が呼んでいるものによって、備えをする機会を与えておられます。

それは、神のすべての戒めを守り、神がここにいたらなさるような奉仕を行う、という神との聖約です。その標準にできるかぎり従うことによって、最後まで堪え忍ぶために必要な霊的な強さが築かれます。

偉大な神権の訓練者たちが、その強さを築く方法を示してくれました。それは、

もうここでやめようという気持ちを抱かせる疲れや恐れを克服することを習慣にすることです。主に仕える偉大な助言者たちは、ほかの人が足を止めそうなときでも続けることから霊的な持久力が得られることを示してくれました。

若いときにそのような霊的な力を身に付けた偉大な神権指導者である皆さんは、肉体的に衰えたとしても、その力を維持しています。

わたしの弟は、あるとき仕事でユタ州の小さな町に行きました。ホテルで1本の電話を受けました。弟にとっても、電話をかけてきたスペンサー・W・キンボール大管長にとっても、忙しい一日を終えた夜のごとでした。大管長はこう始めました。「近くに来ているそうだね。夜も遅いし、もう寝るところかもしれないけれど、……助けてくれないか。町中の礼拝堂の状況を確かめに行くのに同僚が必要なんだ。」その夜、弟は大管長に同行しました。弟は礼拝堂の維持管理についての知識もなく、なぜキンボール大管長が多忙な一日の終わりにそのようなことをするのか、なぜ彼に助けが必要なのか一切分からずに大管長について行ったのです。

何年も後、わたしは日本のホテルにいて、同じように夜遅くに電話を受けました。当時わたしは教会教育委員長の責任に就いたばかりでした。ゴードン・B・ヒンクレー大管長が日本での割り当てで、同じホテルのどこかに滞在していることは知っていました。わたしが受話器を取ったのは、全力を出してすべてを終えて疲れ果て、これから寝ようとベッドに横になった直後でした。

ヒンクレー大管長は明るい声で言いました。「チェックするように頼まれた原稿をわたしが読んでいるときに、あなたは寝ようとしているのですか。」わたしは起き上がり、行って働きました。ヒンクレー大管長の方が、わたしよりもずっと上手に原稿をチェックできることを知っていながらそうしました。しかし大管長の声を聞く



フィリピン・ダバオ

と、どういうわけか、大管長にはわたしの助けが必要なのだと感じたのです。

トーマス・S・モンソン大管長は、ほとんどすべての会議の最後に、大管長会秘書にこう尋ねます。「わたしは予定どおりに自分の務めを終えていますか。」そして、「はい、大管長、すべて順調ですよ」という返事を聞くと、大管長はいつもほほえむのです。モンソン大管長の満足そうな笑顔は、わたしにとっては一つのメッセージです。その笑顔を見るとわたしは、「自分の割り当てについて、もっとできることはないだろうか」と考えます。それから、執務室に戻って働くのです。

時の経過と年齢のため誓詞と聖約を守るのが困難になるときにどう備えたらよいかを、偉大な教師たちが示してくれました。まだ健康と強さがある間に、自分でできると思う以上に熱心に働くために、鍛錬する方法を示してくれました。

わたしは四六時中完璧な僕であることはできません。しかし、自分でできると思う以上の努力をしてみることはできます。そのような習慣を築いてきたので、これから試練に遭うときに備えられているでしょう。皆さんもわたしも、人生が終わりに近づいたときに必ず訪れる試験の中で誓詞と聖約を守り通す力を備えることができましょう。

教会教育管理会の会議でそのような場面を見ました。スペンサー・W・キンボール

大管長は、当時、ヨブにしか理解できないような健康上の一連の試練を受けながら、長年その管理会で奉仕していました。その朝、彼は議長を務めていました。

大管長は突然、話をやめ、いすに崩れ落ち、目を閉じ、うなだれました。わたしは近くに座っていました。ホランド長老がわたしたちの隣にいました。二人とも助けようと立ち上がりました。経験はありませんでしたが、いすごと抱え上げて、すぐそばの彼の執務室に運び込むことにしました。

大管長は、このような窮地にあって、わたしたちの教師となりました。二人でいすの片側ずつを抱えて、会議室から廊下に出ました。彼はもうろうとしながらも目を半開きにして、言いました。「気をつけて。二人とも腰を痛めないように。」執務室の入り口に来たとき、彼はこう言いました。「会議を中断させてまったく申し訳ない。」そして執務室に入って数分過ぎたころ、わたしたちを見上げて「君たちは会議に戻った方がよいのではないですか」と言ったのです。

会議に出ることを主が望んでおられることを知り、わたしたちはその場を去り、会議室に急いで戻りました。キンボール大管長は少年時代から、持久力の限界を超えて主に仕え、主を愛してきました。それは習慣としてしっかり根付いていたので、その力が必要なときに、いつでも発揮することができました。彼は備えら

れていました。だからこそ、誓詞と聖約を守るためにどのように備えればよいかを、すなわちあまり重要でない小さな仕事に見えるようなことにも長年にわたり全力を注ぎ続けることによって備えられるということを、わたしたちに教え、示すことができたのです。

永遠の命にふさわしい者となり、訓練するよう召されたすべての人々にふさわしい者となるために、神権の聖約を守れるように祈ります。できることをすべて行うなら、神は皆さんの力と知恵を増してくださると約束します。神は皆さんを備えてくださいます。

父なる神は生きておられ、皆さんを愛しておられることを証します。神は皆さんを御存じです。神と、復活した神の御子であるイエス・キリストは、経験の浅い少年ジョセフ・スミスに御姿を現されました。御二方は完全な福音と真実の教会を回復することを、ジョセフに託されました。必要なときにジョセフを励まされました。ジョセフを落ち込ませることにならうとも、彼を高めるために、愛ある懲らしめを感じるようにさせられました。御二方は彼を備えられました。そして今、すべての神権の奉仕の目的であり理由である日の栄えの栄光に向かって働き続ける力を得られるように、わたしたちを備えておられます。

神が皆さんを神と人への奉仕に召し、備える中であって授けられた栄えある機会に皆さんが気づくことができるように、わたしは祝福を残します。わたしたちの愛ある指導者であり教師であるイエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. 2ニーファイ32:3-6 参照
2. 1テモテ4:12-14, 16
3. 教義と聖約84:39



トーマス・S・モンソン大管長

一人でも気高く立ち

勇敢であり、信じることを擁護する備えができますように。

愛する兄弟の皆さん、今晚皆さんとともに集えることはこの上なくすばらしい特権です。神の神権を持つわたしたちは、強いきずなと兄弟愛で結ばれています。

教義と聖約第121章36節にこうあります。「すなわち、神権の権利は天の力と不可分のものとして結びついて〔いる〕。」わたしたちは何とすばらしい賜物を授かっているのでしょうか。「天の力と不可分のものとして結びついて〔いる〕」神権を持っているのです。しかし、この貴い賜物には、特別な祝福だけでなく厳粛な責任が伴います。持っている神権にふさわしい生き方を常にしなければなりません。わたしたちは、滅びに至るような道に誘い込もうとする誘惑に囲まれた時代に生きています。このような道に入り込まないためには、決意と勇気が必要です。

わたしは、世の中のほとんどの人が教会と同じ標準に従っていたころのことを覚えています。皆さんの中にも覚えている人がいるでしょう。しかし、今は違います。最近、2008年夏に行われたある調査に関する『ニューヨークタイムズ』(New York Times)の記事を読みました。ノートルダム女子大学の著名な社会学者が研究班を率いて、アメリカ各地の230人の若者を対象に、詳しい聞き取り調査を行ったものです。調査結果は全世界の若者にも当てはまると考えていいでしょう。

多くを物語る記事から、ほんの一部を

紹介します。

「善悪の問題や道徳的な判断の難しさ、人生の意義に関する聞き取り調査は自由回答形式で行われた。とりとめのない回答から……若者はこのような問題に何か気の利いたことを言おうとあれこれ考えることが分かる。しかし、彼らには、こうした質問に答えるための概念や語彙そのものがないのだ。

道徳的な判断の難しさに直面したときのことについて述べるようにという質問では、若者の3分の2が質問に答えられないか、または道徳とはまったく無関係な問題を述べている。アパートを借りるお金があるかとか、コイン駐車場の精算機に入れるだけの十分なお金を持っているかといった説明だ。」

記事はこう続きます。

「たいていの若者が繰り返し立ち返るそもその前提は、道徳的な選択は個人の好みの問題だということである。回答者の典型的な答えは『個人の問題ですから。その人個人の責任でしょう。わたしはどうこう言える立場ではありません』といったものだった。

多くの若者は権威に盲目的に従うことを拒否して極端な自由に走り、〔こう言う。〕『気分がいいだろうなと思うことや、何となくやりたいことをします。感じたままに行動するしかないじゃないですか。』

聞き込み調査を行った人が特記しているのは、調査を受けた若者の大半が『学

校でも公共機関でも家庭でも、道徳的な感性を養うためのよりどころとなる知識を得ていない』ということだった。』¹

兄弟の皆さん、今わたしの言葉を聞いている人の中には、道徳的に正しいこととそうでないことの区別に疑問を抱く人も、神の神権を持つ者として期待されていることに疑いを挟む人もいないはずですが。わたしたちは神の律法を学んできましたし、これからも学び続けます。皆さんがほかでどんなことを見聞きしようと、神の律法は変わりません。

日々の生活で信仰の試しを逃れることはまずできません。何が良くて何が悪いのかといったことに関して、時に多くの人の中でほんの少数のグループに入ることもあれば、たった一人になることすらあります。たとえ孤立することになったとしても、信仰を曲げずに道徳的な価値観を貫く勇気があるでしょうか。神の神権を持つ者として、いかなる問題に遭遇しようと、勇気をもってそれに対処できなければなりません。詩人テニソンの言葉を心に留めてください。「わたしの強さは十人力。それは心に汚れがないからだ。」²

著名人や、様々な理由で世の注目を浴びている人が、宗教全般を馬鹿にしたり、時にはとりわけこの教会を嘲笑(ちやうしやう)的にしたりする傾向がだんだん強くなっていきます。しっかりと根を下ろした証がないと、自分の信仰に疑問を抱いたり、決意が揺らいだりすることになりかねません。

ニーファイ第一書第8章にあるリーハイの命の木の示現で、リーハイは、ほかの人たちに加えて、やって来て命の木の実を食べるまでは鉄の棒をつかんでいた人を見ました。命の木の実は、わたしたちが知っているように、神の愛を表しています。しかし悲しいことに、彼らの中には、木の実を食べた後で、「大きく広々とした建物」の中にいる人から指さされてあざけられたために恥ずかしく思い、禁じられた道に踏み込んで姿が見えなくなってしまった人たちがいました。「大きく広々とした建



物」の中にある人とは、人の子の高慢を表します。³ あざけり笑うのは、敵対者が使う有力な武器です。兄弟の皆さんにもう一度尋ねます。このような難しい状況に置かれても、強く固く立つ勇気があるでしょうか。

わたしが信念に従う勇気を問われる経験を初めてしたのは、第二次世界大戦終盤にアメリカ海軍で働いていたときだったと思います。

海軍の新兵訓練所での経験は生易しいものではありませんでした。だれにとっても耐え難かったと思います。最初の3週間、わたしは命が危険にさらされていると感じました。海軍はわたしを訓練しようとしているのではなく、殺そうとし

ていると思ったほどです。

最初の1週間が過ぎて初めて迎えた日曜日のことをわたしは決して忘れないでしょう。兵曹長からうれしい知らせがありました。カリフォルニアの冷たい風に吹かれながら練兵所に気をつけの姿勢で立つわたしたちに、兵曹長の命令が聞こえてきたのです。「今日は全員教会に出席する。全員といってもわたしは別だ。わたしは休む。」そして、大声で言いました。「カトリックの者は、キャンプ・ディケーターで集会を行う。3時まで戻って来るな。前へ進め。」たくさんの兵士が行進して行きました。兵曹長は次に「ユダヤ教の者は、キャンプ・ヘンリーで集会を行う。3時まで戻って来るな。前へ進め。」先ほ

どよりも小さな集団が動き出しました。次に兵曹長は言いました。「残ったプロテスタントの者は、キャンプ・ファラガットの講堂で集会を行う。3時まで戻って来るな。前へ進め。」

こう言われるのではないかと即座に思いました。「モンソン、おまえはカトリックではない。ユダヤ教でもない。プロテスタントでもない。おまえはモルモンだ。だから、ここに立っている。」わたしはまったくの孤独でした。確かに勇気も覚悟もありました。でも、孤独でした。

そのとき、聞いたことがないような、兵曹長の優しい言葉が耳に入りました。わたしの方を見て、こう尋ねたのです。「おまえたちは一体どこに所属しているのかね。」練兵場でわたしの横や後ろにだれかが立っていることをそのとき初めて知りました。各々がほとんど同時に言いました。「モルモンです。」振り返ると一握りの水兵がいました。それを見たときの喜びは、どう表現していいかわかりません。

兵曹長は頭をかき、当惑した表情を浮かべて結局こう言いました。「よし、行ってどこかに集会の場所を探せ。3時まで戻って来るな。前へ進め。」

前進しているとき、何年も前に初等協会で習った歌の歌詞が心に浮かびました。

モルモンとして勇気を持つとう。

一人でも気高く立とう。

福音を固く守り、

人々に知らせよう。

予期していたのとは違う展開になりましたが、それでも必要とあらば、わたしは喜んでそこに一人で立っていたことでしょう。

その日以来、だれも後ろに立っていません。自分一人で立ったことが何度かありました。強く忠実であり続けると、ずいぶん昔に決意していたことに感謝します。そして確かに、そのような場面に遭遇したときには、教会を擁護する備え



がいつもできていました。

兄弟の皆さん、いつ何があってもおじげづくことのないように、1987年にエズラ・タフト・ベンソン大管長(当時)がカリフォルニアの大勢の会員に向けて話した言葉を紹介しましょう。ベンソン大管長はこう言いました。

「すべての時代に、預言者たちは時の回廊を通して、わたしたちの時代を見下ろしていました。無数の死者やこれから地上で生を受ける人々が、わたしたちに目を注いでいます。確かに、皆さんはえり抜き世代なのです。……」

6,000年近くの間、神は主の再臨に先立つ終わりの時代に皆さんが世に来るよう、皆さんをとどめておられたのです。道から離れていく人もいられるでしょう。しかし、神の王国は、その頭であるイエス・キリストの再臨を迎えるために完全なまま残るでしょう。

この時代の人々は、主が水で地を清められたノアの時代のように邪悪ですが、一つの点で大きく異なっています。それは、神は、この終わりの時に王国に勝利をもたらすのを助けるために最強の子供たちをとどめておられたということです。』⁴

そうです、兄弟の皆さん、わたしたちは神の最強の子供たちを代表しているのです。天の御父がわたしたちに備えてくださっている栄えある祝福のすべてにふさわしくなる責任があるのです。どこへ行こうとも、神権はわたしたちとともにあります。

わたしたちは聖なる場所に立っているでしょうか。皆さんにも神権にもふさわしくない場所にあてて行ったり活動に参加したりすることによって皆さん自身と皆さんの神権を危険にさらす前に、それがどんな結果になるかを考えてください。わたしたち一人一人はアロン神権を受けました。神権を受けたとき、天使の働きの鍵を持つ力を受けました。ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう述べています。

「皆さんと、皆さんに託される天使の働きとの間に垣根を築くようなことは何もしてはなりません。

いかなる程度であっても、道徳の標準を破ってはなりません。不正直であってはなりません。だましたり、うそをついたりしてはなりません。神の御名をみだりに口にしたり、汚い言葉を使ったりしてはなりません。そのようなことをすると、天使の働きに携わる権利を失います。』⁵

皆さんの中に、何かにつまづいている人がいるなら、たとえそれが何であれ、戻って来る道があることを、はっきりと理解してほしいと思います。その道は悔い改めです。救い主は、そのすばらしい賜物を皆さんとわたしに与えるために、御自身の命を差し出されました。悔い改めの道は確かに容易な道ではありませんが、その約束は真実です。わたしたちはこう告げられています。「たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。』⁶「わたしは……もはや〔それ

らを〕思わない。』⁷ 何とすばらしい言葉、祝福、そして約束でしょうか。

皆さんの中に、こう考えている人がいるかもしれません。「すべての戒めに従ってもいないし、義務を全部果たしているわけでもないが、生活は順調だ。きっと祝福にもあずかれるだろう。」兄弟の皆さん、そのような生き方は長期的には通用しないことを断言します。

戒めに従わなくても祝福を受けられるだろうと以前は考えていた、という男性から数か月前に手紙を受け取りました。彼はすでに悔い改めて、福音の原則と戒めに従って生活しています。手紙の一部は無益な考え方をよく描いているので、皆さんに紹介しましょう。「わたしが(痛い思いをして)学んだのは、救い主の次の教えはまさに真実だということです。『だれも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛し、あるいは、一方に親しんで他方をうとんじるからである。あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない。』⁸ わたしはこの二つを両立しようと、だれよりも努力しました。その結果、わたしが得たのは、空虚さと、暗闇と、孤独でした。これらは、サタン^{くらやみ}の偽りと、幻想と、うそを信じる人が刈り取るものなのです。』⁸

間違った方向へ引き込むあらゆる力、間違った道を進むよう誘惑するあらゆる声に抵抗する強さを持つために、わたしたちは個人の証を持つ必要があります。12歳であれ、112歳であれ、あるいはその間の何歳であれ、皆さんはイエス・キリストの福音は真実であることを自分で知ることができます。モルモン書を読んでください。その教えについて深く考えてください。モルモン書が真実かどうか天の御父に尋ねてください。「もしキリストを信じながら、誠心誠意問うならば、神はこれが真実であることを、聖霊の力によってあなたがたに明らかにしてくださる。』⁹ という約束を、わたしたちは受けています。



末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

2011年10月現在

大管長会



第一顧問
ヘンリー・B・アイング



大管長
トーマス・S・モンソン



第二顧問
ディーター・F・ウークトドルフ

十二使徒定員会



ロバート・D・ヘイルズ



ジェフリー・R・ホランド



ラッセル・M・ネルソン



ダリン・H・オークス



M・ラッセル・バラード



リチャード・G・スコット



ボイド・K・パッカー



ジェームズ・E・ファスト



デビッド・A・ベドナー



クエンティン・L・クック



D・トッド・クリストファースン



ニール・L・アンダーセン

七十人会長会



ロナルド・A・ラスバンド



スティーブン・E・スノー



ウォルター・F・コンサー



L・ハイット・ミラー



ジェイ・E・ジェンセン



ドナルド・L・ホールストロム



タッド・R・キンスター

七十人第一定員会
(アルファベット順)



M. A. アイダカトキス



H. カロース・アマートー



L. アロンソ



S. アルテロン



B. マーティン・アーナルト



S. デビッド・バロスター



M. シェーン・ボーン



D. ジェラルド・コゼー



嵯峨 謙



G. クリスティアン・クリステンセン



R. ドン・クラーク



B. カール・クック



E. ローレンス・コープリッジ



R. クラウディオ・M. コスタ



R. リザンド・カーティス・ジュニア



T. ベンハミン・オヨス



B. ジョン・ティクソン



R. ケビン・ダンカン



F. デビッド・エバンス



R. エンリコ・ファラベラ



R. エドワード・カハレット



A. カロス・ゴディ



E. クリストエル・ゴルデン・ジュニア



W. ジェロント・グング



T. O. コット・グロー



J. ジェームズ・ハムラ



K. キース・ヒルビック



K. マーヴィン・シェンセン



L. ダニエル・ジョンソン



V. ポール・ジョンソン



E. パトリック・キアロ



E. ポール・コリカー



W. エリック・コビシユカ



J. リチャード・メイズ



B. マークス・ナカシユ



H. ブレント・ニールソン



F. アラン・ハツカー



W. ケビン・ピアソン



D. アンソニー・パーキンス



B. ポール・ハイバー



E. ラファエル・ピノ



D. フランス・ポーター



G. テール・レンランド



T. マイケル・リンクワット



G. リフ・ロビクス



W. ショセフ・シターティ



S. ユリウス・ソアラズ



E. ガーリー・ステイヤーソン



S. マイケル・U. テー



A. ショセフ・タイシエラ



E. オクタビア・テリオ



A. フアン・ウセダ



G. フランシスコ・J. ビーナス



T. W. クリストファー・ワテル



R. ウェリアム・ワーカー



F. F. マイケル・ワトソン



山下和彦



F. ホルヘ・ゼバヨス



S. クラウディオ・D. シビック



G. W. クレグ・スウィック



W. ウォルフォード・アンダーセン



青柳弘一



K. ランドール・ベネット



A. クレイグ・ガードン



A. フルース・カールソン



J. J. テビック・コーニッシュ



R. キース・エドワーズ



G. スタナレー・エリス



R. プラットリー・D. フォスター



W. リリー・ギボンズ



O. O. ピンセント・ハレルク



R. フリー・ローレンス



G. ベア・G. マーム



B. ジェームズ・マルティノ



R. ジョエル・マサカルディ



F. ケント・リチャーズ



A. クレゴリー・シェウイッター



D. ケント・ワトソン



Y. ラリー・ワイルソン

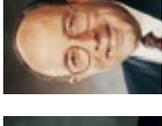
管理ビショップリック



C. リチャード・エツシリー



H. H. テビック・ハート



B. 第二顧問
キース・マクマリン



世界中の末日聖徒が「自分の言語で」総大会の説教を聞くために集まっている（教義と聖約 90：11）。写真は上左から時計回りに、南アフリカ・ヨハネスブルク、ブラジル・サルバドール、エルサルバドル・サンサルバドル、カナダ・ケベック州モントリオール、フィリピン・モンタルバン、メキシコ・ゴメスバラシオ、日本・東京の教会員たち。



モルモン書が真実であることを知れば、ジョセフ・スミスが確かに預言者で、永遠の父なる神とその御子イエス・キリストにまみえたことを知るようになります。さらに、ジョセフ・スミスを通じてこの末日に福音が回復され、アロン神権とメルキゼデク神権が回復されたことを知るようになります。

ひとたび証を得たら、その証を人に分かち合うのはわたしたちの務めとなります。皆さんの多くは世界中で宣教師として奉仕しました。若い男性の多くは、これから奉仕します。その機会のために今備えてください。伝道にふさわしくあろうと決意してください。

福音を分かち合う備えをするならば、いつでも使徒ペテロの勧告に従う用意ができるでしょう。「あなたがたのうちにある望みについて説明を求める人には、いつでも弁明のできる用意をしていなさい。」¹⁰

わたしたちは人生の中で自分の信仰を分かち合う機会に出会うでしょう。ただ、いつそのような機会に出会うかは分かりません。1957年にわたしにそのような機会が訪れました。当時は出版業界で働いており、「教会の町」と呼ばれることもあるテキサス州ダラスで開かれるビジネスセミナーで講演するように依頼を受けました。セミナーが終わってから、ダラス郊外を巡る観光バスに乗りました。様々な教会を通り過ぎながら、運転手が「左に見えるのがメソジスト教会です」「右はカトリックの大聖堂です」などと言っていました。

丘の上に建つ赤れんがの美しい建物を通り過ぎるとき、運転手は「あちらはモルモンの集会所です」と言いました。すると、バスの後方に座っていた女性が声を上げました。「運転手さん、モルモンについて少し教えてくださいませんか。」

運転手はバスを道路わきに停車させ、座ったまま後ろを振り返り、言いました。「モルモンがああ赤れんがの建物に集



ていること以外は、わたしは何も知りません。お客さんの中で、モルモンについてもう少し御存じの方はいらっしゃいますか。」

わたしはだれかが答えるのを待ちました。答えてもいい、あるいは、ぜひ答えてほしいと思っている人はいないかと、一人一人の表情をじっと見詰めましたがだれもいませんでした。そして、「あなたがたのうちにある望みについて説明を求める人には、いつでも弁明のできる用意をしていなさい」という使徒ペテロの勧めに従うかどうかは、わたし次第であることを悟りました。そして、次のことわざが真実であることを悟りました。「決断の時が来たら、準備の時は過ぎ去っている。」

それから15分くらいの間、わたしはバスに乗っている人々に、教会と教会員が信じている事柄について証を述べる特権を得ました。わたしは自分の証に、そして証を分かち合う備えができていたことに感謝しました。

神権を持つすべての人が神権を尊び、神権を授かったときに託された責任に忠実であるように、わたしは全身全霊で祈ります。神の神権を持つわたしたち一人一人が、自分の信じていることを知るようになりますように。わたしたちが勇敢であり、信じることを擁護する備えができますように。独りで立たなければならないときは、天の御父とともに立つならば決して独りではないという真実に励まされ、勇気をもってそうすることができますように。

わたしたちに与えられた偉大な賜物、すなわち「天の力と不可分のものとして結

びついて」いる神権の権利について熟考し、常にそれを擁護し、常にその偉大な約束にふさわしくあるよう決意することができますように。兄弟の皆さんが第三ニーファイにある救い主の指示に従うことができますように。「あなたがたの光を掲げて、世の人々に輝き渡るようにしなさい。見よ、あなたがたの掲げる光とは、わたしである。すなわち、わたしが行うのをあなたがたが見た、その行いである。」¹¹

わたしの話を聞くすべての人が常にその光に従い、世界中の人々が見るためにその光を掲げることができるように、イエス・キリストの御名により祈り、祝福します、アーメン。■

注

1. デビッド・ブルックス, "If It Feels Right ……," *New York Times*, 2011年9月12日付, nytimes.com.
2. アルフレッド・テニソン卿, "Sir Galahad," *Poems of the English Race*, レイモンド・マクドナルド・アルデン選 (1921年) 296
3. 1ニーファイ8:26-28 参照
4. エズラ・タフト・ベンソン, "In His Steps" (教会教育システムファイヤサイド, 1987年2月8日)。「In His Steps」, *1979 Devotional Speeches of the Year: BYU Devotional and Fireside Addresses* (1980年), 59も参照
5. ゴードン・B・ヒンクレー「神権を行使する個人のふさわしさ」『リアホナ』2002年7月号, 58-59 参照
6. イザヤ1:18
7. エレミヤ31:34
8. マタイ6:24
9. モロナイ10:4
10. 1ペテロ3:15
11. 3ニーファイ18:24



大管長会第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長

証人

わたしたちの務めをどれほどよく果たしているか、どうすればさらによく果たせるかを知るうえで、モルモン書は最良の指針となります。

この安息日に末日聖徒イエス・キリスト教会の総大会で話す機会があることに感謝しています。すべての教会員には、同じ神聖な務めがあります。わたしたちはバプテスマを受けたときにその務めを受け入れ、それを果たすと約束しました。モルモン書の偉大な預言者アルマの言葉から、わたしたちが神に次のように約束したことが分かります。「悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めることを望み、また神に贖われ、第一の復活にあずかる人々とともに数えられて永遠の命を得られるように、いつでも、どのようなことについても、どのような所においても、死に至るまでも神の証人にな[る]。』¹

これは神聖な務めであり、神の輝かしい約束です。今日わたしは、励ましのメッセージを伝えます。モルモン書はこの務めを分かりやすく説明しているだけでなく、永遠の命への道においてわたしたちを導いてくれます。

わたしたちはまず、愛を示すと約束しました。第2に、神の証人になると約束しました。第3に、堪え忍ぶと約束しました。これらの務めをどれほどよく果たしているか、どうすればさらによく果たせるかを知るうえで、モルモン書は最良の指針

となります。

愛を示すことから始めましょう。最近どんなことがあったか思い出してください。多くの人々が「奉仕の日」に参加しました。全世界で何千もの奉仕の日が計画されました。

聖徒たちはどんな奉仕を計画するか評議会で祈って決めました。だれのためにどのような奉仕をし、だれを誘えばよいか分かるよう、神に尋ねたのです。シャベルや飲み水を忘れないようにとも祈ったことでしょう。何より大切なのは、奉仕する人も奉仕を受ける人も皆が神の愛を感じられるようにと、彼らが祈ったことです。

こうした祈りがこたえられたことを、少なくとも一つのワードについて知っています。そのワードでは120人以上の会員が奉仕に参加しました。地域のある教会の敷地が3時間で見違えるようにきれいになり、きついけれども楽しい作業でした。教会の牧師は感謝していました。その日一緒に働いた人々たちの中には連帯感と愛がはぐくまれました。草取りや植え込みの剪定が楽しかったと言う人もいました。

モルモン書の言葉を読むと、彼らがなぜそのような喜びを感じたのかが分かります。「あなたがたが同胞のために務めるのは、とりもおさず、あなたがたの神の

ために務めるのであるということを悟[る]』² ようにと言ったのはベニヤミン王です。また、「慈愛はキリストの純粋な愛であって、とこしえに続く。そして、終わりの日にこの慈愛を持っていると認められる人は、幸いである」³ とモルモン書で教えたのはモルモンでした。

皆さんが約束を守るならば、主は皆さんと交わした約束を守られます。主のために人に奉仕するならば、主は皆さんに主の愛を感じさせてくださいます。そして、慈愛を感じることは、やがて皆さんの人格の一部となるのです。人への奉仕をたゆまず続ける人は幸いを得る、というモルモンの約束を心に感じるようになるでしょう。

皆さんは愛を示すようになると神に約束しましたが、どこにしようと生涯の証人になるとも約束しました。この約束を守るためにいちばん役に立つ手引きもまた、モルモン書なのです。

ある大学の卒業式でスピーチをするよう招かれたことがあります。学長はゴードン・B・ヒンクレイ大管長を招待したかったのですが、大管長の都合がつかないことが分かりました。そこでわたしが招かれたというわけです。当時わたしは、十二使徒定員会に加わったばかりでした。

わたしを話者に招いた人は、わたしの使徒としての務めについて理解するにつれ不安になってきました。彼女はわたしに電話をかけ、わたしの務めがイエス・キリストの証人となることだと、今になって分かったと言ってきました。

そんな話は卒業式でしないようにときっぱり言い、その大学では、神の存在を否定する人を含めてあらゆる信仰を持つ人を尊重している、と説明しました。そして、「当大学であなたの義務を果たしていただくわけにはいかないのです」と念を押しました。

電話を切ったわたしは深刻な疑問を感じました。スピーチを辞退します、と大学側に伝えるべきでしょうか。卒業式まであと2週間しかありません。わたしが行

くことはすでに発表されています。わたしが約束を守らなかったとしたら、教会の評判にどんな影響が及ぶでしょうか。

神が何をしてほしいとっておられるか知るために祈ると、答えがありました。ニーファイやアビナダイ、アルマ、アミュレク、モーサヤの息子たちのようにすべきだと悟ったのです。彼らは、命の危険にさらされながらも雄々しくイエス・キリストを証しました。

ですから、問題はどうか準備するかどうかだけでした。わたしはその大学についてできるだけ調べました。話す日が近づくにつれて不安は募り、祈りにも力が入りました。

やがて、紅海の水が分かれるような奇跡が起きました。あるニュース記事を見つけたのです。教会が人道支援活動として世界中で行っているようなことを、その大学も実践して表彰されていたのです。そこでわたしは、教会もその大学も、困窮している人々を助けるためにどんなことをしてきたかという話をしました。そして、教会とその大学による奉仕を受けた人に注がれた祝福の源はイエス・キリストであると確信している、と述べたのです。

話し終えると、聴衆は皆立ち上がり拍手喝采してくれました。少し異常に思えるほどでした。驚きましたが、まだ少し不安でした。アビナダイに起きたことを思い出したからです。彼の証を受け入れたのはアルマだけでした。しかし、その晩開かれた盛大な夕食会で学長が、わたしの話の中に神の言葉を聞いた、と語るのを耳にしました。

このように奇跡的に苦境を乗り越えられたことは、キリストの証人としてのわたしの経験ではまれですが、神の証人となるうえで、モルモン書が皆さんの人格や力に影響を及ぼすことは確かです。この書物に出てくる教義と雄々しい模範は、皆さんに勇気と導きと自信を与えてくれることでしょう。

イエス・キリストの御名と福音を宣べ伝えている宣教師は皆、毎日モルモン書



の言葉をよく味わうことによって祝福を受けます。救い主の証を子供の心に伝えようと苦勞している親は、モルモン書の言葉と影響力を家庭と家族全員の生活にもたらす方法を探し求めるとき、導きを受けるでしょう。このことは実証されています。

この奇跡が実際に起きていることは、わたしが出席するあらゆる聖餐会とあらゆる教会のクラスで目にすることができま。話者や教師は聖文、特にモルモン書を愛し、よく理解しています。そして自分の証を心の底から述べていることがはっきりと分かります。確信をもって教え、力強く証しています。

バプテスマの約束の3つ目を教会員がよく守っていることは、わたしには分かっています。わたしたちは堪え忍ぶと聖約しました。生きているかぎり神の戒めを守るという聖約です。

末期癌だと診断された旧知の女性を病室に見舞ったことがあります。わたしは幼

い二人の娘を連れていました。彼女が娘たちのことを認識できるとは思っていませんでした。わたしたちが入ると、彼女のベッドを囲んで家族が立っていました。

彼女は目を上げるとほほえみました。妻とわたしが娘たちを連れてのを見たときの彼女の表情は決して忘れません。彼女は娘たちをベッドの方へ手招きしました。そして起き上がり娘たちを抱き締めると、自分の家族に紹介したのです。二人の少女がどんなにいい子か話しました。宮廷で王女を紹介するかのようでした。

わたしはすぐに帰るつもりでした。彼女はきっと疲れているだろう、と思ったのです。しかし見ているとだんだん元気になってきたようでした。彼女は輝いていて、わたしたち皆に対する愛に満ちていました。

彼女は時間が止まったかのように、その瞬間をかみしめているように見えまし

た。彼女は人生の大半を、主のために子供の面倒を見ることにささげました。復活した救い主が幼い子供たちを一人一人抱いて祝福し、喜びの涙を流されたという記述をモルモン書で読んで知っていました。⁴そして、同じ喜びを彼女自身ずっと味わってきたので、救い主のような愛にあふれた奉仕を行い、最後まで堪え忍ぶことができたのです。

同じ奇跡をある男性の寝室で見たことがあります。長年忠実に奉仕してきており、休息を取るに値すると思われるような人でした。

この男性は病気のため長期にわたる苦しい治療を受けてきましたが、医者からは治らないと言われていました。これ以上は治療の仕様がなく、治る見込みもないとのことでした。

奥さんが自宅の寝室に案内してくれました。この男性は、きれいにしつらえたベッドに仰向けに寝ていました。アイロンをかけたばかりのワイシャツを着てネクタイを締め、新しい靴を履いていました。

わたしが驚いた顔をしているのを見ると、くすっと笑ってこう説明しました。「あなたから祝福の中で『起きよ、床を取り上げて働きに行け』と命じられたら、すぐに応じられるように備えておきたかったです。」彼が間もなく主とまみえるために備えができていたことは明らかでした。彼はこれまで忠実に主に仕えてきたのです。

この男性は、わたしがよく会う、完全に改心した末日聖徒の一例です。彼らは、献身的な奉仕の人生をささげてきた人々であり、前進し続けています。

マリオン・G・ロムニー管長はこのような人たちについて次のように述べました。「真に改心した人の心からは、イエス・キリストの福音に〔反する〕ものへの欲望は完全に消えうせます。代わりに、神の戒めを守る確固とした決意と神の愛が心を満たすのです。」⁵

それは、イエス・キリストの円熟した弟子によく見られる確固とした決意です。

娘たちを抱き締めてくれたあの姉妹や、新品の靴を履き、起きて、主のために前進する用意をしていたあの男性のように、彼らは最後まで救い主の命令に従います。皆さんのだれもがそのような人を見てきたことでしょう。

モルモン書に戻りましょう。そのような人にまた出会うことができます。ある年老いた忠実な神の僕しもべの次の言葉を読むと、やはり敬服します。「あなたがたに語っている今でさえ、わたしの全身はひどく震えている。しかし、主なる神がわたしを支えてくださっている。そして、……あなたがたに語れるようにしてください〔っている〕」⁶

わたしがそうであるように、皆さんもモロナイの忍耐の模範から勇気を得ることができます。モロナイはたった独りで務めを果たしていました。自分の最期が近いことは分かっていました。では、まだ生まれていない人々と、この世で敵であった人々の子孫のためにモロナイが書いた言葉に耳を傾けてください。「まことに、キリストのもとに来て、キリストによって完全になりなさい。神の御心みこころに添わないものを

すべて拒みなさい。もしあなたがたが神の御心に添わないものをすべて拒み、勢力と思いと力を尽くして神を愛するならば、神の恵みはあなたがたに十分であり、あなたがたは神の恵みにより、キリストによって完全になることができる。」⁷

モロナイはその証を、その生涯と教えの最後に書いています。そして、モルモン書の至る所に登場する預言者と同じく、慈愛を持つよう勧めています。死期が迫っていることを悟ったモロナイは、救い主に対する証を書き加えました。モロナイは真に改心した神の子でした。モロナイのように慈愛に満ち、救い主とその教えについての確固とした雄々しい証人となり、固い決意をもって最後まで堪え忍ぶことは、わたしたちにもできるのです。

モロナイはわたしたちに必要なことを教えています。完全な改心への第一歩は信仰だと言いました。祈りを込めてモルモン書を研究するなら、父なる神とその愛子あいを信じる信仰、そして御子の福音を信じる信仰ははぐくまれるでしょう。古代と現代の神の預言者を信じる信仰もはぐくまれるでしょう。





十二使徒定員会
ロバート・D・ヘイルズ長老

モルモン書はほかのどの書物よりも、皆さんを神に近づけてくれます。人生を好転させてくれます。わたしの伝道時代の同僚がしたことを皆さんにも勧めます。この同僚は10代のころ、家出をしました。いっそうの幸せを探し求めて旅をしたその期間、彼はある箱を持ち歩いていました。その箱に、だれかがそっとモルモン書を入れました。

歳月が過ぎました。彼は世界中を転々としてきました。孤独で不幸せだったある日、その箱が目にとまりました。これまで携えてきたものがたくさん入っています。箱のいちばん奥に、モルモン書があることに気づきました。彼はその書物の中の約束を読み、試してみました。それが真実であることが分かりました。その証は彼の人生を変えました。たわいない夢に勝る幸せを見つけたのです。

皆さんのモルモン書は、日々の責任や活動に皆さんが気を取られているうちに脇に追いやられているかもしれません。モルモン書を頻りに深く研究するよう強く勧めます。モルモン書には、イエス・キリストの完全な福音があります。そして、イエス・キリストこそが、神のみもとに帰るただ一つの道なのです。

わたしの確かな証をお伝えします。神は生きておられ、皆さんの祈りにこたえてくださいます。イエス・キリストは世の救い主です。モルモン書は、イエスが生きておられ、復活した生ける救い主であられることの、まことの確かな証です。

モルモン書は貴い証です。わたしの証をイエス・キリストの聖なる御名によって、皆さんに残します、アーメン。

注

1. モーサヤ 18:9
2. モーサヤ 2:17
3. モロナイ 7:47
4. 3 ニーファイ 17:21 - 22 参照
5. マリオン・G・ロムニー, Conference Report, 1963年10月, 23
6. モーサヤ 2:30
7. モロナイ 10:32

主を待ち望む—— みこころが行われます ように

地上の人生の目的は、自分の経験を通して成長し、進歩し、強められることです。

この安息日の朝、わたしたちは救い主が生きておられることを感謝し、証します。主の福音が預言者ジョセフ・スミスにより回復されました。モルモン書は真実です。今日わたしたちは生ける預言者トーマス・S・モンソン大管長により導かれています。わたしたちはとりわけイエス・キリストの贖いと、贖いをもたらす永遠の祝福について厳粛に証します。

この数か月間、救い主の贖いの犠牲と、わたしたち一人一人のために永遠のささげ物をささげるため主がいかに御自分を備えられたかについて、さらに研究し学ぶ機会がありました。

主の備えは前世で始まりました。主は御父を待ち望み、こう言われました。「あなたの御心が行われ、栄光はとこしえにあなたのものでありますように。」¹ その瞬間から今日まで、主は御自分の選択の自由を使って、天の御父の計画を受け入れ実行なさっているのです。聖文は、主が少年のころ、御父の務めを行っていると述べ、²「御自分の務めの時が来るのを待つ

ておられた」³ と教えています。30歳のとき、主は甚だしい誘惑に遭いましたが、「サタンよ、退け」⁴ と言って、拒むことを選ばれました。ゲツセマネでは御父を信頼し、「しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください」⁵ と言い、御自分の選択の自由を使って、わたしたちの罪のために苦しめられました。公の裁判での屈辱と十字架での苦悶の中、主は御父を待ち望み自ら進んで「わたしたちの背きのために刺し貫かれ、わたしたちの罪悪のために傷つけられた」⁶ のです。「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」⁷ と叫ばれたときでさえ、主は御父を待ち望み、御自分の選択の自由を使って敵を救い、⁸ 母親を心にかけて、⁹ 命が尽きこの世の使命を終える最後まで堪え忍ばれたのです。¹⁰

わたしはよく次のように考えました。神の御子、主の聖なる預言者たち、そしてすべての忠実な聖徒たちが、天の御父の御心を行おうと努めているときでさえ、試練や苦難を受けるのはなぜだろうか。試練がとりわけ彼らにとって、あまりにも厳し



いのはなぜなのだろうか。

少年時代には病に、そして生涯にわたり迫害に苦しんだジョセフ・スミスについて考えます。救い主と同様、「おお、神よ、あなたはどこにおられるのですか」¹¹と叫びました。けれども、孤独だと思われたときでさえ、選択の自由を使って主を待ち望み、天の御父の御心を成し遂げました。

ノーブーを追われて大平原を渡った開拓者の先祖たちのことを思います。病気や貧困、死に遭遇してさえも、選択の自由を使って預言者に従いました。なぜそのような^{きんたん}惨憺たる苦難を経験したのでしょうか。何のために、何の目的があるのでしょうか。

このような問いかけをするとき、地上の人生の目的は、自分の経験を通して成長し、進歩し、強められることだと分かります。どのようにそれができるのでしょうか。聖文はその答えを「主を待ち望む」¹²という簡潔な一言で表しています。試しや苦難はだれにでも与えられます。この世の苦難を通して、わたしたちが選択の

自由を使って御子に従うかどうか、わたしたちにも天の御父にも分かります。状況がどんなに厳しかろうと、「これらのことはすべて、[わたしたち]に経験を与え、[わたしたち]の益となる」¹³ことを主はすでに御存じであり、わたしたちはそれを学ぶ機会が与えられるのです。

これは苦難をいつも理解できるという意味でしょうか。だれしも時には「おお、神よ、あなたはどこにおられるのですか」¹⁴と尋ねたくなるのがもっともなときがあります。伴侶を亡くした夫や妻、家族が財政難に襲われたときの父親は、神はどこにおられるのだろうかと問い、子供が道を誤ったときの母親と父親は、悲しみに暮れて叫ぶのではないのでしょうか。しかし、「夜はよもすがら泣きかなしんでも、朝と共に喜びが来る」¹⁵のです。そして、信仰と理解力が増し始めると、「みこころが……行われますように」¹⁶と言いながら、立ち上がって主を待ち望むことを選ぶのです。

では、主を待ち望むとはどういう意味で

しょうか。聖文では「待つ」とは望む、期待する、信頼するという意味です。主を望み信頼するには、信仰と忍耐^{けんそん}、謙遜、柔和、寛容、戒めを守り最後まで堪え忍ぶことが必要です。

主を待ち望むとは、信仰の種を植え、「非常な熱意と、忍耐」¹⁷をもって養うことです。

また、救い主が神である天の御父に祈られたように、「御国がきますように。みこころが……行われますように」¹⁸と祈ることです。この祈りは、わたしたちの救い主イエス・キリストの^{みな}御名によって全身全霊でささげるものです。

主を待ち望むとは、心の中でよく考え、「[わたしたちが]なすべきことをすべて分かるように「聖霊を受ける」¹⁹ことです。

聖霊の導きに従うとき、「患難は忍耐を生み出[す]」²⁰ことが分かり、「完全になるまで忍耐し続け[る]」²¹ことを学びます。

主を待ち望むとは、「完全な希望の輝きを持ち」²²、信仰に「しっかりと立[って]」²³「力強く進[む]」²⁴ことです。

それは「キリストの功德にだけ頼[り]」²⁴、「[主の]恵みをもって……[わたしたちを]助け、[わたしたちが]、『おお、主よ、わたしたちの思いではなく、御心が行われますように』と言えるように」²⁵なることです。

わたしたちは主を待ち望むとき、「いつの日かあらゆる苦難を離れて休める」²⁶と理解しながら、「確固として動かずに神の戒めを守り」²⁷ます。

そして、「[わたしたち]を苦しめたすべてのことは、[わたしたち]の益のために……ともに働く」ことを信じ²⁸、「[わたしたちの]確信を放棄し」²⁹ないのです。

こうした苦難にはあらゆる形と程度があります。ヨブの経験はわたしたちがどのような忍耐を求められるかを思い起こさせます。ヨブは持てるものすべて、土地と家と家畜、家族、名声、健康、精神の安定さえも失いました。にもかかわらず、主を待

ち望み、自らの力強い証を述べたのです。

「わたしは知る、わたしをあがなう者は生きておられる、後の日には彼は必ず地上に立たれる。

わたしの皮がこのように滅ぼされたのち、わたしは肉を離れて神を見るであろう。」³⁰

しかしわたしたちは、ヨブ、預言者、救い主の類いまれな模範をもってしても、主を待ち望むことが難しいことがあります。特に、わたしたちのために用意された主の計画と目的を十分に理解できないときがそうです。この理解はほとんどの場合「教えに教え、〔そして〕訓戒に訓戒」³¹を加えて深まります。

人生の中で時々祈りの答えを受けないのは、まだわたしの準備が整っていないことを主が御存じだからだと学びました。主がこたえてくださるときはたいがい、「ここにも少し、そこにも少し」³²なのです。それは、わたしにはそれしか耐えられないか、進んで行えないからです。

忍耐力を与えてくださいと祈りながら、今すぐに欲しいということがしばしばあります。デビッド・O・マッケイ大管長は若いころ、福音が真実だという証を祈り求めました。何年も後、スコットランドで伝道しているときに、ついにその証を得ました。後にこう書いています。「心からの祈りは『いつか、どこかで』こたえられるという確信を得た。」³³

主の答えがいつ、どのようにして与えられるか分かりませんが、主の時に、主の方法でこたえられることを証します。来世に行くまで待たなくてはならない答えもあるでしょう。祝福文の約束や家族に授けられた祝福の中には、それに当てはまるものもあるでしょう。主への信頼を絶やさないようにしましょう。主の祝福は一時的なものではなく、永遠のものです。

主を待ち望むことにより、わたしたちを待ち望んでいる人がたくさんいることを発見する貴重な機会が与えられます。子供は、わたしたちが忍耐力、愛、理解を示す



よう待ち望んでいます。親は、わたしたちが感謝と思いやりを示すのを待ち望んでいます。兄弟姉妹は、わたしたちの寛容や憐れみ、許しを待ち望んでいます。伴侶は、救い主が一人一人を愛して下さったようにわたしたちが愛するのを待ち望んでいます。

わたしたちは肉体的な苦しみに耐えるとき、いかに多くの人が助けてくれているか、次第に気づくようになります。マリヤとマルタのような女性たち、良いサマリヤ人のように病人を介抱し、弱者を助け、精神的、肉体的に病んでいる者を世話するすべての人に向けた、愛にあふれた天の御父と愛子の感謝の気持ちを感じます。日々キリストのように教え導くとき、皆さんは主を待ち望み、天の御父の御心を行っています。主はこう断言しておられます。「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。」³⁴ 主は皆さんの犠牲と悲しみを御存じです。皆さんの祈りを聞いておられます。信仰をもって主を待ち望み続けるとき、主の平安と安息を得るでしょう。

わたしたち一人一人は、自分の理解や想像を超えて主に愛されているのです。

互いにより優しく、また自分自身にも優しくありましょう。主を待ち望むとき、わたしたちは「主なるキリストの贖罪により……聖徒となり、……従順で、柔和で、謙遜で、忍耐強く、愛にあふれた者となり、子供が父に従うように、主が〔わたしたち〕に負わせるのがふさわしいとされるすべてのことに喜んで従〔う〕」³⁵ ことを忘れずにいましょう。

救い主がゲツセマネの園で御父に示された従順はそのようなものでした。主は弟子たちに「わたしと一緒に目をさましていなさい」と切にお求めになりました。しかし、3度、戻って御覧になると、弟子たちは眠っていました。³⁶ そばには弟子たちも、そして最後には御父もおられず、救い主はわたしたちの「あらゆる苦痛と苦難と試練」³⁷ を受けることをお選びになったのです。天使が遣わされて主を力づけ³⁸、主は身を引かずにその苦い杯をお飲みになりました。³⁹ 「みこころが行われますように」⁴⁰ と言いながら御父を待ち望み、へりくだり独りで酒ぶねを踏まれたのです。⁴¹ この末日の十二使徒の一人として、わたしたちが強められ、生涯にわたり主と一緒に目を覚まし、主を待ち望むように祈ります。

この安息日の朝に、わたしも皆さんも、それぞれの「ゲツセマネにおいて」⁴² 独りではないことを感謝します。わたしたちを見守っておられる主は、「まどろむこともなく、眠ることもない」⁴³ のです。現世でも来世でも、主の天使たちが「〔わたしたち〕の周囲にいて、〔わたしたち〕を支える」⁴⁴ のです。主の約束が真実であると、特に証します。主は「主を待ち望む者は新たな力を得、わしのように翼をはって、のぼることができる。走っても疲れることなく、歩いても弱ることはない」⁴⁵ と言われるからです。信仰をもって力強く進むことにより主を待ち望み、祈りの中で「みこころが行われますように」⁴⁶ と言うことができ、そして誇りをもって主のみもとへ戻れますように。救い主、贖い主イエス・キリスト

の聖なる御名により、アーメン。■

注

1. モーセ4:2
2. ルカ2:49 参照
3. ジョセフ・スミス訳マタイ3:24, 聖句ガイド
4. マタイ4:10 参照
5. ルカ22:42
6. イザヤ53:5; モーサヤ14:5
7. マタイ27:46; マルコ15:34
8. ルカ23:34 参照
9. ヨハネ13:35 参照
10. ヨハネ19:27 参照
11. 教義と聖約121:1
12. 詩篇37:9; 123:2; イザヤ8:17; 40:31; 2 ニーフアイ18:17
13. 教義と聖約122:7
14. 教義と聖約121:1
15. 詩篇30:5
16. マタイ6:10; 3 ニーフアイ13:10。マタイ26:39も参照
17. アルマ32:41
18. マタイ6:10; ルカ11:2
19. 2 ニーフアイ32:5
20. ローマ5:3
21. 教義と聖約67:13
22. 2 ニーフアイ31:20
23. アルマ45:17
24. モロナイ6:4
25. 教義と聖約109:44
26. アルマ34:41
27. アルマ1:25
28. 教義と聖約98:3
29. ヘブル10:35
30. ヨブ19:25 - 26
31. 2 ニーフアイ28:30
32. 2 ニーフアイ28:30
33. 『歴代大管長の教え——デビッド・O・マッケイ』(2003年) xviii
34. マタイ25:40
35. モーサヤ3:19
36. マタイ26:38。39 - 45節も参照
37. アルマ7:11
38. ルカ22:43 参照
39. 「十字架を覚え」『賛美歌』111番。3 ニーフアイ11:11; 教義と聖約19:18 - 19も参照
40. マタイ26:42
41. 教義と聖約76:107; 88:106; 133:50 参照
42. "Where Can I Turn for Peace?" Hymns, 129番
43. 詩篇121:4
44. 教義と聖約84:88
45. イザヤ40:31
46. マタイ26:42



七十人会長会
タッド・R・カリスター長老

モルモン書—— 神からの書物

聖書とともに、モルモン書はキリストの教義とキリストの神性の必要不可欠な証^{あかし}です。

何年も前にわたしの高祖父は初めてモルモン書を手に入れました。中ほどを開いて数ページを読みました。そして、こう述べました。「この本を書いたのは、神か悪魔のどちらかだ。それがどちらなのか、見極めよう。」彼は続く10日間で2度すべてを読み終えた後、こう断言しました。「これは悪魔には書けない。神からのものに違いない。」¹

それがモルモン書のすばらしい点です。すなわち、モルモン書が真実であることに中立の立場はありません。主張されるとおりに神の御言葉であるか、まったくの偽りであるかです。この書物はただ単に道徳の専門書や神学の解説書、あるいは洞察に満ちた文書の収集であると主張していません。すべての文、すべての節、すべてのページが神の御言葉であると主張しています。ジョセフ・スミスは神の天使によって、古代アメリカの預言者たちの記録が収められている金版に導かれ、神の力によってその版を翻訳したと宣言しました。その話が真実であれば、モルモン書は主張どおりに聖なる書物です。そうでなければ、洗練されたものではありませんが、悪魔のまやかし物です。

C・S・ルイスは、救い主の神性を受け

入れるか拒むか選択しなければならない人が直面する同様のジレンマについて語っています。それについても同様に、中立の立場はありません。「わたしはここで、人々が主についてしばしば語るまことに愚かな言葉を口にしないように申し上げたい。〔つまり、〕『わたしはイエスを人の道を説く偉大な道徳の教師としては受け入れる用意があるが、彼の神としての主張は受け入れない』というものである。これは、わたしたちが決して口にすべきでないことの一つである。一介の人間であった者が、イエスの言われたようなことを口にしたら、その者は人の道を説く偉大な道徳の教師などではない。……あなたは自分で選択しなければならない。この男が過去にも現在にも神の子なのか、それとも狂人かそれ以下の者なのかを。……しかし、彼に対して偉大な人間の教師という意味のない考えを持つだけはやめようではないか。そのような選択を主はわたしたちに許されてはいない。主にはその意図はなかったのだ。」²

同様に、わたしたちはモルモン書について簡潔な選択をしなければなりません。それが神からのものか悪魔からのものかです。ほかの選択肢はありません。少し



の間、この書物の本質を判断するのに役立つテストを受けてみましょう。モルモン書の次の聖文は皆さんを神に近づけるか悪魔に近づけるか、自分に問うてみてください。

「キリストの言葉をよく味わうように……。見よ、キリストの言葉はあなたがたがなすべきことをすべて告げるからである。」(2 ニーフアイ 32:3)

愛情の深い父親が息子たちに語った次の言葉はどうでしょうか。「わが子らよ、覚えておきなさい。あなたたちは、神の御子でありキリストである贖い主の岩の上に基を築かなければならないことを覚えておきなさい。」(ヒラマン 5:12)

預言者の次の言葉はどうでしょうか。「キリストのもとに来て、キリストによって完全になりなさい。」(モロナイ 10:32)

モルモン書のこれらの言葉が悪魔によって書かれたということがあり得るでしょうか。救い主がある悪霊たちを追い出された後、パリサイ人たちは、救い主がそうなさったのは「悪霊のかしらベルゼブルによる」と主張しました。救い主はそのような考えは無意味であると応じてこう言われました。「おおよそ、内部で分れ争う国は自滅し、内わで分れ争う……家は立ち行かない。」そして、こう断言されました。「もしサタンがサタンを追い出すならば、それは内わで分れ争うことになる。それでは、その国はどうして立ち行けよう。」(マタイ 12:24-26, 強調付加)

前に引用したモルモン書の聖文が、救い主を礼拝し、愛し、救い主に仕えるよう

に教えているのであれば(事実そうですが)、どうしてそれが悪魔からのものであり得ましょうか。もしもそうであれば、救い主が言われたように、内輪で分かれ争って自分の王国を滅ぼし、存続できない状態となるでしょう。公正に、偏見を持たずにモルモン書を読む人は、わたしの高祖父と同じ結論を出すでしょう。すなわち、「これは悪魔には書けない。神からのものに違いない。」と。

しかし、イエス・キリストについて教える聖書がすでにあるのに、なぜモルモン書がそれほど重要なのでしょうか。キリスト教の教会が基本的に同じ聖書から教義を得ている今日、なぜ世の中にこれほど多くの教会があるのかと、不思議に思ったことはありませんか。それは聖書を異なって解釈しているためです。解釈が同じであれば、同じ教会になったことでしょう。これは主が望んでおられる状態ではありません。使徒パウロは、「主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ」と述べているからです(エペソ 4:5)。この一つの状態になる助けとして、主は神聖な証人の律法を定められました。パウロはこう教えています。「すべての事がらは、ふたりか三人の証人の証言によって確定する。」(2 コリント 13:1)

聖書はイエス・キリストについての一つの証であり、モルモン書はもう一つの証です。この第2の証がなぜそれほど重要なのでしょうか。次の図が役立つかもしれません。紙の上の一つの点を通る直線は何本引くことができますか。その答えは

無限です。少しの間、一つの点が聖書を表し、その点を通るように引いた数百の直線が聖書の異なる解釈を表し、またその解釈のそれぞれが異なる教会を表すと仮定してみましょう。

しかし、紙の上にモルモン書を表す第2の点があれば、どうなるでしょうか。これら二つの基準点、すなわち聖書とモルモン書の間に関くことができる直線は何本でしょうか。1本だけです。これら二つの証により、キリストの教義の解釈はただ一つとなります。

さらにまた、モルモン書は、「主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ」だけであるように、聖書の中で教えられている教義を確認し、明確にし、統一する証の役割を果たしています。例えば、救い主がニコデモに「だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない」と述べられたにもかかわらず(ヨハネ 3:5)、バプテスマが救いに不可欠であるかどうかについて、人々は混乱しています。しかし、モルモン書はこの件に関するすべての疑いを取り除いてくれます。「また神は、すべての人に、……悔い改めて、神の御名によってバプテスマを受けなければならないと命じておられる。そうでなければ、人は神の王国に救われぬ。」(2 ニーフアイ 9:23)

偉大な模範者である救い主がバプテスマをお受けになった方法が聖書に述べられているにもかかわらず、今日の世には様々な方法によるバプテスマが存在しています。「イエスはバプテスマを受けると



ブラジル・ジュンジャイ

すぐ、水から上がられた。」(マタイ 3:16) イエスはまず水の中に降りて行くことなく、水から出て来ることがおできになったのでしょうか。この件に関して不一致がないように、モルモン書はバプテスマの適切な方法に関する教義を次のような簡潔な言葉で述べてそれを一掃しています。「あなたがたはその人を水中に沈め……なさい。」(3 ニーフай 11:26)

人が存在するようになってから4,000年間、聖書そのものが神の啓示の規範について証しているにもかかわらず、多くの人は聖書で啓示は終わったと思っています。しかし、このような一つの間違った教義は、ドミノの一つのこまに似ており、ほかのドミノのこまを倒します。すなわち、この場合は正しい教義を倒します。啓示は終わったという考えによって、「神は昨日も、今日も、とこしえに変わらない御方であられる」という教義が倒されます(モルモン 9:9)。「まことに主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは、何事をもなされない」とアモスが述べた教義が倒されます(アモス 3:7)。また、「神は人をかたよりみないかたで」あり(使徒 10:34)、あらゆる時代のすべての人に語りかけられるという教義が倒されます。しかし幸いなことに、モルモン書は、啓示は続くという聖書の真理を再度確立しているのです。

「さらに、神の啓示を否定して、啓示はやんでしまった、今は啓示も……ないと言うあなたがたにわたしは告げる。……

神は昨日も、今日も、とこしえに変わらない御方であられる……ということを読んでいるのか。」(モルモン 9:7, 9)

言い換えれば、変わることはない神は、古代において語られたのであれば、同様に現代においても語られることでしょう。

教義の確認と説明のリストはまだまだ続きますが、イエス・キリストの贖罪しよくざいに関するモルモン書の話以上に力強く、感動的なものはありません。救い主が皆さんの罪の下に身を落とされ、また主の贖罪あわの憐れみの力が及ばない罪や世の悪事はないという、すなわち皆さんそれぞれの苦闘に対して主の優れた癒しの力による救いがあるという、明白な証を皆さんの心に刻んではどうでしょうか。モルモン書を読んでください。モルモン書は、キリストの贖罪が無限であることを皆さんに教え、証することでしょう。なぜなら、キリストの贖罪は人が知るあらゆる弱さを補い、包括し、それに打ち勝つからです。「あなたがたは、キリストの贖罪……によって……望まなければならない」と預言者モルモンが述べたのはそのためです(モロナイ 7:41)。

モルモン書が次のように大胆に宣言していても不思議ではありません。「キリス

トを信じれば、これらの言葉を信じるようになるであろう。これらの言葉はキリストの言葉……だからである。」(2 ニーフай 33:10) 聖書とともに、モルモン書はキリストの教義とキリストの神性の必要不可欠な証です。聖書とともに、「善を行わなければならないことをすべての人に教えてい[ます]。」(2 ニーフай 33:10) また聖書とともに、「主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ」に導くのです。モルモン書がわたしたちの生活にとって非常に重要なのはそのためです。

数年前に、わたしはカナダのトロントで教会の礼拝行事に出席しました。14歳の少女が話者でした。彼女は学校で友達の人と宗教について話し合ったことを話しました。友達は彼女に、「あなたの宗教は何?」と尋ねました。

彼女は、「末日聖徒イエス・キリスト教会、モルモンよ」と答えました。

友達は、「わたしその教会を知っているわ。ほんとうじゃないって知っている」と言いました。

「どうして分かるの?」と彼女は聞き直した。

友達は、「調べたから」と答えました。

「モルモン書を読んだことがあるの?」

答えは、「いいえ、ないわ」でした。

そこで、このすてきな若い女性はこう言いました。「それじゃあ、わたしの教会について調べたことにならないわ。わたしはモルモン書のすべてのページを読んだので、それがほんとうだと知っているのよ。」

わたしもモルモン書のすべてのページを何度も読みました。わたしは高祖父と同様に厳粛に証します。それは神からのものです。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. ウィラード・リチャーズ、リグランド・リチャーズ、*A Marvelous Work and a Wonder* (1972年)、81, 82で引用
2. C・S・ルイス、*Mere Christianity* (1952年)、40-41



中央若い女性会長
イレイン・S・ダルトン

娘の母親を愛する

ますます危険になる現代の世の中で、父親はどうすれば幸福で分別のある娘を育てることができるでしょうか。答えは主の預言者が教えています。

初めて子供を持つ父親が生まれたばかりの娘を初めて抱く神聖な瞬間を言葉で表すことはできません。今年、我が家の3人の息子にそれぞれ長女が生まれました。体格の良いラグビー選手であるジョンが初めて長女を抱くの眺めていると、ジョンは娘を優しい顔で恭しく見詰め、それからわたしの方を向いて「女の子はどうやって育てればいいのか?」と尋ねるような表情をしました。

今朝はわが家の息子たち、そしてすべての父親に話します。ますます危険になる現代の世の中で、父親はどうすれば幸福で分別のある娘を育てることができるでしょうか。答えは主の預言者が教えています。簡潔で真実の答えです。「父親が〔娘〕にできる最良のことは、〔彼女〕の母親を愛することです。」「¹ 皆さんは娘の母親をどのように愛するかによって、娘に優しさ、忠実さ、敬意、思いやり、献身的な愛を教えるのです。娘は皆さんの模範を通して、若い男性に期待すべきことや将来の伴侶に求めるべき性質を学びます。皆さんが妻を愛し尊ぶ姿を通して、同じように彼女を愛し敬意を払ってくれる相手との結婚を望むよう、娘に示すことができます。皆さんの模範は、娘に女性であることを尊ぶように教えます。彼女が天の御父の娘であり、御父に愛されている

ことを示しているのです。

皆さんの結婚が日の栄えの結婚の状態を保てるように、娘の母親をよく愛してください。この世と永遠にわたる神殿結婚は、最大限の努力を払い、最優先する価値があります。ニーファイは荒野で神殿を完成させて初めてこのように述べました。「そして、わたしたちは幸福に暮らした。」「² 「幸福に暮ら〔す〕」方法は神殿にあります。つまり、聖約を守ることです。聖約を軽んじたり、妻や家族に対する決意を揺るがせたりするような影響力が生活や家庭に入り込むすきを決して作らないでください。

若い女性では、皆さんの娘さんが自分



また神殿と神殿結婚の祝福を受けるために、徳高くふさわしくあることが大切だということを理解できるように助けています。神聖な聖約を交わして守ることの大切さを教えています。いつでも神殿に参入できるようなふさわしい生活をするを今から決意すること、それを先送りさせたり妨げたり、そうする資格を奪ったりするのは何でも拒むように教えています。父親である皆さんの模範は、わたしたちの言葉より雄弁です。若い女性は父親のことを心配します。多くの若い女性の最大の望みは家族として永遠に結ばれることです。自分が神殿に参入するときや神殿で結婚するときに父親にも同席してほしいと思っています。どうか近くにおいて、神殿に入る準備をし、ふさわしさを保てるように助けてください。12歳になったら神殿に頻繁に連れて行き、皆さんの先祖やほかの人たちのためにバプテスマを受けられるようにしてください。彼女はその思い出をいつまでも忘れないことでしょう。

現代の大衆文化は族長および父親としての皆さんの永遠の役割をむしろ、最も大切な責任を軽んじさせようとしています。この役割と責任は「神によって定められたもの」で、皆さんは父親として「愛と義をもって自分の家族を管理しなければなりません。また、生活必需品を提供し、家族を守るという責任を負っています。」「³

父親の皆さん、皆さんは家庭と妻、子供の守り手です。今日、「⁴ 家族の思いや靈に悪が侵入するのを防ぐことは簡単ではありません。……これらの影響力は家庭の中にたやすく入り込めます。サタンは〔とてもずる賢いので〕ドアを壊す必要はありません。」「⁴

皆さんは徳の擁護者とならなければなりません。「神権者は徳高き人です。すなわち清い思いを抱き、汚れのない行いをする人です。……徳は神の属性で〔す。〕」「神聖さに近いものです。」「⁵ 若い女性の徳質はキリストの属性であり、そこには徳



も含まれています。徳に立ち返るようわたしととも世の人に呼びかけてください。そのためには、あらゆる悪や神の神権を持つ者にふさわしくないものを排除し、「徳高くまよくなければならない」⁶のです。「絶えず徳でああなたの思いを飾るようにしなさい。そうするとき、神の前においてあなたの自信は増し、……聖霊は常にあなたの伴侶とな〔る〕……であろう。」⁷ですから、娯楽メディアや印刷物で皆さんが目にするものを慎重に選んでください。皆さん個人の徳は娘だけでなく、息子にとっても、ほんとうの強さと真の勇気の手本となります。自分の生活、家庭、子供の人生において徳の守り手となることで、皆さんは妻や娘に真の愛を示します。皆さん自身の清さが力を与えてくれます。

皆さんは法的な意味で保護者である以上に、娘の守り手です。娘の人生にかかわってください。娘の成功と幸福に対する皆さんの基準、期待、希望、夢を伝えてください。娘と直接話し、友達について知り、時期が来たらボーイフレンドについても教えてください。教育の大切さを理解できるように助けてください。慎み深さの

原則によって守られることを理解できるように助けてください。神の娘という存在に適した、御霊を招く音楽やメディアを選ぶように助けてください。娘の生活に積極的にかかわってください。そしてもし10代の時期に娘が予定どおりにデートから戻らなかったら、迎えに行ってください。彼女は抵抗して皆さんのせいで社交生活が台なしになったと言うかもしれません。しかし、内心では皆さんが彼女を愛していて、守り手となるほど大切に思っていることを知るでしょう。

皆さんは普通の男性ではありません。前世で雄々しくあったために、指導者となり神権の力を持つ資格を得ました。前世で「非常に深い信仰と善い行い」を示した皆さんは同じことをする目的でこの世にきました。⁸ 神権は皆さんを特別な者とします。

数週間後には我が家の3人の息子はそれぞれの娘を命名し、祝福を授けるでしょう。それを初めとして、孫娘たちが今後も父親から多くの神権の祝福を受けるように願っています。世の中で育っていくにはその祝福が必要だからです。皆さんの娘は神権を尊び、将来築く家庭と家族にも

神権が欲しいと心に決めるでしょう。「神権の権利は天の力と不可分のものとして結びついて」いて、「義の原則に従ってしか制御……できないということ」をいつも覚えていてください。⁹

父親である皆さんは娘のヒーローです。父はわたしのヒーローでした。わたしは毎晩、玄関先の階段で父が帰宅するのを待っていました。父はわたしを抱き上げてくると回り、父の大きな靴の上にわたしの足を乗せて、一緒に踊りながら家に入ったものでした。父の歩みに倣うようチャレンジするのが大好きでした。今でもそうです。

皆さんの証が娘に力強い影響を及ぼすことを知っていましたか。わたしは父に証があったことを知っています。父が主を愛していたことも知っています。そして、父が主を愛していたので、わたしも主を愛するようになりました。父が夫を亡くした姉妹たちを気にかけていたことも知っています。隣に住む夫を亡くした姉妹の家にペンキを塗るために、休暇を取ったからです。わたしはそれが我が家の最高の休みだと思いました。父がペンキの塗り方を教えてくれたからです。皆さんが娘と一緒に時間を過ごして証を分かち合う方法を探すなら、娘の人生にいつまでも続く祝福となることでしょう。

モルモン書の中で、エービシは父親から驚くべき示現を受けたことを聞いて改宗しました。その後何年もの間、自分の証を心に秘め、非常に邪悪な社会の中で義にかなう生活を送りました。やがてもう黙ってはられない時がやって来て、家から家へ走り、自分の証と王宮で見た奇跡を伝えました。エービシの改宗と証の力は、その町全体を変えの助けとなりました。彼女の証を聞いて「主に帰依した〔人々〕は皆、二度と道を踏み外さ〔ず〕」、その息子たちはあの2,000人の若い兵士になったのです。¹⁰

賛美歌にあるように、「神の人よ、立ち上がらなさい」。¹¹ これは神の聖なる神権

を持つ皆さんへの呼びかけです。皆さんが司令官モロナイのような人となるように願っています。

「〔彼〕は屈強で勢いのある人であり、完全な理解力を備えた人であり、……確固としてキリストを信じた人で〔あった〕。……

……もし過去、現在、未来のすべての人がモロナイのようであれば、見よ、地獄の力でさえもとしえにくじかれてしまい、……悪魔は決して人の子らの心を支配する力を持たないであろう。」¹²

兄弟、父親、若い男性の皆さん、「皆さんの内なる気高さに忠実であってください。」¹³

では、どのように娘を育てればよいのでしょうか。彼女の母親を愛してください。家族を神殿に導き、徳の守り手となり、神権を尊んで大いなるものとしてください。父親の皆さん、皆さんは天の御父の王女を託されています。徳高い、選ばれた女性です。皆さんが彼女たちを見守り、強め、徳高い模範を示し、救い主のすべての模範に従うことを教えるように願っています。主は生きておられます。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. デビッド・O・マッケイ大管長がセオドア・ヘスバークの“Quotable Quotes,” *Reader's Digest*, 1963年1月号, 25をしばしば引用; *Richard Evans' Quote Book* (1971年) 11も参照
2. 2ニーファイ5:27
3. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2010年11月号, 129
4. A・セオドア・タトル “The Role of Fathers,” *Ensign*, 1974年1月号, 67
5. エズラ・タフト・ベンソン「神の性質」『聖徒の道』1987年1月号, 52
6. 教義と聖約46:33
7. 教義と聖約121:45, 46
8. アルマ13:3。2節も参照
9. 教義と聖約121:36
10. アルマ23:6。アルマ19:16-17:53:10-22も参照
11. “Rise Up, O Men of God,” *Hymns*, 323番
12. アルマ48:11, 13, 17
13. ハロルド・B・リー, “Be Loyal to the Royal within You,” *Speeches of the Year: BYU Devotional and Ten-Stake Fireside Addresses 1973* (1974年), 100で引用



十二使徒定員会

M・ラッセル・バラード長老

名前の大切さ

末日聖徒イエス・キリスト教会という名称は、わたしたちがその名前前で知られるようにと、主がお定めになった名前なのだとすることを明確に伝える習慣をつけましょう。



イルズ長老、わたしたちすべてを代表して、心からの愛を伝えます。長老が今朝ここにいることを非常にうれしく思います。

前回4月の総大会以来、名前の大切さについて何度も考えることになりました。この数か月の間にひ孫が何人か誕生したのです。ついていけないのではと思うほど次々に生まれてくるのですが、家族が増えるのはいつでもうれしいものです。どの子にも、両親が選んだ特別な名前が付けられます。子供は生涯その名前前で知られ、ほかの人と区別されます。これはどの家族でも同じです。またそれは、世の宗教についても同じです。

主イエス・キリストも、御自身の教会に明確な名前を付けることがどんなに大切か御存じでした。教義と聖約第115章では、イエス御自身がこの教会の名前を宣言しておられます。「わたしの教会は、終わりの時にこのように、すなわち末日聖徒イエス・キリスト教会と呼ばれなければならない。」(4節)

ベニヤミン王は、モルモン書の時代に、民に次のように教えました。

「キリストの御名を受けて、神と聖約を交わしたあなたがたは皆、生涯の最後まで従順であってほしい。……

そして、これこそが、戒めに背かなけれ

ば決して消されることのない名で、わたしがあなたがたに与えると言ったその名であることをあなたがたは覚えておいてほしい。だから、この名があなたがたの心から消えてなくならないように、あなたがたは戒めに背くことのないよう注意しなさい。」(モーサヤ5:8, 11)

わたしたちはバプテスマの水に入るときにキリストの御名を身に受けます。そのバプテスマの効果は、毎週聖餐を頂いて進んで御子の御名を受け、いつも御子を覚えると約束するときに更新されます(教義と聖約20:77, 79参照)。

神が愛しておられる独り子の御名を身に受けることがどんなにすばらしいことか御存じですか。それがどんなに重要なことか理解しているでしょうか。人を救うことのできる名は、救い主の御名以外、天下にありません(2ニーファイ31:21参照)。

覚えていると思いますが、ボイド・K・バックナー会長は、前回4月の総大会で教会の名称の大切さについて話し、「啓示に従って、わたしたちはこの教会を『モルモン教会』ではなく、『末日聖徒イエス・キリスト教会』と呼んでいます」と説明しました(「聖霊に導かれて」『リアホナ』2011年5月号, 30)。

教会の正式名称を使うことは非常に大切です。そこでわたしは、聖文に記された



啓示と、1982年と2001年の大管長会の手紙に記された指示と、この件について述べた使徒たちの言葉、すなわち教会員は教会の名前がイエス・キリストの名前で人々に知られるように努め、教えるべきであると述べた使徒の言葉を繰り返します。この名称は、主御自身が終わりの日にこの教会を呼ばれる名前です。主の教会をほかのあらゆる教会から区別する名前なのです。

回復された教会に救い主はなぜこれほど長い名称をお与えになったのか、わたしはこれまでよく考えることがありました。確かに長い名称のようですが、どのような教会かを説明する言葉だと考えれば、途端に、それは実に簡潔、率直で明快な言葉になります。これほど短い言葉で、これほど直接的にはっきり説明する方法がほかにあるでしょうか。

どの言葉も明快で、欠かすことができません。英語の名称の最初にある *The* は、回復された教会が世界の宗教の中で独自の位置を占めていることを示しています。

イエス・キリスト教会という言葉は、これが主の教会であることの宣言です。イエスはモルモン書の中で次のように教えていらっしやいます。「わたしの名で呼ばれなければ、どうしてわたしの教会であろうか。ある教会がモーセの名で呼ばれ

ば、それはモーセの教会である。あるいは、ある人〔例えばモルモン〕の名で呼ばれれば、それはその人の教会である。しかし、わたしの名で呼ばれ、人々がわたしの福音の上に築かれていれば、それはわたしの教会である。」(3 ニーファイ 27:8)

末日という言葉は、この教会はイエス・キリストが地上におられたときに設立された同じ教会であり、この末日に回復されたものだということを説明しています。背教が起こったため、今の時代にキリストのまことの完全な教会を回復する必要があったことをわたしたちは知っています。

聖徒とは、教会員が主に従ってその御心を行い、戒めを守ろうと努めて、将来再び主と天の御父とともに住めるよう備えていることを意味します。**聖徒**とは簡単に言えば、キリストに従うことを聖約して聖く生活しようとする人を表す言葉です。

救い主が御自身の教会にお与えになった名称は、わたしたちが何者であり、何を信じているかを正しく伝えていきます。わたしたちはイエス・キリストが世の救い主、贖い主であられると信じています。イエスは罪を悔い改めるすべての人を贖い、死の縄目を断ち、死者が復活できるようにしてくださいました。わたしたちはイエス・キリストに従います。ベニヤミン王が自分の民に語ったように、わたしはもう一度現

代に生きるわたしたち全員に伝えます。「あなたがたはこの名をいつも心にしっかりと記しておくことを忘れないようにしてほしい。」(モーサヤ 5:12)

わたしたちは「いつでも、どのようなことについても、どのような所においても」イエスの証人となるようにとされています(モーサヤ 18:9)。これは、どなたに従い、どなたの教会に属しているか、すなわちイエス・キリストの教会に属していることを進んで人に伝えなければならぬということです。わたしたちは確かに愛と証をもってこれを実行したいと思っています。主の教会の会員であることを簡潔にはっきりと、しかし謙遜に伝えることによって救い主に従いたいと思っています。末日聖徒、つまり末日の弟子であることによって、わたしたちは主に従っているのです。

人や組織にニックネームが付けられることがよくあります。ニックネームは名前を短くしたものであったり、ある出来事から由来したり、外見的なあるいはそのほかの特徴から付けられたりします。ニックネームには本来の名称に並ぶ地位も重要性もありますが、名前として通用します。

昔も今も、主の教会にはニックネームがありました。新約聖書の時代、聖徒はイエス・キリストを信じると公言していたた



めにクリスチャンと呼ばれていました。最初それは敵対者たちが軽蔑的に使っていた名称でしたが、今では他と区別する名称になっています。わたしたちはクリスチャンの教会と呼ばれることに誇りを感じます。

この教会の会員は『モルモン書——イエス・キリストについてのもう一つの証』を信じているためにモルモンと呼ばれてきました。ある人たちは、モルモンという言葉、教会をやめているいろいろな分派を形成した人たちのことも含めて、もっと広い意味で使おうとしているようです。そのような使い方は混乱を招きます。教会が多妻主義者や原理主義者と混同されないよう、モルモンという言葉の使い方に気を遣ってくれているメディアの方々に感謝しています。はっきり申し上げます。「モルモン原理主義」や当教会に類似したどのような名称を名乗る人々も含め、多妻主義の団体は末日聖徒イエス・キリスト教会とは何の関係もありません。

モルモンはこの教会の正式名称でも正しい呼び名でもありません。そもそもそれは教会初期の迫害の時期に敵対者が付けた呼び名でした。しかしながら、団体名としてではなく個々の会員を呼ぶ場合には、ニックネームとして受け入れることができます。適切な使い方であればモ

ルモンという名称を使うのをやめる必要はありませんが、教会員はこれからも教会の正式名称、正しい呼び名を使うべきです。言い換えれば、教会員は「モルモン教会」という言葉を避け、ほかの人にもその呼び名を使わないようお願いするべきです。

割り当てを受けて長年世界を回ってきましたが、モルモン教会の人かと聞かれたことは何度もあります。わたしはいつもこう答えました。「わたしはイエス・キリスト教会の会員です。わたしたちは、モルモン書を信じています。この書物は古代アメリカの預言者であり指導者であった人にちなんでその名前が付けられ、イエス・キリストのもう一つの証でもあるのです。そういうわけで、時々わたしたちは『モルモン』と呼ばれるのです。」こう答えると必ずよく分かってもらえましたが、実際、そのおかげで完全な福音が末日に回復されたことを説明する機会が生まれたことがありました。

兄弟姉妹の皆さん、主が命じられたように教会の正式名称を使って答えることでどんな影響が生まれるか、少し考えてみてください。それに、すぐに正式名称が使えない場合には、せめて「イエス・キリスト教会の会員です」と言って、あとで「末日聖徒の」と説明してください。

Mormon.org や、教会が主催する様々な広告について疑問に思う人もいるでしょう。先ほどお話したように、個々の教会員をひとまとめにしてモルモンと呼ぶことはふさわしい場合があります。実際、教会員でない人は、この名称で教会を検索してきます。しかし、実際に *Mormon.org* を開いてみると、そのホームページには教会の正しい名称の説明があり、このサイトのどのページにも正式名称が表示されています。一般の人がこの教会を探したり、教会のウェブサイトにログインしたりするときに教会の正式名称を打ち込んでくれることを期待するのは現実的ではありません。

現実には即したこの方法は今後も続くでしょうが、その一方で会員は可能なときはいつも教会の正式名称を使うべきです。家庭や教会の活動、日々の交流の中で、末日聖徒イエス・キリスト教会という名称は、わたしたちがその名前でも知られるようにと、主がお定めになった名前なのだとすることを明確に伝える習慣をつけましょう。

最近のアンケートによると、モルモンという言葉は教会の個々の会員を指す言葉だということがまだ分かっていない人が非常に多いようです。しかも、たいいてい人はモルモンがクリスチャンかどうか疑問に思っています。ハリケーンや地震、洪

水、飢饉^{ききん}に対応してヘルピングハンズが活躍している記事は世界中の人が読んでいるのに、それらの人道支援活動がキリスト教の組織であるわたしたちとは結びつきません。自分は末日聖徒イエス・キリスト教会の会員だと説明するなら、わたしたちが救い主を信じ、救い主に従っていることを分かってもらいやすくなることは確かです。このようにしていけば、モルモンという名前を聞くと、啓示された教会の正式名称やイエス・キリストに従う人々を連想するようになることでしょう。

2001年2月23日付の手紙で、大管長会は次のように要請しています。「救い主の御名を全世界に宣言するという責任を果たすうえで、啓示された教会の名称、すなわち『末日聖徒イエス・キリスト教会』という名称を使用することがますます重要になってきています。そのため、教会員の皆さんが教会について話すときには、可能な限り教会の正式名称を用いてくださるようお願いします。」

さかのぼって1948年10月の総大会では、ジョージ・アルバート・スミス大管長が次のように述べました。「兄弟姉妹の皆さん、この大会が終わると、世界の様々な宗派の人と交流する機会があるかもしれません。しかし、神の命令によってわたしたちの主イエス・キリストの御名を名称に持つ教会は全世界にたった一つしかないことを忘れないでください。」(Conference Report, 1948年10月, 167)

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちも今日の大会が終わってからもこれを忘れることがありませんように。主に対するわたしたちの証が人々に聞かれ、主に対するわたしたちの愛がいつもわたしたちの心の中にありますように。主イエス・キリストの御名によって、へりくだり祈ります、アーメン。■



トーマス・S・モンソン大管長

聖なる地に立つ

祈り、靈感を受けるという天の御父との交わりは、人生の嵐^{あらし}や試練を乗り越えるために必要です。

愛する兄弟姉妹の皆さん、今朝、わたしたちはすばらしいメッセージを聞きました。一人一人の話者に敬意を表します。特に、ロバート・D・ヘイルズ長老が元気になって再び出席できたことをうれしく思います。ロバート、わたしたちはあなたを愛しています。

今朝、皆さんに何を話したらよいか考えてきましたが、皆さんにとって必要で時宜^{じぎ}にかなっていると思うことと、それについて感じていることを話すようにという靈感を受けました。話すときに導きがあるよう祈ります。

わたしはこの世に生まれて84年になります。少し詳しく話しますと、わたしはチャールズ・リンドバーグが単葉単座の飛行機でニューヨーク・パリ間単独無着陸飛行に成功した年に生まれたのです。それから84年の間に多くのものが変わりました。人類が月に到達して帰還を果たしてから長い年月がたちます。空想科学小説の世界の話が現実のものになっていきました。そして、現代の科学技術のおかげで、その現実は今に移り変わり、ついて行くのがやっとなります。ダイヤル式の電話や手動式のタイプライターを覚えている人にとって、現代の科学技術は驚きを通り越しています。

同時に、社会の道徳的な標準も驚くべ

き速さで変化してきました。かつては不適切で不道徳とされていた行動が、今では容認されているばかりか、多くの人から好ましいと思われています。

最近、イギリスの主席ラビ、ジョナサン・サックス氏が書いた『ウォールストリートジャーナル』(Wall Street Journal)の記事を読みました。サックス氏はその中で、次のように書いています。「実質的に、1960年代には、西欧のあらゆる社会で道徳の変革が起きた。行動を規制する従来の倫理がすべて覆されたのである。愛こそはすべて、とビートルズは歌った。ユダヤ教とキリスト教の伝統的な道徳規準は捨て去られ、代わって登場したのは、『自分の利益になるなら何をしてもいい』という考え方である。十戒は『独創的な10の提案』でしかなくなった。」

ラビであるサックス氏の嘆きはこう続きます。

「わたしたちは経済的資源を見境なく浪費してきたが、道徳的な原則も同様に捨ててきた。……」

〔世界の〕大半の地域で宗教は過去のものとなり、購買と消費を勧め、きらびやかな衣服をまとってひげをかすようけしかけるこの文化に対抗する信条は存在しない。道徳など古臭い、良心なんて弱い人のためのもの、と考え、何よりも大事な戒めはただ一つ、『あなたの罪を知られては

ならない』なのである。』¹

兄弟姉妹の皆さん、残念なことに、これがわたしたちを取り巻く世の中の趨勢です。こんな世界で生きていけるのかと嘆きますか。いいえ。わたしたちの人生にはイエス・キリストの福音があります。道徳は古臭いものではありません。わたしたちには良心が備わっていて、それが行動の指針となっています。わたしたちは自分の行動に責任を持っています。

世の中は変わりましたが、神の律法は不変です。変わってはいません。これからも変わらないでしょう。十戒はまさにその変わらぬ律法であり、戒めです。「提案」などではありません。それには、神がイスラエルの子らにお与えになったときと寸分たがわぬ権威があります。耳を傾けさえすれば、今この場でわたしたちに語られる神の御声が聞こえてきます。

「あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない。

あなたは自分のために、刻んだ像を造ってはならない。……

あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。……

安息日を覚えて、これを聖とせよ。……

あなたの父と母を敬え。……

あなたは殺してはならない。

あなたは姦淫してはならない。

あなたは盗んではならない。

あなたは隣人について、偽証してはならない。……

あなたは……むさぼってはならない。』²

行動規範は不動であり、交渉の余地はありません。それは十戒だけでなく、救い主が地上におられたときに語られた山上の垂訓にも見られます。主の教えの至る所に出てくるのです。それは現代の啓示の中にもあります。

天の御父は昨日も今日も、永遠に変わらない御方です。預言者モルモンは、神は「永遠から永遠にわたって変わらない御方」³ だと言っています。ほとんどすべてのものが移り変わっていくように見える



世の中であって、変わらない神はわたしたちのよりどころとなり、安全な錨となつてくださいます。この錨にしっかりとつかまっていれば、危険な海に放り出されることはありません。

世の中の人の方が自分よりずっと楽しんでるように見えることがあるかもしれませんが、教会員が遵守している行動規範を窮屈に感じる人がいるかもしれません。しかし兄弟姉妹の皆さん、はっきりと申し上げますが、救い主に従い、戒めを守ることによって注がれる御霊ほど、大きな喜びを人の生活に与え、大いなる平安を魂にもたらすものはほかにないのです。この御霊は、世の多くの人々が行う活動の中に宿ることはありません。使徒パウロはこの真理を次のように宣言しています。「生れながらの人は、神の御霊の賜物を受けられない。それは彼には愚かなものだからである。また、御霊によって判断さ

れるべきであるから、彼はそれを理解することができない。』⁴ わたしたちはだれでも、気を許せば「生まれながらの人」という言葉どおりになってしまいます。

霊的なものから遠く隔たったこの世であって、わたしたちは注意しなければなりません。教会の標準に合わないものは、いかなるものも拒むことがきわめて大切です。そうすることによって、神の王国で永遠の命を授かるという最大の望みを捨てることを拒否するのです。それでも嵐が戸を打ちたたくことがあるでしょう。この世でそれを避けて通ることはできません。しかし、福音を基とした生活をし、救い主への愛を心に満たしていれば、それに対処し、そこから学び、それを克服する備えが十分にできます。預言者イザヤはこう言いました。「正義は平和を生じ、正義の結ぶ実とはこしえの平安と信頼である。』⁵



世にあって世のものとならないためには、祈りを通して天の御父と話す必要があります。御父は祈るようわたしたちに望んでおられます。御父は祈りにこたえてくださいます。第三ニューファイ第18章の記録によれば、救い主はこう説かれました。「あなたがたは誘惑に陥らないように、常に目を覚ましていて祈らなければならない。サタンはあなたがたを……ふるいにかけることを願っているからである。

だからあなたがたは、わたしの名によって常に父に祈らなければならない。

与えられると信じて、わたしの名によって父に求めるものは、正当であれば、見よ、何でもあなたがたに与えられる。」⁶

わたしは12歳あかしくらいのときに、祈りの力について証を得ました。当時、わたしはお金を稼ぐために必死で働き、どうにか5ドルをためていました。大恐慌のころのことでしたから、5ドルは大金でした。特に、12歳の少年にとってはそうです。自分の稼いだ5ドル分の硬貨を全部父に渡すと、父は5ドル札をくれました。その5ドルで何かを買おうとしていたのです。それが何だったか今では思い出せませんが、そのお金が自分にとってどれほど大切なものだったかだけは覚えています。

当時家に洗濯機はありませんでしたから、母は、洗濯する必要がある衣類を、毎週、洗濯業者に送っていました。2、3日すると、「ぬれた洗濯物」とわたしたちが呼んでいたものが山のように送り返されて来ます。母はそれを裏庭に張った物干し用ロープに干すのです。

わたしは5ドル札をジーンズのポケットに入れました。そして、もう想像がつくと思いますが、そのジーンズはポケットに札が入ったまま、洗濯業者に送られてしまったのです。それに気づくと、わたしは心配でたまらなくなりました。洗濯業者では洗濯する前に必ずポケットの中をチェックすることは知っていました。チェックのときに発見されて取り出されなければ、お金は洗濯している間にポケットから出てしまい、ほぼ確実に洗濯業者の従業員のものになってしまうだろうと思いました。持ち主に返したくても、持ち主が分からないからです。あの5ドルが戻って来る可能性はほとんどありませんでした。ポケットには5ドル入っていたんだ、と母に言ったとき、大好きな母も同じ考えでした。

わたしはそのお金が欲しくてたまりませんでした。どうしても必要でした。一生懸命に働いて稼いだお金です。一つだけ自分にできることがあると気づきました。窮地に陥ったわたしは、天の御父に頼りました。ぬれた洗濯物が戻って来るまでであるお金が無事ポケットに入ったままでありますように、と祈ったのです。

長い2日間が過ぎて配達トラックが洗濯物を運んで来るころ、わたしは窓の所に座って待っていました。トラックが縁石に寄せて止まると、胸がどきどきしました。ぬれた衣類が家の中に運ばれるやいなや、すぐに自分のジーンズをつかんで寝室に駆け込みました。わたしは震える手をポケットに入れました。最初何も見つからなかったので、すべてを失ってしまったと思いました。でも次の瞬間、ぬれた5ドル札が指に触れたのです。それをポケットから取り出すと、深い安堵あんどの気持ちに包まれました。心から、感謝の祈りを天の御父にささげました。御父がわたしの祈りにこたえてくださったことが分かったからです。

そのとき以来、こたえられた祈りは数え切れません。わたしが天の御父と祈りを通して話をしない日はありません。それ

は、わたしにとって大切な会話の時間です。この会話がなければ、わたしは道に迷ってしまうことでしょう。このような関係を天の御父との間にまだ築いていない人は、それを築けるよう努めてください。そのように努めると、御父の靈感と導きを生活の中に受けられるようになります。これはこの地上で霊的に生きていくためにだれにとっても不可欠なものです。そのような靈感と導きは御父からの賜物で、求めさえすればだれにでも与えられます。これは大いなる宝です。

天の御父が靈感を通してわたしにみこころを伝えてくださるとき、いつもへりくだり感謝します。靈感に気づくことと、それに頼り、従うことをわたしは学んできました。何度も何度もそのような靈感を受けました。一度、劇的とも言える靈感を受けたのは、1987年8月のドイツ・フランクフルト神殿の奉献式みこころのときでした。エズラ・タフト・ベンソン大管長が奉献式の最初の1日か2日を一緒にいてくれましたが、その後帰国しました。そのため、残りのセッションの司会をする責任がわたしに回ってきました。

土曜日に、フランクフルト神殿地区のドイツ人の会員のためのセッションが開かれました。オランダ出身の傑出した指導者の一人、ペーター・マーリック兄弟のことをわたしはよく知っていました。セッションが始まる直前、マーリック兄弟はらからにお願いして同胞のドイツ人の会員たちに話してもらうべきであり、彼が第一話者となるべきだと、わたしははっきり感じました。その日の午前中、神殿でこの兄弟を見かけなかったため、地域会長のカーロス・E・エーシー長老にメモを渡し、ペーター・マーリックがそのセッションに出席しているかどうか尋ねました。立ち上がってセッションを始めようとした直前、マーリック兄弟は出席していないという返事のメモがエーシー長老から届きました。ほかの用事で出かけており、翌日、軍人ステーキのために開かれる奉献式のセッションに参

加する予定だと書いてありました。

ところが、わたしが立ち上がって歓迎のあいさつをし、プログラムの概要を紹介していると、ペーター・マーリックが第一話者だと発表しなさいという、間違いのような靈感をもう一度受けたのです。マーリック兄弟は神殿の中に絶対にいないとエーシー長老から知らされたばかりです。自分の思いと正反対の靈感でした。しかし、わたしはこの靈感に頼り、聖歌隊の発表と祈りについてアナウンスしてから、最初の話者はペーター・マーリック兄弟だと言ったのです。

席に戻ってエーシー長老の方を見ると、驚いた表情をしていました。後で聞いたのですが、第一話者がマーリック兄弟だと発表されたときには自分の耳を疑ったそうです。わたしがメモを受け取って確かにそれを読んだことを知っていましたから、本人が神殿のどこにもいないことが分かっているながら、なぜ話者をマーリック兄弟と発表したのか理解できなかったのです。

ちょうどそのころ、ペーター・マーリックはポートシュトラッセにある教会の地域事務所集会に出ていました。集会の途中で、マーリック兄弟は突然当時の地区代表だったトーマス・A・ホークス・ジュニア長老の顔を見て、「あなたならわたしをどのくらいの時間で神殿に連れて行ってくれますか」と聞いたのです。

小さなスポーツカーをかなりのスピードで運転することで知られていたホークス長老はこう答えました。「10分以内で送り届けられますよ。でも、どうして神殿に行く必要があるのですか。」

マーリック兄弟は、なぜ神殿に行く必要があるか分からないことを認めながらも、行かなければならないことは確かです、と言いました。二人は直ちに神殿に向かいました。

聖歌隊がすばらしい歌声を響かせている間、わたしはペーター・マーリック兄弟が現れるのではと見回していました。ま



だ現れませんでした。でも驚いたことに何の不安もありませんでした。すべて大丈夫だという穏やかで揺るぎない確信があったのです。

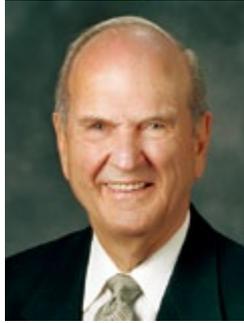
開会の祈りがちょうど終わろうとするとき、マーリック兄弟が神殿の玄関から入って来ました。本人には、自分が来た理由がまだ分かっていません。廊下を足早に歩いていると、モニターにわたしの映像が映っているのが見え、わたしの言葉が聞こえてきました。「では、ペーター・マーリック兄弟の話をお願いします。」

エーシー長老の驚きをよそに、ペーター・マーリックは直ちに部屋に入って来て壇上に立ったのです。

セッションの後、マーリック兄弟とわたしは彼が壇上で話す前に起こったことを語り合いました。その日、わたしだけでな

くペーター・マーリック兄弟にも靈感が与えられたことについて深く考えました。この驚くべき経験は、わたしにとって、そのような靈感を受けるにふさわしくなければならないこと、そして靈感を受けたらそれに頼り、従わなければならないことの確かな証となりました。主が、フランクフルト神殿のその奉獻セッションに集っていた人たちに、主の僕ペーター・マーリック兄弟の力強く心を打つ証を聞かせたいとお考えになったことには何の疑いもありません。

愛する兄弟姉妹の皆さん、祈り、靈感を受けるという天の御父との交わりは、人生の嵐や試練を乗り越えるために必要です。「わたしに近づきなさい。そうすれば、わたしはあなたがたに近づこう。熱心にわたしを求めなさい。そうすれば、あなたが



十二使徒定員会
ラッセル・M・ネルソン長老

たはわたしを見いだすであろう」⁷と主は勧められます。そうするときに、わたしたちは生活の中で主の御霊を感じるようになり、義に固く強く立とうという望みと勇気を得ます。つまり、「聖なる場所に立ち、動かされないように」⁸なるのです。

わたしたちの周りで世の中が変わり、社会の道徳基準が目の中で崩れていこうとも、主に頼る者に主がお与えになる貴い次の約束をわたしたちが忘れることがありますように。「恐れてはならない、わたしはあなたと共にいる。驚いてはならない、わたしはあなたの神である。わたしはあなたを強くし、あなたを助け、わが勝利の右の手をもって、あなたをささえる。」⁹

何というすばらしい約束でしょうか。このような祝福がわたしたちのうえにありますよう、わたしたちの主なる救い主、イエス・キリストの聖なる御名によって心から祈ります。アーメン。

注

1. ジョナサン・サックス, "Reversing the Decay of London Undone," *Wall Street Journal*, 2011年8月20日付。online.wsj.com。強調付加。注——イギリス上院議員のサックス議員は、ユダヤ教会衆組織である United Hebrew Congregations of the Commonwealth の主席ラビである
2. 出エジプト 20:3-4, 7, 8, 12-17
3. モロナイ 8:18
4. 1コリント 2:14
5. イザヤ 32:17
6. 3ニューファイ 18:18-20
7. 教義と聖約 88:63
8. 教義と聖約 87:8
9. イザヤ 41:10

聖約

自分が聖約の子孫であることを悟るとき、自分が何者であり、神から何を期待されているかを知ります。

最近、ロシアで最初のステーキをモスクワ¹に組織する責任を終えた1週間後、サンクトペテルブルクで地方部大会に出席しました。ロシアの教会に力を注いでくれた初期の宣教師や地元の指導者たちへの感謝を述べる中で、ピアチェスラフ・エフィモフ兄弟について触れました。彼はロシア人の改宗者として最初に伝道部長に召されました。彼と奥さんはその責任を立派に果たしました。非常に悲しいことに、エフィモフ会長は伝道を終えて間もなく、突然亡くなりました。² まだ52歳の若さでした。

ロシアの地における開拓者とも言える夫婦について話していたとき、会衆の中にエフィモフ姉妹がいるかどうか尋ねるよう、御霊に促されました。部屋のずっと後ろの方で、一人の女性が立ち上がりました。マイクの所に来てくれるようお願いしました。確かにガリーナ・エフィモフ姉妹です。彼女は確信をもって語り、主と、主の福音と、回復された主の教会について力強い証を述べました。夫と聖なる神殿で結び固められており、自分たちは永遠に結ばれていると言いました。今でも宣教師として同僚であり、彼女は幕のこちら側で、そして彼は向こう側で働

いているのです。³ 彼女は喜びの涙を流しながら、神聖な神殿の聖約について神に感謝しました。わたしも涙を流しました。この忠実な夫婦の永遠にわたる一致は、神聖な聖約を交わし、守り、尊ぶことによって得た義にかなった結果であることがよく分かったからです。

啓示された宗教の重要な概念の一つは、神聖な聖約に関するものです。法的に言えば、契約とは二人あるいはそれ以上の人々の間で交わされる合意を意味していますが、宗教的な契約、つまり聖約はそれよりもはるかに深い意味を持っています。それは、神との神聖な約束です。条件は神がお決めになり、各人はそれらの条件を受け入れるかどうかを選びます。もし人が聖約の条件を受け入れて神の律法に従うなら、その律法に伴う祝福を受けます。わたしたちは「神から祝福を受けるときは、それが基づく律法に従うことによる」と知っています。⁴

人類の歴史を通して、神はその子供たちと聖約を交わしてこられました。⁵ 主の聖約は救いの計画全体にわたっていて、主の完全な福音の一部となっています。⁶ 例えば、神はその子供たちのために救い主を遣わすと約束され、⁷ その代わりに主の律法に従順であるようにと命じられ



ました。⁸

聖書を読むと、旧世界の男女は聖約の子孫であると書かれています。どのような聖約でしょうか。それは「神が〔彼らの〕先祖たちと結ばれた契約〔であり、〕神はアブラハムに対して、『地上の諸民族は、あなたの子孫によって祝福を受けるであろう』と仰せられた」とあります。⁹

モルモン書には、新世界の人々についてもその中に聖約の子孫がいると記されています。¹⁰ 復活した主はこのようにお告げになりました。「見よ、あなたがたは預言

者たちの子孫であり、イスラエルの家に属する者であり、父があなたがたの先祖と交わされた聖約を受けている者である。父はアブラハムに、『あなたの子孫により、地のすべての部族は祝福を受けるであろう』と言われた。¹¹

救い主は、聖約の子孫であることがいかに大切かを説明して、次のように語られました。「父はわたしをよみがえらせ、まずあなたがたに遣わされた。あなたがた一人一人を罪悪から遠ざけて祝福にあずからせるためである。これは、あな

たがたが聖約の子孫だからである。』¹²

神がアブラハム¹³と交わり、後にイサク、¹⁴ヤコブ¹⁵と再び新たにされた聖約には、きわめて重要な意味があります。その中には次のような約束が含まれていました。

- イエス・キリストがアブラハムの系統を通してお生まれになる。
- アブラハムの子孫が数多くなり、永遠に増え続け、神権を持つ者となる。
- アブラハムが多くの国民の父となる。
- 幾つかの土地が彼の子孫によって受け継がれる。
- 地上のすべての国家が、彼の子孫によって祝福を受ける。¹⁶
- その聖約は永遠のものとなり、「千代」^{せんたい}にもわたって続く。¹⁷

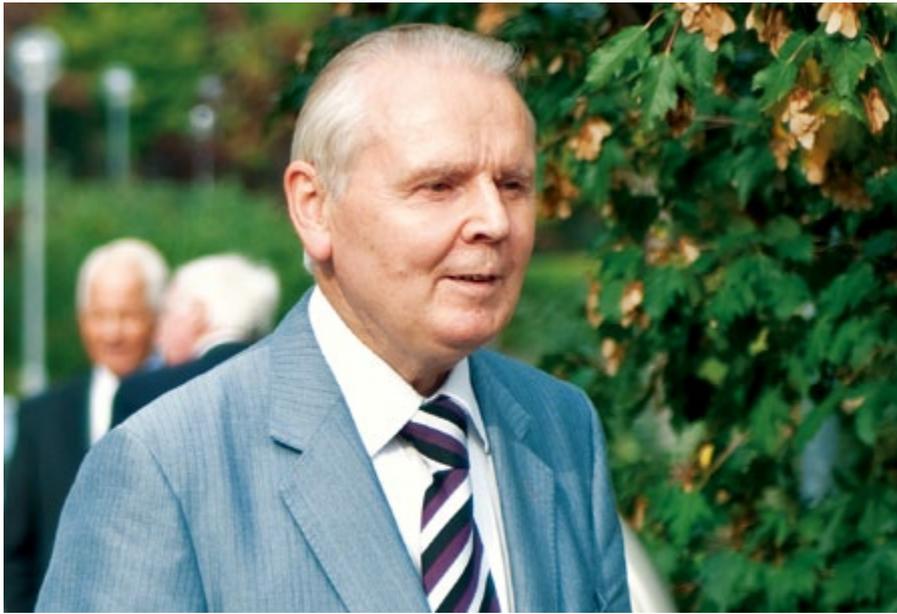
この約束の幾つかはすでに成就し、そのほかはこれから成就するのを待っています。モルモン書の最初の方に書かれている預言から引用します。「それで父〔リーハイ〕は、**末日**に成就する聖約について触れながら、わたしたちの子孫のことだけでなく、イスラエルの家に属するすべての者についても語ったのです。その聖約とは、主がわたしたちの先祖アブラハムに立てられたもの〔です。〕」¹⁸ すばらしいではありませんか。イエスがベツレヘムにお生まれになる実に600年も**前に**、預言者たちはアブラハムの聖約が**末日**について成就することを知っていたのです。

その約束を果たし、そのアブラハムの聖約を新たにするために、主はこの**末日**にも御姿を現されました。主は、預言者ジョセフ・スミスにこのように宣言されました。

「アブラハムは、その子孫とその腰から出た者について約束を受けた。——あなた、すなわちわたしの僕ジョセフは、その腰から出た者である……。

この約束はあなたがたに与えられたものでもある。あなたがたはアブラハムから出〔ている〕からである。」¹⁹

こうして約束が新たにされたことによ



スウェーデン・ストックホルム

り、わたしたちはいにしえの時代と同じように、聖なる神権と永遠の福音を受けました。わたしたちは完全な福音を受け、神権の祝福を享受し、神の最も偉大な祝福である永遠の命にふさわしくなる特権を頂いています。²⁰

わたしたちの中には、アブラハムの文字どおりの子孫もいますし、また、養子縁組によってその氏族に集められる人もいます。神は偏り見ることはなさいません。²¹ わたしたちが主を求め、主の戒めに従うならば、ともにこの約束された祝福を受けます。²² しかし、もしそうしないなら、聖約の祝福を失います。²³ 主の教会には、わたしたちを助けるために祝福師の祝福があり、その祝福を通して個人の行く末や過去とのつながりに関する理解を与えます。またアブラハム、イサク、ヤコブにまでさかのぼって、その人の血統を宣言します。²⁴

聖約を交わした兄弟たちは、神権の誓詞と聖約を受ける権利を得ます。²⁵ 「忠実であって、……これら二つの神権を得て、自分の召しを尊んで大いなるものとする者は、御霊により聖められてその体が更新される。」²⁶ また、それだけではありません。ふさわしい状態で神権を受ける男性は主イエス・キリストを受け入れ、主を受け入れる者は父なる神も受け入れるのです。²⁷ そして御父を受け入れる者は御父が持つておられるすべてを受けます。²⁸ この誓詞と聖約によって、世界中のふさわしい男性、女性、そして子供たちにすばら

しい祝福が注がれます。

わたしたちには、アブラハムの聖約が成就するのを助ける責任があります。わたしたちの子孫は、世界中のすべての人を祝福するように予任され、備えられています。²⁹ 神権の義務に伝道が含まれているのはそのためです。4,000年にわたる期待と備えの時を経て、福音が地上の国民に届けられるように定められた日が来たのです。今は約束されたイスラエルの集合の時です。そしてわたしたちはそれに参加できるのです。胸が高鳴るではありませんか。主はこの偉大なイスラエルの集合の時代に、ふさわしい状態で宣教師として奉仕するわたしたちや息子たちを頼りにしておられ、娘たちに深く感謝しておられます。

モルモン書は、主がイスラエルの聖約の子孫を集め始められたことを示す、目に見える証拠です。³⁰ わたしたちの時代のために書かれたこの本には、その目的の一つについてこのように書かれています。「あなたがたは、御父がイスラエルの子らと交わされた聖約……が、すでに果たされ始めていることを知るであろう。……見よ、主は、イスラエルの家に属する御自分の民に立てられた御自分の聖約を思い起こされるからである。」³¹

確かに主はお忘れになっていません。主はモルモン書によって、わたしたちや世界中の人を祝福しておられます。モルモン書の目的の一つは「ユダヤ人と異邦人に、

イエスがキリストで〔あられる〕ことを確信させる」ことです。³² モルモン書は神と聖約を交わす助けを与えてくれます。また、神を覚え、神の愛する御子を知るよう勧めしてくれる、イエス・キリストのもう一つの証です。

聖約の子孫は主の教義を受けて救いの計画を知る権利を有します。神聖な重要性を持つ聖約を交わすことによって、その権利を求めます。プリガム・ヤングは次のように語りました。「末日聖徒は皆、この教会に加わるときに新しくかつ永遠の聖約に入ります。……彼らは神の王国を支持〔する〕という新しくかつ永遠の聖約を交わします。」³³ 彼らは主の戒めに従順であることによって、聖約を守ります。

バプテスマのとき、わたしたちは主に仕え、主の戒めを守ると聖約します。³⁴ 聖餐を受けるとき、バプテスマの聖約を新たにし、イエス・キリストの御名を喜んで受けることを表明します。このようにしてわたしたちはキリストの息子娘として養子縁組されており、兄弟姉妹であることを知っています。主はわたしたちの新しい命の父であります。³⁵ 究極的に、神殿において、かつてアブラハム、イサク、ヤコブに約束されたように、永遠の家族という祝福を受ける共同の相続人となります。³⁶ このように、日の栄えの結婚は昇栄の聖約です。

自分が聖約の子孫であることを悟るとき、自分が何者であり、神から何を期待されているかを知ります。³⁷ 神の律法が心に刻まれます。³⁷ 主は神であられ、わたしたちは主の民なのです。³⁸ 献身的な聖約の子孫は、試練の最中にあっても忠実であり続けます。その教義がわたしたちの心深くに植え付けられるとき、死のとげさえも耐えやすくなり、霊的な体力が増強されます。

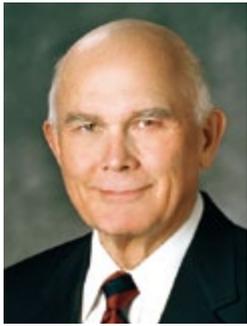
この世の人生で勝ち得る最も大いなる賛辞は、聖約を守る者として知られることです。聖約を守る者は、この世でも後の世でもその報いを受けます。聖文はこのように宣言しています。「神の戒めを守る



者の祝福された幸福な状態についても考えてほしい。見よ、これらの者は……、すべてのことについて祝福を受ける。もし最後まで忠実であり続けるならば、彼らは天に迎えられ、決して終わりのない幸福な状態で神とともに住めるのである。』⁴⁰
 神は生きておられます。イエスはキリストであります。主の教会はすべての人を祝福するために回復されました。トーマス・S・モンソン大管長は現代の神の預言者です。そしてわたしたちは、**忠実な**聖約の子孫として、今もとこしえにも祝福されるでしょう。イエス・キリストの御名によって証します、アーメン。■

注

1. ロシア・モスクワステークが2011年6月5日の日曜日に組織された。
2. 1995年から1998年まで、ロシア・エカテリンブルク伝道部の会長だった。2000年2月25日死去。
3. 教義と聖約138:57 参照
4. 教義と聖約130:21
5. 例えば、大洪水の後、主は言われた。「にじは雲の中に現れる。こうして、わたしは、わたしとあなたがた……との間に立てた契約を思いおこすゆえ、水はふたたび、すべて肉なる者を滅ぼす洪水とはならない。」(創世9:14-15, footnote 15b: from Joseph Smith Translation, Genesis 9:20)
6. 教義と聖約66:2:133:57 参照
7. ヨハネ3:16 参照
8. アブラハム3:25 参照
9. 使徒3:25
10. 3ニーファイ20:26 参照
11. 3ニーファイ20:25
12. 3ニーファイ20:26
13. 創世17:1-10, 19; レビ26:42; 使徒3:25; Bible Dictionary “Abraham, Covenant of.” 参照
14. 創世26:1-5, 24 参照
15. 創世28:1-4, 10-14; 35:9-13; 48:3-4 参照
16. 注13-15 参照
17. 申命7:9; 歴代上16:15; 詩篇105:8
18. 1ニーファイ15:18, 強調付加
19. 教義と聖約132:30-31。主はまた預言者ジョセフ・スミスに言われた。「わたしは地のもろもろの部族についてアブラハムに言ったように、わたしの僕ジョセフにも言う。「あなたにより、またあなたの子孫により、地の部族は祝福を受けるであろう。」(教義と聖約124:58)
20. 教義と聖約14:7 参照
21. 使徒10:34-35 参照
22. 出エジプト19:5 参照
23. 聖典には次のように宣言されている。「あなたがたがわたしの言うことを行うとき、主なるわたしはそれに対して義務を負う。しかし、あなたがたがわたしの言うことを行わないとき、あなたがたは何の約束も受けない。」(教義と聖約82:10)
24. 1823年9月21日、この聖約の概念が初めて預言者ジョセフ・スミスに啓示された。その後天使モロナイは、かつて先祖に与えられた約束を子孫の心に植えるために、預言者エリヤが天の使者として遣わされると宣言した(教義と聖約2:1-3 参照)。
25. 教義と聖約84:33-34, 39-40 参照
26. 教義と聖約84:33
27. 教義と聖約84:35, 37 参照
28. 教義と聖約84:38 参照
29. アルマ13:1-9 参照
30. 3ニーファイ29章 参照
31. 3ニーファイ29:1, 3
32. 『モルモン書——イエス・キリストについてのもう一つの証』タイトルページ
33. 『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』〔1997年〕, 62
34. 教義と聖約20:37 参照
35. 「わたしたちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言し、……どこに罪の赦しを求めればよいかを、わたしたちの子孫に知らせるために……[そうする]のである。」(2ニーファイ25:26)
36. ガラテヤ3:29; 教義と聖約86:8-11 参照
37. この概念はわたしたちに関連がある。「メシヤが人の子らに肉体をもって御姿を現された後に……メシヤの完全な福音が異邦人に与えられ、次いで異邦人からわたしたちの子孫の残りの者に伝えられるようになるということです。その日、わたしたちの子孫の残りの者は、自分たちがイスラエルの家に属する主の聖約の民であることを知るでしょう。それから彼らは、自分たちの先祖のことを知って理解するようになり、また彼らの贖い主によって先祖に与えられた贖い主の福音も理解するようになるでしょう。このようにして、彼らは贖い主とその教義の詳しい点について理解するようになり、どうすれば贖い主のみもとに帰って救いを得られるかを知るのです。」(1ニーファイ15:13-14)
38. イザヤ55:3; エレミヤ31:33; ローマ2:15:2 コリント3:2-3; ヘブル10:16 参照
39. 詩篇95:7; 100:3; エレミヤ24:7:31:33; 32:38; エゼキエル11:20; 37:23, 27; ゼカリヤ8:8:2 コリント6:16; ヘブル8:10 参照
40. モーサヤ2:41



十二使徒定員会
ダリン・H・オクス長老

イエスの教え

イエス・キリストは、確かに神の独り子、神の愛子です。……主は……罪と死からわたしたちを救ってくださる救い主です。これが地上における最も大切な知識です。

「あなたがたはキリストをどう思うか。」(マタイ 22:42) イエスのこの御言葉は、当時のパリサイ人を困惑させました。末日聖徒の皆さんとほかのクリスチャンの方々に同じ質問をします。皆さんがイエス・キリストについて心から信じているのはどのようなことですか。また、その信条のゆえにどのようなことを行っていますか。

これから引用する聖句のほとんどは、大半のクリスチャンに親しみのある聖書から取ったものです。もちろん、解釈は現代の聖典、特にモルモン書をよりどころとしています。モルモン書は、あいまいなために様々なクリスチャンが異なる見解を持つ聖書の聖句の意味を教えてくれるものです。わたしは、信者の皆さんだけでなく、そうでない方々にもお話しします。タッド・R・カリスター長老が今朝説いたように、クリスチャンであると自称する人の中には、イエスを偉大な教師としてたたえながらもイエスの神性を認めるのを避ける人がいます。このような人に話す際、わたしはこれまで、イエス御自身の御言葉を使って話してきました。主がどのような御方で、何をするために地上に送られたかについて、主御自身が語られたことを、わたしたちは皆深く考える必要があります。

独り子

イエスは、御自分が独り子であるとお教えになり、こう言われました。

「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。

神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、御子によって、この世が救われるためである。」(ヨハネ 3:16-17)

父なる神は、このことを肯定されました。変貌の山での神聖な出来事の絶頂で、御父は天から次のように宣言されたのです。「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。これに聞け。」(マタイ 17:5)

イエスはさらに、御自分の御姿が御父の御姿と同じであると教えられました。使徒にこのように語っておられます。

「『もしあなたがたがわたしを知っていたならば、わたしの父をも知ったであろう。しかし、今は父を知っており、またすでに父を見たのである。』

ピリポはイエスに言った、『主よ、わたしたちに父を示して下さい。そうして下さいれば、わたしたちは満足します。』

イエスは彼に言われた、『ピリポよ、こんなに長くあなたがたと一緒にいるのに、

わたしがわかっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのである。』(ヨハネ 14:7-9)

後に、使徒パウロは御子を「〔父なる〕神の本質の真の姿」と表現しています(ヘブル 1:3。2コリント 4:4も参照)。

創造主

使徒ヨハネは、イエスを「言」と呼び、イエスが「初めに神と共にあった。すべてのものは、これによってできた。できたものうち、一つとしてこれによらないものはなかった」と記しています(ヨハネ 1:2-3)。このように、イエス・キリストは御父の計画の中であらゆるものの創造主なのです。

イスラエルの主なる神

イエスはパレスチナの民の中で務めを果たしておられたときに、御自分がエホバすなわちイスラエルの主なる神であるとお教えになりました(ヨハネ 8:58 参照)。その後、復活した主はアメリカ大陸の御自分の民を教え導かれました。そのときにこう宣言されました。

「見よ、わたしはイエス・キリストであり、世に来ると預言者たちが証した者である。

……わたしがイスラエルの神であり、全地の神である……。」(3 ニューファイ 11:10, 14)

主はわたしたちのために何をしてくださったか

何年前のあるステーキ大会で、一人の女性と会いました。何年もの間教会から離れていて、教会に戻るよう勧められたものの戻るべき理由が見つからない、と女性は言いました。わたしはこのように励ましました。「救い主がわたしたちのためにしてくださった数々のことを考えれば、教会に戻って主を礼拝し主に仕える理由はたくさんあるのではないですか。」彼女の答えには驚きました。「救い主は



わたしのために何をしてくださったのですか。」救い主がわたしたちのために何をしてくださったかを理解していない方々のために、主御自身の御言葉とわたし自身の証をもって、その質問に答えましょう。

世の命

聖書には、イエスがこう説かれたと記されています。「わたしがきたのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためである。」(ヨハネ 10:10) 後に、主はアメリカ大陸でこう宣言されました。「わたしは世の光であり命である。」(3 ニーファイ 11:11) 主は創造主であられ、主の復活を通してわたしたちは皆確かに再び命を得られるようになったのですから、主は世の命です。主がわたしたちに下さる命はこの世限りのものではありません。主はこのように教えておられます。「わたしは、彼らに永遠の命を与える。だから、彼らはいつまでも滅びることがなく、また、彼らを

わたしの手から奪い去る者はない。」(ヨハネ 10:28。ヨハネ 17:2 も参照)

世の光

イエスはさらに次のように教えておられます。「わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがな[い。]」(ヨハネ 8:12) また、こう宣言されました。「わたしは道であり、真理であり、命である。」(ヨハネ 14:6) 主の教えはこの世においてわたしたちの道を照らし、御父のみもとに戻る道を教えてくれるので、主は道であり光なのです。

御父の御心を行う

イエスは常に御父を敬い、御父に従われました。すでに年若いころに地上の両親に、御自分が御父の務めを行っているはずのことを知らなかったのか、とはっきりと言われました(ルカ 2:49 参照)。そして、後にこのように教えられました。

「わたしが天から下ってきたのは、自分のところのままを行うためではなく、わたしをつかわされたかたのみこころを行うためである。」(ヨハネ 6:38。ヨハネ 5:19 も参照) また、次のようにも教えておられます。「だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。」(ヨハネ 14:6。マタイ 11:27 も参照)

わたしたちは御父の御心を行うことを通して御父のみもとに戻ります。「わたしにむかって『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである。」(マタイ 7:21) 主は次のように説明されました。

「その日には、多くの者が、わたしにむかって『主よ、主よ、わたしたちはあなたの名によって預言したではありませんか。また、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって多くの力あるわざを行ったではありませんか』と言うであろう。

そのとき、わたしは彼らにはっきり、こう言おう、『あなたがたを全く知らない。不法を働く者どもよ、行ってしまえ。』」(マタイ 7:22-23)

では、天国に入るのはどのような人なのでしょう。主の御名によって多くの力ある業を行った人ではなく、「天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである」と主は教えておられます。

偉大な模範

イエスはそのためにはどうすればよいかを示されました。主は、御自分に従うよう繰り返しお招きになりました。「わたしの羊はわたしの声に聞き従う。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしについて来る。」(ヨハネ 10:27)

神権の力

主は使徒たちに神権の力をお授けになりました(マタイ 10:1 参照)。主は先任使徒のペテロにこう言っておられます。「わたしは、あなたに天国のかぎを授け



よう。そして、あなたが地上でつなぐことは、天でもつなぐれ、あなたが地上で解くことは天でも解かれるであろう。」(マタイ 16:19。マタイ 18:18も参照)

ルカは次のように記しています。主は七十人を選び、「行こうとしておられたすべての町や村へ、ふたりずつ先におつかわしになった。」(ルカ 10:1) その後、この七十人は喜びながらイエスに言いました。「主よ、あなたの名によっていたしますと、悪霊までがわたしたちに服従します。」(ルカ 10:17) わたしはこの神権の力についての証人です。

聖霊の導き

地上での務めの終わりに、イエスは使徒たちに次の教えを授けられました。「助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであろう。」(ヨハネ 14:26) 「あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう。」(ヨハネ 16:13)

戒めによる導き

主はまた、戒めによりわたしたちを導かれます。そのため、主はニーファイの民に教義の要点について今後論争しないように命じて次のように言われました。

「争いの心を持つ者はわたしにつく者ではなく、争いの父である悪魔につく者である。悪魔は互いに怒って争うように人々の心をおり立てる。

見よ、互いに怒るように人々の心をおり立てるのは、わたしの教義ではない。このようなことをやめるようにというのが、

わたしの教義である。」(3 ニーフай 11:29 - 30)

永遠の命に目を向ける

主はまた、この世のものではなく主に目を向けるよう求めておられます。イエスは命のパンに関する偉大な説教の中で、物質的な食物と永遠の食物の違いを説明しておられます。「朽ちる食物のためではなく、永遠の命に至る朽ちない食物のために働くがよい。これは人の子があなたがたに与えるものである。」(ヨハネ 6:27) 救い主は、御自身が命のパンであり永遠の食物の源であると教えられました。イエスは、荒野にいたイスラエルの子らを養うためにエホバが送られたマナという食物を含め、世が提供するこの世の食物について語り、これらのパンに頼った者たちが死んでしまったことを教えられました(ヨハネ 6:49 - 50 参照)。一方、主がお授けになった食物は「天から下ってきた生きたパンである。それを食べる者は、いつまでも生きるであろう」とお教えになりました(ヨハネ 6:51)。

弟子たちの中には、これは「ひどい言葉だ」と言う者もあり、このとき以降多くの弟子たちが「去って行って、もはやイエスと行動を共に」しませんでした(ヨハネ 6:60, 66)。彼らは、すでに与えられていた教え、すなわち「まず神の国……を求めなさい」(マタイ 6:33) という教えを受け入れていなかったようです。現代でも、自分はクリスチャンだと公言する人の中には、地上での生活の足しにはなっても永遠の命の糧とはならないこの世のものに、より引き寄せられている人たちがいます。あるいは、今も主の御言葉を「ひど

い言葉だ」ととらえて、イエス・キリストに従わない人たちがいます。

贖罪

救い主の地上における務めは、主の復活と世の罪のための贖罪によって絶頂を迎えました。バプテスマのヨハネはこのことを預言して次のように言っています。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。」(ヨハネ 1:29) 後にイエスはこのように教えられました。「人の子がきたの〔は〕……仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためである……。」(マタイ 20:28) マタイの記録によれば、イエスは最後の晩餐で、御自分が祝福されたぶどう酒は「罪のゆるしを得させるようにと、多くの人のために流すわたしの契約の血である」と説明されました(マタイ 26:28)。

復活された主はニーファイの民に現れ、進み出てわきの傷と手足の釘の跡に手を触れるようお招きになりました。主はその理由をこう説明されました。「わたしがイスラエルの神であり、全地の神であること、そして世の罪のために殺されたことを知りなさい。」(3 ニーフай 11:14) さらに話は続きます。群衆は「イエスの足もとに伏して、イエスを拝し」ました(17節)。贖罪のゆえに、全世界は最終的に主を礼拝するようになるのです。

イエスは贖罪に関するさらに貴い真理



を教えられました。救い主の教えの詳細と、主の使命に関する最良の説明を収めたモルモン書には、この教えについてこのように記されています。

「父は、わたしが十字架に上げられるようにと、わたしを遣わされた。……わたしはすべての人をわたしのもとに引き寄せた。

……彼らが各々の行いに応じて裁かれるようにするのである。

さて、悔い改めて、わたしの名によってバプテスマを受ける者はだれであろうと、満たされるであろう。そして、最後まで堪え忍ぶならば、見よ、わたしはその者を、わたしが立って世の人々を裁くその日に、わたしの父の御前で罪のない者としてしよう。……

清くない者は、決して父の王国に入ることができない。したがって、信仰を持ち、罪をすべて悔い改め、最後まで忠実であることによって、わたしの血により衣を洗われた者のほかには、父の安息に入る者はいない。」(3 ネーファイ 27:14-16, 19)

このように、イエス・キリストの贖罪は、罪がもたらす霊の死を克服し、神聖な聖約を交わし守ることを通して永遠の命の祝福にあずかる機会を与えてくれることが分かります。

課題と証

イエスは次のような課題をお与えになりました。「あなたがたはキリストをどう思うか。」(マタイ 22:42) 使徒パウロはコリント人に次のような課題を与えています。「あなたがたは、はたして信仰があるかどうか、自分を反省……するがよい。」(2 コリント 13:5) わたしたちは皆、自分でこれらの課題に答える必要があります。突き詰めるとわたしたちは何に忠実なのでしょう。わたしたちはニール・A・マックスウェル長老が印象深い表現で語ったようなクリスチャン、すなわち、シオンに家を移しながらも、バビロンの別荘を手放そうとしないクリスチャンとなっていないでしょうか。¹



中立の地というようなものではありません。わたしたちはイエス・キリストの弟子です。わたしたちは主の教会の会員であり、常に主の福音に従う者です。休暇を取ってバビロンに足を踏み入れたり、バビロンの民のように振る舞ったりするわけにはいきません。わたしたちは主の御名を敬い、主の戒めを守り、「この世のものを求めないで、まず、神の王国を築き、神の義を打ち立てることを求め[る]」べきなのです(ジョセフ・スミス訳マタイ 6:38)。

イエス・キリストは、確かに神の独り子、神の愛子です。主は確かにわたしたちの創造主であり、世の光であり、罪と死からわたしたちを救ってくださる救い主です。これが地上における最も大切な知識であり、わたしが自分で知ったように皆さんも自分でそのことを知ることができます。御父と御子について証し真理へと導く聖

霊が、これらの真理をわたしに明らかにしてくださいました。皆さんにも明らかにしてくださいませ。そのためには、望みを持ち、従順でなければなりません。願いについて、イエスはこう教えられました。「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。」(マタイ 7:7) 従順について主はこう説かれました。「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。」(ヨハネ 7:17) これらのことが真実であることを、イエス・キリストの御名により証します。アーメン。■

注

1. ニール・A・マックスウェル, *A Wonderful Flood of Light* (1990年), 47 参照



中央日曜学校会長会第二顧問
マシュー・O・リチャードソン

御霊に倣って教える

わたしたちは皆教師ですが、聖霊こそが真の教師であり、あらゆる真理の証人であられることをわたしたちは十分理解しなければなりません。

何年も前に、同僚と一緒に宣教師訓練センターにいたときのことです。「おばあちゃん、あの人は本物の宣教師？」と言う子供の声が聞こえました。見ると、幼い女の子が祖母と手をつなぎ、わたしと同僚を指さしていました。わたしはほほえみ、手を差し出してその子の目をまっすぐに見詰めて言いました。「こんにちは、リチャードソン長老です。わたしたちは本物の宣教師ですよ。」その子は正真正銘の宣教師のそばにいて興奮して顔を輝かせ、わたしを振り返って見ました。

その場を去るとき、献身しようという決意を新たにしました。救い主が、わたしの家族が、そしてこの少女が期待するような宣教師になりたいと思いました。それから2年間、本物の宣教師の姿に近づき、本物の宣教師のように考え、行動し、特に教えるように一生懸命努力しました。

家に戻ると、伝道は終わったはずでしたが、引き続きその影響を受けました。実際、あれから何年もたった今でも、伝道はわたしの人生にとって最高の2年間だったと感じています。伝道中に思いがけなく得た教訓の一つは、あの少女の声です。今では、次のように心に聞こえます。「おばあちゃん、あれは本物の神権者?」「おばあちゃん、あれは本物の夫?

本物の父親?」「本物の教会員?」

人生のあらゆる面で本物になるための鍵は、学習を妨げずに教える能力だということにわたしは学びました。真の人生には真の学習が必要であり、真の学習ができるかどうかは真の教えに懸かっています。効果的に教える責任は、教師として正規の召しを受けている人に限られません。¹ 実際、家族全員、教会の指導者、そして青少年と子供を含めたあらゆる教会員に教える責任があります。

わたしたちは皆教師ですが、聖霊こそが真の教師であり、あらゆる真理の証人であられることをわたしたちは十分理解しなければなりません。このことを完全に理解していない人は、聖霊に代わってすべてを自分で行おうとしたり、ともにいてくださるよう丁寧に御霊を招くものの、助手の役割しか与えなかったりします。あるいは、実際には単にぶっつけ本番で教えているだけにもかかわらず、御霊にすべて任せて教えていると思いついでいるのです。すべての親、指導者、教師には「御霊……によって」² 教える責任があります。「御霊の前」でも「御霊の後」でもなく、「御霊によって」教えなければなりません。そうするならば、御霊は自由に真理を教えることがおできになります。

モロナイは、真の教師である聖霊にわ

たわたしが取って代わったり、聖霊の影響力を弱めたり退けたりせずに「御霊によって教える」方法をわたしたちが理解できるように助けてくれます。モロナイは聖徒たちが「御霊の働くままに」³ 物事を行ったと語っています。しかし、そのためには御霊とともにあるだけでは十分ではありません。聖霊の「働くままに」行動するとは、聖霊の方法に倣って教えられよう、自分の教え方を変える必要があるかもしれないということです。自分の方法を聖霊の方法と一致させることで、聖霊は自由に教え、証^{あかし}することがおできになります。聖霊と一致することの大切さは、次の例で示すことができるでしょう。

何年も前に、わたしは子供たちとオレゴン州にあるサウスシスターという1万358フィート(3,157メートル)の山の頂上に登りました。登り始めて数時間後、火山岩の小石で覆われた、傾斜が45度の長い坂道にやってきました。頂上は見えています。しかし前に進むにも、一歩前に進むごとに小石に足を取られて数センチずつ後に滑るのです。12歳の息子は少しずつ登って行きましたが、わたしは8歳の娘と一緒にその場にいました。すぐに娘は疲れ、落胆し、「もうお兄ちゃんとは一緒に頂上に行けないかもしれない」と思い、悲しくなっていました。娘を担ごうかとまず思いましたが、心は熱していても、肉体は弱かったのです。わたしたちは岩の上に腰をおろして、状況を見極め、別の方法を考え出しました。わたしは娘に言いました。「お父さんのズボンの後ろのポケットに手を入れてしっかりつかまっているんだ。そして、ここからが大事だよ、お父さんが一歩足を上げたら、おまえもすぐに足を出して、お父さんの足のあった所に足を置くんだ。」娘はわたしの動くとおりに動き、わたしのポケットにつかまって引っ張り上げられるに任せました。永遠かと思うほどの時間が過ぎ、わたしたちは頂上に着きました。達成感と満足感に満ちた娘の表情は、この上な



い貴重なものでした。娘と息子はわたしの目には**本物**の登山家のようにでした。

娘の成功は、娘がたゆみなく努力し、わたしの登り方をよくまねて登った結果もたらされました。娘がわたしの動きに同調したことで、わたしたちはリズムに乗り、わたしは自分の力を余すところなく発揮することができました。「御霊の働くままに」教えるとは、こういうことです。自分の教え方を聖霊の教え方に合わせるとき、御霊はわたしたちを強めてくれるとともに、何の制約も受けない状態になります。このことを念頭に、わたしたちが做すべき二つの基本的な「御霊の働き」について考えてみましょう。

第1に、聖霊は個々に対し、非常に個人的に教えてくださいます。ですから、わたしたちは自分で十分に真理を知ることができます。人により異なる、必要や状況、成長の度合いに応じて、聖霊は知

るべきことと行うべきことを教えてくださり、わたしたちは、あるべき自分になることができます。聖霊が「すべてのことの真理」⁴を教えてくださいと言っても、一度に教えてくださいわけではないことに注意してください。御霊は「ここにも少し、そこにも少しと、教えに教え、訓戒に訓戒を加えて」⁵真理を教えてください。

御霊に倣って教える人は、人を教えるのであって、レッスンを教えるのではないことを理解しています。また、手引きの内容をすべて教えようとしたり、そのテーマについて学んだことを全部教えようとしたりする気持ちを抑えて、家族やクラスの生徒が知り、行う必要のあることに焦点を当てます。御霊が教えられるとおりに教える親や指導者、教師は、真に教えることとはただ話したり告げたりするだけではないことをすぐに学びます。その結果、意図的に言葉を切って耳を澄ませ、注意

深く観察をし、次に何をすべきかを判断します。⁶このようにするとき、聖霊は、何を行い、何を言うべきかを学ぶ者と教える者の双方に教えてください。⁷

第2に、聖霊は招き、働きかけ、促し、靈感を与えることによって、わたしたちに行動するよう教えられます。キリストは、わたしたちが教義に従って生活し行動するときに、わたしたちは真理に到達すると断言しておられます。⁸御霊はわたしたちのなすべきことへと導き、なすべきことを教え、示してくださいます。⁹しかし、わたしたちが自分でできることを代わって行うことはなさいません。聖霊は、わたしたちに代わって学んだり、わたしたちに代わって感じたり、わたしたちに代わって行動したりはなさらないのです。それは、選択の自由の教義に反しているからです。聖霊がおできになるのは、わたしたちが学び、感じ、行動できるように機会を与えて、勧めくださることです。

この御霊の方法で教える人は、ほかの人たちが自らの選択の自由を使えるように勧め、励まし、機会を与えます。親、指導者、教師は、自分の家族や集会に集まった人たち、クラスの生徒たちに代わって感じたり、彼らに代わって学んだり、そしてもちろん彼らに代わって悔い改めたりすることができないことを理解しています。「子供や生徒、ほかの人たちのために何ができるだろうか」ではなく、「周りの人たちが自分で学ぶことができるように、どのように勧め、助ければよいだろうか」と自問するのです。聖霊の働くままに教える親は、家族がただ原則について学ぶ家庭ではなく、原則を理解する家庭を作ります。同様に教師は、ただ福音の教義について語るだけではなく、学び手が教義を理解し、教義に従って生活できるよう助けます。人が**自らの**選択の自由を正しく行使するとき、聖霊は自由にその人に働きかけることができになるのです。

現在の世界状況にあって、家庭や集会、福音のクラスの中で真に学び教える



七十人
山下和彦長老

ことが大いに求められています。向上することへの道の険しさに、時に圧倒されそうになることは承知しています。しかし、進歩が遅いことでがっかりしないでください。子供たちとの山登りを振り返ってみると、あることを思い出します。休憩で止まったら、すぐに後を振り返って山を見下ろすようにして、先の長い道のりにばかり気を取られないようにしようと思ったのです。景色を楽しみ、互いにこう言いました。「ほら、随分来たよ。」そうして深呼吸し、向きを変えて上り坂に向かい、再び一歩ずつ登り始めたのです。兄弟姉妹、皆さんは御霊の働くままに子供を育て、導き、教えることが必ずできません。わたしは、皆さんにそれができていることを知っています。わたしは皆さんにそれができ、そして人生が変わることを証します。

わたしの人生は、御霊とともに、特に御霊によって教えてくれた**本物の教師**によって祝福されてきました。皆さんの行いのすべてにおいて、教える方法を聖霊の方法と一致させるようにお勧めします。イエス・キリストが救い主であられ、主の福音が回復されたことを証します。ですから、わたしたちは**本物の親**、**本物の指導者**、**本物の教師**、**本物の生徒**でなければなりません。皆さんが努力するとき、神が助けをくださることを証します。救い主イエス・キリストの神聖な御名により、アーメン。■

注

1. 『教師、その大いなる召し——福音を教えるための資料集』3
2. 教義と聖約 50:14
3. モロナイ 6:9
4. モロナイ 10:5。教義と聖約 50:14；『真理を守る——福音の参考資料』131-132も参照
5. 2ニーファイ 28:30
6. デビッド・A・ベドナー「信仰によって学ぶ望みを持つ」『リアホナ』2007年9月号、16-24参照
7. ルカ 12:12 参照
8. ヨハネ 7:17 参照
9. 2ニーファイ 32:1-5 参照

宣教師は教会の宝です

宣教師が主によって召され、彼らとその召しにこたえて世界各地で奉仕していることに感謝します。

数年前のある晩、新任宣教師のスワン長老と日本人の先輩同僚が我が家を訪れました。幸い、わたしも家にいたので彼らを招き入れました。玄関で彼らを出迎えたとき、スワン長老が着ていたコートが目に留まりました。そして何気なくこう言いました。「いいコートを着ていますね。」しかし、それは新品ではなく、むしろ色あせていたので、前にいた宣教師がアパートに置いていったコートだろうと思いました。

わたしの言葉に対して、スワン長老はすぐに返事をしてくれましたが、それはわたしの予想と反対のことでした。彼はたどたどしい日本語でこのように言いました。「はい、これはいいコートです。父が20年以上前に日本で伝道したときに着ていたコートです。」

彼の父親は日本岡山伝道部で奉仕しました。息子が日本での伝道に出発する際、そのコートをくれたそうです。これはスワン長老親子が2代にわたって着たコートの写真です。

スワン長老の話聞いて、わたしは感動しました。そして、なぜスワン長老が父親のコートを着て伝道しているのかがようやく分かりました。スワン長老は父親が、日本や日本人に対して抱いていた愛を受け継いで伝道に出たのです。

皆さんの中にはきっと、同じような経験

をした人もいるでしょう。日本で伝道する多くの宣教師が、自分の父親や母親、祖父母、あるいはおじもまた日本で伝道したと教えてくれました。

世界各地で奉仕したすべての帰還宣教師に、心からの愛と尊敬、感謝の気持ちを伝えたいと思います。皆さんの助けを受けて改宗した人々は皆さんのことをきくと忘れていないはずで、「よきおとずれを伝え〔る〕……者の足は山の上にあつて、なんと麗しいこと〔でしょう〕。」¹

わたしはそのような改宗者の一人です。高校時代、17歳で改宗しました。わたしにバプテスマを施してくれたのはアイダホ州出身のラップ長老でした。彼はアイダホ州でステーキ会長として奉仕し、最近解任されました。バプテスマを受けたとき以来、彼と会っていませんが、電子メールを交換したり、電話で話したりしてきました。わたしは彼のことを忘れたことがありません。彼の優しい笑顔は記憶に刻まれています。彼は、わたしが元気であることを知って、とても喜んでくれています。

17歳のとき、わたしは宣教師が教えてくれたメッセージをそれほど理解していたわけではありませんでした。しかし、宣教師に対して特別な思いを抱き、彼らのようになりたいと思っていました。また、彼らの深い愛を常に感じました。

わたしがバプテスマを受けた日のことを



お話ししましょう。7月15日で、とても暑い日でした。同じ日に一人の女性もバプテスマを受けました。バプテスマフォントは宣教師が自分たちで作ったもので、あまり見栄えはよくありませんでした。

わたしたちはバプテスマのすぐ後で、確認を受けました。初めに、姉妹がロイド長老から確認を受けました。わたしはほかの教会員と一緒に座り、目を閉じてロイド長老の言葉を静かに聞いていました。ロイド長老はその姉妹を確認し、祝福を授け始めました。ところが、ロイド長老の声が途切れたので、わたしは目を開けて彼の方をじっと見ました。

今でもその場面を鮮明に覚えています。ロイド長老の目から涙があふれていました。そのとき、わたしは人生で初めて、聖霊に包み込まれる経験をしました。

聖霊を通して、ロイド長老がわたしたちを愛してくれていること、神もわたしたちを愛してくださっていることを確かに知りました。

それから、わたしが確認を受ける番になりました。再びロイド長老が儀式を行いました。彼はわたしの頭の上に手を置いて、教会員として確認し、聖霊の賜物を授け、次に祝福を授け始めました。このときもまた彼の声途切れましたが、今度は何が起きているか分かりました。わたしは、宣教師がわたしを愛してくれていること、神もわたしを愛してくださっていることを聖霊を通して確かに知りました。

次に、現在世界各地で伝道している宣教師の皆さんにも少しお話しします。皆さんが人々に示す態度や愛は、とても大切なメッセージです。わたしは宣教師

が教えてくれた教義をすぐには理解できませんでしたが、宣教師の大きな愛を感じ、彼らの数々の親切な行いから大切な教訓を学びました。皆さんのメッセージは、愛と希望、信仰のメッセージです。皆さんの態度と行いは御霊を招き、その御霊こそが大切な事柄を理解する助けとなるのです。皆さんにお伝えしたいのは、皆さんはその愛を通して、神の愛を分かち合っているということです。皆さんは教会の宝です。皆さんの犠牲と献身的な働きに感謝しています。

また、将来宣教師になる皆さんにお話しします。我が家では4人の子供が伝道に出ました。そして、今月末には5人目の子供がプロボの宣教師訓練センターに入ります。来年には末の子供も高校卒業後に伝道に出る計画を立てています。

わたしの息子たちや伝道に出る準備をしている皆さんに向けて話します。伝道に出るためには次の3つの事柄を携えていく必要があります。

1. 1番目は、福音を宣べ伝えたいという望みを持つことです。主は皆さんに御自分の羊を尋ねて、捜し出してほしいと願っておられます。² 世界中の人々が皆さんを待っています。彼らのもとに急いでください。宣教師以上に人々の救いに熱心に取り組んでいる人はいません。わたしも救い出された者の一人です。
2. 2番目は、自分の証を築くことです。主は皆さんの「心と進んで行く精神」³ を求めておられます。
3. 3番目は、人々を愛することです。お父さんのコートと、日本と日本人に対するお父さんの愛を携えて伝道に出たスワン長老のように、人々を愛してください。

そして、どのようにして伝道に備えればよいか分からない人は、ビショップのもとに行って話してください。ビショップは皆さんを助けてくれます。

宣教師が主によって召され、彼らがその召しにこたえて世界各地で奉仕していることに感謝します。すべての愛する帰還宣教師の皆さん、わたしは皆さんのあらゆる努力に心から感謝します。皆さんはこの教会の宝です。どうぞ常に宣教師であり続け、キリストの弟子として行動できますように。

わたしたちが天の御父の子供であり、御父がわたしたちを愛しておられることを証します。御父はわたしたちが御自身のみもとへ帰れるように愛する御子イエス・キリストを遣わされました。これらのことをイエス・キリストの聖なる御名によって、申し上げます。アーメン。■

注

1. イザヤ 52:7
2. エゼキエル 34:11 参照
3. 教義と聖約 64:34



七十人
ランドール・K・ベネット長老

永遠の命を選ぶ

皆さんの永遠の行く末は、偶然の結果ではなく、選択の結果なのです。永遠の命を選び始めるのに、遅すぎることはありません。

何年も前、家族と一緒に浜辺で過ごしていたとき、岸辺から荒れた沖合へ引き込む強い流れを警告する標識や旗があることに気づきました。素人のわたしの目には見えなくても、近くの監視塔にいる救助隊員には容易に見えるこの強力な流れは、安全な浜辺を離れて水に入る者にとっては、危険なものでした。わたしは自分にこう言い聞かせて正当化しました。「わたしは泳ぎがうまい。泳げばいい運動になるだろう。浅瀬なら大丈夫なはずだ。」

警告を無視し、自分の判断に間違いはないと感じたわたしは、「気分転換」にひと泳ぎしようと水に入りました。数分後、近くの浜辺にいる家族の場所を確認しようと顔を上げると、浜辺はもはや近くありません。警告を受けていたにもかかわらず、人をあざむくその流れに捕えられたわたしは、あっという間に家族から引き離されていたのです。

最初は自信をもって、やがて必死に、浜辺に向かって泳ぎましたが、流れは容赦なく、深く荒れた沖合にわたしをじわじわと引き込みます。わたしは疲れ果て、水を飲んで、窒息しそうになりました。ほんとうにおぼれ死ぬかもしれないと思い始めました。精力を使い果たしたわたしは、とうとう必死の思いで助けを呼びました。

奇跡のように、一人の救助隊員がすぐに

そばに来てくれました。気づかなかったのですが、彼はわたしが海に入る様子を見ていたのです。彼はわたしがどこで流れに捕えられるかを予知していました。その流れを避けて、回り込み、もがき苦しむわたしのほんの少し先の沖合まで泳いで来て、わたしが助けを呼ぶのをじっと待っていました。一人では岸まで泳げないほど弱っていたわたしは、彼の救助に感謝しました。今でも彼の救助に感謝しています。彼の助けがなかったら、わたしは二度と家族のもとに戻れなかったでしょう。

あの日、愚かな選択をしたことで、自分と家族に重大な結果を招くことになりかねませんでした。これから一緒に選択という賜物について考えるに当たり、聖霊の助けがあって、わたしたち一人一人が自分のしている選択について評価できるよう祈ります。

わたしたちの愛する預言者トーマス・S・モンソン大管長は、次のように教えています。「決断は行く末を決めるということをいくら強調してもしすぎることはありません。永遠に関する決断には、永遠の結果が伴います。」¹

皆さん一人一人は、この大会で教えられているように、天の両親から愛されている霊の息子、娘です。皆さんは神の属性と神聖な行く末を受け継いでいます。² 皆さん



カナダ・ケベック州モントリオール

は前世にいる間、真理を愛することを学びました。正しい永遠の選択をしました。この死すべき世には、皆さんの成長と進歩を助けるために、苦悩や逆境、悲しみや苦しみ、試みや試練があることを、皆さんは知っていました。皆さんはさらに、正しい選択を続けて行い、間違った選択を悔い改めれば、イエス・キリストの贖罪を通して永遠の命を受け継ぐことを知っていたのです。

選択について預言者リーハイはどう教えたのでしょうか。リーハイはこう助言しています。「人は、すべての人の偉大な仲保者を通じて自由と永遠の命を選ぶことも、あるいは悪魔の束縛と力に応じて束縛と死を選ぶことも自由である。」そして次のように教えています。「わたしはあなたがたが偉大な仲保者に頼り、主の大いなる戒めに聞き従い、主の御言葉に忠実であって、……永遠の命を選んでほしいと思っている。」³

兄弟姉妹の皆さん、では、何を考え、感じ、行うときに、皆さんやわたしは永遠の命を選んでいるのでしょうか。

わたしの孫たちは、今、何かを選択する

ときにはその結果も選択しているということも学んでいます。最近、3歳になる孫娘の一人が、どうしても夕食を食べようとしませんでした。母親がこう説明します。「もうすぐ眠る時間よ。夕食を食べる方を選んだら、デザートにアイスも食べていいわ。夕食を食べない方を選んだら、アイスなしで、すぐにベッドに行くのよ。」孫娘はその二つの選択についてじっくり考えてから、こう叫びました。「わたしが選びたいのは、遊んで、アイスだけ食べて、ベッドに行かないことなの。」

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは遊んで、アイスだけを食べて、眠らないでおきながら、栄養失調や疲労という結果は避けたいと願っているのでしょうか。

実際に、永遠の選択は二つしかありません。それぞれに永遠の結果が伴います。世の救い主に従うことを選び、その結果として天の御父とともに住む永遠の命を選ぶか、それとも俗世に従うことを選び、その結果として天の御父から永遠に離れることを選ぶかです。

安全な義と危険な俗世を両方選択することは不可能です。俗世というぬかるみ

を歩いたり、この世という水の中でたわむれても害はなさそうに思えます。しかし、わたしの「気分転換」の水泳もそうだったのです。

わたしの家族の人生航路を変えたかもしれないあの流れと同様に、俗世や、人をあざむく考え方、誤った教え、自由奔放な不道徳といった現代の流れは、わたしたちを引き込み、家族や天の御父のみもとから永遠に離そうとしています。

生ける預言者、聖見者、啓示者たちは、見分けにくく危険な俗世の流れにわたしたちが脅かされることを予見し、警告を与えます。彼らは、愛の心で、わたしたちを招き、励まし、教え、思い起こさせ、警告します。彼らは、(1) 毎日の聖文学習や祈りを通じて与えられる理解、(2) 聖霊の導き、(3) 預言者の勧告に、わたしたちの安全が懸かっていることを知っています。彼らは、安全と究極の喜びは、救い主イエス・キリストと、主の福音に従うことの中にしかないことを知っています。ダリン・H・オークス長老が先ほど述べたように、主はこう宣言されました。「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわ

たしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。」⁴

ソ連崩壊後のロシアの逆境と苦しみの中で、アナトリー・レシエニコフと妻のスペトラーナは、俗世よりも義を選びました。教会に加入した後、二人は迫害されました。夫は職場で降格させられました。雄々しくも、二人はこう考えました。「これで神に仕える時間が増えた。」何度も脅迫を受けましたが、いつも福音中心の生活を送る方を選びました。やがて、アナトリー・レシエニコフ長老はロシア人で初めての地域七十人に召されました。レシエニコフ夫妻は、その選びを通じて、永遠の命を選び続けています。

だれもが逆境に直面します。誘惑を受け、過ちも犯します。しかし、正しい選択をするのに、難しすぎることも、遅すぎることもありません。悔い改めは、そうした重大な正しい選択の一つです。

ディーター・F・ワークトドルフ管長はこう教えています。

「小さな誤りを犯し、イエス・キリストの福音からわずかにそれることで、人生が悲しい結果を迎えることがあります。だからこそ、誤りはいつか自然に修正されるだろうと待ったり期待したりせず、正しい軌道に戻るために欠かせない針路修正を早いうちに行えるよう訓練することがきわめて大切です。

修正が遅れるほどより大きな変更が必要になり、正しい針路に戻るのに、より時間がかかります。気をつけていないと、大惨事は目の前というところまで来てしまうかもしれません。」⁵

救い主の憐れみの御腕はいつもわたしたち一人一人に伸ばされています。⁶ わたしたちが心から完全に悔い改めるなら、わたしたちの過ちは完全に赦され、救い主はもはやわたしたちの罪を思い起こされることはないのです。⁷

選択とその結果について評価するために、次の問いに答えてください。



- 毎日の聖文学習や瞑想、祈りを通じて、神の導きを求めているだろうか。それとも、キリストの御言葉を研究し、瞑想し、天の御父と話すための時間も持てないほど、忙しくて無関心になる方を選んできただろうか。
- 神の生ける預言者の勧告に従うことを選んでいただろうか。それとも、俗世の生き方や、勧告に反する意見に従っていないだろうか。
- 何を考え、感じ、行うのかを選ぶに当たって、毎日聖霊の導きを求めているだろうか。
- 人を支え、人に仕え、人を救助するために、いつも手を差し伸べているだろうか。

愛する兄弟姉妹の皆さん、皆さんの永遠の行く末は、偶然の結果ではなく、選択の結果なのです。永遠の命を選び始める

のに、遅すぎることはありません。

天の御父の偉大な幸福の計画のおかげで、わたしたち一人一人がイエス・キリストの贖罪を通じて完全な者となれることを証します。わたしたちは、自分の家族と、天の御父とともに永遠に住み、完全な喜びを得ることができるのです。以上のことを、イエス・キリストの御名により証します。アーメン。■

注

1. トーマス・S・モンソン「決断は行く末を決める」(2005年11月6日ヤングアダルト対象の教会教育システムファイヤサイド), institute.lds.org
2. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2010年11月号, 129
3. 2 ニーフай 2: 27, 28, 強調付加
4. ヨハネ 14: 6
5. ディーター・F・ワークトドルフ「わずかな誤差」『リアホナ』2008年5月号, 58 - 59
6. アルマ 5: 33 参照
7. 教義と聖約 58: 42 参照



七十人
J・デビン・コーニッシュ長老

祈る特権

祈りは、神が人に下さった最も^{たまもの}貴い賜物の一つです。

愛する姉妹、兄弟の皆さん、父なる神は感情として存在するものでも観念でも力でもありません。聖文で教えられているように、神は顔も手もある、栄光に満ちた復活体を持つ聖なる御方です。神は実在されます。わたしたち一人一人を御存じで、一人一人を愛しておられます。わたしたちを祝福したいと願っておられます。

イエスはこう言われました。

「あなたがたのうちで、自分の子がパンを求めるのに、石を与える者があるか。

魚を求めるのに、へびを与える者があるか。

このように、あなたがたは悪い者であっても、自分の子供には、良い贈り物を知っているとするれば、天にいますあなたがたの父はなおさら、求めてくる者に良いものを下さらないことがあるか。」(マタイ7:9-11)

わたしの経験が、この原則を物語る良い例だろうと思います。ボストン小児病院の若い研修医だったころ、わたしは長時間勤務で、しかもマサチューセッツ州ウォータータウンの自宅から病院まで歩いて自転車で通っていました。子供が小さかったので妻が車を必要としていたからです。ある日の夕方、長時間にわたる病院での勤務を終えて家に自転車を走らせていたわたしは、くたくたに疲れ、空腹で、気持ちがぐじけそうになっていました。家に帰れば妻と4人の幼い子供た

ちのために時間と活力を温存しておく必要があります。そればかりか、たとえ疲れていようとも、元気に明るく振る舞わなくてはなりません。しかし、正直なところ、わたしはペダルを踏み続けるだけでもつらいという状態でした。

帰り道にはフライドチキンの店があります。そこに立寄って、フライドチキンを食べられれば、疲労も空腹もかなり和らぐだろうと思いました。ももとドラムスティックはどちらもセール期間中で、1ピースが29セントになっていました。ところが、財布の中身を数えてみると、5セントしかありません。わたしは自転車をこぎながら状況を主に話し、憐れみを頂けるならば、道端で25セント硬貨が見つかりますようにと祈りました。しるしを求めているのではなく、こんな思いやりに満ちた祝福を下さったらほんとうにありがたい、と祈りました。

わたしは地面を注意深く見て進みましたが、何も見つけられませんでした。信仰を持ち、従順でいようと努めながら自転車をこいでいるうちに、店の近くまで来ました。そのときです。フライドチキンの店の真向かいで、道端に25セント硬貨があったのです。感謝と安堵の気持ちでそれを拾い上げるとわたしはフライドチキンを買って、最後の一口までよく味わい、幸せな気分が家に帰りました。

天の神であり、ありとあらゆるものを創造し統治しておられる御方は、わたしを憐

れんで、とても小さな祈りを聞いてくださいました。なぜそんな小さなことにまで心を砕いておられるのか、不思議に思う人がいるかもしれません。わたしはこう考えるようになりました。つまり、天の御父はわたしたちを深く愛しておられるので、わたしたちにとって大切なものは、その愛ゆえに御父にとっても大切なのです。ましてやわたしたちにとって大切なことを求めるときに、それが正当なものであれば、なおさら助けたいと思われることでしょう(3ニーファイ18:20参照)。

愛にあふれる天の御父はあなたを祝福したいのだということ、幼い子供も若者も大人も、同じように信じてください。しかし、御父は選択の自由を妨げることはなさいませんから、わたしたちが助けを求めなければなりません。普通、祈りを通して求めます。祈りは、神が人に下さった最も貴い賜物の一つです。

あるとき、イエスの弟子は「主よ、……わたしたちに……祈ることを教えてください」と願いました(ルカ11:1)。それにこたえてイエスは、重要な祈りの原則となる模範を示されました(ラッセル・M・ネルソン「主の祈りから得られる教訓」『リアホナ』2009年5月号、46-49参照。マタイ6:9-13; ルカ11:1-4も参照)。イエスの模範を見てみましょう。

「天にいますわれらの父よ」と天の御父に話しかけることから始めます(マタイ6:9; ルカ11:2)。御父と直接話せるというのは特権です。わたしたちはほかのどんなものにも祈りません。くどくどと祈らないように言われていることも忘れなでください。これには、祈るときに御父の御名^{みな}を使いすぎることも含まれます。¹

「御名があがめられますように。」(マタイ6:9; ルカ11:2) イエスは礼拝の態度をもって御父に話しかけられました。御父の偉大さを認め、御父をほめたたえ、御父に感謝なさいました。確かに、神を敬い、心の底から具体的な感謝の言葉を述べることは、意義深い祈りに欠かすこと



のできない要素となります。

「御国がきますように。みこころが……行われましますように。」(マタイ6:10; ルカ11:2) 主に依存していることを喜んで認め、たとえ自分の思いと異なっても、主の御心を行いたいと願っていることを話します。『聖書辞典』(Bible Dictionary)には次の説明があります。「祈りとは、御父の御心と御父の子供の意志を一致させる行為である。祈りの目的は、神の御心を変えることではなく、神がわたしたちに与えようとすでに備えておられる祝福を、自分のため、また人々のために得ることであり、この祝福を得るにはわたしたちが求めることが条件とされている。」(Bible Dictionary, “Prayer”)

「わたしたちの日ごとの食物を、きょうもお与えください。」(マタイ6:11; ルカ11:3参照) わたしたちは欲するものを主に祈り求めます。神に願い求めるときには絶対に正直でなければなりません。例えば学校で授業をろくに聞かず、宿題もテスト勉強もしていないのにテストでいい点を取れるよう助けてくださいと祈るのは、とても正直な態度とは言えないでしょう。わたしは祈っているときに、与えて頂きたいと願う助けを主から頂くためにはやるべ

きことがまだあると御霊から教えられることがよくあります。そんなときには決心して自分の務めを果たさなければなりません。自分でできることを主が行ってくださるのは、天の摂理に反するからです。

「わたしたちの負債を……おゆるください。」(マタイ6:12) または別の箇所では「わたしたちの罪を……おゆるください。」(ルカ11:4) 個人の祈りできわめて大切なのに時々忘れられがちなのは悔い改めです。悔い改めが効果を発揮するためには具体的な事柄に対して心から悔い、その罪を捨てなくてはなりません。

「わたしたちに負債のある者をゆるしましたように」(マタイ6:12; ルカ11:4参照)。救い主は、自分の罪が赦されるためには自分を不当に扱った人を赦さなければならないとはっきりおっしゃいました。時には人から受けた扱いに痛みや苦しみを覚え、赦すことも忘れることも難しく感じる場合があります。わたしは、痛みを忘れてすべてを主にゆだねるようという主の招きを通して見いだした、平安と癒しに心から感謝しています。教義と聖約第64章で主は次のように言っておられます。

「主なるわたしは、わたしが赦そうと

思う者を赦す。しかし、あなたがたには、すべての人を赦すことが求められる。

あなたがたは心の中で言うべきである。すなわち、『神がわたしとあなたの間を裁き、あなたの行いに応じてあなたに報いてくださるように』と。」(教義と聖約64:10-11)

ですから、癒されたいと望むのであれば、完全に忘れ去り、後は主にお任せしなければならないのです。

「わたしたちが誘惑に陥ることのないようにし、悪からお救いください。」(マタイ6:13; ルカ11:4も参照; ジョセフ・スミス訳) このようにしてわたしたちは、祈ることで守りを受けるための過程に入ります(エペソ6:11; 教義と聖約27:15参照)。また将来に目を向け、恐ろしい出来事が起こっても助けていただけるように、祈りによって神の武具を身にまとうのです。友人の皆さん、どうか、主が皆さんを守ってくださるよう、そばにいてくださるよう、主に祈り求めることを忘れないでください。

「王国も、権威も栄光も、とこしえにあなたのものです。」(マタイ6:13) [訳注——日本聖書協会の邦訳聖書にこの一文はない。] イエスが神を再びほめたたえ、敬い、御父に従うことを表明してこ

の祈りを閉じておられるということから、わたしたちは多くのことを学びます。神が王国を統治し、すべての権威、すべての栄光をお持ちであるとほんとうに信じているのであれば、神はその役目を果たしてください、神が完全な愛をもってわたしたちを愛してください、わたしたちの幸せを願っておられることを確信しています。幸福な人生を送る秘訣の一つをわたしは発見しました。自分の方法ではなく、主の方法に従う方がずっと幸福になることができるのです。

自分には祈る資格がないと感じるとき、そこには危険が潜んでいます。そのように感じさせるのは、祈ってはならないと教える悪魔です(2ニーファイ 32:8 参照)。自分はあまりに罪深くて祈れないと考えるのは、重い病気の人が、自分は病気が重すぎるので医者には行けないと考えるようなもので、とても痛ましいことです。

また、祈りさえすれば、どれほど心を込めているかに関係なく、どんな祈りも有効な祈りなのだと考えてはいけません。ただ祈るだけでなく、祈ったことを義にかなって実践することで、求めたことを受ける努力をしなければならぬのです。主は祈るだけの人よりも、祈って行動する人のことををはるかに喜ばれます。薬のよ



うに、祈りも、指示どおりに用いるときのみ、効力があるのです。

祈りはすばらしい特権だとわたしが言うのは、天の御父に語りかけることができることや祈ると御霊を感じることに感謝しているからだけではありません。御父が実際に祈りにこたえ、話しかけてくださるからなのです。もちろん、御父が語りかけられるといっても、通常は声が聞こえるわけではありません。ボイド・K・パッカー会長はこう説明しています。「靈感を与える御霊の優しく静かな声は、音として聞こえるというよりむしろ感じるものです。純粋な知性が心に語りかけるのです。……この導きは、促しや印象を通して、考えや気持ちとなって訪れます。」(『祈りと促し』『リアホナ』2009年11月号, 44)

心を込めて、必死に祈っても、答えがないように思えるときもあります。主はわたしたちに最良の祝福を与えるために、主の時にかなって主の方法でおこたえになるということを知るには信仰が必要です。さらに考えると、なすべきことはもう十分に分かっていたのだということに気がつくこともよくあるのです。

すぐに祈りの答えが与えられないからといって、がっかりしないでください。外国語を学ぶのと同じで、訓練と努力が必要なのです。でも、皆さんは御霊の言葉を学べるということ覚えておってください。そして御霊の言葉を学ぶと、その御霊の言葉によって義を行う大きな信仰と力を与えるのです。

わたしは愛するトーマス・S・モンソン大管長の次の勧告を心に大切に蓄えてい

ます。「この話を聞いている、大小様々の試練と闘っている皆さんにお伝えします。祈りは霊的な強さの源であり、安らぎへのパスポートです。祈りは、わたしたちを愛してくださっている天の御父に近づく手段です。祈りの中で御父に話しかけ、答えに耳を傾けてください。奇跡は、祈りを通してもたらされるのです。」(『最高の自分になる』『リアホナ』2009年5月号, 68)

祈りを通して聖なる天の御父のみもとに行けるという特権が人にあることに深く感謝しています。また御父がわたしの祈りを数え切れないほどお聞きになり、こたえてくださったことに感謝しています。時にはまさに予見されていたと言える奇跡的な方法も含め、御父が祈りにこたえてくださるおかげで、わたしは御父が生きておられることを知っています。また、聖なる御子イエスがわたしたちの生ける救い主であられることを証します。この教会は主の教会であり、主の地上の王国です。主の業は真実です。わたしたちは大管長のために熱心に祈っています。トーマス・S・モンソン大管長は神の預言者です。これらのことをイエス・キリストの御名によって確信をもって証します。アーメン。■

注

1. フランシス・M・ライマン, "Proprieties in Prayer," フライアン・H・スタイ編, *Collected Discourses Delivered by President Wilford Woodruff, His Two Counselors, the Twelve Apostles, and Others*, 全5巻(1987-1992年), 第3巻, 76; B・H・ロバーツ編, *The Seventy's Course in Theology*, 全5巻(1907-1912年), 第4巻, 120; *Encyclopedia of Mormonism* (1992年), "Prayer," 1118-1119; ブルース・R・マッコスキー *Mormon Doctrine* 第2版(1966年), 583





十二使徒定員会
クエンティン・L・クック長老

うたえぬ歌をも

わたしたちはすべての答えを知っているわけではありませんが、……確信と信仰をもって悲劇に向き合わせてくれる重要な原則を確かに知っています。

多くの人はこの世の旅路で大きな問題に、時には悲劇にも遭遇します。世界中に試練や苦難の実例があふれています。¹ テレビに映る死や激しい苦悩、絶望の画像には胸が痛みます。地震と津波による災害と雄々しく闘う日本人の姿も目にしました。世界貿易センターが倒壊する恐ろしい映像を最近再び目にし、あの出来事を思い起こすのはつらいことでした。そうした悲劇、特に罪のない人々が苦しむ姿に接すると、心が揺り動かされます。

時には、非常に個人的な悲劇が起きることもあります。息子や娘が幼くして亡くなったり重い病気にかかったりします。不注意な行為や事故で愛する親を失うこともあります。悲劇が起きるといつでも、わたしたちは嘆き悲しみ、互いに重荷を負い合うよう努めます。² 達成されずに終わったこと、もう歌われることのない歌を悲しみます。

教会の指導者が最も頻繁に受ける質問に次のようなものがあります。「正義の神はなぜ悪いことが、特に善人に起こるのをお許しになるのでしょうか。」「主に仕える義にならなかった人がそのような悲劇を免れないのはなぜでしょうか。」

わたしたちはすべての答えを知っているわけではありませんが、すべての人に輝

かしい未来が用意されているという確信と信仰をもって悲劇に向き合わせてくれる重要な原則を確かに知っています。最も重要な原則は次のとおりです。

第1に、わたしたちには天の御父がおられ、御父はわたしたちを個人的に知り愛しておられます。また、わたしたちの苦しみをよく御存じです。

第2に、御子イエス・キリストはわたしたちの救い主、贖い主であられ、主の贖罪は救いと昇栄に導くだけでなく、人生のあらゆる不公平を埋め合わせてくれます。

第3に、御父が子供たちのために用意された幸福の計画には、前世と現世だけでなく、永遠の命、また、亡くなった人との輝かしく喜ばしい再会も含まれています。あらゆる過ちは正され、まったく明らかで曇りのない見方と理解力をもって物事が見えるようになるのです。

天の御父の計画に関する知識と理解力と信仰を持たない人々、すなわち戦争や暴力、災害、悪などの伴う世界を、この世間的な見方でしか見ることができない人々は、狭い物の見方をするために、この世の人生は失望と混乱に満ち、不公平で無意味なものに思えます。教会の指導者はこうした見方をする人を、3幕から成る劇に第2幕から入って行く人にたとえています。³

天の御父の計画を知らない人は、第1幕、すなわち前世で起きたことを知らず、前世で定められた目的を知らず、また御父の計画の栄光に満ちた成就である第3幕で、物事が明らかになり解決されるということも知りません。

神の愛に満ちた広大な計画の下では、何ら落ち度はないにもかかわらず不利な境遇に置かれているように思える人が、最後まで不利なままで置かれたりはしません。そのことを、多くの人は理解していません。⁴

あと半年で、遠洋客船タイタニック号が沈没した悲劇から100年になります。この惨事にまつわる痛ましい状況は、事故以来100年間、人々に大きな衝撃を与え続けてきました。11階建てのビルに等しい高さで、フットボールのフィールドを3つ合わせた長さの⁵新しい豪華客船の過剰な、そして根拠の薄い宣伝文句は、至る所に氷山が浮かぶ冬の海でもタイタニック号なら安全に航海できるとうたっていました。この船は沈まないと言われていました。ところが、氷のように冷たい大西洋に沈み、1,500人を超える人命が失われたのです。⁶

様々な点で、タイタニック号の沈没は人生や福音の多くの原則にたとえられます。この世間的な物の見方のみをすることの難しさを表す好例です。人命が失われたことは悲劇的な結末でしたが、これは事故でした。2度の世界大戦で多くの死者を出し、そしてつい最近、世界貿易センター破壊から10年の追悼式典を行ったわたしたちは、選択の自由が間違っ使われたことに起因する事態を取り巻く衝撃、苦悩、道徳的問題を現代にあっかいてきました。原因が何であれ、こうした悲劇により、家族や友人、国家が惨憺たる結果に苦しんでいます。

タイタニック号に関して人々が学んだ教訓は、高慢の危険性と荒海を渡る危険性について、また、「神は人をかたよりみないかた」である⁷ということについてで



した。惨事に巻き込まれたのはあらゆる階層の人々でした。ジョン・ジェイコブ・アスターのような裕福な著名人もいれば、労働者や移民、女性や子供、乗組員もいたのです。⁸

タイタニック号に末日聖徒がかかわっていた事例が少なくとも二つありました。この二つの例は試練や苦難、悲劇を理解する難しさを示し、それらにどう対処したらよいかについて洞察を与えてくれます。一つ目は、受けた祝福と回避できた問題に感謝することについての事例です。それは後に中央幹部を務めたアルマ・ソニーの経験です。⁹ わたしがユタ州ローガンで生まれたとき、彼はわたしのステーク会長をしていました。わたしはソニー長老から伝道の面接を受けました。当時は宣教師志願者は皆、中央幹部の面接を受けたのです。長老はわたしの人生に大きな影響を及ぼしました。

アルマには若いころ、教会にあまり活発ではないフレッドという友人がいました。二人は伝道について何度も話し合い、とうとうアルマ・ソニーは、準備して伝道に出るようフレッドを説得しました。二人ともイギリス伝道部に召されました。伝道の終わりに、伝道部書記を務めていたソニー長老が合衆国へ戻る渡航の手配をしました。自分とフレッド、ほかにも伝道

を終えた4人の宣教師のために、タイタニック号の切符を買いました。¹⁰

ところが出発の段になって、なぜかフレッドが遅れました。ソニー長老は新しい豪華客船の処女航海となる日の切符を6枚全部キャンセルし、翌日の船の切符を買いました。¹¹ タイタニック号に乗れると大喜びしていた4人の宣教師は落胆をあらわにしました。ソニー長老の答えは、創世記に記されたエジプトにおけるヨセフとその兄たちの話に似ています。「この青年を連れずに、どうしてわたしたちは家族のもとへ戻ることができましょう。」¹² みんな一緒にイギリスへ来たのだから、みんな一緒に帰るべきだと同僚に説明したのです。後でソニー長老はタイタニック号が沈没したことを知り、友人のフレッドに感謝して言いました。「君はわたしの命の恩人だ。」フレッドは答えて言いました。「いや、伝道に出るよう説得してくれた君こそ、わたしの命の恩人だ。」¹³ 宣教師たちは皆、救われたことを主に感謝しました。¹⁴

時には、ソニー長老と同僚の宣教師たちのように、忠実な人に大きな祝福がやって来ることがあります。わたしたちは自分の生活に注がれるすべての深い憐れみに感謝すべきです。¹⁵ わたしたちは日々受けている多くの祝福に気づきません。心

に感謝の念を抱くことはきわめて大切なことです。¹⁶

聖文は明瞭に述べています。義にかなった人、救い主に従い主の戒めを守る人は地に栄えます。¹⁷ 繁栄に不可欠な要素は、御霊とともに生活することです。

しかし、この世では義や祈り、忠実さがいつも幸福な結末を招くとは限りません。多くの人が厳しい試練を経験します。このようなときには、信仰を持ち、神権の祝福を求めることを神は認めておられます。主はこう述べておられます。「教会の……長老を呼んで、わたしの名によって彼らのために祈り、彼らに按手をするようにしなければならない。もしも彼らが死ぬならば、彼らはわたしのために死ぬのであり、また生きるならば、わたしのために生きるのである。」¹⁸

タイタニック号にかかわった末日聖徒の二つ目の例がこの世では幸福な結末に至らなかったことから学ぶことがあります。アイリーン・コーベットは30歳で、ユタ州プロボ出身の若い妻であり母親でした。芸術や音楽のすばらしい才能を持ち、教師であり看護師でもありました。プロボの医療専門家の勧めで、助産師の技能を身に付けるためロンドンで6か月の講習を受けました。世の中に良い影響を及ぼしたいという強い願いを持っていま

した。慎重で思慮深く、よく祈る、勇敢な人でした。合衆国へ帰るのにタイタニック号を選んだ理由の一つは、宣教師と一緒に乗ると思い、それならいっそう安全だと考えたからです。アイリーンはこの惨事の生存者に含まれなかった数少ない女性の一人でした。大部分の女性と子供は救命ボートに乗せられ、最終的に救助されました。全員が乗れるほど多くの救命ボートはありませんでした。しかし、彼女が救命ボートに乗らなかった理由は、特別な訓練を受けていたので、氷山に衝突した事故による多数のけが人を看護していたためだと信じられています。¹⁹

苦難には様々なものがあります。わたしたちに必要な経験を与えてくれるものもあります。この世の人生で意に添わない結果が生じるのは、信仰が足りないとか、天の御父の全体的な計画が不完全だとかいう証拠ではありません。精錬する者の火は現実であり、試練という炉の中で鍛えられる人格や義は、わたしたちを完成に導き、清め、神にまみえる備えをさせてくれるのです。

預言者ジョセフ・スミスはリバティーの監獄とらに囚われていたとき、人は多くの苦難に見舞われると主から言われました。「たとえあなたが深みに投げ込まれても、たとえ寄せて来る大波があなたを巻き込もうとしても、たとえ暴風があなたの敵となっても、……すべての元素が結束して道をふさいでも、……これらのことはすべて、あなたに経験を与え、あなたの益となるであろう。」²⁰ 救い主は最後にこう教えられました。「あなたの命数は知られており、あなたの寿命が短くされることはない。それゆえ、……恐れてはならない。とこしえにいつまでも、神はあなたとともにいるからである。」²¹

苦難の中には、ほかの人が選択の自由を使った結果によるものもあります。選択の自由は個人の霊的な成長と進歩に不可欠なものです。悪い行いも選択の自由の構成要素の一つです。司令官モロナイ



はこの非常に重要な教義をこう説明しています。「主は御自分の罰と裁きを悪人に下せるように、義人が殺されるのをそのままにしておかれます。」ただし、義人は捨てられるのではないことを明らかにしています。「彼らは主なる神の安息に入ります。」²² 悪人は自分の悪行に対して責任を負うことになります。²³

苦難の中には、神の律法に対する不従順により生じるものもあります。たばこ、アルコール性飲料、薬物乱用による健康問題は膨大な数に上ります。アルコール性飲料や薬物に関連した犯罪の結果、投獄される人も非常に増えています。²⁴

不貞が原因の離婚の数も著しく増えています。こうした試練や苦難は、神の律法に従うことにより避けられることが多いのです。²⁵

8月に亡くなりましたが、わたしの愛する伝道部会長であったマリオン・D・ハンクス長老は、この世の苦難と闘うために、次の言葉を暗唱するようにわたしたち宣教師に勧めました。「堅固な人の確固たる決意をくじいたり妨げたり、コントロールしたりすることができるような偶然も巡り合わせも運もない。」²⁶

長老はこれがあらゆる苦難に当てはまるわけではないが霊的な問題においては真実であると認めていました。わたしは長老の勧告に感謝しています。

タイタニック号で多くの人命が失われた

惨事が起きた理由の一つは、十分な数の救命ボートがなかったことです。この世の人生でわたしたちが遭遇する試練がいかなるものであろうと、救い主の贖罪はすべての人に救命ボートを備えてくれます。自分が出遭う試練が不公平なものだと考える人に対しては、贖罪により、人生のあらゆる不公平が埋め合わされるのです。²⁷

愛する人を失った人にとって特に難しい問題は、この世の人生で失われた機会について、あれこれ考え続けられないようにすることです。まだ若いうちに亡くなった人には優れた能力や才能、影響力を持った人が多いものです。わたしたちは理解力が限られているため、もはや成し遂げられることのない事柄や歌われることのない歌を悲しみます。人々は、「彼は音楽を内にとどめたまま死んでしまった」などと言ったりします。この場合の音楽とは、どのような種類であれ、発揮されなかった潜在的な力のたとえです。かなりの準備を重ねてきたのに、この世では実現させる機会のない人もいます。²⁸ トマス・グレイが書いたよく引用される有名な詩「エレジー、墓畔の哀歌」の一節には、そのような失われた機会への思いが込められています。

咲く花は多けれど 人に見られることもなし
麗しき香りとて むなしく空に漂うばかり²⁹

失われた機会は家族、仕事、才能、経験などに関連したものであることもあります。コーベット姉妹の場合には、これらが皆、若くして断ち切られてしまったのです。歌うことのない歌があり、この世の人生で発揮されなかった潜在能力がありました。しかし、単なるこの世の不完全なレンズではなく、福音の広く、澄んだレンズを通して見れば、愛にあふれた御父がその計画の中で約束された永遠の大いなる報いが待っているのです。使徒パウロ

が教えたように、「目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い^{うか}浮びもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた」のです。³⁰ 愛されている賛美歌の次の一節は、慰め、元気づけ、そして澄んだレンズを与えてくれます。「うたえぬ歌をも主は聴きたもう」³¹

救い主はこう言っておられます。「それゆえ、……心に慰めを得なさい。……安らかにしていて、わたしが神であることを知りなさい」³² わたしたちは子供たちとともに、「永遠の喜びの歌」³³を歌うという主の約束を頂いているのです。わたしたちの救い主であられるイエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

- 1 ヨハネ 16:33 参照
- 2 モーサヤ 18:8-9 参照。2 ニーファイ 32:7 も参照
3. ボイド・K・バックー, "The Play and the Plan" (教会教育システムのヤングアダルト対象のファイヤサイド, 1995年5月7日), 3 参照——「この世では、わたしたちは第2幕が上がったと同時に劇場に入る人のようなものです。第1幕は見逃してしまいました。第2幕では、「それからみんなずっと幸せに暮らしました」という台詞はありません。その台詞は、なぜが解け、すべてが正される第3幕のものなのです。」 ニール・A・マックスウェル, *All These Things Shall Give Thee Experience* (1979年), 37 も参照——「神は……最後から最初を御覧になります。勘定……がどのようにされるのか、それはわたしたち人間には理解できません。すべての数字を持っていないために、総計が出せないのです。人間は時間という次元に縛られており、現世の第二の位という狭い視野に制限されているのです。」
4. 責任を負う年齢に達する前に死ぬ人は、日の栄えの王国に救われる (教義と聖約 137:10 参照)。福音を知らずに死んだ人で、機会があれば福音を受け入れたであろう人も、日の栄えの王国を受け継ぐ (教義と聖約 137:7 参照)。さらに、あまり雄々しく生活しなかった者でさえ、時がたてばこの世の人生に勝る人生を送る祝福にあずかる (教義と聖約 76:89 参照)。
5. コンウェイ・B・ソニー, *A Man Named Alma: The World of Alma Sonne* (1988年), 83 参照
6. ソニー, *A Man Named Alma*, 84 参照
7. 使徒 10:34。"The Sinking of the World's Greatest Liner," *Millennial Star*, 1912年4月18日付, 250 も参照
8. *Millennial Star*, 1912年4月18日付, 250 参照



9. ソニー兄弟は L・トム・ベリー長老のおじである
10. ソニー *A Man Named Alma*, 83 参照
11. ソニー *A Man Named Alma*, 83-84 参照。"From the Mission Field," *Millennial Star*, 1912年4月18日付, 254 も参照——「解任と出発——下記に名前を挙げた宣教師は栄誉の解任を受け、1912年4月13日にモレータニア号で故国へ船出した。イギリスから、アルマ・ソニー, ジョージ・B・チェンバーズ, ウィラード・リチャーズ, ジョン・R・セイヤー, F・A・ダール。オランダから, L・J・シャートリフ。」
12. 創世 44:30-31, 34 参照
13. フランク・ミルワード, "Eight elders missed voyage on Titanic," *Deseret News*, 2008年7月24日付で引用
14. "Friend to Friend," *Friend*, 1977年3月号, 39 参照
15. デビッド・A・ベドナー「主の深い憐れみ」『リアホナ』2005年5月号, 99-102 参照
16. 教義と聖約 59:21 参照
17. アルマ 36:30 参照
18. 教義と聖約 42:44
19. ギャリー・H・クックによる, アイリーン・コーベットの孫ドナルド・C・コーベットへのインタビュー
20. 教義と聖約 122:7
21. 教義と聖約 122:9
22. アルマ 60:13
23. 救い主は明瞭に述べておられる。「罪の誘惑が来ることは避けられない。しかし、それをきたらせる者は、わざわざである。」(ルカ 17:1)
24. 教義と聖約第 89 章——「終わりの時におけるすべての聖徒たちの現世の救いに関する神の方式と御心」(2節)——は末日聖徒をますます祝福している
25. 教義と聖約 42:22, 24 参照
26. "Will," *Poetical Works of Ella Wheeler Wilcox* (1917年), 129 参照
27. 「贖い」『伝道活動のガイド「わたしの福音を宣べ伝えなさい」』51-52 参照
28. "The Song That I Came to Sing," *The Complete Poems of Rabrindranath Tagore's Gitanjali*, S・K・ポール編 (2006年), 64:「今日まで歌うこともなく、楽器の弦を張ってはほどく日々が流れた。」参照
29. トーマス・グレイ, "Elegy Written in a Country Church-Yard," *The Oxford Book of English Verse*, クリストファー・リック編 (1999年), 279
30. 1 コリント 2:9
31. 「心に光あり」『賛美歌』139 番
32. 教義と聖約 101:16。詩篇 46:10 参照
33. 教義と聖約 101:18。教義と聖約 45:71 も参照



トーマス・S・モンソン大管長

また逢う日まで

日々を埋め尽くす様々な事柄に取り組むときも、ここで感じた御霊が皆さんとともにありますように。

兄弟姉妹、皆さんも同意されると思いますが、実に靈感に満ちた大会でした。この2日間、主の御霊を豊かに感じ、心に感銘を受け、この神聖な業への証は強められました。話をしてくれた皆さん、祈りをささげてくれた兄弟たちの一人一人に感謝をお伝えします。

わたしたちは皆、主を愛し、主に仕えたいと願っているのです、ここに集っています。天の御父がわたしたちを心にかけてくださっていることを証します。わたしは、すべてのことの中に主の御手があることを認めています。

音楽は素晴らしいものでした。才能を進んで分かち合ってくれた人々に、わたし個人としても教会全体としても、感謝をお伝えします。

今大会で解任された兄弟たちに深く感謝しています。彼らは、忠実によく奉仕してくれました。主の業に多くの貢献をしてくれました。

信仰深く、献身的なわたしの二人の顧問に心からの感謝をお伝えします。二人がわたしを支持し、支援してくれることを皆さんの前で感謝します。彼らはまさに知恵と理解の人であり、彼らの働き価値は計り知れません。

主の業にあって、たゆまず奉仕する十二使徒定員会の兄弟たちに感謝します。また、効果的に無私の奉仕をしてくれる

七十人定員会と管理ビショップリックの皆さんに、感謝をお伝えします。同様に、中央補助組織の役員として奉仕する兄弟姉妹の皆さんにも感謝をお伝えします。

兄弟姉妹、天の御父は、わたしたちが今日、この世で直面している様々な問題を御存じです。御父はわたしたち一人一人を愛し、その戒めを守り、祈りを通して御父を求めようように努めるときに、祝福して下さいます。

イエス・キリストの回復された福音があ

るのは、何と恵まれていることでしょうか。福音は、わたしたちがどこから来て、なぜここにいるのか、この世を離れた後どこに行くのかに関する疑問への答えを与えてくれます。福音は、人生に意義と目的と希望を与えてくれます。

進んで互いに奉仕している皆さんに感謝します。わたしたちは、神の子らを愛し彼らに仕えるという使命を持って、この地上で神の御手として働く者です。

ワードや支部での皆さんのすべての働きに感謝します。どのような責任にかにかかわらず、皆さんが召された責任を喜んで果たしてくれることに感謝をお伝えします。どの責任も、主の業を推し進めるうえで重要です。

今、大会は終わります。安全に家路に就くことができますように。留守の間、何も問題なく無事であるよう願っています。日々を埋め尽くす様々な事柄に取り組むときも、ここで感じた御霊が皆さんとともにありますように。互いに対して、いっそうの親切を示すことができますように。主の業に携わっていることを常に覚えて



中央扶助協会会長
ジュリー・B・ベック

いられますように。

天の祝福が皆さんとともにありますように。皆さんの家庭が調和と愛に満たされますように。証を常に培うことができ、それが皆さんにとってサタンに対する守りとなりますように。

皆さんの謙遜な僕として、わたしは神の御心を行い、神と皆さんに仕えたいと心から願っています。

わたしは皆さんを愛し、皆さんのために祈っています。皆さんが祈るときに、わたしと中央幹部たちのことを思い出していただけるよう願っています。わたしたちは皆さんと一つとなって、この驚くべき業を推し進めていきます。わたしたちは皆、この業に携わっており、すべての男女と子供がそれぞれに役割を担っています。それぞれの役割をよく果たせるように、神がわたしたちに強さと能力と決意を授けてくださいますように。

この業は真実であり、救い主が生きておられ、地上における主の教会を導いておられることを証します。永遠の父なる神が生きておられ、わたしたちを愛してくださっているという証を皆さんに残します。神はほんとうにわたしたちの御父であり、実在の御方です。御父は喜んでわたしたちのそばに来てくださいます。わたしたちを助けるためならどんな遠くにも足を運んでくださいます。わたしたちをこよなく愛し、わたしたちのためなら何でも喜んでしてくださいます。これらすべてのことを理解し悟ることができますように。

神が皆さんを祝福し、約束された平安が今もこれからも常に皆さんとともにありますように。

皆さんにお別れの言葉を申し上げます。6か月後に再びお会いしましょう。救い主、贖い主であるイエス・キリストの御心によって、アーメン。■



左のQRコードを読み取れば
モンソン大管長の説教〔英語〕の
ビデオをスマートフォンで
見ることができます。

扶助協会について 孫娘たちに 理解してほしいこと

この神権時代における福音の回復が始まったそのときから、主は主の弟子としてともに働く忠実な女性を必要とされ〔てられました〕。

この歴史的な集会で話せることに感謝しています。こうしてともに集えることは祝福です。中央扶助協会会長として奉仕する中で、皆さんへの愛が深まりました。主がわたしたちをどう感じ何を期待しておられるかに関して、主はわたしの視野を広げてくださいました。

今回のメッセージに「扶助協会について孫娘たちに理解してほしいこと」という題を付けました。年長の孫娘たちは『成長するわたし』に取り組み、義にかなった女性の習慣と特質を身に付けるべく努力しています。やがてあの子たちも同世代の女の子たちも、世界に広がるこの大いなる姉妹たちの組織に対する責任を担うことになるでしょう。

このメッセージで伝えることを通して、孫娘たちに、そしてわたしの話を聞いたり読んだりするすべての皆さんに、はっきりと理解してほしいことがあります。それ

は扶助協会が設立されたときに主が御自分の娘たちにどのような思いを抱いておられたかということです。

弟子としてのいにしへの規範

今日の扶助協会は、古代の教会に存在した、弟子としての規範に基づいて組織されているということを孫娘たちに理解してほしいと思います。救い主が新約聖書の時代に御自身の教会を組織されたとき、「救い主の御業において女性が重要な役割を果たし」¹ました。主はマルタの家を訪れ、最も献身的な僕の二人であるマルタとマリヤにお会いになりました。マルタは主の御言葉に耳を傾け、当時の習慣に従って主に仕えました。すると主は、マルタにそれ以上のことができるということに分からせるようになさいました。マルタとマリヤが、自分たちから取り去られることのない「良い方」を選べるのだということを理解する助けをなさいました。² この種



やかな言葉によって、主は御自身の教え導く務めに加わるよう招かれたのです。後に新約聖書で、救い主の神性に対するマルタの強い証から、わたしたちは彼女の持つ信仰と、弟子としての特質が洞察できます。³

新約聖書をさらに読み進んでいくと、使徒たちが主の教会を確立し続けたことが分かります。また忠実な女性たちの弟子としての規範が、教会の成長に貢献したことについても知ることができます。パウロは、エペソ⁴ やピリピ⁵ といった地域とともに働いた女性の弟子たちについて語っています。しかし背教によって主のまことの教会がなくなったときに、この弟子としての規範も失われてしまいました。

主は預言者ジョセフ・スミスを通して御自身の教会の回復に取りかかるに当たり、弟子としての規範に再び女性たちを加えられました。教会が公式に組織されて数

か月たったころ、主はエマ・スミスに教会における指導者、教師として、また預言者である夫の公式の助け手として任命するようという啓示をお与えになりました。⁶ 主を助けて主の王国を築くという召しを受けたエマ・スミスは、どのように自らの信仰と義を増し加えるべきか、家族と家庭を強めるべきか、人々に仕えるべきか指示を受けました。

わたしは孫娘たちに、この神権時代における福音の回復が始まったそのときから、主は主の弟子としてともに働く忠実な女性を必要とされたことを理解してほしいと願っています。

そのような姉妹たちの並々ならぬ貢献の一例を伝道活動に見ることができます。初期の教会が大きな成長を遂げられたのは、忠実な男性たちが家族を残して見知らぬ土地を旅し、窮乏と苦難に遭いながらも福音を伝えることをいとわなかったか

らです。しかしこの男性たちは、自分たちの伝道は女性の完全な信仰と支えなくしてはなし得ない業であったことを理解していました。家庭と仕事を維持し、家族と宣教師のために収入を得たのは女性たちだったからです。姉妹たちは地域に集まった何千もの改宗者の世話もしました。主の王国の建設を助けながら、新しい生き方に一身をささげました。

神権とのつながり

主はジョセフ・スミスに靈感を与え「神権の下に、神権の規範に倣^{なら}って」教会の女性を組織されたこと、⁷ また「どのようにして〔彼女たちが〕神権の特権、祝福、賜物にあずかることができるのか」を姉妹たちにお教えになったことを、わたしは孫娘たちに理解してほしいと願っています。⁸

扶助協会が公式に組織されたとき、エマ・スミスは引き続き指導者として召しを果たしました。この組織の会長に召され、会長会でともに奉仕する二人の顧問も召されました。この会長会は、教会外の組織によく見られるような一般投票で選ばれるということはありませんでした。啓示によって召され、自らが導くことになる人々から支持され、その召しにあって奉仕するよう神権指導者によって任命されました。すなわち、「預言によって、また権能を持つ者による按手^{あんしゅ}によって、神から召され」たのです。⁹ 神権の下に組織されることによって、会長会は特定の働きについて主と預言者から指示を受けられるようになりました。そして扶助協会という組織により、才能と時間と資産から成る主の倉が、知恵と秩序をもって管理運営されるようになったのです。

初期の女性たちは、自分たちには姉妹たちを教え、鼓舞し、主の救いの業を助ける弟子として組織する権能が与えられていると理解していました。最初の集會に参加した姉妹たちは、信仰を増し加え、家族と家庭を強め、困っている人々を見つけ、助けるという、扶助協会の指針となる目



的を学びました。

扶助協会の組織は、神殿でしか得られない特権、祝福、賜物に聖徒を備えさせるために不可欠な役割を果たすことを、わたしは孫娘たちに理解してほしいと願っています。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は、扶助協会は「地上における神の王国に欠かせない部分」であり、「地上の神の王国の重要な一部であり、忠実な会員が御父の王国において永遠の命を得るのを助けるように作られ運営されてい[る]」と教えています。¹⁰ ジョセフ・スミスの赤レンガ造りの店で開かれた扶助協会の最初の集會に集まった姉妹たちの様子を心に描くことができます。預言者が「世のあらゆる悪から離れ、最高で、高潔で、聖く、えり抜ききよの協会がなければ[ならない]」と教えたとき、彼女たちの目の前には神殿建設中の丘が広がっていました。¹¹

神殿の祝福はあらゆる末日聖徒の女性にとって貴重な宝であり偉大な目標であると信じていた初期の扶助協会の姉妹たちと同じように、神殿を尊んでほしいとわたしは孫娘たちに願っています。初期の

扶助協会の姉妹たちと同じように、十分に成熟して、神聖な神殿の聖約を交わして守ることができるよう日々努力してほしいと願っています。また神殿に実際に参入するとき、そこで語られ行われるすべてのことに注意を払ってほしいと願っています。神殿の祝福を通して、力を身にまとい、¹²「神の知識の鍵」¹³を受けるといふ祝福にあずかることができます。神殿でしか受けられない神権の儀式を通して、神聖かつ永遠にかかわる責任を果たし、献身的な弟子として生活することを約束します。主が扶助協を組織されたおもな目的の一つが、互いに助け合うことで「神殿の儀式と聖約にあるいっそう大いなる神権の祝福に」備えられるようにする責任を姉妹たちに与えることであることに感謝しています。¹⁴

世界に広がる姉妹の輪がもたらす避け所と影響

扶助協会という、世界中に広がる大いなる姉妹たちの組織が持つ重要な影響力と可能性を理解するようになってほしいと、わたしは孫娘たちに願っています。

1842年以来、教会はノーブーのはるかかなたへと広がり、扶助協会は今や170以上の国々に存在し、姉妹たちの話す言語は80を超えます。新しいワードや支部が毎週組織され、拡大し続ける姉妹たちの輪に新しい扶助協会が加わり、「大陸中に広がる」組織となります。¹⁵ 扶助協会の数が比較的少なく、おもにユタ州内で組織されていたときは、指導者たちは組織の働きや弟子としての務めの多くを地元の社会的なプログラムや相互の支援活動に集中することができました。家庭で様々なものを作り、病院を建て、穀物を貯蔵するプロジェクトを実施しました。初期の扶助協会のこうした取り組みは、現在全世界で実践されている弟子としての規範を確立するのに役立ちました。教会が成長するとともに、扶助協会も、変化し続ける世界にあって適応しつつ、すべてのワードや支部、ステーキや地方部で、その目的を果たすことができるようになっていきます。

毎日、世界中の扶助協会の姉妹たちは、現世のありとあらゆる課題や出来事を経験しています。今日、女性とその家族は予期せぬ精神的・肉体的・霊的な病、事故、



死と背中合わせに生活しています。自らの家族がないために孤独を感じ落胆している姉妹たちもいれば、家族の誤った選択が引き起こすことに苦しむ姉妹たちもいます。戦争や飢え、自然災害を体験した姉妹たちもいれば、依存症や失業、あるいは不十分な教育や訓練のもたらす痛みを知りつつある姉妹たちもいます。これらすべての問題は、信仰の根幹を揺るがし、個人と家族の力を消耗させてしまいかねません。弟子としての務めを果たせるように主が姉妹たちを組織された目的の一つは、「女性の喜びと進歩を妨げるすべてのもの」¹⁶ から姉妹たちを解放する助けを提供することでした。すべてのワードや支部には扶助協会があり、そこには啓示を求めて受け、神権指導者と協議し、互いに強め合い、家庭でも地域社会でも応用できる解決策に取り組む姉妹たちがいます。

扶助協会を通して、弟子としての務めを果たし、ほかの人たちとともに、救い主が行われたような印象的で勇ましい業に従事することができるのだということを孫娘たちに理解してほしいと願っています。この時代において教会の姉妹たちが行うよう命じられている業は、主の目には明らかであり重要なものです。彼女たちはその忠実さにより、主が受け入れてくださっていることを感じ、御霊をそばに感じるこ

ができるでしょう。

孫娘たちは、扶助協会の姉妹たちが安全な場所、避け所、保護の場所を提供することができるということも知る必要があります。¹⁷ 時代がますます困難なものになっていく中で、扶助協会の忠実な姉妹たちは、けたたましい世の声から、またサタンの強引で挑発的な影響からシオンの家庭を守ります。また、扶助協会を通じて、義になかった女性たちは教化され、強められます。そしてさらなる教化と強化が継続し、彼女たちの影響はさらに多くの御父の子供たちを祝福することができます。

見守り教え導く弟子の務め

家庭訪問は弟子の特質の表れであり、聖約を尊ぶ崇高な方法であるということを孫娘たちに理解してほしいと願っています。家庭訪問という、弟子としての務めという要素は、救い主の務めによく似ています。初期の扶助協会では、各ワードの訪問委員会が、様々な必要を評価し、助けの必要な人に分配する献金を集める割り当てを受けました。何年にもわたって扶助協会の姉妹たちと指導者は少しずつ学び、人々を見守る能力を身に付けてきました。訪問をすべて達成し、レッスンを教え、担当する姉妹の家庭に立ち寄ったときにはメモを残すといったことに姉妹たちが

焦点を当てていた時期がありました。こうした習慣によって、姉妹たちは見守ることの規範を学ぶことができました。モーセの時代の人々が多くの規則を守ることに全力を注いだように、扶助協会の姉妹たちも互いに強め合う方法を探究するあまり、成文化されているかどうかは別にして、自分自身に幾つもの規則を課してきました。

姉妹たちとその家族の人生に助けと救助がますます必要になっている今日、天の御父は、わたしたちがより高い道を行き、弟子としての特質を示すために御父の子供たちを心から世話することを求めておられます。この大切な目的を念頭に置いて、指導者は、姉妹たちとその家族の霊的および物質的な状態について、また訪問教師が行った奉仕について報告を求めるよう教えられています。¹⁸ また訪問教師は「真心から姉妹一人一人を知り、愛し、信仰を深めるのを助け、奉仕を行う」責任があります。¹⁹

救い主に従う献身的な弟子として、わたしたちは、もし主がここにいればなさるであろうことを行う能力を伸ばしているのです。主にとって大切なのは人を思いやるわたしたちの心であり、リストに書いたことをすべて行うことではなく、姉妹たちのことを心にかけることに集中しなくてはなら

ブラジル・イツ



ないことをわたしたちは知っています。真の働きは、申し分のない統計を作成したかどうかではなく、わたしたちの慈愛の深さによって測られます。訪問先の姉妹が次のように言えるようなら、わたしたちが訪問教師としてうまく務めを果たしていることが分かります。「わたしの訪問教師はわたしが霊的に成長できるよう助けてくれます。」「わたしの訪問教師はわたしと家族を心から気遣ってくれます。」「わたしに問題があれば、訪問教師は言われる前に必ず何らかの行動を起こします。」人々を教え導くことがいかに大切か理解している姉妹たちや指導者は、訪問教師をどのように教化すればよいか、彼らの働きをどのように組織し実行すればよいかについて啓示を求め、啓示を受けるために協議し合います。

加えて、家庭訪問は主の群れを養うというビショップの責任の延長線上にあります。ビショップと扶助協会会長は自分たちの責任を果たせるよう助けてくれる靈感あふれる訪問教師の奉仕を必要としています。訪問教師の務めを通して、扶助協会会長はワードの姉妹たち一人一人の状態を知り、ビショップと話すときには、姉妹たちの状態について報告することができます。

トーマス・S・モンソン大管長は次のように教えています。「わたしたちが揺れ動くことなく信仰をもって、自分たちに与えられた義務を果たそうと努力するときに、また自分たちの責任を果たせるように全能の神の靈感を求めるときに、奇跡的なことが達成できます。」²⁰ わたしの孫娘たちが、主の弟子として家庭訪問という奇跡に参加し、主が再びおいでになるときに、主に認められる規範となるようにと願っています。

扶助協会の目的を成就する

扶助協会に関するこれらの教えとほかの重要な教えを孫娘たちは『わたしの王国の娘——扶助協会の歴史と業』を使っ



て研究することができます。この本には扶助協会とこの教会の女性たちの受け継ぎに関する記録が載っています。この記録は世界中の姉妹たちを扶助協会の目的、弟子の生き方、弟子の特権の下に一致団結させてくれるでしょう。この本は御父の幸福の計画における女性の役割の大切さに関する証です。またわたしたちが何を信じ、何を行い、何を守ろうとしているのかということについて、揺らぐことのない標準を提供してくれます。大管長会は、わたしたちが「本書を研究し、その不変の真理と靈感あふれる模範から啓発を受ける」ことを奨励しています。²¹

扶助協会が神によって作られた組織であることを知っていたジョセフ・F・スミス大管長は扶助協会の姉妹たちにこう述べています。「あなたがたが世界を、特に世の女性たちを導くのです。……皆さんは頭です。しっぽではありません。」²² 主がお戻りになる時が近づいています。そのような状況で、わたしは孫娘たちに扶助協会の原則と規範を人生において実践する、強く、忠実な女性になってほしいと願っています。扶助協会が生活の一部となるときに、彼らは人々と一致して奉仕し、扶助協会の神聖な目的を果たすことになるでしょう。わたしはこの教会が回復されたイエス・キリストのまことの教会であると証します。また主が預言者ジョ

セフ・スミスに靈感を与え扶助協会を組織なさったときに回復された、弟子としての規範に感謝しています。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

- 『わたしの王国の娘——扶助協会の歴史と業』(2011年)、3
- ルカ10:38-42参照
- ヨハネ11:20-27参照
- 使徒18:24-26;ローマ16:3-5参照
- ペリピ4:1-4参照
- 教義と聖約第25章参照
- ジョセフ・スミス。『わたしの王国の娘』12で引用
- ジョセフ・スミス, History of the Church, 第4巻, 602
- 信仰簡条1:5
- ジョセフ・フィールディング・スミス。『わたしの王国の娘』97で引用
- ジョセフ・スミス。『わたしの王国の娘』15で引用
- 教義と聖約109:22参照;ジュリ・L・デュー。『わたしの王国の娘』128で引用
- 教義と聖約84:19;エズラ・タフト・ベンソン。『わたしの王国の娘』129で引用
- 『わたしの王国の娘』131
- ボイド・K・バッカー。『わたしの王国の娘』99で引用
- ジョン・A・ウィットォー。『わたしの王国の娘』25で引用
- 『わたしの王国の娘』86-87参照
- 『手引き第2部——教会の管理運営』(2010年)、9.5.4.
- 『手引き第2部——教会の管理運営』(2010年) 9.5.1参照
- トーマス・S・モンソン。『わたしの王国の娘』91で引用
- 大管長会。『わたしの王国の娘』ixで引用
- ジョセフ・F・スミス。『わたしの王国の娘』66で引用



中央扶助協会会長会第一顧問
シルビア・H・オールレッド

愛はいつまでも 絶えることがない

キリストの純粋な愛である慈愛という賜物に満たされたいという望みを願ひ求めてください。

最近、主人とイリノイ州ノーブー市を訪れました。その際、預言者ジョセフ・スミスが事務所と店舗を置いていた赤れんが造りの店の2階の部屋に腰を下ろして、ガイドの言葉に熱心に耳を傾けました。ガイドはそこで成し遂げられた回復にかかわる歴史的な出来事について説明してくれました。

わたしは、まさにその部屋で扶助協会が設立されたこと、そして扶助協会の姉妹たちが預言者ジョセフ・スミスから受けた幾つかの教えについて思い巡らしていました。それらの教えは、扶助協会が組織されるに当たって基礎原則となりました。信仰を高め、シオンの家庭を強め、助けを必要とする人々を探し求め、支援するという扶助協会の目的は設立当初から確立されていました。それらは常に、預言者の教えと一致していました。

初期に開かれたある集会で、預言者ジョセフ・スミスはパウロがコリント人にあてて書いた手紙から引用しました。慈愛について力強い説教をしたパウロは、信仰、希望、慈愛について触れ、その最後に「このうちで最も大いなるものは、愛である」¹と結んでいます。

パウロは慈愛に含まれる特質を次のよ

うに説明しています。

「愛は寛容であり、愛は情深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない。

……自分の利益を求めない、いらだたない、恨みをいだかない。

不義を喜ばないで真理を喜ぶ。

そして、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを耐える。

愛はいつまでも絶えることがない。²

預言者ジョセフ・スミスは姉妹たちに向けてこう語りました。「隣人の徳については限界を設けずに見てください。……もしイエスのように行い……たいと思うならば、互いに対して心を広げなければなりません。……純真さ、徳、善良さを増し加えるとともに、人々に対して広い心を持ってください。寛容であって、人の過ちや誤りを忍耐しなければなりません。人の魂は何と貴いものでしょうか。」³

聖典に記された「愛はいつまでも絶えることがない」という宣言は、扶助協会のモットーになりました。なぜならそれは、預言者ジョセフ・スミスが扶助協会の姉妹たちに与えた、「貧しい人を助け」「人を救う」⁴ ようにという教えと責任を含んでいるからです。

これらの基礎原則は、全世界の扶助協会の姉妹たちに受け入れられてきました。それこそ、扶助協会の業の本質だからです。

慈愛とは何でしょう。どのように慈愛を得られるのでしょうか。

預言者モルモンは慈愛を「キリストの純粋な愛」⁵ であると定義し、パウロは「愛は……完全に結ぶ帯である」⁶ と教えています。また、ニーファイはわたしたちに「主なる神は、人は皆、慈愛すなわち愛を持つようにとの戒めを与えられた」⁷ ことを思い起こさせてくれています。

パウロが慈愛について語った言葉から、慈愛とは、単に1度の行いや人に与える物ではなく、人の性質、心の状態、愛にあふれた行いを生み出す親切な思いであることが分かります。

モルモンはまた、慈愛は主に真に従う者に与えられるものであり、慈愛を持つ人は、その慈愛によって清められると教えています。⁸ それに加えて、慈愛は神から授けられる賜物であり、わたしたちはその賜物を祈り求めなければならないことが分かります。また、日の栄えの王国を受け継ぐためには、心に慈愛を持つ必要があります。⁹

主がわたしたちに「慈愛のきずなを、外套のように身にまと[う]」¹⁰ ように言われたことを理解するとき、慈愛を身に付けるためにどのような特質が役立つのか、問う必要があります。

まず、慈愛を増し加え、もっとキリストのようになりたいという望みを持つ必要があります。

次のステップは、祈りです。モルモンはわたしたちに「この愛で満たされるように……熱意を込めて御父に祈りなさい」と勧めています。この神の愛は慈愛であり、この愛に満たされるとき、「御子に似た者となれる」¹¹ のです。

毎日聖文を読むことによって、救い主に思いをはせ、もっと救い主のようになりたいという望みを持つことができます。

わたしのオフィスに、ミネルバ・タイカートが描いた「いなくなった羊を救う」という絵をかけることにしました。羊に囲まれた救い主が、小さな子羊を優しく腕に抱いておられる絵ですが、その絵を見ると、「わたしの羊を養いなさい」¹² という主の呼びかけを思い起こします。わたしにとってその言葉は、周囲にいるすべての人を教え導き、助けを必要な人に対して特別な配慮を示すことを意味します。

救い主はどのように慈愛を示すかについての完全な模範であります。地上で教え導いたとき、主は飢えた人、罪人、苦しんでいる人、病氣の人に憐れみ^{あわれみ}を示されました。貧しい人にも富める人にも、女性や子供、男性にも、家族や友達、そして見知らぬ人にも教えを施されました。御自分を訴える者を救われ、全人類のために苦しみを受け、お亡くなりになりました。

預言者ジョセフ・スミスもまた、生涯を通して人々に兄弟愛と尊敬を示し、慈愛を実践しました。周囲の人に対して親切や愛、思いやりや関心を示したことでよく知られています。

今日、わたしたちは恵まれて、慈愛の模範である預言者を頂いています。トーマス・S・モンソン大管長は、わたしたち会員にとっても、世の人々にとっても模範です。彼は慈愛の外套を身にまとっています。また、親切であり、思いやり深く、寛大な、主イエス・キリストの真の教導者です。

モンソン大管長は次のように教えています。「慈愛とは、自分を打ちのめす者に

ブラジル・イツ



忍耐することです。ささいなことに腹を立てないように気持ちを抑えることです。人の欠点や失敗を受け入れることです。人をありのままに受け入れることです。外見の奥にある、時が過ぎても衰えることのない特質に目を向けることです。レットルをはろうとする衝動を抑えることです。』¹³

慈愛があるとき、都合が悪くても、また、人に認められることや見返りを得ることを考えずに、喜んで人々に仕え、人々を助けます。人を助けるに当たって、依頼されるのを待つことはしません。なぜなら、慈愛があるとき、それはおのずと行動に表れるからです。親切で、思いやり深く、寛大で、忍耐強く、受容的であり、救いの精神を持ち、人々を喜んで仲間に入れ、利己心を捨てようと選ぶとき、自分が慈愛にあふれた者になっていることに気づきます。

扶助協会は数え切れないほど多くの方法で、人々に奉仕します。慈愛を実践する最も大切な方法の一つは、家庭訪問です。効果的な家庭訪問を通して、わたしたちは人々を愛し、教え、仕える数多くの機会を得ます。慈愛、すなわち愛を示すことによって、わたしたちの魂が清くなり、聖められ、さらに救い主のようになることができます。

世界中の訪問教師が日々行っている数

え切れないほどの慈愛にあふれた行いを目にすると、わたしは感嘆します。訪問教師たちは無私無欲でそれぞれの姉妹や家族の必要にこたえています。忠実な訪問教師の皆さんに申し上げます。「このような小さな慈愛の行いによって、皆さんは救い主に従っており、皆さんが仕えている姉妹たちを助け、世話し、高め、慰め、耳を傾け、励まし、養い、教え、強めるとき、主の御手に使われる者として行動しているのです。」そのような奉仕の業の例を短く紹介しましょう。

ローサは、悪化する糖尿病やその他の病氣を患っています。数年前に教会に入った彼女はシングルマザーで、10代の息子が一人います。彼女は短期の入院を頻繁に繰り返しています。彼女の訪問教師は親切にも彼女を病院に連れて行くだけでなく、入院中の彼女を訪れて慰め、息子さんの家庭生活や学校生活も見守っています。彼女の訪問教師は友達として、家族として奉仕しています。

キャシーは、ある姉妹を何度か訪問するうちに、その姉妹は読み書きができず、学びたいと思っていることが分かりました。キャシーは、彼女を助けるためには時間や忍耐や根気が必要とされると分かっていましたが、助けを申し出ました。



若い妻であるエミリーは、真理を探し求めていました。夫のマイケルは彼女ほど宗教に興味はありませんでした。エミリーが病気になり、少しの間入院したとき、近所に住んでいた扶助協会の姉妹であるカリが家族に食事を持って行き、赤ん坊の面倒を見、家を掃除し、エミリーが神権の祝福を受けられるよう手配しました。このような慈愛に満ちた行いによって、マイケルは心を和らげ、教会の集會に出席して宣教師と会う決心をしました。そして最近、エミリーとマイケルはバプテスマを受けました。

「愛はいつまでも絶えることがない。」
「愛は情深い。……自分の利益を求めない、……そして、すべてを忍び、……すべてを耐える。」¹⁴

ヘンリー・B・アイリング管長は言いました。

「扶助協会の歴史は、そのような驚くべき無私の奉仕の話を満ちています。

この扶助協会を構成する姉妹たちの慈愛は、変化を経験した心からわき出るものであり、その心の変化は、主のまことの教会だけが提供する聖約を交わすにふさわしい者となることによって、また、聖約を守ることによって生じるものです。姉妹たちの慈愛の気持ちは、主の贖いによって主からもたらされます。姉妹たちの慈愛の行い

は、主の模範によって導かれ、主の無限の憐れみの賜物に対する感謝から生まれます。また、憐れみの使命を果たす御自分の僕たちに主が送ってくださる聖なる御霊によって導かれます。そのために、姉妹たちは人々のために並外れた働きをし、自身が大きな必要を抱えているときでさえも喜びを見いだしてきたのであり、またそうすることができるのです。」¹⁵

人々に奉仕をし、慈愛を示すことによって、自分自身の困難を乗り越えることができ、それらの困難がより容易に思えるようになります。

回復の初期の時代に預言者ジョセフ・スミスが姉妹たちに教えた事柄に戻しましょう。彼は、慈愛と善い行いを勧めて、こう語りました。「もしこれらの原則に従って生活するなら、皆さんは日の栄えの王国においてどれほど偉大で栄光あふれる報いを受けることでしょうか。もし与えられている特権にふさわしく生きるなら、天使は皆さんの友とならずにはいられないでしょう。」¹⁶

ノーブーにおける初期の時代、姉妹たちはあちこちを歩き回って、助けを必要とする人々を探し求め、支援しました。それは今日も変わりません。王国の姉妹たちは、霊的な強さ、思いやりにあふれた奉仕、そして献身というすばらしい柱です。

献身的な訪問教師は互いに訪問し、助け合っています。救い主の模範に倣い、救い主がされたことを行っています。

扶助協会のすべての女性は、自分たちの小さな慈愛の行いが人々や自分自身にとって癒しの力を発揮することを知って、愛に満たされます。慈愛はキリストの純粋な愛であり、いつまでも絶えることがないことを、確かに知るようになるのです。

扶助協会の歴史を読むとき、この重要な福音の原則が、全体を通して貫かれていることが靈感によって分かるでしょう。

最後に、教会のすべての女性にお伝えします。キリストの純粋な愛である慈愛という賜物に満たされたいという望みを願ひ求めてください。あらゆる方法を用いて善を行い、自分の家族も含めて、周囲の人に慰めと救いをもたらすようにしてください。主は皆さんの努力に対して報いを与えてくださるでしょう。

御父と御子がわたしたちに対して抱いておられる偉大な愛についての知識と、信仰と、贖いへの感謝によって、わたしたちが周囲のすべての人に対して慈愛をばぐくみ、実践できますように。この祈りを、イエス・キリストの御名によってささげます。アーメン。■

注

- 1 コリント 13:13
- 2 1コリント 13:4-8
- 3 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』 427-428
- 4 ジョセフ・スミス, Daughters in My Kingdom, 17で引用
- 5 モロナイ 7:47
- 6 コロサイ 3:14
- 7 2ニーファイ 26:30
- 8 モロナイ 7:48 参照
- 9 エテル 12:34; モロナイ 10:21 参照
- 10 教義と聖約 88:125
- 11 モロナイ 7:48
- 12 ヨハネ 21:16-17 参照
- 13 トーマス・S・モンソン「愛はいつまでも絶えることがない」『リアホナ』2010年11月号, 124
- 14 1コリント 13:4, 5, 7, 8
- 15 ヘンリー・B・アイリング「扶助協会の不朽の受け継ぎ」『リアホナ』2009年11月号, 121
- 16 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』 454



中央扶助協会会長会第二顧問
バーバラ・トンプソン

聖約を固く守りなさい

キリストを信じる信仰を持ち、聖約を固く守るなら、聖文で語られ
末日の預言者が約束した喜びを受けます。

「心を高めて喜び、あなたが交わした聖約を固く守りなさい。」¹
この聖句を読むと、わたしは喜ばずにいられません。天の御父と交わした聖約を固く守ろうと努めるとき、人生の中で約束や多くの祝福を受けてきたことを考えて胸が高鳴ります。

わたしの両親はどちらも亡くなったので、今年は実家を片付けて売りに出す用意をしなければなりません。過去数か月間、きょうだいと一緒に実家を片付けていると、家族の歴史に関する文書や多くの重要な書類や文書を見つけました。両親や祖父母の個人の記録や祝福師の祝福を読むのは感慨深いことでした。彼らが交わり、守ってきた聖約を思い出しました。

祖母のエレン・ハンクス・ライマーは1912年、若い母親だったときに祝福師の祝福を受けました。彼女の祝福文を読んでいると、次の言葉が目飛び込み、頭から離れなくなりました。「あなたは地の基が据えられる前から選ばれ、この時代に生まれるために選ばれた霊です。……あなたの証は強められ、あなたは証できるようになるでしょう。……滅ぼす者はあなたを滅ぼそうとしましたが、あなたが神に固くすがるなら、〔滅ぼす者である〕彼はあなたを傷つける力を持たないでしょう。あなたはその忠実さを通して大いなる力

を得、あなたの義のために滅ぼす者は逃げて行くことでしょう。……恐れや試練の時が訪れても、あなたが独り部屋でひそかに祈るなら、心に慰めを得て、障害が取り除かれるでしょう。」²

祖母は、聖約を守って神に近くあるならサタンの力が及ばないという約束を受けました。彼女は試練の中でも慰めと助けを見いだすのです。これらの約束は彼女の人生で成就しました。

今日は(1)聖約を固く守ること、(2)聖約を守ることで得られる喜びと守りについてお話しします。

『わたしの王国の娘——扶助協会の歴史と業』から幾つかの例を紹介します。この冊子には、聖約を守る喜びを見いだした女性の例がたくさん収められています。

聖約を固く守ることの大切さ

『聖書辞典』(Bible Dictionary)によれば、聖約は神と人との間で交わされた契約です。「神はその義に応じて御心のままに条件を定められ、人はそれを受け入れる。……福音では、原則や儀式を聖約によって受けなければならず、受ける人は聖約を尊ぶという重い義務と責任を負う。」³「聖約を固く守る」の「固く守る」(cleave)という言葉は、何かに「固く、しっかりと密着する」⁴という意味です。

聖典には神と聖約を交わした人々の話

が載っています。神はそれらの聖約を尊ぶ方法を示されており、聖約を守ったときには約束されていた祝福が与えられました。

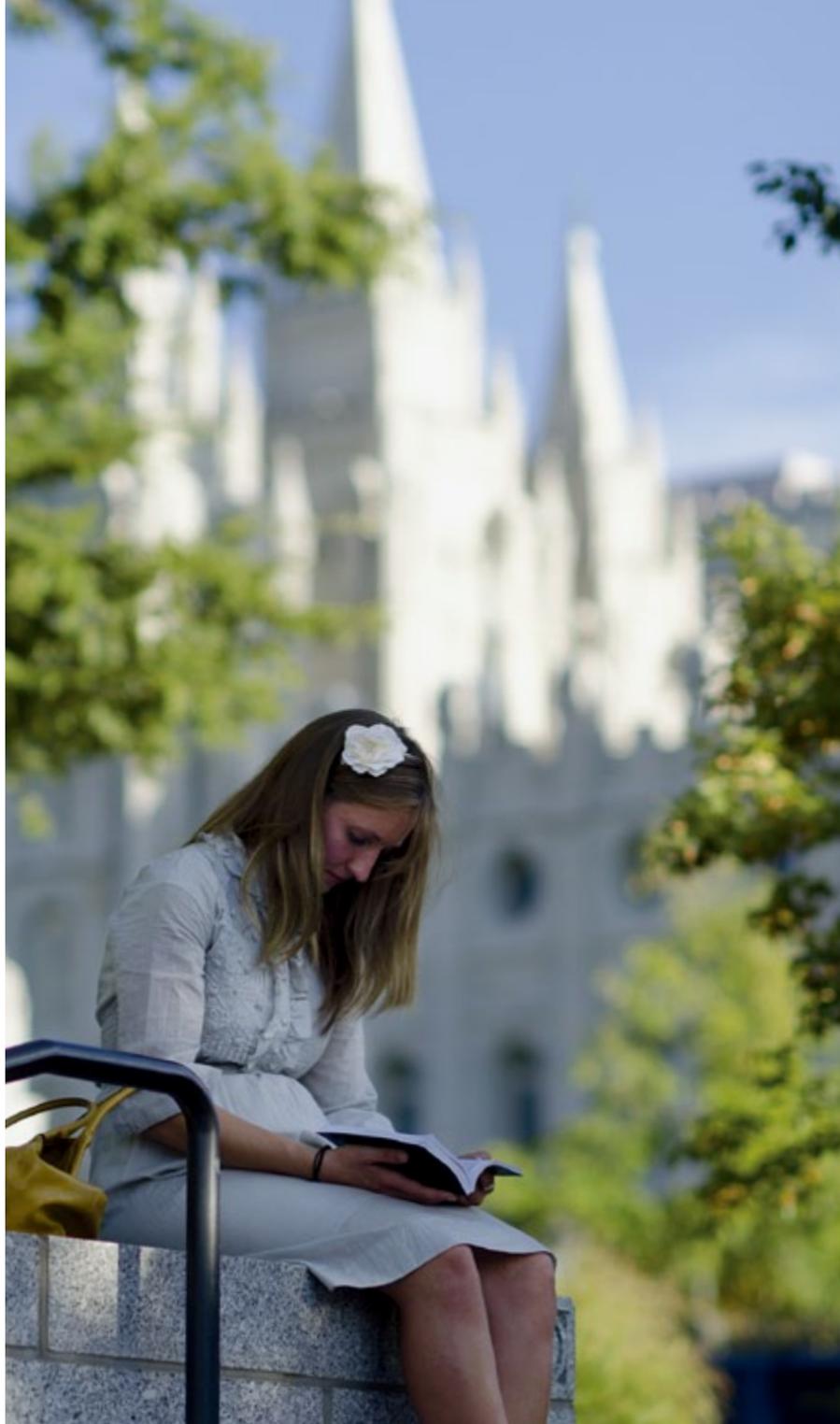
例えば、わたしたちはバプテスマの儀式を通して天の御父と聖約を交わします。わたしたちはバプテスマの備えとして、主イエス・キリストを信じる信仰を持ち、罪を悔い改め、進んでキリストの御名を受けます。そして神の戒めを守り、いつも救い主を覚えるという決意をします。「重荷が軽くなるように、互いの重荷を負い合うこと」を聖約します。悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る人を慰める意志を示します。⁵

聖なる神殿では、ほかの神聖な儀式を受け、ほかの聖約を交わします。福音が回復された初期の時代、預言者ジョセフ・スミスは聖徒たちが神殿で約束された祝福を受けられることを待ち望んでいました。主はこう言われました。「わたしの名のためにこの家を建てて、わたしがそこで民に儀式を示すことができるようにしなさい。」⁶

「主が扶助協会を組織された目的の一つは、神殿の儀式と聖約にあるいっそう大いなる神権の祝福に向けて御自分の娘たちを備えることでした。……ノーブーの姉妹たちは胸を躍らせて神殿の完成を待ちました。預言者ジョセフ・スミスがマーシー・フィールディング・トンプソンに約束したように、エンダウメントが自分たちを『暗闇から出して、驚くべき光の中に』導いてくれることを知っていたからです。」⁷

「ノーブー神殿が奉献されると、5千人以上の大勢の聖徒が次々に神殿を訪れました。〔ソルトレーク盆地に〕旅立つ前にエンダウメントと結び固めの儀式を受けるため」でした。⁸ プリガム・ヤング大管長と教会の多くの指導者と神殿奉仕者たちは昼も夜も神殿で奉仕し、聖徒たちのためにこの大切な業が行われるようにしました。

聖約は良いときもつらいときもわたした



ちを支えてくれます。ポイド・K・パッカー会長は次のことを思い出させてくれます。「わたしたちは聖約の民です。ですから、この地上における神の王国のために時間とお金と才能を、そして自分自身と自分の持てる一切のものをささげると聖約します。簡単に言えば、善を行うと聖約します。わたしたちは聖約の民であり、神殿は聖約の中心です。神殿は聖約の源です。」⁹

聖文は次のことを思い出させてくれます。

「そして、主のすべての定めに従って歩むことが、わたしたちの聖約となる。」¹⁰

聖約を固く守るときにわたしたちが受ける祝福は何と大きいことでしょう。

聖約を守ること得られる喜びと守り

モルモン書にはベニヤミン王の説教が載っています。彼は、イエス・キリストが地上に来てあらゆる苦しみをお受けになると民に教えました。また、キリストが全

人類の罪を贖^{あがな}われること、その御名は人が救いを得られる唯一の名であることを教えました。¹¹

このすばらしい教えを聞いた後、民は謙遜^{けんそん}になり、罪から解放されて清められたいと心の底から思いました。彼らは悔い改め、キリストへの信仰を公言しました。¹²そして、戒めを守るという聖約を神と交わしました。

「主の御霊^{みたま}が彼らに降^{くだ}られた。そして彼らは、罪の赦^{ゆる}しを受け、良心の安らぎを得たので、喜びに満たされた。それは、彼らが……イエス・キリストを深く信じたためである。」¹³

アンモンも、神の戒めを忠実に守り、ほかの人に福音を伝えたことで喜びを得た一人です。アンモンと兄弟たちは何千もの人々がキリストのみもとに来るのを助けました。アンモンは大勢の人々がバプテスマを受けて神と聖約を交わすのを見たときの気持ちを次のように表しています。

「わたしたちは大いに喜んでよい。」¹⁴

「わたしの喜びは満ちており、胸は喜びでいっぱいである。だから、わたしは主にあって喜ぼう。」¹⁵

「わたしは感じていることの万分の一も言い表せない。」¹⁶

「わたしたちほど喜んでよい、立派な理由を持っている者はいない。」¹⁷

わたしたちは神聖な聖約^{ほんりよ}を交わして守ることで聖なる御霊を伴侶とすることができ、この御霊は「あなたの霊に喜びを満たす」¹⁸ ものです。

第二次世界大戦は世界中の人々に多くの苦しみをもたらしました。ドイツの聖徒たちは多くの試練を堪え忍びました。マリア・シュパイデル姉妹はドイツのシュトゥットガルトに住む、忠実な扶助協会会長でした。ドイツの聖徒たちの試練について、彼女はこうに述べています。「主に対する信頼と主の教会に対する証がわたしたちの強さの柱でした。……わたしたちは喜びをもってシオンの歌を歌い、主に信頼を置きます。主はあらゆることを良いもの

にしてください。」¹⁹

このときも、会員たちは聖約を守ることで、大きな試練に遭っても喜びを感じました。

サラ・リッチはノーブーに住んでいた義にかなった女性で、聖徒たちがノーブーを追い出される前に神殿で奉仕するように召されました。神殿の聖約について彼女はどのように語っています。「わたしたちは主の宮でたくさんの祝福を受け、それによってあらゆる悲しみのただ中において喜びと慰めを得、神を信じる信仰を持つことができました。これから直面する未知の旅において、神が導き、支えてくださることを知っていたのです。」²⁰

その前に聖徒たちはカートランド神殿を完成させ、大勢の人々が奉献式に参加しました。奉献式が終わると、神殿は主に受け入れられました。主は彼らに「〔御自分〕の民の頭に」〔注がれる数々の祝福〔を〕……大いに喜ぶ〕²¹ ように言われました。

世界各地にさらに多くの聖なる神殿が建てられていることで、わたしは会員の生活にもたらされている祝福を目にしてきました。2008年には、ウクライナの夫婦がドイツ・フライブルク神殿へ行って神殿の儀式を受けることを喜びいっぱい教えてくれました。これらの熱心な会員が神殿へ行くにはバスで片道27時間かかり、頻繁に参入できませんでした。間もなくウクライナ・キエフ神殿が完成し、彼らはずっと頻繁に参入できることをとても喜んでいました。この神殿では現在儀式が行われており、何千もの人々が祝福にあずかっています。

祖母の日記を読んで、彼女が聖約に大きな喜びを抱いていたことを知りました。彼女は神殿に参入して、亡くなった大勢の人々の儀式を行うことが大好きでした。神殿参入は彼女の使命でした。祖母は20年以上ユタ州マンタイ神殿で神殿奉仕者として務めました。子育てをしたり、神殿で死者の業をしたりするときに、奇跡的



な癒しを何度も経験したと書いていました。孫のわたしたちがライマーおばあちゃんについていちばんよく知っていることは、彼女が聖約を守る義にかなった女性で、孫にも同じことを望んでいることでした。わたしたちが死んだ後、遺品を整理する人々は、わたしたちが聖約を守っていた証拠を見つけるでしょうか。

前回の総大会で愛する預言者、トーマス・S・モンソン大管長はこのように言いました。「神の宮を訪れるとき、そこで交わした聖約を思い起こすとき、あらゆる試練に耐え、誘惑を克服する力を得ます。神殿は平安を見いだす聖なる場所です。わたしたちは更新され、抵抗力をつけます。」²²

繰り返します。「心を高めて喜び、あなたが交わした聖約を固く守りなさい。」²³ 聖約を守ることは真の喜びと幸福です。慰めと平安であり、世の罪悪から守ってくれます。聖約を守ることは試練のときに助けとなります。

キリストを信じる信仰を持ち、聖約を固く守るなら、聖文で語られ末日の預言者が約束した喜びを受けることを証します。

愛する姉妹の皆さん、皆さんを愛しています。皆さんがこの大いなる喜びを人生で味わうことを願っています。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. 教義と聖約 25:13
2. ウォルター・E・ハンクスが授けた祝福師の祝福、1912年10月25日、ユタ州ウェイン郡ライマン
3. Bible Dictionary, "Covenant" の項
4. Merriam-Webster's Collegiate Dictionary, 第11版, 2003年, "cleave" の項
5. モーサヤ 18:8-9 参照。トーマス・S・モンソン「今日われ善きことせしか」『リアホナ』2009年11月号, 85も参照
6. 教義と聖約 124:40
7. 『わたしの王国の娘——扶助協会の歴史と業』(2011年) 131
8. 『わたしの王国の娘——扶助協会の歴史と業』 29
9. ボイド・K・バックナー『聖なる神殿に参入する備え』(1980年) 35-36
10. 教義と聖約 136:4
11. モーサヤ 3:5-18 参照
12. モーサヤ 4:2:5:5 参照
13. モーサヤ 4:3
14. アルマ 26:1
15. アルマ 26:11
16. アルマ 26:16
17. アルマ 26:35
18. 教義と聖約 11:13
19. マリア・シュバイデル。『わたしの王国の娘』76で引用
20. サラ・リッチ。『わたしの王国の娘』30で引用
21. 教義と聖約 110:9-10
22. トーマス・S・モンソン「聖なる神殿——世界に輝くかがり火」『リアホナ』2011年5月号, 93
23. 教義と聖約 25:13



大管長会第二顧問
ディーター・F・ワークトドルフ管長

忘れな草

皆さんがほんとうに貴い神の王国の娘であることを決して忘れないようにわたしは祈り、祝福します。

愛する姉妹の皆さん、今日皆さんとご一緒できることを大変うれしく思います。この年次中央扶助協会集会和、そこで伝えられるすばらしいメッセージをいつも楽しみにしています。姉妹の皆さん、ありがとうございます。トーマス・S・モンソン大管長から今日皆さんにお話をするよう割り当てを受け、教会の姉妹たちへのメッセージに多少付け加えられることを、とても光栄に思います。

少し前のことですが、わたしは妻と娘とともに美しい庭を歩いていました。神が創造されたものの栄光と美しさに目を見張りました。ふと、美しく咲き誇る花の中に、とても小さな花があることに気がつきました。その花の名前をわたしは知っています。子供のころからその花に特別な思いを抱いていたからです。その花の名は「忘れな草」です。

この小さな花が長年わたしにとって大切だった理由はよく分かりません。すぐに人目を引くこともなく、大きく華やかな花の陰で、容易に見落とされてしまいます。でも、抜けるような青空と同じ色をしたこの花は、どの花にも負けず美しいのです。わたしがその花が好き理由はもう一つあります。

それはこの花の名前の中に、心から離れない「訴え」があるからでしょう。ドイツにこんな言い伝えがあります。神がす

べての植物に名前を付け終えたときに、まだ名付けられていない花が一つありました。「主よ、わたしを忘れないでください」という小さな声が聞こえ、神はその訴えをそのままその花の名前にしました。

今晚は、この小さな花をたとえとして使います。小さな忘れな草の5つの花びらは、決して忘れるべきでない5つの事柄について深く考えるように促してくれます。

第1に、自分に忍耐することを忘れないでください。

皆さんに正しく理解していただけるようにお伝えしたいことがあります。それは、皆さんやわたしが完全ではないことを神は十分に御存じだということです。

もう一つ言うと、皆さんがあの人は完全だと思っている人が完全でないことも、神はよく御存じです。

それなのに、わたしたちはとても多くの時間とエネルギーを使って、人と自分を、特に人の長所と自分の短所を比べてしまいます。そうしているうちに、かなうはずのない望みを抱くようになります。そしてついに自分の努力を決して裏めなくなりませぬ。なぜなら、いくら努力してもほかのだからにはかなわないと感じるからです。

だれにでも長所と短所があります。長所があるということは、すばらしいことです。

そして短所があるということは、この世

では避けることのできない経験です。

神は、結局はすべての短所が長所になるように導こうとしておられますが¹、それには時間がかかることを御存じです。神はわたしたちが完全になるように望んでおられます。² 弟子の道を歩んで行けば、いつか完全になります。今完全でなくてもいいのです。努力を続けてください、でも自分につらく当たるのはやめましょう。

愛する姉妹の皆さん、皆さんの多くは人の弱さに対して限りない思いやりと忍耐を持っています。どうか、自分に対しても思いやりと忍耐を持つことを忘れないでください。

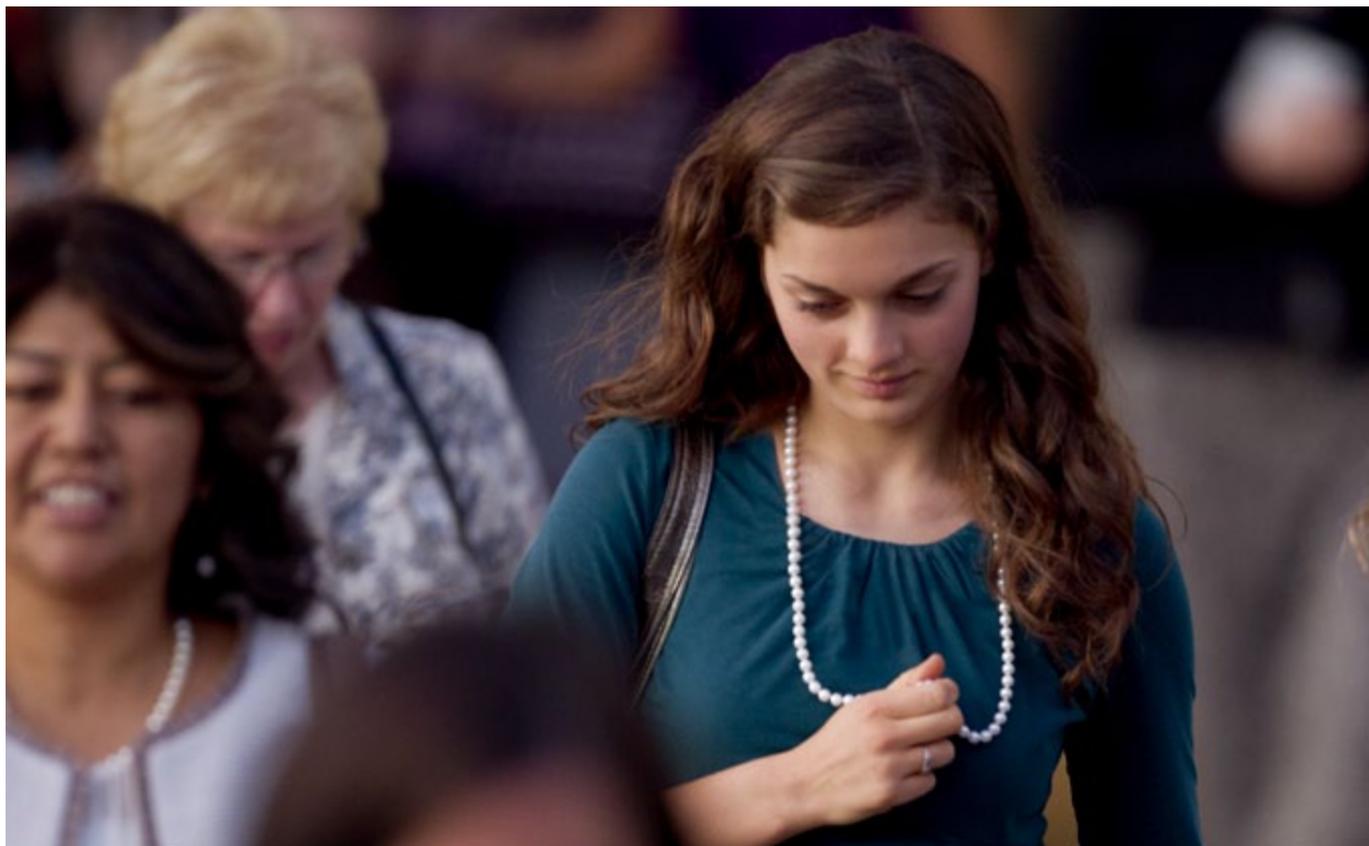
まずは、家庭や家族関係、勉強、仕事、教会への参加、個人の成長といった事柄で何か小さな成功があったらそのすべてに感謝してください。このような成功は忘れな草のように自分には小さいことのように思え、気づいてくれる人もいないかもしれませんが、神は御存じで、神にとっては小さなことではありません。完璧なまでに美しいバラや華やかなランだけが成功だと考えている人は、人生で最もすばらしい経験を逃してしまうかもしれません。

例えば、周りの皆や自分を憂鬱にしながらも、「絵に描いたように」立派な家庭の夕べを毎週開くことにこだわるとしたら、それは最高の選択ではないかもしれませんが、その代わりに、「家族で楽しめて霊的で、もっと仲良くなるには何ができるだろうか」と自問してみてください。そんな家庭の夕べならば、短く地味なものであっても、長い目で見れば、はるかに良い結果をもたらすことでしょう。

完成への道のりは長いものですが、その旅路のほんの小さな歩みの中に驚きや喜びを見いだすことができるのです。

第2に、良い犠牲と愚かな犠牲は違うということをお忘れしないでください。

受け入れられる犠牲とは、良いものを、はるかに価値あるもののためにあきらめ



ることです。

睡眠時間を少し削って、怖い夢にうなされてる子供の不安を和らげてやるのは良い犠牲です。わたしたちは皆それを知っています。しかし、一睡もせず、自分の健康を脅かしてまで、娘の日曜日の服に合わせてアクセサリを作るのは、あまり良い犠牲ではないかもしれません。

聖文の研究やレッスンの準備にある程度の時間をささげるのは良い犠牲です。でも、クラス全員に手作りの鍋つかみを配ろうとして、何時間もかけてレッスンのタイトルを刺しゅうするのはおそらく良い犠牲とは言えないかもしれません。

個性も状況も一人一人異なっています。同じことをしてもある場合には良い犠牲となり、別の場合には愚かな犠牲となり得ます。

その違いを自分の状況で判断するにはどうすればよいでしょうか。「自分はいちばん大切なことに時間とエネルギーを使っているだろうか」と自問してみてください。良いことはたくさんありますが、すべてをすることはできません。永遠の観点の中で、天の御父は、はるかに良いもののために良いものを犠牲にすることを喜ばれます。時にこれは、豪華な花々の大

庭園ではなく、小さいながらも美しく咲く忘れな草を育てることを意味するかもしれません。

第3に、今幸せであることを忘れないでください。

『チョコレート工場の秘密』という人気の高い童話では、チョコレート工場の奇妙な工場長ウィリー・ウォンカが、5つのチョコレートに金色のチケットを入れます。引き当てた人にはチョコレート工場の見学に加え、一生分のチョコレートをプレゼントすると発表します。

金色のチケットにはこんな言葉が書かれています。「この金色のチケットを手にした幸運なあなたには、……すばらしいことが待っています。とてつもない驚きと感激が待ち受けています。……不思議なあり得ないことが起こります。あなたは喜び、驚き、戸惑うでしょう。」³

この有名な物語では、世界中の人が金色のチケットを必死で求めます。未来の幸せはすべて金色のチケットが手に入るかどうかにかかっていると感じる人もいます。不安に駆られ、かつてチョコレートを食べて味わった単純な喜びを忘れ始めます。金色のチケットが入っていないと、

チョコレートが失望以外の何物でもなくなってしまうのです。

今日、非常に多くの人が自分の金色のチケットを待っています。常に夢見ていた幸せを運んでくれるチケットです。ある人にとって金色のチケットは非の打ちどころのない結婚であり、別の人にとっては雑誌の表紙を飾るような家であり、さらに別の人にとってはストレスや心配からの解放かもしれません。

義になかった望みを持つことは決して悪いことではありません。わたしたちは「徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあることや称賛に値すること」を望み、求めています。⁴ 問題なのは、金色のチケットのような何かが起こるのを待つうちに、今の幸せを逃してしまうことです。

義になかった神権者と神殿で結婚して母となり妻となることを何よりも願っている女性がいました。そうなることを子供のころからずっと夢見てきました。自分はどうなるにすばらしい母親、愛くるしい妻になるだろうか。彼女の夢の家庭には、愛と優しさが満ちています。とげとげしい言葉など決して聞くことはありません。料理を焦がすこともありません。子供たちは友達とぶらぶら過ごすことよりも、むしろ

ろ夜も週末もパパやママと一緒に過ごす方が好きなのです。

それがこの女性の金色のチケットでした。彼女にとって、自分の存在自体がそれだけにかかっていた。それこそが、世界中の何よりも欲しくてたまらないものだったのです。

しかしそれは実現しませんでした。そして時がたつにつれてこの女性は一人で悩むようになり、意地悪で怒りっぽくなっていきました。この義にかなった願いをなぜ神がかなえてくださらないのか理解できませんでした。

この女性は小学校の教師をしていました。一日中子供たちと一緒にいると、金色のチケットが現れないことをまざまざと思い知らされるのでした。さらに年月がたつとますます落胆し、内気になりました。人は彼女に近寄らなくなり、できるだけ避けようとします。うつぶんを晴らすために学校で子供たちに当たることもありました。癩癩かたかたを起こすようになり、急にひどく怒ったかと思うとたまに寂しくなるのです。こんなことを繰り返していました。

この話で残念なのは、金色のチケットが手に入らないことを嘆くあまり、**目の前**にある祝福に気づかなかったことです。家庭に子供はいませんでした。教室では子供に囲まれていました。家族を持つことはできませんでしたが、主は、ごく少数の人にしか許されない機会を彼女に与えておられました。教師として多くの子供と家族の人生に良い影響を与えるという機会です。

ここから学び取れる教訓は、途方もなく美しいバラを待ちわびて日々を送っていると、辺り一面に咲いている、美しくすばらしい、小さな忘れな草を見落としてしまうということなのです。

希望を捨てなさい、目標を低くしなさいと言っているわけではありません。自己ベストを目指す努力をやめないでください。あらゆる義にかなった心の望みを捨ててはなりません。しかし、日々の何げない瞬

間に訪れる小さな感動に対して、目をつぶったり心を閉ざしたりしないでください。この感動が豊かで充実した人生を作るのです。

わたしの知るかぎり、最も幸福な人は金色のチケットを見つける人ではありません。ふさわしい目標を目指しながらも、一瞬一瞬に価値と魅力を見だし、大切にする人です。感謝と感動の糸を日々織り続け、人生のタペストリーを織り上げていく人です。このような人がほんとうに幸せな人なのです。

第4に、福音の「なぜ」を忘れないでください。

日々同じことを繰り返していると、美しく繊細な忘れな草を見落とすように、イエス・キリストの福音の非常に大切な側面をうっかり見落としてしまうことがあります。教会員としての義務と責任をすべて果たそうと懸命に努力していると、福音が、すでに不可能なほどたくさんある仕事にさらに追加しなければならない仕事、忙しいスケジュールをどうにかこじ開けて作らなければならない時間に見えてしまうことがあります。主が自分に「何」を「どのように」行うよう望んでおられるかということばかり考え、「なぜ」それをするのかを忘れてしまうことがあるのです。

愛する姉妹の皆さん、イエス・キリストの福音は義務ではありません。愛にあふれる天の御父が道しるべを立ててくださった道なのです。この道を歩めば、この世では幸福と平安、来るべき世では栄光と言葉に尽くせないほどの充足感が得られます。福音はこの世を貫く光であり、進むべき道を照らす光なのです。

福音において「何」を「どのように」行うかを理解することは必要ですが、福音が持つ永遠の炎と荘厳さは、「なぜ」行うかに関する理解からわき起こります。天の御父がわたしたちにこのような生活様式をお与えになったのは「なぜ」かを理解し、自分がそれを基に生きることにした

のは「なぜ」かを思い起こすならば、福音は負担ではなく喜びとなり、楽しみとなります。大切に貴いものになるのです。

目の前の仕事と義務のことだけを考えるあまり、弟子の道をうなだれて歩くことのないようにしましょう。周りの美しく栄光に満ちたこの世の風景と霊的な風景に目を留めずに歩くことのないようにしましょうではありませんか。

愛する姉妹の皆さん、イエス・キリストの福音の「なぜ」の中に、荘厳さと美しさ、身を震わすような喜びを求めようとお勧めします。

「何」に対して「どのように」従うべきかという知識は、道を示し、正しい道を歩かせてくれます。「なぜ」従うべきかという知識は、行いを神聖にし、ありふれた日常を荘厳なものに変えてくれます。小さな従順を神聖な奉獻に変えてくれるのです。

第5に、主があなたを愛しておられることを忘れないでください。

子供のころ、忘れな草の小さな花を見ていると、自分が小さくて取るに足りない忘れな草のように思えてくることがあります。家族や天の御父から忘れられてしまうのではないかと思ったのです。

時がたち、そんな少年のころの自分を懐かしく思い出すことができます。でも今は分かります。わたしが忘れられたことは一度もありませんでした。

また、もう一つ分かることがあります。そして主イエス・キリストの使徒として心から確かな確信をもって宣言します。皆さんも一度も忘れられたことはありません。

あなたは忘れられていません。

姉妹の皆さん、皆さんがどこにようと、どのような状況であろうと、皆さんは忘れられていません。どんなに暗い人生に思えようと、自分がどれほど取るに足りない人間に思えようと、自分のことをどんなに影の薄い存在だと考えようと、天の御父はあなたを忘れてはおられません。御



父はあなたを限りなく愛しておられます。

考えてみてください。宇宙で最も偉大で力と栄光に満ちた御方があなたを御存じで、覚えておられるのです。無限の空間と永遠の時を治める王にあなたは愛されているのです。

もろもろの星を造り、それらを御存じの御方があなたとあなたの名前を知っておられるのです。皆さんは神の王国の娘です。詩篇にはこうあります。

「わたしは、あなたの指のわぎなる天を見、あなたが設けられた月と星を見て思います。

人は何者なので、これをみ心にとめられるのですか、……。

ただ少しく人を神よりも低く造って、栄えと誉をこうむらせ[られました。]」⁵

神があなたを愛しておられるのは、あなたが神の子供だからです。あなたが時々孤独を感じても、間違ったことをしても、神はあなたを愛しておられます。

神の愛と回復された福音の力は、わたしたちを贖い、救います。神の神聖な愛が生活に入り込むだけで、どんな傷も手当てがなされ、どんな痛みも癒され、どんな悲しみも和らげられます。

愛する扶助協会の姉妹の皆さん、皆さんは自分で思っている以上に天に近い所にいます。自分では考えられないような行く末が待っています。引き続き信仰と個人の義を増し加えてください。回復されたイエス・キリストの福音を生活様式に受け入れてください。この偉大な真実の教会に活発であるという賜物を大切にしてください。

い。扶助協会という祝福された組織で奉仕するという賜物を大事にしてください。家庭と家族を引き続き堅固に保ってください。皆さんの助けと主の助けを必要としている人を探し出し、助けてください。

姉妹の皆さん、忘れな草の小さな花には、何か人を啓発する崇高なものがあります。この花が、皆さんの人生を喜びと楽しみで満たしてくれる小さな事柄の象徴となるよう願っています。自分に対して忍耐と思いやりを持つこと、より良い犠牲とそうでない犠牲があること、幸せになるために金色のチケットが手に入るのを待つ必要はないことを、どうか決して忘れないでください。イエス・キリストの福音の「なぜ」があなたを啓発し、高めてくれることを決して忘れないでください。そして、天の御父があなたを御存じで、愛し、慈しんでおられることを決して忘れないでください。

すばらしい皆さんに感謝しています。非常に多くの人のために数え切れないほどの愛と奉仕の行いをしてくださって、ありがとうございます。イエス・キリストの福音の喜びを家族や教会、社会、そして世界の国々にもたらすために皆さんがこれから行ってくださることすべてに感謝しています。

姉妹の皆さん、わたしたちは皆さんを愛しています。皆さんがほんとうに神の王国の貴い娘であることを決して忘れないようにわたしは祈り、祝福します。愛する救い主イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。■

注

1. エテル 12:27 参照
2. 3 ニーファイ 12:48 参照
3. ロアルド・ダール、*Charlie and the Chocolate Factory* (1964年)、55 - 56
4. 信仰簡条 1:13
5. 詩篇 8:3 - 5



左のQRコードを読み取ればウークトドルフ管長の説教(英語)のビデオをスマートフォンで見ることができます。

大会で話された実話や物語の索引

以下に総大会で話された経験談を幾つか選びました。個人の研究や家庭の夕べ、その他の教える機会に活用してください。数字は説教の最初のページです。

話者	実話や物語
リチャード・G・スコット長老	(6) リチャード・G・スコットが家族のためにモルモン書の朗読を録音する。
ホセ・L・アロンソ長老	(14) 両親がメキシコシティの人混みで小さな息子を見失い、心配する。
ボイド・K・パッカー会長	(16) ボイド・K・パッカーが祝福師の祝福を受ける。
ディーター・F・ウクトドルフ管長	(19) ディーター・F・ウクトドルフが空軍の飛行訓練を受けている間に集会所建設を手伝う。ある忠実な夫婦が周りを感化する。
デビッド・A・ベドナー長老	(24) 若いアロン神権者たちが家族歴史クラスを教える。
ニール・L・アンダーセン長老	(28) ジェームズ・O・メイソンとその妻が子供をもうける時期を遅らせないと決断する。スコット・ドリアスと妻ベッキーが結婚して 25 年後に養子を迎える。
カール・B・クック長老	(33) トーマス・S・モンソンがカール・B・クックに上を見るように勧める。姉妹たちがヘリウム風船と一緒に自分の「重荷」を空に向かって放す。
リグランド・R・カーティス・ジュニア長老	(35) あまり活発でない会員たちが教会に戻るよう招かれるとき、臆いを見いだす。
D・トッド・クリストファーソン長老	(38) ドナー隊の生存者はジョンソン牧場を見た朝を覚えている。
W・クリストファー・ワデル長老	(50) 宣教師のハビエル・ミシエゴが、自分の父親にバプテスマを施した男性に出会う。
ヘンリー・B・アイリング管長	(56) 青少年時代のヘンリー・B・アイリングと彼のビショップが、ワードのある姉妹を訪問する。ゴードン・B・ヒンクレイとヘンリー・B・アイリングが夜更けに原稿を確認する。
トーマス・S・モンソン大管長	(60) トーマス・S・モンソンが、新兵訓練所で教会員は自分一人だと思う。トーマス・S・モンソンがバスの乗客たちに教会について話す。
ヘンリー・B・アイリング管長	(68) ヘンリー・B・アイリングがイエス・キリストの証を話さないようにと求められた大学で話す。ヘンリー・B・アイリングが癌で死期の近い友人を娘たちを連れて見舞う。死期の近い男性が神権の祝福を受けるために日曜日の服装をする。ある男性が家出をし、何年も後にモルモン書を読んで証を得る。
タッド・R・カリスター長老	(74) ある若い女性が、モルモン書が真実であることについて友人に証する。
トーマス・S・モンソン大管長	(82) トーマス・S・モンソンが失ったと思っていた 5 ドルを見つけて、祈りの力を学ぶ。トーマス・S・モンソンがドイツ・フランクフルト神殿の奉献式でペーター・マーリックが話すよう靈感を受ける。
ラッセル・M・ネルソン長老	(86) ロシア人の改宗者が神殿で結婚したことを大切に思う。
ランドール・K・ベネット長老	(98) ランドール・K・ベネットが速い海流に対する警告を無視する。
J・デビン・コーニッシュ長老	(101) J・デビン・コーニッシュが祈りの答えとして奇跡的に 25 セント硬貨を見つける。
クエンティン・L・クック長老	(104) アルマ・ソニーが、タイタニック号の乗船予約をキャンセルする。アイリーン・コーベットはタイタニック号に乗船して亡くなる。
シルビア・H・オールレッド	(114) 多くの病気を患っているある姉妹が訪問教師から慰められる。家族が訪問教師から奉仕を受けた後で、ある男性が改宗する。
ディーター・F・ウクトドルフ管長	(120) 結婚しておらず子供がいないことが原因で、ある女性が意地悪になる。

わたしたちの時代のための教え

メ ルキゼデク神権と扶助協会の第4日曜日のレッスンは、「わたしたちの時代のための教え」を学ぶ時間です。各レッスンは、最新の総大会特集号の説教から一つまたは複数の説教を基に準備できます。ステーク会長および地方部会長は、レッスンに用いる説教を指定することができます。または、この責任をビショップおよび支部会長に委任することもできます。これらの指導者は、メルキゼデク神権者の兄弟と扶助協会の姉妹が同じ日曜日に同じ説教を学ぶことの大切さを強調するべきです。

第4日曜日の集会の出席者は、教会機関誌の最新の総大会特集号をよく研究し、クラスに持参するよう奨励されています。

説教に基づいてレッスンを準備する際の提案

説教を研究し教えるに当たり、聖なる御霊がともにあるよう祈ってください。教師はほか

の資料を使ってレッスンを準備したいと思うことがあるかもしれませんが、大会説教は承認された教科課程用資料です。教師の務めは、人々が最新の総大会で教えられた福音を学び、それによって生活できるよう助けることです。

クラスの生徒の必要に合った原則と教義を探しながら、説教の内容を検討してください。また、そのような真理を教えるのに役立つ物語や参照聖句、文章を説教から探してください。

原則と教義をどのように教えるかを示す大まかな計画を立ててください。計画には、クラスの生徒が以下のことを行ううえで役立つ質問を取り入れてください。

- 説教に含まれる原則と教義を探す。
- その意味について考える。
- 理解したことや考え、経験、証^{あかし}を分かち合う。
- それらの原則と教義を実生活に応用する。

レッスンを教える月 第4日曜日のレッスン教材

2011年11月—
2012年4月 『リアホナ』2011年11月号掲載の説教*

2012年5月—
2012年10月 『リアホナ』2012年5月号掲載の説教*

*これらの説教は、conference.lds.org から多くの言語で視聴および閲覧できます。(訳注— ldschurch.jp からアクセスできます。「福音ライブ러리」「総大会」の順にクリックし、2011年11月号のアイコンをクリックしてください。)

中央補助組織会長会

扶助協会



第一顧問
シルビア・H・オールレッド



会長
ジュリー・B・ベック



第二顧問
バーバラ・トンプソン

若い女性



第一顧問
メアリー・N・クック



会長
イレイン・S・ダルトン



第二顧問
アン・M・ディブ

初等協会



第一顧問
ジーン・A・スティープンス



会長
ローズマリー・M・ウィクストム



第二顧問
チェリル・A・エスプリン

若い男性



第一顧問
ラリー・M・ギブソン



会長
デビッド・L・ベック



第二顧問
エードリアン・オチャオ

日曜学校



第一顧問
デビッド・M・マッコネー



会長
ラッセル・T・オスガソフ



第二顧問
マシュー・O・リチャードソン



プロボ・タバナクルの完成予想図。この建物は焼失したが、アメリカ合衆国ユタ州プロボにおける2番目の神殿として再建される。

第181回半期総大会

10月1日と2日にアメリカ合衆国ユタ州ソルトレーク・シティのカンファレンスセンターで開かれた末日聖徒イエス・キリスト教会第181回半期総大会の5つの部会に10万人以上が出席した。さらに数百万人がテレビ、ラジオ、衛星放送、インターネットを通じて大会の様を見聞した。

10月1日土曜日に行われた最初の部会で、トーマス・S・モンソン大管長は、6つの神殿用地を発表した。コロンビア・パランキヤ、南アフリカ・ダーバン、コンゴ民主共和国・キンシャサ、フランス・パリ、アメリカ合衆国ユタ州プロボ、アメリカ合衆国ワイオミング州スターバレーである。

この発表に続き、モンソン大管長は教会の中央神殿参入者支援基金に献金するよう会員たちに奨励した。「この基金は、神殿に参入する機会を待ち望みながらも、神殿に参入することができない人々に、1度の参入ができるようにするものです。」

土曜午後の部会で、十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老はyouth.lds.org〔英語〕に新たに加わった「ファミリーサーチ——青少年と家族歴史」(FamilySearch Youth and Family History) (lds.org/

familyhistoryyouth) について発表した。この新しい項目の目的は、青少年が家族歴史について学び、先祖の記録を探求して先祖に仕えることである(128ページの記事参照)。

土曜午後の部会ではまた、クラウディオ・R・M・コスタ長老が七十人会長会から解任された。新たに七十人会長会の一員として支持されたのはタッド・R・カリストター長老である(略歴については128ページ参照)。12人の七十人と地域七十人が解任または名誉中央幹部の称号を受けた(支持と解任については23ページ参照)。

大管長会第一顧問のヘンリー・B・アイリング管長は、日曜午前の説教の中で、今年4月の総大会で呼びかけた奉仕を聴衆に思い起こさせた。全会員が2011年の間に奉仕の日に参加するようにとの呼びかけである(ヘンリー・B・アイリング「善を行う機会」『リアホナ』2011年5月号)。

世界中の会員が93の言語で大会を聞いた。大会の本文、音声、映像がそれぞれの言語でいつ入手できるかについては、次のURLから情報が得られる。lds.org/general-conference/when-conference-materials-will-be-available ■

わたしの王国の娘——今日の末日聖徒の女性のための歴史的な著作

教会機関誌

チェルシー・ニーバーガル

大 管長会の指示により作成された新しい書物『わたしの王国の娘——扶助協会の歴史と業』には、扶助協会と教会の女性が現在に残した業が記されていると、2011年9月の中央扶助協会集会において、中央扶助協会会長のジュリー・B・ベック姉妹が語った。

「この記録は世界中の姉妹たちを扶助協会の目的、弟子の生き方、弟子の特権の下に一致団結させてくれるでしょう」とベック姉妹は語った。「この本は御父の幸福の計画における女性の役割の大切さに関する証です。またわたしたちが何を信じ、何を^{あかし}行い、何を守ろうとしているのかということについて、揺らぐことのない標準を提供してくれます。」(本号113ページ)

ベック姉妹は、この書物は神の娘としての女性のアイデンティティーの基礎を築くものであると述べた。この書物を学ぶにつれて、読者は一人一人の姉妹の生活で扶助協会はどのような役割を果たすべきか理解できるようになるだろうと、ベック姉妹は語った。

この書物はどのようにして生まれたか

この書物を作成するプロジェクトは、大管長会からの割り当てとして始まった。前中央若い女性会長のスーザン・W・タナー姉妹が執筆者として任命された。ベック姉妹と顧問であるシルビア・H・オールレッド姉妹とバーバラ・トンプソン姉妹は、プロジェクトを管理し、啓示の霊によって方向性を定めるために、タナー



姉妹や編集者、デザイナーなどとともに働くよう割り当てられた。「このプロジェクトはわたしがこれまでに参加した中でも御霊に導かれたものでした」とベック姉妹は述べた。

作成に当たって、何千ページにも及ぶ歴史記録の中から何を収録するか決める必要があった。ベック姉妹と顧問、タナー姉妹は、ノーブーでの初期の扶助協会の議事録など、扶助協会と教会の女性に関する歴史や記録を読み直した。

その結果、出来事を年代順に並べるといった典型的なスタイルの歴史書ではなく、教会の女性と扶助協会の霊的な歴史を編んだ書物となった。

「自分たちの歴史を学ぶのは、それによってわたしたちが変われるからです。」2010年9月の中央扶助協会集会においてベック姉妹はそう語った。「結局のところ、歴史の価値は日付や時間、場所にはありません。ではなぜ歴史に価値があるかと言えば、それは、原則と目的と規範を教え、わたしたちが何者であって、何をすべきかが分かるように助け、シオンの家庭を強め地上の神の王国を築くために姉妹たちを結束させてくれるからです。」(『わたしの王国の娘』——扶助協会の歴史と業』『リアホナ』2010年11月号, 115)

この書物は時代の流れに沿ってはいるが、各章で学べる教えがその章のタイトル

になっている。大切なメッセージを教えるために、聖典の時代や近代から、そして、預言者の言葉や扶助協会指導者の言葉から、物語と模範が紹介されている。

この書物の影響

ベック姉妹は、この書物を通じて姉妹たちは自分の生活の中で、また、聖約を守る弟子である姉妹の輪として、扶助協会の目的を達成する方法を学ぶことができると語った。

「信仰と個人の義を増し、家族と家庭を強め、困っている人を探し出して助けるとは何を意味するか学ぶことでしょう。」ベック姉妹は教会機関誌とのインタビューでそう語った。「姉妹たちは扶助協会の働きの中で自分自身を見るようになるにつれて、はるか昔の時代にもこの末日にも、教会の発展に女性がどれほど大きな影響を与えてきたかを理解することができ、自分たちの目的とアイデンティティーが分かるようになるでしょう。」

ベック姉妹は、読者は聖霊に耳を傾け個人の啓示を受ける方法について、模範と教訓を通して学ぶことができると信じている。また、日々の生活においても、さらに、試練や困難に遭うときにも、強められ励まされるだろう。

「この書物にはたくさんの方がいます。わたしたちが模範にすることができるたくさんの方です」とベック姉妹は語った。「ですから、大変な日々はこの本を手もとに置いて、取り上げて、一つの物語や模範を読んで、力を得てほしいのです。」

ベック姉妹はまた、この書物は姉妹たちの手を通して教会員の家庭に置かれることになることと語り、男性と女性の双方にとって重要な資料になると信じていると述べた。若い女性は、世界に広がる姉妹の輪にどのように参加していくか理解できるだろう。夫と妻は家族を導き教会で奉仕するという神聖な業において一つとなることができるだろう。

この書物を学んだ後で、ユタ州シラ

キュース・ブラッフステークのデール・クック会長は、この本はキリストの弟子としての役割を教会の女性だけでなく男性にも理解させるのに非常に有益であると述べた。「読めば、[扶助協会]が神権とどれだけ深く結びついているかが分かります」とクック会長は語った。「この本を通して、伴侶の中にある力を認識しました。彼女を[さらに深く]愛し、助け、支えるにはどうすればよいのか分かりました。」

この書物について

この書物は、個人で学ぶために、また、家庭や扶助協会や教会のほかの集会などで教えるために使うことができる。ビショップと支部会長に配送され始めており、これらの指導者は扶助協会会長と相談し、この書物を配付してワードや支部の姉妹たちを祝福する方法を決める。

2012年1月末までに約25の言語で出版される予定である。そのほとんどがすでにインターネットで閲覧可能であり、関連するビデオを視聴し、引用文をだれかと分かち合い、書物のメッセージを利用し分かち合う方法について調べることもできる。URLは lds.org/relief-society/daughters-in-my-kingdom である。ページ下方“Related Resources”(「関連資料」)の“Additional Languages (PDF)”(「その他の言語 (PDF)」)をクリックすると別のページが開き、右側に利用可能な言語のリストが現れる。このサイトは最終的に幾つかの言語に翻訳されるだろう。

ハードカバー版が年末までに、英語、ポルトガル語、スペイン語で出版され、配送サービスと store.lds.org を通して入手できるようになる予定である。■

新しいサイトで青少年が 家族歴史を学べる

Youth.lds.org〔英語〕に新たに加わった「ファミリーサーチ——青少年と家族歴史」(FamilySearch Youth and Family History) (lds.org/familyhistoryyouth) の目的は、青少年が家族歴史について学び、先祖の記録を探求して先祖に仕えることである。

このサイトには10代の若者がファミリーサーチの初歩を学ぶ学習機能が付いている。簡単な5つのステップを通して、青少年は系図表を調べ、家族の記録を作成し、神殿に提出する名前を準備する方法を学ぶ。また、このサイトには、クラスや定員会が家族歴史を通じて奉仕するアイデアも掲載されている。

この新しい項目は今のところ英語、ポルトガル語、スペイン語で利用できる。今後数か月のうちに、さらに多くの言語で利用できるようになる。■



美術コンテストが若人に 光を放つよう呼びかける

教 歴史博物館は13歳から18歳の青少年に第1回青少年世界美術コンテストへの参加を呼びかけている。

応募者は「立って光を放つ」(教義と聖約115:4-6)とは何を意味するかを表現する作品を制作することになる。

作品は2009年1月1日以降に制作されたものに限る。応募者は2012年1月1日までに13歳になっていなければならず、一つの作品をインターネットで2012年1月2日から提出できる。応募の締め切りは2012年6月1日金曜日。サイズは縦・横・高さのうち最長が84インチ(213センチメートル)以内であること。作品の表現手段およびスタイルに制限はない。

提出に関する情報はlds.org/youthartcompに掲載されている。

受賞者は作品の原物を博物館に送付するよう求められる。受賞作品は2012年11月16日から2013年6月17日まで展示される。■



タッド・R・ カリスター長老

七十人会会長

七 十人第二定員会の会員であり、七十人会長会の一員として支持されたばかりでもあるタッド・

リチャーズ・カリスター長老は、幹部の兄弟たちの目標の一つは教会に「真の発展」をもたらすことであると説明しました。「つまり、ますます多くの人が教会に来ていますが、彼らが単に聖餐会せいさんに出席するだけでなく、聖餐を受け、教会が提供する儀式を受けて、聖約を守るようになるということです。」

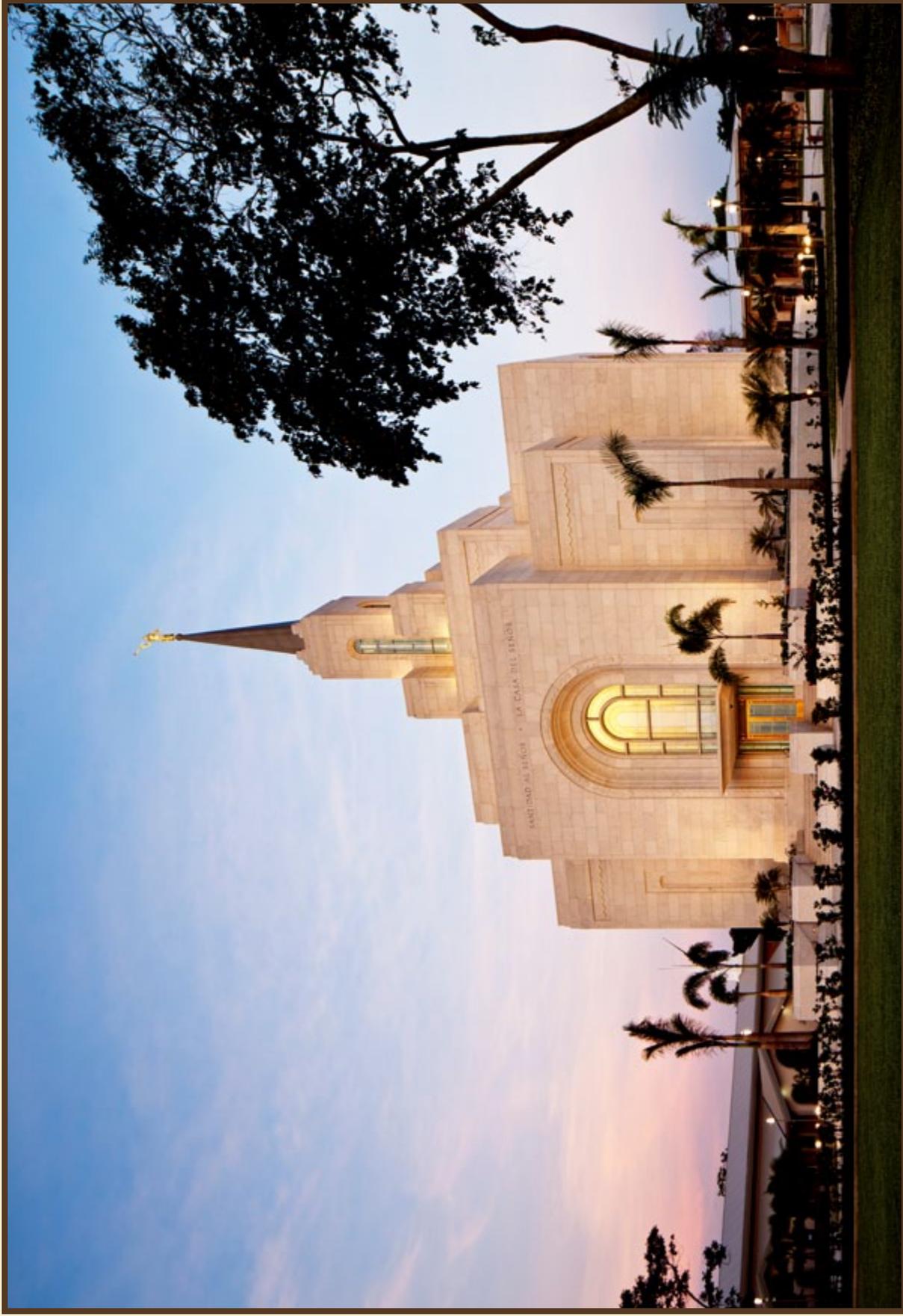
そうした努力をする地元の教会指導者を助けたいと願うカリスター長老は、主から多くの召しを受けて奉仕する機会を得てきたことを喜んでいます。長老は次のように説明しました。「今わたしはステーキ会長やビショップや長老定員会会長を助けていますが、わたし自身そのような召しを果たした経験があるので、彼らの必要としていることにもっと敏感に気づけるようになりたいと願っています。」

カリスター長老は東部大西洋諸州伝道部の専任宣教師、長老定員会会長、ステーキ伝道部会長、ステーキ会長会顧問、ビショップ、ステーキ会長、地区代表、地域七十人、カナダ・トロント東伝道部会長(2005-2008年)として奉仕し、七十人会長会の一員として召されたときには太平洋地域の会長として奉仕していました。

カリスター長老は1945年12月にカリフォルニア州グレンデールにおいてリード・カリスター、ノリーン・カリスター夫妻の間に生まれ、1968年にブリガム・ヤング大学から会計学の学位を取得しました。1971年にカリフォルニア大学ロサンゼルス校の法学部を卒業しました。1972年にニューヨーク大学から税法あがなの法学修士号を取得しました。1972年から2005年まで弁護士として働く一方、贖い、背教、回復に関する本を書いています。

1968年にカリフォルニア州ロサンゼルス神殿においてキャサリン・ルイズ・サボリティ姉妹と結婚し、6人の子供がいます。

カリスター長老は、生涯に主の手を感じてきました。「救い主の愛は圧倒されるほど大きいので、主と天の御父はわたしたちのほんの小さな善行にも祝福を与えようと待ち構えておられます。なぜなら、それが御二方の本質だからです。」■



エルサルバドル・サンサルバドル神殿

エルサルバドルの印象的な神殿は、2011年8月21日に奉獻された。世界中で儀式を行っている135の神殿の中で現在最も新しい神殿である。神殿について、ワード・W・ハンター大管長（1907 - 1995年）は、1994年10月の総大会でこのように語った。

「神殿に参入する民となりましょう。状況が許すかぎり神殿に参入しましょう。子供たちに見えるように神殿の写真を飾りましょう。」

（「尊く、大いなる約束」『聖徒の道』1995年1月号、10）



第181回半期総大会の最後の部会で、トーマス・S・モンソン大管長はこう述べた。「この業は真実であり、救い主が生きておられ、地上における主の教会を導いておられることを証^{あかし}します。永遠の父なる神が生きておられ、わたしたちを愛してくださっているという証を皆さんに残します。神はほんとうにわたしたちの御父であり、実在の御方です。御父は喜んでわたしたちのそばに来てくださいます。わたしたちを助けるためならどんな速くにも足を運んでくださいます。わたしたちをこよなく愛し、わたしたちのためなら何でも喜んでしてくださいます。これらすべてのことを理解し悟ることができますように。」